

# 会 報

第83号

平成13年11月

第85回評議員会議事録	1
第86回評議員会議事録	51
会員名簿・役員名簿・委員会名簿	105
大学基準協会 設置・廃止委員会一覧	139
大学基準協会 刊行物一覧	142
受贈大学年史等目録	149
<hr/>	
事務局日誌	174





## 第 85 回 評 議 員 会 議 事 録

- 1 日 時 平成13年3月6日(火)  
午前10時～午後0時25分
- 2 場 所 如水会館(2階スターホール)  
(東京都千代田区一ツ橋2-1-1)
- 3 出席者 議長 丹保憲仁(北海道大学)  
大南正瑛(京都橘女子大学) 北原保雄(筑波大学) 小出忠孝(愛知学院大学) 児玉隆夫(大阪市立大学) 志村尚子(津田塾大学) 松尾 稔(名古屋大学) 河野伊一郎(岡山大学) 和田敬四郎(金沢大学、林 勇二郎代理) 石川 啓(関西大学) 今田 寛(関西学院大学) 杉岡洋一(九州大学) ウィリアム・カリー(上智大学) 磯野可一(千葉大学) 外間 寛(中央大学) 青山善充(東京大学) 八田英二(同志社大学) 荒川正昭(新潟大学) 瀬在幸安(日本大学) 浅野五朗(日本医科大学) 清成忠男(法政大学) 栗田 健(明治大学) 大橋英五(立教大学) 長田豊臣(立命館大学) 上山大峻(龍谷大学) 神田道子(東洋大学) 葛谷昌之(岐阜薬科大学) 出牛正芳(専修大学) 武田信照(愛知大学) 野田起一郎(近畿大学) 赤岩英夫(群馬大学) 絹川正吉(国際基督教大学) 高倉公朋(東京女子医科大学) 石田興太郎(東京理科大学、小浦延幸代理) 宮本美沙子(日本女子大学) 森 陽(東京薬科大学) 吉沢英成(甲南大学) 西川禎一(大阪工業大学) 小倉芳彦(学習院大学) 市川太一(広島修道大学) 佐藤登志郎(北里大学) 稲垣慎二(愛知工業大学、後藤 淳代理) 横川 新(成城大学) 村上勝彦(東京経済大学) 佐川寛典(大阪歯科大学) 内藤幸穂(関東学院大学) 柴田忠良(神戸商科大学、阪本靖郎代理) 常葉恵子(聖路加看護大学) 伊東 洋(東京医科大学) 小谷 誠(東京電機大学) 久保庭信一(福岡大学、山下宏幸代理) 青野勝広(松山大学) 泰野 真(立正大学、坂詰秀一代理) 竹内政雄(椋山女学院大学、椋山孝金代理) 柳井道夫(成蹊大学) 鈴木幸壽(和洋女子大学) 田中 昭(城西大学) 谷本貞人(関西外国語大学) 岡野哲士(神奈川大学、山火正則代理) 黒田壽二(金沢工業大学) 高倉 翔(明海大学) 横倉 尚(武蔵大学) 佐野博敏(大妻女子大学) 船越正也(朝日大学) 佐藤東洋士(桜美林大学) 半田正夫(青山学院大学) 長澤雅男(愛知淑徳大学、小林素文代理) 倉松 功(東北学院大学) 鈴木国弘(豊田工業大学、永澤 満代理) 加藤祐三(横浜市立大学) 宮本匡章(金沢学院大学) 長澤俊彦(杏林大学) 佐野武弘(昭和薬科大学) 澤岡 昭(大同工業大学) 諸澤英道(常磐大学) 大森健一(獨協医科大学) 堀川清司(武蔵工業大学) 千野榮一(和光大学) 大里仁士(九州国際大学) 堀川徹志(京都外国語大学、森田嘉一代理) 望月正隆(共立薬科大学) 東 智學(高野山大学) 松濤誠達(大正大学) 野口鉄也(東邦大学) 坂本正徳(明治薬科大学) 藤岡一郎(京都産業大学、新田政則代理) 和田義郎(名古屋市立大学) 樋口康子(日本赤十字看護大学) 秋野豊明(札幌医科大学) 渡邊良雄(上武大学) 高崎直道(鶴見大学) 三善清達(東京音楽大学) 岩崎俊一(東北工業大学) 加藤勝康(青森公立大学) 坂田 勝(拓殖大学) 生田富夫(中央学院大学) 木村光伸(名古屋学院大学) 田中慎一郎

(北九州大学) 高久史麿 (自治医科大学)  
津賀一保 (洗足学園大学、前田壽一代理)  
高久 晃 (富山医科薬科大学) 大黒トシ  
子 (梅花女子大学) 中井真孝 (佛教大学)  
板垣 浩 (横浜国立大学) 兵頭 釧 (埼  
玉大学) 川並弘昭 (聖徳大学) 本多健一  
(東京工芸大学) 吉田 豊 (弘前大学)  
紀 隆雄 (広島国際学院大学) 伊藤祥輔  
(藤田保健衛生大学、山路正雄代理) 柳田  
孝義 (文教大学、水島恵一代理)  
**委任出席** 一岸本忠三 (大阪大学) 小川一  
乗 (大谷大学) 長尾 真 (京都大学) 江  
口吾朗 (熊本大学) 鳥居泰彦 (慶應義塾  
大学) 野上智行 (神戸大学) 阿部美哉  
(國學院大学) 内藤喜之 (東京工業大学)  
栗原 敏 (東京慈恵会医科大学) 松田藤  
四郎 (東京農業大学) 阿部博之 (東北大  
学) 池田高良 (長崎大学) 石 弘光 (一  
橋大学) 原田康夫 (広島大学) 奥島孝康  
(早稲田大学) 宇野英隆 (千葉工業大学)  
平野 実 (久留米大学) 原田園子 (神戸  
女学院大学) 船本弘毅 (東京女子大学)  
大橋寿美子 (同志社女子大学) 石川達也  
(東京歯科大学) 脇田良一 (明治学院大  
学) 中村経紀 (麻布大学) 小野 繁 (岩  
手医科大学) 日置紘士郎 (関西医科大学)  
小川秀興 (順天堂大学) 鈴木章夫 (東京  
医科歯科大学) 松永希久夫 (東京神学大  
学) 齋藤史郎 (徳島大学) 江崎玲於奈  
(芝浦工業大学) 日下 晃 (武庫川女子大  
学) 相賀一郎 (大阪府立大学) 加計 勉  
(岡山理科大学) 白井善康 (大阪学院大  
学) 南原利夫 (星薬科大学) 阿部謹也  
(共立女子大学) 大橋秀雄 (工学院大学)  
飯島俊郎 (実践女子大学) 橋本武人 (天  
理大学) 高橋和郎 (鳥取大学) 柳田博明  
(名古屋工業大学) 鈴木 胖 (姫路工業大  
学) 吉村美枝子 (神戸海星女子学院大学)

加藤 寛 (千葉商科大学) 冲永莊一 (帝  
京大学) 福井直敬 (武蔵野音楽大学) 東  
野一彌 (兵庫医科大学) 村田晴夫 (桃山  
学院大学) 森田兼吉 (梅光女学院大学)  
大友 浩 (北星学園大学) 東谷穎人 (神  
戸市外国語大学) 荒井章三 (神戸松蔭女  
子学院大学) 宮地 茂 (福山大学) 仲井  
豊 (愛知教育大学) 戸田安士 (金城学院  
大学) 梶谷 誠 (電気通信大学) 山崎一  
穎 (跡見学園女子大学) 岡本靖正 (東京  
学芸大学) 雑賀美枝 (ノートルダム清心  
女子大学) 谷口弘行 (神戸学院大学) 神  
馬 敬 (日本工業大学) 鮎川恭三 (愛媛  
大学) 角松正雄 (熊本学園大学) 西垣二  
一 (広島女学院大学) 安部元雄 (宮城学  
院女子大学) ローレンス・マクガレル  
(エリザベト音楽大学) 福田國彌 (大阪電  
気通信大学) 池田正澄 (京都薬科大学)  
塩谷惇子 (清泉女子大学) 中山義崇 (崇  
城大学) 荻上紘一 (東京都立大学) 吉田  
忠雄 (足利工業大学) 村上隆太 (西南学  
院大学) 高野邦彦 (高千穂商科大学) 藤  
本復禮 (茨城キリスト教大学) 松田英毅  
(くらしき作陽大学) 大 京子 (白百合女  
子大学) 梶田叡一 (京都ノートルダム女  
子大学) 青野一哉 (福岡歯科大学) 長尾  
重武 (武蔵野美術大学) 廣中平祐 (山口  
大学) 廣池幹堂 (麗澤大学) 岸 英司  
(英知大学) 荒井 猷 (恵泉女学園大学)  
岡田重精 (皇學館大学) 富本佳郎 (神戸  
女子大学) 泉 太 (産業医科大学) 須  
藤敏昭 (大東文化大学) 鶴川 昇 (桐蔭  
横浜大学) 諏訪兼位 (日本福祉大学) 田  
中教照 (武蔵野女子大学) 野々村昇 (活  
水女子大学) 松前達郎 (東海大学) 白砂  
剛二 (長崎総合科学大学) 加藤延夫 (愛  
知医科大学) 島田眞久 (大阪医科大学)  
波平勇夫 (沖縄国際大学) 赤池志郎 (神

奈川工科大学) 山崎良也(九州産業大学)  
雨宮眞也(駒澤大学) 山口昌男(札幌大学)  
齊藤晴男(四国大学) 小野功龍(相愛大学)  
谷岡郁子(中京女子大学) 池川信夫(新潟薬科大学)  
鯉渕信一(亜細亜大学) 小倉保己(石巻専修大学)  
菅野道廣(熊本県立大学) 東 隆眞(駒沢女子大学)  
山田達夫(大阪経済大学) 太田忠一(大阪国際大学)  
天野光三(大阪産業大学) 岡田 晃(金沢経済大学)  
佐野哲郎(神戸親和女子大学) 長谷川匡俊(淑徳大学)  
小川英次(中京大学) 片岡千鶴子(長崎純心大学)  
青木和男(福岡工業大学) 横須賀 薫(宮城教育大学)  
野口正一(会津大学) 森田孟進(琉球大学)  
(評議員247名中、出席111名、委任出席121名)

#### 特別出席者

三宅事務局長

#### 4 議事日程

- (1) 平成13年度事業計画に関する件(第1号議案)
- (2) 平成13年度収支予算に関する件(第2号議案)
- (3) 維持会員への加盟・登録に関する件(第3号議案)
- (4) 「相互評価」に関する件(第4号議案)
- (5) 「新構想の大学評価に関するアクション・プラン(その1)―『大学評価の新たな地平を切り拓く(提言)』を受けて―」に関する件(第5号議案)
- (6) 財団法人大学基準協会寄附行為の一部変更に関する件(第6号議案)
- (7) 「改善報告書」の検討結果について
- (8) その他
  - ① 平成13年度大学評価セミナー開催について

#### 5 議 事

三宅事務局長 評議員会を開催させていただきます。その前に、成立要件についてご報告いたします。評議員会の成立要件については、ご出席の評議員の方が、現在102名でございますが、委任をお受けしております先生方が120名で、合わせて222名でございます。評議員総数は247名でございますので、過半数の124名以上に達しており、評議員会の成立要件を満たしております。以上、ご報告いたします。よろしくお願いいたします。

議長(丹保会長) おはようございます。お忙しいところありがとうございます。会長をいたしております、北海道大学の丹保でございます。ご案内のように、いろいろな情勢の中で評価ということ、1つの大きな次の時代のキーワードになってまいりました。

本協会は50年にわたり、評価、基準策定といったことをしてまいりました、日本で一番経験があり、大きな組織でございます。国・公・私立大学がこれだけ集まるといっても、この協会だけしかないわけでありまして、これからお互いに、自分たちの力量を確かめ合って、向上し合うということで、ますます本協会の役割は大きくなるかと存じます。

後ほど、副会長の大南先生から、新しい評価を含むこの協会の考え方についての検討を、お諮りしたいと思っておりますが、今世紀に入りまして最初の評議員会でもございますし、新しい時代を迎えての我々の考え方を、徐々に固めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくご指導とご協力をお願いいたします。ありがとうございます。

それでは評議員会に入ります。今日の議事録署名人は、国・公立から1名、私立から1名ということでございまして、副会長を常時お願いしておりますが、国・公立大学は名古屋大学総長の松尾副会長に、私立大学は津田

塾大学学長の志村副会長に、議事録署名人をお願いいたしたいと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 〈日程第1 平成13年度事業計画に関する件(第1号議案)〉

それでは、議題に入ります。議題の1番目として、「平成13年度事業計画に関する件」、1号議案でございます。この件につきましては、担当の筑波大学学長の北原副会長から、「平成13年度事業計画(案)」についてご説明をいただき、ご討議をいただきたいと思ひます。北原先生、よろしくお願いいたします。  
**北原副会長(筑波大学)** 筑波大学の北原でございます。よろしくお願い申し上げます。第1号議案という、7ページからなる資料がありますので、それをご覧いただきながら、よろしくお願いいたします。

「平成13年度事業計画(案)」であります。構成は昨年度と同じようになっております。1から読むようにしてご説明してまいります。平成13年度事業計画策定にあたっての基本的視点として、今日における学術研究の発展と諸科学の飛躍的進歩とともに、国際化・情報化の進展や、生涯学習ニーズの高揚に象徴される社会・経済構造・産業構造の複雑多様な変化という状況の下、18歳人口が急激に減りまして、多様で個性的な教育研究活動を展開するため、その組織機構と教育研究の全般にわたる改革が急務となっております。大学審議会の答申等を受けまして、大学の教育研究の個性化・多様化・高度化の促進を求められております。各大学が自主的・自律的に改革を実施するための制度基盤を、提供するものでなければいけないということでありました。

一方、国・公立大学におきましては、大学の法人格の取得問題が議論されておまして、本年度中に一定の結論が下される予定になっ

ております。そしてまた、文部科学省に評価委員会が設置されることになっておまして、法人化後の「国立」大学の評価に着手することが目指されております。

このように、高等教育を取り巻く非常に厳しい状況の中で、我々は教育内容・方法の改善・改革を推進する必要に迫られております。しかしながら、大学の窓口が大幅に広がりまして、多様な学生を受け入れることになり、我が国の大学全体の質的低下がもたらされることが、危惧されているわけでございます。大学としては、創意工夫をこらすとともに、自己の責任において、教育研究水準を維持・向上させなければならない責任がございます。

そういうことで、大学基準協会といたしましては、これまでに大学評価の責任主体としての立場から、大学の自律的な改革と水準の維持・向上を図る上で、有効とされてきた自己点検・評価を定着させ、改善・改革に直接結び付くような、有効な営みとしていくための方途を、いろいろ検討してまいりました。そして、平成7年1月に『大学評価マニュアル』を公表いたしまして、翌年平成8年度以降、これまで5回にわたって大学評価を実施してまいりました。今後とも、この大学評価の積み重ねの中で、質的水準を保証し、その改善・改革を支援していくという基本的視点を堅持しつつ、評価のための適切な組織体制の確立と、その実施手続きの一層の改善に向けて、鋭意努力していくこととしたいものであります。

ところで今日、行財政改革が非常に進行しておまして、公財政に支えられた大学は、アカウントビリティの履行を視野に入れつつ、自らの組織・活動を厳正に評価して、学外者による検証を受けることが、強く求められております。平成11年9月の大学設置基準、大学院設置基準の改正に伴いまして、自己点

検・評価の実施とその結果の公表が、法的に義務化されました。また、点検・評価結果に対する学外者による検証の実施が、努力義務化されました。

そういうことで、資源配分機関や大学設置者等に対して、適正な評価を有効につかって、資源配分をするようなことが要請されております。さらに、グローバル化の進展に伴いまして、我が国大学及びそこに置かれている教育プログラムの質や、国境を越えた通用性を高める上で、大学評価そのものも、国際的通用力を向上させることの重要性が、強く求められているところでございます。

こういうことを受けて、大学基準協会は現在よりも、より客観的な透明度の高い第三者評価システムを具備する評価機関へ脱皮すべく、そのためのアクション・プランを作成中でありまして、これは本日の議題に上っております。そして、合意を得られたアクション・プランから、順次実行に移すということにしたいということでございます。併せて、これまで行ってきました協会の基準のあり方の検討結果を基礎に、当面の大学評価に関する協会独自の基準の決定・改定に関わる活動を、引き続き進めていきたいということでございます。

なお、大学基準協会の固有のコンピュータシステムを整備いたしまして、そこに大学評価やその他の活動等を通じて得られた情報を、蓄積するというようなことによりまして、引き続き協会の大学評価の客観性を高めるための努力を払いたいというのが、全体的な基本的視点でございます。

そういう視点を踏まえまして、本年度は次の2ページの下に書いてございます、①から⑩の項目を柱に据えまして、具体的な協会活動を遂行していきたいという計画でございます。順次説明させていただきます。

①本協会による大学評価であります、平成8年度から導入しました新たな大学評価を、年々評価方法・手続きについて改善をはかり、これまで5回やりながら、相当程度の実績を積み重ねてまいりました。協会の大学評価に関する各大学の関心は高く、平成11年9月に改正された大学設置基準・大学院設置基準に、各大学が外部評価を実施すべきことが、先程申しましたように努力義務とされたこともありまして、加盟判定審査、相互評価ともに来年度は相当数の申請が予想されます。

本協会としましては、これまでの実績を踏まえ、組織体制と実施プロセスの改正を鋭意はかりながら、引き続き「判定委員会」及び「相互評価委員会」を中心に、慎重かつ綿密に審査・評価を行っていききたいということでございます。特に、相互評価におきましては、申請のあった全ての大学に対して実地視察を実施し、評価の公平性を期するという前年度の方針を踏襲して、評価を行いたいということでございます。

②基準の諸改定であります、基準委員会におきまして、昨年度、本協会の各種基準の体系化を図るとともに、現行の大学基準を補足する準則の整備に向けまして、教養教育のあり方等を含む学士課程教育のあり方について、検討を行いました。そして、同委員会は現行の「大学通信教育基準」及びその解説の改定に向け、「大学通信教育基準検討委員会」の設置を理事会に提言いたしました。

また、専門分野別基準の体系化と、系統的整備の一環として、看護学・獣医学・工学に続く専門分野として、保健学系の分野を取り上げ、同分野の基準設定に向け、「保健学系教育基準検討委員会」の設置を、理事会に提言いたしました。基準委員会はまた、新たな大学評価制度の実施に向け、評価基準としての、協会の各種基準の位置付けを明確にした

上で、大学評価の客観性をより高めることを目指し、今年度も引き続き学士課程基準の検討を進め、その他、「全学」的事項を規定対象とする大学基準の検討も行います。併せて、専門分野基準の整備を図るべく、具体的な基準策定を行う分野の特定作業も行っています。

なお、現行の「大学図書館基準」及びその解説の見直し作業をどう進めるかは、今後の検討課題としたいということをございます。

こういう基準委員会の提言を受けまして、「大学通信教育基準検討委員会」は、大学審議会の「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について」という答申の主旨を、適宜考慮しながら、マルチメディアを中心とする情報通信技術を活用した教育等を含む、遠隔教育の概念を視野に入れ、現行の大学通信教育基準及びその解説の改定に向け、そのための調査・研究活動に入るということをございます。

同様の経緯で設置されました「保健学系教育基準検討委員会」も、保健学系教育に関する基準の設定に向けて、本年度も引き続き、国内外の保健学系教育の現状等を調査・把握した上で、具体的基準の検討を行うということをございます。

なお、「獣医学教育研究委員会」におきまして、改定作業を進めてきました獣医学教育に関する大学院基準につきましては、昨年度中にほぼ委員会としての提案を得ております。本年度は、基準委員会、理事会での審議・決定に関わる諸手続きがまだございますので、獣医学教育研究委員会は、これら一連の手続きを終えるまで、設置を継続するものいたします。

この他、今年度は農学系教育に関する基準及び、工学系研究科基準、看護学系大学・大学院研究科基準等の整備に向け、そのための

具体的検討作業に着手したいということをございます。

次に③平成13年度実施の大学評価のための体制の確立でございますが、大学基準協会は、現行の大学評価マニュアルに基づきまして、今年度も協会内部において、大学評価実施のための組織体制を整備するとともに、その実施に向け、実務手続きを進めていくこととしたい。その際、これまでに実施した大学評価の反省を踏まえ、大学評価手続きの一層の改善をはかっていく必要がありますので、それをはかるということをございます。

また、協会が行う大学評価の内容・手続き並びに平成14年度より導入予定の新構想の大学評価システムを広く大学関係者に理解していただくとともに、大学評価に向けて各大学が行った点検・評価活動の状況を、これから同様の取り組みに着手しようとする大学に伝えるために、今年度も「大学評価セミナー」を実施し、併せまして、大学から要請があれば、大学評価の意義、実務手続き並びに新構想の大学評価システム内容説明のための会合を、個別大学毎に伺って開催していくことといたします。

さらに、「判定委員会」と、その系列下にあります「大学審査分科会」、「専門審査分科会」並びに「相互評価委員会」と、その系列下にあります「大学評価分科会」、「専門評価分科会」の各委員に対しまして、『大学評価マニュアル』に盛り込まれた「大学評価」の主旨と、その具体的実施方法を周知していただくための「評価者研修セミナー」についても、きめ細かく実施することといたします。評価をさせていただく大学側、評価をする各委員、両方のセミナーを行っていくということをございます。

次に④大学・大学院等の評価に関する調査検討であります。文部科学省が大学評価・

学位授与機構を創設いたしまして、大学評価活動に着手しましたし、日本技術者教育認定機構（J A B E E）も、工学教育プログラムを評価するための準備作業を進めております。専門分野別の教育プログラムを評価する機関は、これからこのように誕生していくことが予想されます。

一方、政府の省庁再編の中で、文部科学省に評価委員会が創設されまして、これは総務省の評価委員会のラインにも連なるわけですが、いろいろな性格の異なる多元的評価システムが誕生しつつあります。多くの大学の関係者から大学基準協会に対して、国・公・私立の垣根を越えた、大学評価機関としての機能の、一層の充実をはかるとともに、より客観的で透明度の高い、真の第三者評価機関へと脱皮することが求められております。

そこで、大学基準協会は評価の有効性を一層高め、その効果を将来にわたり継続的に維持していけるように、科学的理論に裏付けされました評価活動の実施を目指し、平成12年5月に「大学評価の新たな地平を切り拓く（提言）」を公にしたところでございます。

この提言の要旨を踏まえまして、現行の大学評価システムと協会の組織・活動の見直しに向けまして、「本協会のあり方検討委員会」と、その中にあります「小委員会」を中心に、引き続き評価項目・評価指標、評価組織体制・プロセス、協会の組織・機構等に関わる改革方向を検討いたします。そして、現在の『大学評価マニュアル』の改定を視野に入れながら、結論を得られたものから、アクション・プランとして、公表していくことにしたいと思っております。

とりわけ、主要点検・評価項目、基礎データ項目、提出資料の種類等に関わる事項は、平成14年度に大学評価申請予定の大学の自己

点検・評価のための準備期間を考慮いたしまして、平成13年度のできるだけ早い時期に、結論を出す必要があるのでございます。

この新しい構想の「大学評価システム」は、あらゆる側面、とりわけ評価項目におきまして、現行のものとは相当異なることが予想されますため、そうした新構想の評価システムの意義・内容、今後の実施スケジュール等を、広く大学関係者に知っていただくことを目的の一環としまして、大学評価セミナーの場を活用し、全国規模の説明会を開催する他、各大学からの個別の要請に対応して、会を開催することも予定しております。これは先ほど申し上げたことと重なるところでございます。

大学基準協会は、従来から、諸外国の大学評価システムに関する調査研究を行ってまいりましたが、これを今年度も引き続き実施し、欧米各国の大学評価に関する理解と認識を高め、殊にアメリカの大学評価につきましましては、協会の創設経緯や現行の協会の大学評価が、アメリカのそれを範としていることなどから、アメリカのアクレディテーションに関わる調査を、さらに継続して実施し、その成果を参考にしながら、今後の大学評価手続きの改善を進めていきたいというところでございます。

その調査研究の過程では、昨年に引き続きアメリカでも確立が急がれているスチューデント・アウトカム・アセスメント、ファカルティ・ディベロップメント、学生による授業評価等、同国の教育評価に関わる最近の動向を調査し、会員各大学が具体的に進めている自己点検・評価や教育改善に向けた活動の参考に寄与するような資料、情報を提供していきたいと考えております。

海外の大学評価関係団体等との連携も一層緊密にし、相互交流を通じて、各国の大学評価に関わる理論の把握や諸資料、情報等の収集等を行う中で、国際社会における大学基準

協会の名譽ある地位の確保に向けて、努力していきたいということでございます。

次に、⑤大学基準協会の五十年史の執筆、編纂でございます。これはほとんど昨年そのままでございますが、本協会は平成9年に50周年を迎えておりまして、もう間もなく55周年がまいります。五十年史を今後も完成すべく、あるいは55年史になるかもしれませんが、執筆作業を進めております。

次に、⑥本協会に関する広報活動でございますが、本協会は広報活動を通じて、協会の活動を広く内外の人々に紹介してまいりましたけれども、今後も「刊行物編纂委員会」を軸に、広報委員会が中心になりまして、一層充実強化された広報活動を、展開していきたいということでございます。今年度も引き続き『会報』、「じゅあ J U A A」等を発行していく予定であります。また、高等教育研究部門の機関紙でもあります『大学評価研究』第2号を刊行することを目指し、その他『平成13年度大学一覧』の編集刊行も予定しております。

次に、⑦「JUAA 選書」の刊行でございますが、2つの選書を刊行したいということがあります。1つは、先ほどの「(提言)」を取りまとめたところでございますが、この取りまとめに関与した方々の論稿並びに「本協会のあり方検討委員会小委員会」が中心となつて行った、2つの「大学評価に関するアンケート調査」の分析結果に関する調査研究報告を、「大学評価の今を読む」というような題名で、第12巻として刊行したいということでございます。併せて、本協会の会長経験者、戸田修三氏の「今日の大学改革の原点を探り今後の改革方向を見定める」という視点から書かれた、これまでの論稿を集大成したものを、第13巻として刊行したいという計画でございます。

次に、⑧文部科学省の諸審議会等への対応としましては、これまでも大学審議会等に対し、本協会の意見を述べてきたところでございますけれども、今年度も従来に引き続きまして、「会員の自主的努力と相互的援助によってわが国における大学の質的向上を図る」という我々の使命を全うするため、こうした各種審議会等の審議動向を注視し、その要請に応じ適宜公式の意見書を提出する等、我が国の高等教育政策の形成とその改善を、側面的に支援するための活動を行っていききたいということでございます。

次に、⑨コンピュータ・ネットワークシステムの整備でございますが、平成8年度からスタートさせました、大学評価に関わるデータの蓄積、事務局業務の効率化、さらにはインターネットを活用した、本協会の事業内容等の国内外への発信を行っていくために、平成10年度から、コンピュータ・ネットワークシステム整備をはかってきております。本年度も引き続きまして、大学評価の際に、各大学から提出していただきました大学基礎データ調査、並びに毎年維持会員大学から提出される、年次報告書に記載された数量的データを蓄積すべく、そのためのデータベースの作成作業を行っていききたいということでございます。

その際、この大学評価やその他の活動の基礎資料といたしまして、どのデータを蓄積していくのが必要であるか等について、「コンピュータ・ネットワークシステムの整備に関するワーキンググループ」を中心に、「相互評価委員会」、「判定委員会」、「基準委員会」並びに「本協会のあり方検討委員会」等の検討状況も考慮に入れながら、具体的な検討を進めたいということでございます。

最後の、⑩本協会の内部組織改革へ向けた取り組みでございますが、大学基準協会は

学評価の一層の客観性・透明性の確保に向け、本年度も引き続き、協会の内部組織の改革を行います。大学基準協会の大学評価に対しましては、従来から評価の客観性を確保する有力な要素である「研究成果の裏付け」が、備わっていないのではないかと指摘がなされておりました。

そうした指摘に答える形で、12年度の内部改革によりまして、その研究機能をより十全に発揮させるべく、「高等教育研究部門」を「大学評価・研究部門」と改称しまして、同部門の業務を活動目的別に、「企画・調査研究系」と「審査・評価系」の2つの系に大きく区分し、両系の指揮系統確立に向けての検討を行いました。本年度はできるだけ早いうちに、この検討結果の実現を期することといたします。

また、本年度は同部門内に、主に協会の評価プロセスの円滑な運用確保に向け、大学評価申請予定の予備調査を行うとともに、審査・評価分科会の幹事としての役割を担う、10～20名の「特別評価委員」の制度を設けるべく、そのための条件整備をはかることといたします。なお、本年度も引き続き、理事会の諮問機関であります「協会運営協議会」及び「顧問会議」の創設に必要な準備作業を行います。

以上、説明が余り上手くなかったかもしれませんが、10項目を13年度における具体的事業計画としたいというご提案でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

**議長（丹保会長）** ありがとうございます。ただ今、北原副会長からご説明をいたしましたような、平成13年度の事業計画でございます。アクション・プラン等で、後ほどまた、詳細についてはご相談いたしますけれども、大きな状況の変化は、国が「大学評価・学位授与機構」という大きな評価機構を設置いた

しましたし、それから高等教育等をベースにした資格認定等も射程に入れた「J A B E E」という機構が動き出しましたし、さらにはもう少ししますと、法科大学院であるとかその他様々な専門の大学院等を、頭においた機構が動き出すでありましょうし、各学会もそれなりに機構をいろいろな分野でつくりだしております。

そういったしますと、我々のような大学がオートノミーで自分達を上昇させようとする、大学を評価する機構が、どういう形でその中に同意を主張していけるかという、全体を大きく包んでいるわけでございますから、それらは個々の部分についての向上基準だといえればそれまでですけれども、全体を包んでいるだけにその個々の特徴については、なかなか主張が難しいのです。

従いまして、今までこの基準協会しかなかった、どちらかという仲間うちでのソフトなシステムで、お互いに立場を交換し合っていたところから、さらにはもう少し踏み込んだところで、我々がお互いの向上をはからなければならないのではないかとということで、ここ3～4年、相当な早さで基準協会の構造に手を触れてまいりました。必ずしもまだ十分にいておりません。特に広報といった手段については、まだまだこれからだというふうにも思います。

従いまして、いろんな問題点はございますけれども、ボランティアで、手弁当でやっているこの協会でございますから、できることは限られておりますけれども、最大限の項目と最大限の速度で、いろんなことをしたいということで、理事会のご承認をいただきながら提出したのが、この13年度事業計画でございます。ご意見を頂戴いただければ幸いです。今日はできましたらこの計画を、ご承認いただくという形で、次に進みたいと

思っております。どなたからでも、どうぞ忌憚ないご意見を頂戴できれば幸いですと思っております。

申し遅れましたが、国際化という問題が非常に急速に迫ってまいりまして、日本の中での基準や向上だけでは、なかなか日本の大学が国際社会に生き残っていけないような時代になりました。余り大きな声では言えませんが、「アジア・ウィークリー」などという、我々から見れば、必ずしもちゃんとしたデータを集めているとは思われないところが、ランキング・リストを出したりいたしまして、日本の大学は余り高く評価されていないといったようなところもあります。どんなことをこれからすればいいのか、必ずしもまだ明確ではありませんけれども、少なくともアジアの中で日本の大学の位置というのは、我々自身できちんと担保していかなければならないといった問題もあろうかと思っております。その第一着手を、今年度はしているというふうに、ご理解いただければありがたいと思います。

**河野評議員（岡山大学）** 岡山大学の河野です。この事業計画案につきましては賛成です。今後のことについてご質問いたします。今、会長のご説明にもありましたけれども、新しく大学評価機構ができました。他にもいろいろなものがありまして、今後もしろんなものができていくであろうというお話がございましたけれども、大きくは大学評価機構とこの基準協会の評価が、非常に大きなウェイトを持ってやっていくであろうということです。各大学としては、この2つの評価の特徴なり、守備範囲なりを、できればはっきりして欲しいという要望があります。今後、協会としては、大学評価機構は全く別のものとして、独自の評価をやっていくというのか、あるいは大学評価機構と評価に関する内容や守備範囲

なりというものの整合性を、はっきりさせながらやっていくという基本的な方針なのか、その方針をはっきりとお示しいただきたいというのが、評価をお願いする大学の希望ではないかと思えます。それらについては、先ほどのご説明の中で、今後の研究課題であるとおっしゃったのではないかと思えますが、そういうことを1つ、今後の検討課題として、明示していただければということでございます。

**議長（丹保会長）** わかりました。ありがとうございます。今、軽々にその答えを申し上げるだけの判断をもっておりませんけれども、1番大きな問題がやはり今、99ある国立大学に、大変大きな国家予算と百数十人の人間を投入して、やっております大学評価・学位授与機構の評価と、我々が日本のほとんどの国・公・私立大学が加盟して自分達でやっているこの基準協会が、どういう格好で将来意味のある構造で、働き続けていけるかということが、やはり一番大きな問題ということで、理事会でも再三問題になっております。

ざっと申しますと、この基準協会は大学というものを1つの単位といたしまして、大学があるレベルを、維持しているかということ、基準にして考えます。それから、国の評価機構は、学部・学科というものをベースといたしまして、大学全体は必ずしも対象にしておりません。従って、その対象にしている部分が、若干違うというのは現実の問題でございます。

ただ、いろいろなことをやります場合に、国立大学が国の評価機構だけによって、評価されているので良いとすれば、日本のこの国・公・私立大学の組織はウイングの片方を失ってしまいます。そうすると、日本の国・公・私立大学がお互いに健全に成長し合っていくということに対して、大きな障害となり、あ

ってはないことだと思っております。従って基準協会に、どれだけ国立大学が止まり続けるか、逆にいえば私立大学等が、国立大学にどれだけのことを言っていたかということが、日本における教育の将来の、大きな分岐点にくるのではないかと、私個人は思っております。

そんなことを含めまして、ただし作業の上からいくと、国の機構と基準協会がしている調査項目が全く違いますと、各大学が負担になるばかりでございますので、そのへんについての実態的な調整というのは必要であろうと思います。お互いの特徴を出すということも前提としながらも、相互に話し合いをするということは必要であろうと思います。ただ非常に残念なことに何回か話し合いをしているのですが、国の機構は、この基準協会だけを特別な評価機構というふうには認められないという態度を、まだ崩しておりません。

従いまして、この基準協会が国の機構に並んで、もしくはそれよりも遙かに大きくて長い歴史をもっているということに対して、必ずしも一定以上の敬意を払ってくださっておりません。この問題については、もう少し、ざっくばらんに話したい、国の機構長は元会長の木村先生でございますので、会長同士、個人同士ではいろいろな話ができるのですが、機構としてまだ十分な詰めにはいっておりません。これは大南副会長等々からも、しょっちゅうしていただいておりますし、松尾副会長が国の方の、そういう基準の評価についての、国大協の委員長でもいらっしゃいますので、いろんな意味で、突っ込んだ話し合いをしなければいけないかなと思っております。

従いまして、今、河野先生のお話は、非常に重要なことだと思っておりますので、またご支援をいただきながらさらに進めたいと思

っております。

副会長の先生方、何か加えてご発言はございますか。松尾先生よろしいですか。

まだ、オンザウエイでございますので、慎重に進みたいと思っております。

他にございますでしょうか。

今、河野先生からご質問のあった件が、やはり一番この協会としては難しく、重い問題だというふうには理解しておりますので、どうぞまたご意見頂戴しながら、先へもう少し上手に進みたいと思っております。もし、特段の加えてのご意見がございませんでしたら、基本的にこの計画をお認めいただいて、13年度はこの線に沿って努力するというところでよろしいでしょうか。(拍手) ありがとうございます。

それでは、1番目の議題は終わったことにいたします。これは評議員会の承認事項でございますので、これでご了解いただけたということにいたします。

## <日程第2 平成13年度収支予算に関する件(第2号議案)>

**議長(丹保会長)** 2番目は、平成13年度収支予算に関することでございますので、第2号議案でございます。愛知学院大学の小出副会長からご説明をいただいて、ご審議いただきたいと思っております。小出先生、よろしく願いいたします。

**小出副会長(愛知学院大学)** 財務を担当いたします副会長の小出でございます。平成13年度の収支予算書に基づきまして、説明させていただきます。この13年度収支予算作成にあたりましては、ただ今ご承認いただきました13年度の事業計画、並びに12年度の予算の執行状況、及び13年度の収入の見通し等によって、編成を行っております。

まず、最初に1 収入の部でございます。その中の1の基本財産運用収入は、12年度予

算通り30万円を計上しております。

2番目が会費収入で、本協会の主たる収入源でございます。平成13年度予算として、190万円増の2億3290万円を計上いたしております。内訳といたしまして、維持費でございますが、12年度予算通り、2億470万円計上いたしております。その内訳は、備考に書いてありますが、1大学35万円が247大学、1学部10万円が875学部、二部・夜間主コース5万円が147学部、大学院10万円が234大学の内容でございます。参考までに、維持費は現状のままでございますが、この後の議題になります加盟判定審査の結果、維持会員等が増えてくるわけでございますから、4月の理事会の議を経て、5月の評議員会に修正予算として維持費の増を上程する予定になっております。

次に賛助費でございますが、これは賛助会員の費用で、12年度予算に比べまして、19大学増加の会費190万円の収入増になっております。内訳は、1大学10万円が282大学でございます。なお、これも後で議題になっております加盟判定審査の結果によりまして、賛助会員が維持会員になってまいりまして、賛助会員の減が行われてまいります。その異動につきましては、4月の理事会の議を経て、5月の評議員会において、修正をさせていただくことにしております。

3番目として、基本判定・評価費収入でございますが、12年度予算に比べまして、410万円増の1870万円を計上いたしております。これは、昨年秋に行いました大学評価申請予定アンケート結果、及び日常業務を通じまして、事務局のほうでこの大学が申請するのではなかろうかというような数字等を勘案いたしまして、出した数字でございます。

内訳は、加盟判定審査費は12年度予算に比べまして、45万円増の715万円計上しており

ます。この45万円増の内訳は来年度17大学41学部と見込んでございます。参考までに申しますと、今年度は16大学28学部の見込みでございました。

次に相互評価費でございますが、12年度に比べまして365万円増の1155万円計上されております。これは備考に書いてございますが、22大学99学部の費用でございます。参考までに、今年度は15大学68学部の見込みでございました。来年はこれだけ増えるであろうという見通しでございます。これらは、見通しでございますので、申請の大学数が減れば減ってまいります。また、逆に増えてくれば、増えてくる数字でございますので、ご了承いただきたいと思っております。

次に、刊行物実費収入でございますが、12年度予算通り70万円計上しております。

雑収入は12年度予算に比べて、38万円減の387万円計上いたしております。これは、金利の状況等を勘案した減でございます。

次の特定預金取崩収入は、12年度予算通り、0といたしておりますが、今年度取崩しを行わないということになっております。

以上によりまして、収入の部は当期収入合計(A)2億5647万円となっております。12年度予算に比べましては、562万円の収入増となっております。

次に、支出の部でございます。これに関しましては、12年度予算と比べまして、増・減のあった項目だけ説明させていただきます。

最初に事業費でございます。12年度予算に比べまして、1574万1000円支出増の1億2126万9000円を計上いたしております。内訳は、調査研究費が12年度予算に比べて、390万円支出減の7820万円計上されています。変化のあるところは、旅費交通費が400万円の支出減、通信運搬費が50万の支出増、消耗什機備品費が40万円の支出減となっております。こ

れらはいずれも、11年度の決算、12年度の予算執行状況等から、増・減を行っております。

次に、判定委員会費は12年度予算に比べまして、869万9000円の支出増の1694万9000円を計上しております。これは先ほど申しましたように、来年度の加盟判定審査申請予定の17大学41学部に対応した各種委員会、並びに大学・専門審査分科会等の諸経費を、12年度を参考にいたしまして組んだ数字でございます。相互評価委員会費は、12年度予算に比べまして1094万2000円支出増の2212万円となっております。これも先ほど申しました、相互評価申請予定の22大学99学部に対応した委員会及び大学並びに専門評価分科会の諸費用でございます。

以上の結果、1の事業費は12年度に比べまして、1574万1000円支出増の1億2126万9000円となっております。

次に管理費でございます。12年度予算に比べまして、457万円支出減の1億1104万円となっております。そのうち人件費は、12年度予算に比べまして、437万円支出減の940万円となっております。これは現在います10名の職員、局長1名・職員8名・嘱託1名となっておりますが、この10名の人件費と、コンピュータ化によるコンピュータに精通した人員が必要となってまいりましたので、専門学校卒業の職員1名を採用したいということを予定し、計11名分の人件費となっております。これが、12年度予算に比べまして、437万円減となっております。本年度までは欠員2名の職員の分まで、人件費を入れておりましたが、13年度はこれを計上することを止めました。と申しますのは、後で議題に上がってまいりますが、基準協会では新しい大学評価のあり方を検討していますが、それに基づいて現在協会では、本協会のあり方検討委員会で、本協会の組織・機構改革を検討中でございま

す。その結果によって計上したいと思っております。

次に、事務費でございます。12年度予算に比べまして、20万円支出減となっております。これは表彰費の20万円減ということでございます。

以上の結果、2の管理費は12年度に比べまして、457万支出減の1億1104万円となっております。

3の固定資産取得支出でございますが、12年度予算通り、200万円となっておりますが、これはコンピュータ化に伴う機器・備品の購入費、その他機器・備品等の新規交換用の費用でございます。

4の基本金積増支出は、12年度予算通り100万円となっております。現在、協会の基本金積み立てはトータルで3700万円となっております。

5の特定預金支出でございますが、任意積立預金支出は12年度予算に比べまして、5100万円支出減の2000万円計上いたしております。これは、12年度に引き続きまして、建築改修費及び新規事業予定経費として2000万円を計上したものです。なお、12年度決算の結果によりまして支出増・減の修正が出てまいりますので、任意積立預金の修正予算案につきましては、4月の理事会の議を経て5月の評議員会に提案するのが、毎年の例となっております。退職給与引当預金支出は、12年度と同様、今年度は積立をいたしません。これは、現在退職給与引当積立金が、合計で3981万円ございまして、現在9名の職員が14年3月31日付けで総退職した場合の退職支出予定総額、3600万円を上回っておりますので、今年度は計上0円といたしております。

6の予備費は、前年並みの100万円となっております。

以上によりまして、当期の支出合計(C)は

2億5630万9000円となりまして、12年度に比べまして、3982万9000円の支出減となっております。その結果、当期の収支差額（A－C）は、16万1000円増となっております。さらに、次期繰越収支差額（B－C）は、収入合計から当期支出合計を差し引いて、34万3428円の増となっております。

なお、この13年度当初収支予算案は、12年度収支決算の確定及び判定委員会の加盟判定審査結果に基づく維持会員への加盟・登録による会員異動等により、修正を行い、修正収支予算として、4月の理事会の議を経て、5月の評議員会に提案するというのが毎年の例になっておりますので、ご了承いただきたいと思っております。以上です。

**議長（丹保会長）** ありがとうございます。ただ今ご説明をいたしましたように、収入2億5665万2000円ほどで、支出が2億5630万円ほどで、収支が16万1000円の増で、繰越が34万3000円ほどというような数字をはじいております。内容はご説明いたしましたが、これはいずれ正会員になりますが、維持会員校が増えたり、12年度決算によっていろいろな差が出たりする修正がございますので、5月にもう一度確定の会議をさせていただきますけれども、現時点ではこれで、13年度の予算を決めたいというのが、執行部側からのお願いでございます。ご審議をいただきたいと思っております。

機構改革を考えておりますので、今年度はほとんど大きな前年度からの変化をもっておりません。従いまして、ほとんど踏襲予算であるというふうにご理解いただきまして、14年度にはかなり大きな変わりがでるのではないかと思います。特にございませんでしょうか。ご承認いただければよろしいですか。（拍手）ありがとうございます。それでは案件2号議案をご承認いただいたということにいた

します。5月にもう一度、修正の議をかけたかと思っております。

### 〈日程第3 維持会員への加盟・登録に関する件（第3号議案）〉

**議長（丹保会長）** それでは3番目の評議員会の非常に大きな事項でございます、維持会員への加盟・登録に関する件で第3号議案でございます。今年、加盟判定審査をさせていただきまして、お仲間に加わっていただくということについての検討をいたしました。判定委員会委員長の外間理事から、ご説明をいただきます。外間先生よろしくお願ひいたします。

**外間判定委員会委員長（中央大学）** ご報告申し上げます。第3号議案、維持会員への加盟・登録に関する件、そしてこれに添付されております平成12年度判定委員会の審査結果報告についてでございます。

加盟判定審査の経緯を若干申し上げますと、今年度は加盟判定審査の申請がありました大学が17件でございます。去年は10件でございまして、7件増えました。これを受けまして、判定委員会におきましては、審査体制を充実・強化いたしました。判定委員会では審査にあたる機関として、大学審査分科会と専門審査分科会がおかれませんが、今年度は去年より大学審査分科会を2つ増設いたしまして、6つの大学審査分科会を設置いたしました。

専門審査分科会は、去年は15の分科会が設置されましたけれども、今年度は21の分科会を設置いたしました。そして、この専門審査分科会の主査の先生方に、大学審査分科会に加わっていただきまして、両方を実質的に関連させて審査するという体制も組めました。

今年度は延べ96人の委員の先生方に審査にあたってくださいました。去年、委員をお願いした先生方の数は延べ78名でございます。大学審査分科会におきましては、大学の理

念・目的、教育研究上の組織、教員組織、施設・設備、財政、管理・運営、学生に関する事項等、大学を総合的に審査するということになります。専門審査分科会におきましては、申請大学の学部・大学院研究科等について、専門的な見地から審査をしていただくということになります。

相当な時間をかけまして、この審査が慎重かつ精密に行われました。加盟判定審査の結果といたしましては、17大学のうち2つの大学から審査の途中で、申請の取り下げの申し出がございました。結局、申請大学17件のうち15大学について、基準に適合しているものとして、そのような主旨の認定を判定委員会で行いました。

そしてその際に、それぞれの大学の改善充実に資するためということで、次の通り、2ページでございますが、勧告・助言・参考意見を付しました。勧告を付した大学の数が6大学でございます。助言には、2つございまして、長所の指摘に関わる助言、問題点の指摘に関わる助言、これは15大学すべての大学でございます。それから、助言にはあたりませんけれども、改善のために参考にさせていただきたいという主旨で、参考意見を付した大学は、これも15大学全てでございます。

今年度はこの勧告・助言の文書をかなり充実いたしました。また、最初に概評を付するというようにいたしておりますが、これは、各分科会の主査報告を元にして、作成された概評でございます。勧告・助言の場合には、いずれとするか慎重に考えなければなりませんけれども、勧告の場合には、改善の義務があるという理解がございます。助言の場合は、特に問題点の指摘に対する助言の場合、これは改善報告書を提出していただくこととなりますけれども、勧告よりは程度の弱い要請ということになります。いずれとするかを、慎

重に検討して判断をいたしました。

長所の指摘につきましても、私ども非常に重要な事柄であると考えておりまして、それぞれの大学のもつ長所を、一層伸ばしていただきたいという主旨で、長所の指摘に関する助言も、全ての大学についてすることにいたしました。この勧告や問題点の指摘に対する助言が付されました場合、これについて改善報告書が提出されることとなりますが、これは今回の場合には、3年後にご提出をいただくということで、これは従来通りの扱いでございます。改善報告書が出てまいりますと、次の相互評価の手続きにおいて、取り上げられるということでございます。

そして、その加盟判定審査の結果、基準に適合すると判定を受けました大学名が、第3号議案に掲示されております。以上でございます。

**議長（丹保会長）** ありがとうございます。ただ今、中央大学の外間先生から判定委員会での加盟判定審査についてのご報告をいただきました。結果は第3号議案でございます。ちょっと読み上げますので、見ていただきたいと思います。

維持会員への加盟・登録に関する件、維持会員として加盟・登録する大学は次の通りとする。大学名、50音順。私立・岐阜女子大学、公立・釧路公立大学、私立・倉敷芸術科学大学、私立・国士舘大学、私立・鈴鹿医療科学大学、私立・聖学院大学、私立・聖隷クリストファー看護大学、私立・創価大学、国立・奈良教育大学、公立・兵庫県立看護大学、私立・プール学院大学、国立・福島大学、私立・名城大学、国立・山梨大学、国立・山梨医科大学、合計15大学でございます。

ご承認をいただきたいと思います。まず先立ちまして何かご質問等ございましたら、頂戴したいと思います。今、外間先生からご

説明をいただきました件でございます。よろしいですか。(拍手) それでは、この15大学につきまして、評議員会で賛成をいただいたということに決めさせていただきたいと思えます。

ありがとうございました。

#### 〈日程第4 「相互評価」に関する件(第4号議案)〉

**議長(丹保会長)** それでは案件の4番目にまいります。相互評価の認定に関する件、第4号議案でございます。相互評価委員会委員長でございます、群馬大学の赤岩理事からご説明をいただきます。

**赤岩相互評価委員会委員長(群馬大学)** 群馬大学の赤岩でございます。平成12年度、相互評価委員会の評価結果について、第4号議案のお手元の書類に基づき、かいつまんで報告させていただきます。

今年度、相互評価を申請されました大学が18大学ございます。昨年度の2倍にのぼっております。そのための体制の確立をはかるため、大学評価分科会、つまり大学を丸ごと評価する分科会を2つ増やしまして、6つの分科会で評価を行う体制をつくりました。これに伴いまして、幹事も2名増員し、6名体制といたしました。また、大学評価分科会というのは従来、相互評価委員会の委員だけで構成しておりましたけれども、分科会が増えましたことによりまして、専門分科会の主査の中から当該分科会に関連の深い方を、大学評価分科会委員として兼務をお願いいたしました。

もう1つ特徴的なことは、平成14年度からの新しい大学評価システムになりますと、相互評価のプロセスの中に実地視察が組み込まれております。それを受けまして今年度は、申請されました全大学に対しまして、実地視察を実施することにいたしました。相互評価

を申請されました大学につきましては、第4号議案の1枚目の紙に、18大学・81学部が出ております。二部は含まれておりません。

分科会における評価につきましては、お手元の紙を読んでいただくことにいたしまして、今年度特徴的に行いました実地視察でございますが、分科会から提出されました質問事項を中心に、調査を行ったわけでございます。あらかじめ、マニュアルを作成して、調査事項・手続きに関して一定程度の統一をはかりました。実地視察には原則として、当該大学の評価に携った相互評価委員会から委員、あるいは幹事2名が調査にあたりました。ただし、大学に設置されている学部が7学部以上で、その分野が人文・社会・自然にわたる場合、例えば金沢大学や近畿大学等がこれにあたりますが、その場合は1名増員いたしました3名の委員、もしくは幹事と専門評価分科会の主査が調査にあたりました。大学側からはいずれの場合も学長をはじめ、教学側の主要な役職者や事務局の責任者等、多数の出席があったと聞いております。

第3回の相互評価委員会で、実地視察の報告が行われましたけれども、書面のみではわからない点が明確になって、非常に有効であったと思います。私も1大学まいりましたけれども、例えば学生の数と教室の面積などから、今まで単純に割り算をしまして、教室が狭い等の評価を行っておりましたけれども、大学によりましては、狭い教室を非常に有効に使っているケースなどがよくわかりまして、実際に行って見ないとわからない点もあるということを実感いたしました。

実地視察によって明らかになった点につきましては、当該大学に対する助言・勧告に適切に反映するように努めました。相互評価結果といたしましては、このように助言をした大学、勧告をした大学、参考意見をした大学

がございます。それぞれ数を書いてありますが、助言・勧告には、主査の報告の総合評価を重視することはもちろんでございますけれども、実地視察の結果を反映させまして、概評を頭につけることにいたしました。

それから勧告事項につきましては、これは非常にきついわけですが、これまでの相互評価の経験を踏まえまして、早急に改善を要する点のみの指摘に留めたところが特徴でございます。改善報告書の提出でございますが、協会から勧告・助言・参考意見を付された大学は、勧告及び問題点の指摘に関わる助言については、改善報告書の提出が義務付けられております。今年度、問題点の指摘に関わる助言・勧告が付された全18大学から、改善報告書をいただくこととなりますが、その提出期限は前年同様、3年後とすることにいたしております。以上、ご報告申し上げます。

**議長（丹保会長）** ありがとうございます。ただ今ご説明をいただきましたように、今年度は全大学に対して、実地における調査をさせていただきました。その結果、今ご報告いただきましたようなことになりまして、第4号議案にその結論が出ております。読ませていただきます。

第4号議案、相互評価に関する件。相互評価において、本協会の大学基準に適合していることを認定する大学は、次の通りとする。大学名、50音順。私立・愛知大学、私立・神奈川大学、国立・金沢大学、私立・北里大学、私立・京都橘女子大学、私立・近畿大学、公立・神戸商科大学、私立・神戸女学院大学、私立・上智大学、私立・昭和大学、私立・聖路加看護大学、私立・天理大学、私立・東京薬科大学、私立・豊田工業大学、国立・長崎大学、公立・名古屋市立大学、私立・北星学園大学、公立・横浜市立大学、以上18大学でございます。ただ今のご説明について、何か

ご意見・ご質問等ございましたら、まずは頂戴いたしたいと思っております。特にございませんでしょうか。それでは、相互評価に関する件、第4号議案、18大学をお認めいただいたということでもよろしいでしょうか。（拍手）ありがとうございます。

〈日程第5 「新構想の大学評価に関するアクション・プラン（その1）—『大学評価の新たな地平を切り拓く（提言）』を受けて—」に関する件（第5号議案）〉

**議長（丹保会長）** それでは次にまいります。第5号議案は、「新構想の大学評価に関するアクション・プラン（その1）—「大学評価の新たな地平を切り拓く（提言）」を受けて—」に関する件でございますが、これは新構想の大学評価を、どういうふうにしたらいだろうかということ、本協会のあり方検討委員会・同小委員会で長らく検討してきたものの、第一番目の具体的なご提案でございます。この件につきましては、小委員会の委員長として大南副会長、京都橘女子大学の学長でございますが、立命館大学の総長であった時代から、ずっと引き続きこの件を担当していただいております。従いまして、今日も大南副会長からご説明をいただいて、ご審議をいただきたいと思っております。最終的には、5月18日の86回の評議員会でご承認をいただくということでございまして、今日ご説明をいただきまして、ご意見・ご討議等をお願いしたいと思っております。それではよろしくお願いたします。

**大南本協会のあり方検討委員会副委員長（京都橘女子大学）** それではただ今申したことで、このアクション・プランについて報告をさせていただきます。忌憚のない各先生方からのご意見を、いただきたいと考えております。

まず、序文が1ページから2ページにわた

って書いてございますが、このアクション・プランの主旨をご理解いただくために、この序文を付けさせていただきます。まずこの序文の1ページ目を見ていただきたいと思えます。既に、第1号議案をめぐって、貴重なご意見、会長からのご返答もあったわけですが、財団法人大学基準協会には今、大学をめぐる大変厳しい環境の急変がございます。また、いろいろ性格の異なった多元的な大学評価のシステムが、誕生しつつあるという現下の状況の中で、私達は今、脱皮する好機にあるという認識をもっております。

そういった点で、この度、約半年ほど集中的なアクション・プラン作りをさせていただきました。このアクション・プランも、先の提言と同様、どのような認識の下に行ったかということ、中ほどに書かせていただいております。

その1つは、新しい大学評価のあるべき姿を、常に私どもの協会が研究・調査をし、改めて本協会の大学評価の内容と体制を、厳しく見直す必要があるということです。そのことによって、本協会が社会的な責務を、新しいレベルにおいて果たし、その望ましい地位を確立しなければならないと自覚したことです。こういうことがあってこそ、第1号議案でいろいろと議論のありましたように私どもの協会が他のいろいろな機関と協力・連携・住み分けができるのだと考えております。

2つめは、我が国における大学と、大学院の設置形態の一層の多様化・個性化が進みます。そういったことに対応できる評価システムを私どもが開発し、また多くの大学・大学院が積極的に参加できるという特段の施策を整備するということが大事であるということです。そういう点では、私どもがこの5年間進めてまいりました平成8年度以降の大学評価システムを、さらに改革する必要を強く認

識をした、この2つがアクション・プラン作成の契機と認識であります。

そこで、1ページ目に書いてありますように、1～9の内容が盛り込まれております。まず、2項目に書いてございます大学評価の単位というものを、どのように改革するのか、それから学協会との評価組織の連携の有り様、特に4番目・大学院評価の改革の問題、5番目には主要点検・評価項目をどのように精選化・充実化をはかるか、それに必要な添付資料の簡素化を、かなり思い切ってどのように行うのか、それから、先ほども第1号議案でご提案がありました、新しい特別評価委員制度をどのように導入するのか、組織体制・評価プロセスにおける外部有識者の参加を、どのように取り入れていくか、法人組織における専務理事職というものを新しく新設したい、こういうことでございます。

なお、引き続き異議申立審査会の創設等に、端的に現れるような大学評価の組織体制とプロセスの改革、あるいは評価体制の問題、国際連帯、これは先ほど会長もおっしゃいました国際的な連帯の問題でございます。それから、社会貢献策、それらを支える財政策等については、「アクション・プラン(その2)」として、引き続き公表させていただきたいと考えております。

それでは早速、この内容につきまして、ご説明をいたします。本文の1ページでございますが、まず大学評価のシステムの改革でございます。最後の段落のところを見ていただきたいと思えます。システム改革の基本的な方向といたしましては、加盟判定審査、私どもの協会はこの英語名をアクレディテーションというふうに当てております。従って、この加盟されることにふさわしいという適格認定、これを英語のアクレディットに対応させて、私どもはそのように呼んでいるわけでご

ざいます。

そういう点では、この加盟判定審査では、評価基準は相互評価と同様にいたしますが、そこでの資格審査に純化した審査を行うという視点から、審査書類と書面審査における評価項目等の精選化・簡素化を、思い切っただけでやりたいということです。

他方、相互評価でございますが、これは、私どもは英語でリアクレディテーションという言葉を用いております。あまり、英語としての確ではありませんが、従来よりリアクレディテーションと呼んでまいりました。いままでは、正会員資格を取得して一律に10年毎ということにしていたわけですが、今後は正会員資格を取得して5年経過した段階で、初回のリアクレディテーションを受けるといことにし、それ以後は7年を周期にするいたします。

このように7年で受けなければいけない正会員の質を保証するための評価、いわゆるクオリティー・アシュアランスでございます。そういうことについて評価した結果を、私どもは認定させていただく。日本語は認定という言葉をつかっていますが、やはり英語として適切なのはアクノレッジであると考えております。

次の段落のところ、この大学評価システムの方針といたしましては、外部有識者の関与を視野に入れた評価体制の見直し、実地調査の十全の実施、異議申立審議会の創設を含む評価プロセスの改善・改革も必要であるということです。そのための作業を早急に着手するということです。

2ページにまいります、具体的な大学評価の単位です。大学評価の単位については、新構想のシステムにおける単位の現状の見直しと、拡張を行いたいということで、加盟判定審査については、従来通り大学を1つの評

価単位といたします。従って、加盟判定審査の判定は、大学単位で行うということになります。学部・大学院研究科による単独申請は認めないことが再確認されました。

それに対して相互評価でございますが、クオリティー・アシュアランスという観点から、少し単位を拡張したいと考えます。基本的には大学を1つの評価単位とするということを中心としたいということでございます。しかしながら、大学より特段の理由がある旨の申し出に基づきまして、学部単位・大学院の研究科単位での評価も、受け付けたいという新しいシステムを開きます。その際、評価を申請した学部・大学院研究科以外に、大学単位の場合に準じ、「全学」事項に関する最小限の情報資料の提出を、要請したいと考えております。

なお、この相互評価につきましては、附置の様々な研究所、学部附属の研究所・附属病院も、全て大学もしくは大学院研究科を評価する上で、その一環として評価の対象といたしますが、その評価にあたっては、当該研究所・附属病院、大学・学部・大学院研究科との関係に、照準を当てて検討を行いたいということです。要するに、一括した大学評価を、常則としたいということでございますが、先ほど申しましたように、大学に特段の理由がある場合には、そういう部局単位の評価を新しく開きたいということです。その場合の留意点として、3ページにa・b・cの事柄がございますので、これは見ておいていただきたいと思っております。

なお、3ページには研究所単独の評価単位とするものの可能性も、具体的に提言の中にあるわけですが、アクション・プランとして検討した結果は、研究所を大学評価の単独単位としては扱わないということにいたしました。

次の4ページを見ていただきます。今度は学協会との連携でございます。これは3節目のところ、学協会の評価組織等が、個別大学・教育プログラムからの評価申請を受理する場合は、そのための資格要件として、ちょうどアメリカがしているように、地区のアクレディテーションの団体と並行して、二重構造的な質的保証を受けるといことが望ましいというふうに、私どもは考えております。そのことが、引いては国際的な通用力を高める上で、有効であると考えております。それぞれの機構・機関が、被評価者の資料や評価結果をお互いに参照し合うということで、国全体の多元的な評価の効率性を高めたいというふうに私どもは考えております。

ただし、専門分野横断的な評価を、本協会が直接行うことの可能性につきまして、4ページの下3行に書いてございます。学協会が主体となって、全国横断の評価を行う中で、大学の特定の部局等を単独評価、もしくは全国横断の評価の結果を、外部機関として検証するということが、協会としては現状として困難であるというように考えます。そのことは、先ほど申しましたように、我々は基本的には大学全体を評価するというを常則とするという理念を、私どもはこの機会に改めて再確認をいたしましたことによります。

次に5ページでございますが、大学院の問題をかなり書き込んでおります。中ほど辺りを見ていただくと、大学院に対する評価の具体的な単位として、(2)でございますが、大学単位で評価を受け付け、当該大学を大学として包括評価する中で、大学院研究科を評価することを原則といたします。これは先ほどの流れとの関係でございます。

大学院重点大学・独立大学院については、大学に対する上記の包括評価に準じたという扱いをいたします。しかしながら、相互評価

では特段の事由に基づいて、部局単位の申請を受理するものとしているということにおいて、大学院評価もその対象にしたいということでございます。

次に8ページを見ていただきますと、具体的にこの点検・評価項目の精選化・充実化を、どのように行うかということでございます。9ページのところでお話申したいと思っております。9ページの「(3)点検・評価項目」を見ていただきますと、現状の大学基準協会の点検・評価項目は、2つの大きな基準、即ち「大学基準」と「大学院基準」というものがあります。そして準則として、学士課程の様々な基準があるわけですが、これらは陳腐化している点もございまして、先ほど第1号議案でありましたように、見直し作業に現在積極的に取り組んでいるわけですが、基本はこの大学基準と大学院基準であります。それを具体的に点検・評価項目に当てはめたものが、『大学評価マニュアル』として広く公表されているものであります。現状は、この主要点検・評価項目として、11の大項目と、48の細項目が設定されております。この点を、今回アクション・プランでは、見直しとかなりの精選化・簡素化、あるいは一方では拡充をはかったということでございます。

9ページの最後の段落を見ていただきたいと思っております。そこには、A・B・C群という区分けがございまして、A群というのは大学・学部・学科・大学院研究科として、具備することが必須不可欠であるものを位置付けております。B群は、必須不可欠とはいえないまでも、大学・学部・学科・大学院研究科等として、具備することが高度に望まれるものというものを位置付けております。

そして新たにC群として、大学・学部・学科・大学院研究科等として、具備することが一応望ましいとはいえ、大学の設置形態、建

学の精神、理念・目的の差異や、それぞれの大学の置かれている地理的条件の違い、大学規模やこれを構成する学部・学科等の種類・性格の違い等を考慮して、点検・評価項目として採用するかどうかの判断は、当該大学・学部・大学院研究科の裁量に、委ねることが適切であるというものを、位置付けております。いふなれば各大学は、各大学の自主的な裁量によって、それをオプションとしてお考えいただきたいということでございます。

従って、加盟判定審査は、基本的にA群であるということです。それから相互評価は、基本的にはA群とB群でございます。ただし、相互評価については、C群をオプションとして取り入れることができます。

以下は例示的に話し申し上げますが、11ページをご覧ください。11ページは大学・学部における主要点検・評価項目の比較表というのがございますので、変更点を中心にして、特徴点をご説明いたします。

まず、当協会の評価では各大学の建学の精神、教育研究の理念・目的を大切にしてきました。従って、現行も理念・目的等はそのままA群に残します。しかしながらB群には、改めてそういう目的の適切性だけではなく、A群に加えて新しく達成状況を見ることにさせていただきます。さらに、理念・目的等の検証という新しいオプションを、C群としておこします。あるいはまた、大学の健全性・モラル等についても、C群としておこしました。

また、教育研究上の組織については、11ページに教育研究上の組織の検証という新しい部分を、C群におこしております。

次に12、13ページをご覧ください。学部・学科等の教育課程がございしますが、これは法律・省令等に沿って適っているかが、現行として書かれているわけですが、それはA群と

してそのまま残しますが、改めて新しく学部・学科等の理念・目的や教育目標との対応関係における、学士課程としてのカリキュラムの体系性・倫理性を培う基礎教育の位置付け等を加えることにいたしました。

B群には、新しく一般教養的授業科目の位置付け・外国語科目の位置付け等を加えております。13ページにつきましても、新しくC群には様々なオプションが付いております。また、カリキュラムにおける高・大の接続という新しい小項目を起こして、それをB群に位置付けております。

14、15ページを通覧願いたいのですが、例えばカリキュラムと国家試験というような新しい小項目、医学系のカリキュラムにおける臨床実習という新しい小項目が、B群に設けられております。あるいは、インターンシップ、ボランティアもC群に設けられております。履修科目の区分けということが今までにございましたが、内容的にはどういうものかといいますと、教育課程の編成方法における、学生の主体的な学習への配慮の適切性・妥当性ということ、細項目として設けていたのですが、それはA群から簡素化のためにはずすということにいたしました。そして、B群には改めて、必修・選択の量的配分の適切性・妥当性を問うということになっております。

同じことは15ページで、単位互換や単位認定はA群でいずれも削除して、B群だけに設けるということにいたしております。それから、開設授業科目における専・兼の比率等の問題というのは、細項目に新しく設けてB群に入れております。あるいはまた、社会人学生・外国人留学生等への教育上の配慮というものについては、A群では削除し、C群のところ設けるということにしております。

16、17ページをご覧ください。生涯学習へ

の対応については、A群は削除してB群にそれを設けるということにしております。さらに教育効果の測定という項目が、現行ではございますが、この内容は教育上の効果を測定するための方法の、適切性を問うということになっていたのですが、A群からはずすことにいたします。そして、B群にそういう目標達成とそれらの測定方法に対する教員間の合意の確立状況、FDを構成するためにも、こういう教員間の合意の確立状況というのが大変重要であります。

あるいはまた、システム全体の機能的有効性を、検証する仕組みの導入状況ですとか、卒業生の進路状況というものを、B群に新しく位置付けております。C群には、さらに細目にわたる新しい事柄が書かれております。例えば、C群の最後に国際的・国内的に注目され、評価されるような人材の排出状況というようなものが、1つ、C群の中に設けられております。

17ページには、厳格な成績評価の仕組みということで、新しくそういう項目を設けまして、A・B・C群にそれを位置付けるようにさせていただきました。履修指導につきましては、B群・C群にオフィスアワー・学習支援の恒常的な取り組みの問題等が入れられております。教育改善への組織的な取り組みといたしましては、新しくA群に、シラバスの適切性、B群にはFD活動の問題、あるいは学生による授業評価の導入状況等を入れることになっております。

18、19ページをご覧ください。授業形態と授業方法の関係については、A群では削り、B群では新しい視点を細項目として入れております。3年卒業の特例については、新しくC群に設けております。通信制大学については、A群に新しく設けることにいたしました。先ほどの第1号議案にもありましたように、

こういうディスタンス・エデュケーションの有り様ということが、これからかなり広がってまいります。そういうことで、A群にこれを新しく取り込んでおります。

19ページで、学生の受け入れというところを見ていただくと、新しく入学者受け入れの方針等という項目を設けておまして、いかなればアドミッション・ポリシーの有り様を、A・B・C群で問うという形になっております。

20ページでは、そういうことに関連して、新しい項目が設けられております。入学者選抜の仕組み・方法の検証、アドミッションズ・オフィス、飛び入学、高・大学の連携の問題、21ページの夜間学部等への社会人の受け入れ状況、外国人留学生の受け入れの問題等がございます。さらに、学生の受け入れについては、歴史的に定員管理という言葉をつかっておりますが、定員管理について新しくA群では、定員超過の著しい学部・学科等における定員の適正化に向けた努力の状況というものを設けました。

B群には、組織改組・定員変更の可能性の検証システムの導入状況というものを、定員管理との関係で新しく設けました。C群には、逆に恒常的に著しい欠員が生じている学部・学科における対処方法の適切性というものを設けております。これについては、本協会のあり方検討委員会ですいぶん議論がありまして、これはむしろ、A群に現状からいえば設けるべきではないかという意見もあったのですが、最終的には、C群として位置付けることにいたしました。ただし大学院については、これはA群に位置付けられております。また、新しい項目として、編入学・退学者でございます。

22、23ページをご覧ください。教員組織については、現状以外に、A群には主要な授業

科目への専任教員の配置状況、専任・兼任の比率の適切性、理念・目的・教育目標との関連における教員組織の年齢構成の適切性ということも入れてございます。C群には、教員組織における社会人の受け入れ状況、外国人研究者の受け入れ状況、教員組織における女性教員の占める割合というようなものも、オプションとして入れてございます。

教育研究支援職員の問題については、簡素化の視点により、A群からはずしました。B群にそれを位置付けるということでございます。教員の募集・任命・昇格等に関する基準・手続きは、A群に現状通り位置付けますが、B群に新しい細項目を設け、さらにC群には、例えば任期制等も含む、教員の適切な流動化促進措置の導入状況を、含めることにいたしております。23ページは教育研究活動の評価というものがございしますが、これは大学院のところでご説明をします。A群からは削除しています。

24、25ページのところでは、施設・設備等で、例えばキャンパスのアメニティ等、利用上の配慮、25ページでは組織・管理体制については、簡素化の視点によりA群からはずします。学術情報へのアクセスの状況もA群からはずします。

26、27ページをご覧ください。新しく社会貢献の部分については、企業等との連携も含めて、B群・C群にかなり加えられております。学生生活への配慮・生活相談等については、簡素化の視点により、A群から削除し、B群・C群にいくつか新しい視点が盛り込まれております。

28、29ページをご覧ください。就職指導でございしますが、新しい項目が設けられております。A群・B群・C群いずれも、就職指導に関する項目が盛り込まれております。

管理・運営でございしますが、教授会につい

ては、A群は現状通りといたしますが、B群については新しく、学部教授会与学部長との間の連携協力関係・機能分担の適切性、評議会・大学協議会等の全学的な審議機関との間の連携・役割分担の適切性というような項目を設けております。

同じく29ページについても、新しい項目として、学長・学部長の権限の選任手続きというようなものも、B群・C群のところに新しく設けました。A群は、現状でも学長・学部長の選任手続きの適切性・妥当性が謳われているのですが、B群には新しく学長権限・学部長権限の関わりが、新しく入ってきております。またC群のところに入っているものについても、ご意見があればお聞かせいただきます。個性ある学長の募集・選任を、可能ならしめるような学内的条件の整備状況もございします。また管理運営では、新しい項目として意思決定、評議会などの全学的な審議機関、予算執行、教学組織と学校法人理事会との関係、これは新しくA群に入れてございます。

30、31ページをご覧ください。ここは財政ですが、教育機関と財政、外部資金、配分と執行、財政監査、財政公開、私立大学財政の財務比率等について、新しく財政分科会を加盟判定審査と相互評価で設けることを、アクション・プランとして提言いたしておりますので、それとの関わりで、こういう新しい項目が出ております。ただし当面、設置形態によっては事態が過渡期にありますので、国・公立については、その対象としないことにいたしております。

32、33ページは、自己点検・評価等について、第1号議案で示されたような視点から、新しい項目がつくられております。

34、35ページをご覧ください。「財政に関わる主要点検・評価項目の充実化に向けた評価の過渡的視点」とございしますが、この過渡

的視点というのは、今後の大学の設置形態の変革を配慮に入れて、このように書かせていただいております。国・公・私立大学に共通の点検・評価項目、国立大学に固有の点検・評価項目、公立大学に固有の点検・評価項目、私立大学に固有の点検・評価項目、私立医科大学に固有の点検・評価項目、こういうことを一応サーベイいたしました。そして、この中から必要なものが、先ほど申し上げたA、B、C群の項目として取り上げられています。ただし国・公立大学については、当面これを適用しないということでございます。

41ページをご覧ください。これからが、大学院における主要点検・評価項目になりますが、ここは学部との関係のところだけを指摘するに留めます。

44、45ページをご覧ください。研究指導等というふうに書かれておりますが、これは大学における研究指導でございます。これについてはB群・C群に、かなりきめ細かなオプションを、C群のところには設けております。例えば、44ページのC群の最後辺りを見ただけですと、才能豊かな人材を発掘し、その才能に合った研究機関に送り込むことなどを可能ならしめるような研究指導体制の整備状況という項目も含まれております。

45ページには、連携大学院に置ける研究指導等についても、C群に設けられています。

50、51ページをご覧ください。大学院との関連において、教育・研究活動の評価がございしますが、A群ではこれはずし、B群において教員の教育活動及び研究活動の評価の実施状況とその有効性として、あるいはC群において、教員の研究活動の活性化合いを評価する方法の確立状況、教員の自己申告に基づく教育と研究に対する評価方法の導入状況というオプションとして、設けているわけでございます。

51ページでは、研究活動といたしまして、現行A群は非常に包括的な問いかけでございます。教育・研究上の各組織単位毎の教員による研究活動の活性化等の状況ということになっておりますが、A群では具体的に論文と研究成果の発表状況ということで、明示させていただきました。ただしC群のところでは、いくつかの細かい項目を設けさせていただいております。

52、53ページでございますが、項目として競争的な研究環境創出のための措置ということで、C群のところにはいくつか細かいオプションを設けております。53ページは時代背景も含め、研究条件の整備ということが、C群に設けられております。

57、58ページにわたりまして、大学院固有の管理運営、事務組織、自己点検・評価の項目を、それぞれB群・C群に設けました。

以上、評価項目について重点的にお話ししました。資料提出の取り扱いについては、お読みいただきたいと思います。できるだけ簡素化の方向の議論が、60、61ページにアクション・プランとしてございます。

例えば、62ページを見ていただくと、提出資料の一覧というのが、現在、各大学のご尽力で、大変な資料をお出しいただいておりますが、例えば基本的な書面審査の中身は、点検・評価報告書と、大学基礎データ調書です。これを加盟判定審査の場合には、注①に書いてありますように、大学として独自に作成した自己点検・評価報告書が、協会の指示する調書の要件を基本的に満たしていれば、その独自報告書をもって協会所定のものに代えることができるということです。要するに、各大学のものをご提出いただければよいということです。資料になっている部分というのは、加盟判定審査でかなりあるのですが、これは全て削除します。

最後に65ページ以降のポイントを説明いたします。大学基準協会の組織機構の改革です。これは第1号議案のところで、少し述べていただきましたので、ここでは重要なポイントだけを、67ページについてご説明します。

実は、特別評価委員制をどのように位置付け、その役割を担ってもらうかという新しい人事制度の発足についてでございます。67ページの(b)ですが、新たに導入される人事制度としての特別評価委員は、本協会の大学評価プロセスにおいて、申請大学の予備調査を行いますとともに、現行の加盟判定審査及び相互評価の各委員会における幹事的な職務に参画して、実地視察や勧告・助言案の起草にも関与するなど、実質的に評価のプロセスのコーディネーターとしての役割を担う人事制度を発足したいということです。幹事というのは先の加盟判定審査・相互評価でご報告がありましたように、正・副委員長の所属大学の教員と、本協会の大学評価経験のある現職教員で構成されております。

また、審査・評価を担う評価委員は、現在は任期が2年でございますが、その継承性と水準を確保するため、特別評価委員は経験の浅い1年目の委員と、経験を積まれた2年目以降の委員との意思疎通を円滑に進める等、評価のための実務スタッフとしての役割を担っていただきます。この場合、現行の幹事制度は踏襲したいという提案でございます。しかしながら、現行の幹事が負っている業務的な負担は大きなものでございまして、ボランティアとして大変なご努力をいただいております。また本務との兼ね合いが、なかなかつかないという現状もございます。その評価活動は、限界を来たしているという認識もございます。こうしたことから、幹事の業務の機能分担や量的削減をはかると同時に、より質の高い評価活動を展開していくためにも、そ

の業務遂行を特別評価委員が、実質的に補佐する体制を構築するということです。幹事と特別評価委員は現行通り、審査・評価の決定には直接参加いたしません。

68ページで、この特別評価委員の採用について述べています。以上の職務を担う特別評価委員は、過去に本協会の評価活動に参画した者を含む大学評価の経験者、もしくはこれと同等の実績や資格・能力を有する外部有識者の中から、人材を求めるものといたします。また人材として、現職の大学教員の非常勤者を視野に入りたいと考えております。特別評価委員の身分・職務形態については、契約任期制で任期1年として、契約の更新ができる非常勤職といたします。委員数は、第1号議案であった通りでございます。

外部有識者の参加の問題ですが、具体的なアクション・プランは、ピア・レビューを原則としたいということです。それをさらに開放するために外部有識者の参画を考えるとということでして、69ページをご覧ください。具体的に外部有識者の範囲ですが、ここでいう外部有識者としては、民間研究機関の研究者、企業関係者、文教関係者、地域団体関係者、マスコミ関係者、弁護士、公認会計士等の高度専門職業人等が想定されるというように考えております。

外部有識者を組み込むことが想定される協会の組織・機構ですが、1つは協会運営協議会、本協会のあり方検討委員会です。評価組織体制の関係では、a～fのようなところがその対象になると考えております。

最後に70ページでございますが、専務理事職の創設です。これは、後の議案にも関係ございますが、財団法人大学基準協会の寄付行為の改定案の中で、専務理事の設置を内容の1つといたしております。現在文部科学省と、この内容については折衝中でございます。こ

の専務理事の位置付け、専務理事の選任方法、専務理事の身分等については、お読みいただきたいと思ひます。

重要なのは5番目の専務理事の職務権限でございます。専務理事は協会活動に関わる企画・立案・財務及び渉外を含む協会事業の遂行プロセスの中で、会長を補佐するものとして置くということです。71ページに、専務理事・副会長は、いずれも会長を補佐するとされております。さらに専務理事はこの法人の業務を掌理するとされております。

しかし、副会長には、その文言はございません。その一方で、副会長は会長に事故あるとき、または欠けたときはあらかじめ会長の定める順位により、その職務を代理しその職務を行うということが定められております。

そこでこの寄付行為は、補佐の意に関して、副会長のそれは単に責任の所在を示すにとどまるのに対し、専務理事のそれは通常の場合、実質的に会長を補佐する役割を、内容としているというように判断いたしております。また、副会長は緊急の場合、会長職を代行するとともに、専務理事は会長代行副会長を補佐する、そして法人業務を掌理することを意味しているというのが、私どもの判断です。なお、専務理事は事務局長に対する指揮・監督権の行使を通じて、事務局の業務を統括することを考えております。

以上が大体のことでございますが、73、74ページのところに、モデルをいくつか挙げさせていただきました。これを見ていただくと、大体どのように新しいアクション・プランが時系列で流れていくのかということが、おわかりいただけると思ひます。現行では5月の末に、申請意思の表示期限がございます。そして申請資料の提出期限が、現行は8月末でございますが、このモデルのスケジュールでは、一応4ヶ月から5ヶ月繰り上げること

にいたしております。すなわち1月・3月です。そして最終的には、通知公表が翌年の3月ということになるわけです。なお、星印のついておりますのが、新しく設置される機構・組織であるというように、ご覧いただきたいと思ひます。そういうことを通して新しいアクション・プランでは、協会の評価プロセスをきちっと充足したいということです。

74ページがそれを支える組織・機構図ということで、星印がいずれも新設もしくは改組後の名称でございます。

最後にもう1点でございますが、この第5号議案の2をご覧ください。これは新構想の大学評価の平成14年度に限る経過措置を提案させていただいております。点検・評価報告書は、いま私が説明しましたように加盟判定審査については、14年度に限りA群の柱に従います。相互評価については、14年度に限ってA群及びB群の柱に従います。15年度以降については、C群を含めることとなります。14年度は、C群は除くというようにお考えください。

大学の基礎データについては、書いてあるような取り扱いをいたします。提出期限については、14年度に限っては平成14年6月末日というように、考えさせていただきたい。現状は8月末ですが、14年度に限って6月の末にしたいということでございます。大変端折った説明で、時間を取らせていただいたことをお詫び申し上げたいと思ひます。ありがとうございました。

**議長（丹保会長）** ありがとうございます。大変に詳細な説明をいただき、ありがとうございました。この件については随分長い間、本協会のあり方検討委員会・理事会等で議論してまいりました。具体的な項目として評議員会にご説明するのは、今日が最初でございます。先ほども申しましたように、5月18日

の評議員会で、これをご承認いただけるかどうか決めたいと思っております。基本的に今日は、これを受け取らせていただき、ここでご判断いただく資料とし、5月までまだ時間がございますのでお読みいただいて、事務局へ様々なご意見をお寄せいただければ、本協会のあり方委員会はこれをまた検討し、5月に成案を出したいということでございます。できましたら、年度内くらいにご意見を頂戴できればありがたいと思います。

今日は、本協会のあり方検討委員会副委員長であります大南先生がおいでですので、ご質問等ございましたらお受けしたいと思えます。この後、専務理事等については別件として、ご承認をいただきたい件がございますので、その部分については今のご説明でご了いただけるかどうか、後ほどの案件で検討いたします。随分急に多くのことをご説明したので、ほとんど学長先生で、日常お考えのこととございますので、すぐ何事であるかということはお分かりいただけたと思いますが、まだ細目にわたりましては、いろいろな問題があるかもしれません。もし、今日のところはこれで評議員会として受け取っていただきまして、5月に決めるということで、できれば3月一杯くらいにご意見を頂戴するという運びでよろしければ、この案件は次へ進みたいと思えますがいかがでしょうか。よろしいですか。(拍手)どうぞご検討いただきまして、たくさんのご意見を頂戴できればありがたいと思っております。

それでは、第5号議案—1については最終的には5月18日ということで、今日は仮にお受け取りいただけたということにいたします。さらには、14年度については時間がもうございませんので、現在のシステムとの折衷で進みたいということを申しましたが、これについては、特別に新しいことを計画しておりま

せんので、もし特段のことがなければご承認をいただくということにいたしまして、作業を進めたいと思えますがいかがでしょうか。もし、お気づきの点がありましたらご連絡いただければ、早急に対応いたします。それでは仮にご承認いただけたということで作業に入りたいと思えます。ありがとうございました。

#### 〈日程第6 財団法人大学基準協会寄附行為の一部変更に関する件(第6号議案)〉

議長(丹保会長) 第6号議案、財団法人大学基準協会寄附行為の一部変更に関する件ということで、これは本協会のあり方検討委員会の議論を受け、理事会等でもいろいろな検討を続けてまいりました。定款に相当する寄附行為について、文部科学省と協議中ですが、このことについてご承認をいただければありがたいと思っている件でございます。

資料をご覧いただきますと、ご承認をいただきたいと考えております点は、第3条で当協会の目的事業でございますけれども、右側が現行の目的事業でございますして、先ほどからご説明申し上げておりますように、会員の自主的努力と相互的援助によってという項目を入れまして、ア krediyation をかなり重要なこととして、行っているのだということをこの寄附行為の中に入れたいというのが第1項でございます。従いまして、調査研究を行い質的向上プラス相互援助ということで、加盟判定審査、相互評価等をしているということを、定款の中にも入れさせていただきたいというのが、第3条のこととございます。

第4条については、会員の名称でございますが、維持会員というのがどうもよくわからないという議論がありまして、やはり法人の正会員という表現が、よいのではないかという議論がずっとありました。理事会でもこれ

がよいのではないかということになりましたので、正会員として認定するために、加盟判定審査をする、正会員の質を向上させてきたかどうかということを見るために、相互評価をするという項目で、第4条の2項を入れたいということでございます。

調査・研究については、先ほど話をさせていただきましたように、国際的と申しますか、日本が日本の大学だけで立ち行かなくなってまいりましたし、内外の大学が相互に競争したり、勉強したりしなければなりませんので、「内外の大学」にと、言わずもがなのことかもしれませんが、明確にこれを書きたいというのが第4条の3項でございます。後は、項が少しずつずれましたので、番号に線が入っております。

2番目に第4条の2項、大学の質的向上と書いてあるものに加えまして、この法人の会員資格に関わる認定・相互評価ということを、明確に書かせていただくということが、この第4条の大きなご提案でございます。

次に、第4章第14条で、先ほど申し上げましたように、今は会長1名・副会長6名・理事長1名ということになっております。それを、会長1名・副会長6名・専務理事1名ということに変えたいということでございます。

現在、理事長という制度を中止しておりますが、これは理事長も会長も会務を指揮するというようなことがあり、指揮系統にいささかの乱れとは申しませんが、問題点がなかったわけではございませんで、理事長制度というのはなかなか運用しにくいということで、会長の命令を受けて、会長を補佐して専務理事が会務を統括するという、大きな学協会がしている方式がいいのではないかとということに、理事会ではご議論が収束いたしました。それで、専務理事制をとらせていただいてはどうであろうかというのが、第14条でござい

ます。

第15条については、専務理事は理事の中から理事会が選任するというので、理事長と同じ選任方式でございます。第16条、専務理事は会長を補佐し、この法人の業務を掌理するというので、理事長は会長の定めるところにより、この法人を代表しということがありましたので、会長と理事長の関係がややこしくなっておりました。従いまして、三代前の会長のときから理事長制を停止しておりました。それに代わるものとして、恒常的に会務を統括する、掌理する専務理事をおきたいというのが、第15、第16条のお願いでございます。

第24条に職員は会長が任命するというのがありますが、現在のルールは会長が理事長を兼ねておりまして、理事長としての会長が任命することになっております。以後は、会長が任命するという形に単純化したいということでございます。そして、事務局の長は事務局長とするというのは、従来と同じであります。理事長の指示を受けるところが、今度は専務理事の指示を受けということになり、専務理事は会長を補佐し、掌理するという形で会長から流れてくる仕事を、専務理事が掌理して、事務局長を指揮するということとなります。

第6章は、正会員・賛助会員というのがございますが、維持会員という言葉が、はっきり外には理解されないというようなこともございまして、やはり正会員と賛助会員という形に、会員を二分したほうがよいのではないかと、提案の主旨でございます。そうすると、正会員と賛助会員の規程は別に定めるといってもありますし、第31条に正会員と賛助会員はというふうになりますと、前は賛助費になっていたのですが、賛助会員が納める費用ですから、賛助会員費であろう

ということになり、正会員費及び賛助会員費と改めたいということでございます。さらには、維持会員が第32条で正会員となるということでございます。

維持会員を正会員に改めるということ、専務理事制を敷きたいということ、この2つが寄付行為の大きな変更点でございますが、理事会としてはこれでいきたいということで、評議員会に提案させていただいております。

ご意見等ございますでしょうか。もし、副会長・理事の先生から、お加えいただくことがありましたらどうぞ。よろしいでしょうか。随分長く議論してまいりまして、他の学協会とあまり大きくつくりが変わらないようにはなっておりますが、内々に文部科学省ともコンタクトしております。もしご了承いただければ、これをベースにして、公式に動きたいと思っておりますがよろしいでしょうか。(拍手) どうもありがとうございます。それではご承認いただけたということにいたします。

もしこれがお認めいただければ、この寄付行為の施行月日を、この次の評議員会でご承認いただいて、平成13年5月18日からといたしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

それまでの間、いろいろなことを進めていきたいと思っております。ありがとうございます。この6号議案までで、議案は全て終わりです。

#### <日程第7 「改善報告書」の検討結果について>

**議長（丹保会長）** 7番目の件は報告でございます。改善報告ということでございますが、相互評価委員会が改善について、前回各大学をお願いしております件について、時間が経ってそれに対する改善のご報告を頂戴することになっております。相互評価委員会の委員長、赤岩理事からご説明をいただきます。

**赤岩相互評価委員会委員長（群馬大学）** 簡単に報告させていただきます。平成7年度までの適格判定制度においては、勧告が付された場合、平成8年度以降現在のシステムについては、勧告・助言が付された場合に、期限付きで改善報告書の提出を求めてまいりました。今年度はお手元にありますように、38大学から出ております。その改善報告書について、昨年8月から12月にかけて、幹事が分担して検討を行ってまいりました。その検討にあたりましては、その報告書の中で4つに分けて分類いたしました。改善への取り組みが概ね評価できる旨を通知する部分、改善への取り組みは評価できるものなお改善が望まれるということで、参考意見を付する場合、報告義務はございません。それから再度報告を求める、再勧告を付してさらに報告を求めるという4つに分けました。

慎重に検討を行いました結果を委員長の下で調整し、2月6、7日開催の相互評価委員会、並びに同月22日開催の理事会で承認を得て、現在発送の準備作業中でございます。内容については、お手元の表にございます。提出期限でございますけれども、改善報告書の検討の結果、再度報告を求めると、再勧告に該当する事項については、従来は3年後を目処に報告書の提出を求めていりましたが、現在定期的な相互評価が制度化されておまして、平成14年度以降は評価の周期が10年から7年へと短くなっております。そのようなことも考え合わせまして、初回の改善報告書の提出期限が、評価周期の中間期にあたることなど考慮して、本年度からは3年といわずに、次の相互評価申請時に合わせて、改善状況の報告をいただくというふうに、改めましたのでご報告いたします。

**議長（丹保会長）** ありがとうございます。ただ今、赤岩理事からご説明いただきました

ように、改善報告についてはまたいろいろと相互評価委員会を煩わせまして、各大学とやり取りをいたしておりますが、また結果について出てまいりましたら、ご報告をするということになろうかと思いますが、よろしいでしょうか。

#### 〈日程第8 平成13年度大学評価セミナー開催について〉

議長（丹保会長） それでは8番目が最後のご報告でございますが、平成13年度大学評価セミナーの開催についてということございまして、平成13年度も各地区で、大学評価セミナーをさせていただき、評価についての基本的な考え方、具体的な方策等についてご説明をし、意見交換をさせていただいて、各地区からのご意見も承りながら進めたいと思います。6月7日・大阪ガーデンパレス、6月8日・福岡ガーデンパレス、6月14日・グランドヒル市ヶ谷、6月15日・札幌ガーデンパレスというようなことを計画いたしております。

大阪では、全体の流れについてグローバル化時代における大学の質ということで、法政大学総長、本協会理事の清成先生にご講演いただき、ただ今ご説明いたしましたアクション・プラン等を中心に、大学基準協会の新たな改革については京都橘女子大学学長、本協会副会長の大南先生にご説明いただくということでございます。

福岡は、大阪市立大学学長、本協会副会長の児玉先生に、大学評価をめぐる最新動向ということでご講演を頂戴し、大学基準協会の動きについて大南先生から加えてご説明・ご解説・ご講演をいただくということでございます。

東京会場については、International Network for Quality Assurance Agency in Higher Education の、アメリカの理事の方

で、レーンさんという方に来ていただきまして、大学評価の国際的新動向についてという課題でご講演いただき、大南先生から同様に、大学基準協会の新たな改革のお話をいただくということでございます。

札幌会場については、新しい大学の役割と評価ということございまして、実は私の次の総長でございます、中村睦男法学研究科教授から、お話いただきます。本協会のいろいろな委員のメンバーを、ずっとしていますので、大学基準協会には詳しい先生でございます。その後大南先生からご講演いただきます。

もちろん事務局は全ての場に出て、事務的な手続き等についてのご説明をし、質疑応答を頂戴するということになります。大学基準協会のホームページは、それほど立派なものではございませんが、開いておりますので、このセミナーについてはそこでもわかるようにいたしております。

以上で、全てのご報告を終わったと思いますが、いかがでしょうか。何かこの際、ご発言をいただくことはございますか。よろしければこれで評議員会を終了させていただきます。

## 平 成 13 年 度 事 業 計 画 (案)

### 1. 平成13年度事業計画策定にあたっての基本的視点

今日における学術研究の発展と諸科学の飛躍的進歩とともに、国際化・情報化の進展や生涯学習ニーズの高揚に象徴される社会・経済構造、産業構造の複雑多様な変化という状況の下、18歳人口急減期に突入したわが国大学は、多様で個性的な教育研究活動を展開するため、その組織機構と教育研究の全般にわたる改革が急務とされている。大学審議会の答申等を受け、現在行われている様々な制度改正は、このような大学の教育研究の個性化・多様化・高度化の促進を求めるもので、各大学が自主的・自律的にその組織機構と教育研究のあり方を模索し改革を実施するための制度基盤を提供するものであった。

一方、国の行財政改革の一環として、資源の有効活用と組織・運営体制の能率性・効率性の視点から、国立大学の法人格の取得問題について、本年度中に一定の結論が下されることが予定されている。こうした制度改変とも関連し、中央省庁再編の絡みの中で、総務省の評価ラインにもつらなる文部科学省・評価委員会の設置が予定され、法人化後の「国立」大学の評価に着手することが目指されている。

高等教育を取り巻くそうした厳しい状況の中で、わが国大学は学術研究の中心機関としての使命を基本に据えつつ、社会の知的資産を蓄積し、その利用の核となることが必要である。そして、多様な能力、経歴、文化的背景をもつ学生を受け入れるとともに、こうした学生たちに適切な教育を行っていくためにさらに教育内容・方法の改善・改革を推進する必要性に迫られている。

しかしながら、大学が入学の窓口を大幅に広げ多様な学生を受け入れることに伴い、わが国大学全体の質的低下がもたらされることへの危惧も一部にはある。そこで、これからの大学は、諸科学の発達や社会・経済情勢の変化にも適切に対応させつつ、その教育研究に創意工夫をこらすとともに、自己の責任において教育研究水準を維持・向上させ大学が社会に対して負っている責任を果たすことが必要となっている。

大学基準協会は、これまで、大学評価の責任主体としての立場から、大学の自律的な改革と水準の維持・向上を図る上で、有効とされてきた自己点検・評価を、わが国高等教育界に定着させ、各大学の改善・改革に直接結びつくような有効な営みとしていくための方途を検討してきた。そして、平成7年1月に公にした『大学評価マニュアル』に基づいて、平成8年度以降これまで5次に亘って大学評価を実施してきた。本協会は、今後とも、大学評価の積み重ねの中で、わが国大学の質的水準を保証しその改善・改革を支援していくという大学評価の基本的視点を堅持しつつ、評価のための適切な組織体制の確立とその実施手続きの一層の改善に向けて鋭意努力していくこととする。

ところで今日、国・自治体における行財政改革が急速に進行する中で、公財政に支えられた大

学は、アカウントビリティの履行を視野に入れつつ、自らの組織・活動を厳正に評価し、適宜、学外者による検証を受けることが強く求められている。平成11年9月の大学設置基準、大学院設置基準の改正に伴い、自己点検・評価の実施とその結果の公表が法的義務化され、点検・評価結果に対する学外者による検証の実施が努力義務として各大学に課されることとなった。また、資源配分機関や大学設置者等に対しても、適正な評価を有力な参考材料に据えて、大学への資源配分の適切性を確保することや改組転換を押し進め組織の効率運用を図ることなどが要請されている。さらに、グローバリゼーションの進展に伴い、わが国大学及びそこに置かれる教育プログラムの質や国境を越えた通用性を高める上で、大学評価そのものの国際的通用力を向上させることの重要性が強く説かれている。

大学評価をめぐるそうした状況を背景に、大学基準協会は、現在、より客観的で透明度の高い第三者評価システムを具備する評価機関へと脱皮すべく、そのためのアクション・プランを作成中である。そして合意を得られたアクション・プランから、順次、実行に移すこととしている。併せて、これまで行ってきた協会固有の「基準」のあり方の検討結果を基礎に、当面の大学評価に関連する協会独自の基準の決定と改定に関わる活動を、引き続き進めていくこととする。このほか、これまでに引き続き、各大学で営まれる自己点検・評価を含むわが国内外の教育研究評価システムの現状把握とその有効性についての分析を行うことも必要である。

上述のような事業活動を遂行していく中で、各大学の展開する様々な改善・改革を支援する上で、より適切・妥当でかつ国際的通用力を有する大学評価システムの確立とその有効運用に向けた活動を、協会自らの判断と責任において行っていくことが可能となるものと考えられる。

なお、大学基準協会固有のコンピュータ・システムの整備を前提に、そこに大学評価やその他の活動等を通じて得られた情報を蓄積することにより、引き続き協会の大学評価の客観性を高めるための努力を払うこととする。

以上の点を踏まえ、本年度は、以下に示す10の項目、即ち ① 本協会による大学評価、② 基準の諸改定、③ 平成13年度実施の大学評価のための体制の確立、④ 大学、大学院等の評価に関する調査検討、⑤ 大学基準協会の50年史の執筆、編纂、⑥ 本協会に関する広報活動、⑦ 「JUAA 選書」の刊行、⑧ 文部科学省の諸審議会等への対応、⑨ コンピュータ・ネットワークシステムの整備、⑩ 本協会の内部機構改革へ向けた取り組み、の諸項目を柱に据え、具体的な協会活動を遂行していくこととする。

## 2. 平成13年度における具体的事業計画

### ① 本協会による大学評価

平成8年度より導入された新たな大学評価は、年々、評価方法・手続きについて改善がはかられ、これまで相当程度の実績を積み重ねてきた。

協会の大学評価に関する各大学の関心は高く、前述の如く、平成11年9月に改正された大学設置基準・大学院設置基準に、各大学が外部評価を実施すべきことが努力義務として規定されたこともあり、加盟判定審査、相互評価とも今年度も相当数の申請が予想される。

本協会としては、これまでの実績を踏まえて、組織体制と実施プロセスの改善を鋭意図りながら、引き続き、「判定委員会」及び「相互評価委員会」を中心に慎重かつ綿密に審査・評価を行

っていきたい。

特に、相互評価においては、申請のあったすべての大学に対し、実地視察を実施して評価の公正性を期するという前年度の方針を踏襲して評価を行いたい。

## ② 基準の諸改定

「基準委員会」は、昨年度、本協会の各種基準の体系化を図るとともに、現行の大学基準を補足する準則の整備に向け、教養教育のあり方等を含む学士課程教育のあり方について検討を行った。そして、同委員会は、現行の「『大学通信教育基準』およびその解説」の改定に向け「大学通信教育基準検討委員会」の設置を提言した。専門分野別基準の体系化と系統的整備の一環として、看護学、獣医学、工学に続く専門分野として保健学系分野を取り上げ、同分野の基準設定に向け「保健学系教育基準検討委員会」の設置を理事会に提言した。

基準委員会は、新たな大学評価制度の実施に向け、評価基準としての協会の各種基準の位置付けを明確にした上で、大学評価の客観性をより高めることを目指して、本年度も引き続き学士課程基準の検討を進めるほか、「全学」的事項を規定対象とする大学基準の検討も行う。併せて、専門分野基準の整備を図るべく、具体的な基準策定を行う分野の特定作業を行うこととする。なお、現行の「『大学図書館基準』およびその解説」の見直し作業をどう進めるかは、今後の検討課題とする。

基準委員会の提言を受けて設置されている「大学通信教育基準検討委員会」は、大学審議会「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について（答申）」（平12.11.22）の趣旨を適宜考慮しながら、マルチメディアをはじめとする情報通信技術を活用した教育等を含む「遠隔教育（distance learning）」の概念を視野に入れ、現行の「『大学通信教育基準』およびその解説」の改定に向け、そのための調査研究活動を行う。

同様の経緯で設置された「保健学系教育基準検討委員会」も、保健学系教育に関する基準の設定に向けて、本年度も引き続き、国内外の保健学系教育の現状等を調査・把握した上で、具体的な基準の検討を行う。

なお、「獣医学教育研究委員会」において改定作業を進めてきた「獣医学教育に関する大学院基準」については、昨年度中にほぼ委員会としての成案を得ている。本年度は、基準委員会並びに理事会での審議・決定に関わる諸手続きに移ることとし、「獣医学教育研究委員会」はそれら一連の手続きを終えるまで設置を継続するものとする。

このほか、本年度は、農学系教育に関する基準及び工学系大学院研究科基準、看護学系大学・大学院研究科基準等の整備に向け、そのための具体的検討作業に着手する。

## ③ 平成13年度実施の大学評価のための体制の確立

大学基準協会は、現行の『大学評価マニュアル』に基づき、今年度も、協会内部において大学評価実施のための組織体制を整備するとともに、その実施に向け実務手続きを進めていくこととする。その際、これまでに実施した大学評価の反省を踏まえて、大学評価手続きの一層の改善を図っていく必要がある。

また、協会が行う大学評価の内容・手続き並びに平成14年度より導入予定の新構想の大学評価

システムを広く大学関係者に理解してもらうとともに、大学評価に向けて各大学が行った点検・評価活動の状況を、これから同様の取り組みに着手しようとする大学に伝えるため、今年度も、「大学評価セミナー」を実施することとする。

併せて、大学からの要請があれば、大学評価の意義・実務手続並びに新構想の大学評価システムの内容を説明するための会合を、個別大学毎に開催していくこととする。

さらに、「判定委員会」とその系列下にある「大学審査分科会」、「専門審査分科会」並びに「相互評価委員会」とその系列下にある「大学評価分科会」、「専門評価分科会」の各委員に対し、『大学評価マニュアル』に盛り込まれた「大学評価」の趣旨とその具体的実施方法を周知してもらうための「評価者研修セミナー」についても、きめ細かく実施することとする。

#### ④ 大学、大学院等の評価に関する調査検討

文部科学省が国立の大学評価・学位授与機構を創設し大学評価活動に着手し、日本技術者教育認定機構（JABEE）も、工学教育プログラムを評価するための準備作業等を進めつつある。専門分野別の教育プログラムを評価する機関は、今後、陸続と誕生していくことが予想される。一方、政府の省庁再編のうねりの中で、文部科学省に評価委員会が創設され、総務省のラインにもつらなる評価システムが構築されようとしている。このように種々性格の異なる多元的評価システムが誕生しつつある現下の状況の中で、多くの大学関係者の間から、大学基準協会に対し、国・公・私立の垣根を越えた大学評価機関としての機能の一層の充実を図るとともに、より客観的で透明度の高い真の第三者評価機関へと脱皮することを求める声が急速に高まってきている。

そこで、このような大学関係者の要請をも念頭に置いて、大学基準協会は、本協会の評価の有効性を一層高めその効果を将来に亘り継続的に維持していくべく、科学的理論に裏打ちされた評価活動の実施を目標に、平成12年5月、「大学評価の新たな地平を切り拓く（提言）」を公にしたところである。

大学基準協会は、上記「（提言）」の趣旨を受け、現行の大学評価システムと協会そのものの組織・活動の見直しに向け、「本協会のあり方検討委員会」と同「小委員会」を中心に、引き続き、評価項目、評価指標、評価組織体制・プロセス、協会の組織・機構等に関わる改革方向について検討する。そして、現行『大学評価マニュアル』の改訂を視野に入れつつ、結論を得られたものから順次、「アクション・プラン」として公表していくこととする。とりわけ、主要点検・評価項目、基礎データ項目、提出資料の種類等に関わる事項は、平成14年度に大学評価申請予定の大学の自己点検・評価のための準備期間を考慮して、平成13年度の出来るだけ早い時期に結論を出す必要がある。

新構想の大学評価システムは、そのあらゆる側面、とりわけ評価項目において、現行のものとは相当異なることが予想されるため、そうした新構想の評価システムの意義・内容、今後の実施スケジュール等を広く大学関係者に周知してもらうことを目的の一環として、大学評価セミナーの場を活用し全国規模の説明会を開催するほか、各大学からの個別の要請に対応して説明会を催すことも予定する。

大学基準協会は、従来より、諸外国の大学評価システムに関する調査研究を行ってきたが、本年度も引き続きこの作業を実施し、欧米各国の大学評価システムに関する理解と認識を深めてい

きたい。殊にアメリカの大学評価については、協会の創設経緯や現行の協会の大学評価がアメリカのそれを範としていることなどから、同国のアクレディテーションに関わる調査をさらに継続して実施し、その成果を参考にしながら、今後の大学評価手続きの改善を進めていきたい。その調査研究の過程では、昨年に引き続き、アメリカでその確立が急がれているスチューデント・アウトカム・アセスメント、ファカルティ・ディベロップメント、学生による授業評価など同国の教育評価に関わる最近の動向を調査し、会員各大学が具体的に進めている自己点検・評価活動や教育改善に向けた活動の参考に供しうるような資料や情報の提供に努めていきたい。海外の大学評価関係団体等との連携も一層緊密にし、相互交流を通して各国の大学評価に関わる理論の把握や諸資料、情報等の収集等を行う中で、国際社会における大学基準協会の名誉ある地位の確保に向けて努力していきたい。

このほか、新たに制度化された専門大学院についても、大学基準協会が専門大学院に関する分野別基準の策定に着手することを視野に入れ、そのための基礎的調査を行っていきたい。

なお、現行の『大学の自己点検・評価の手引き』、『大学院の自己点検・評価の手引き』についても、最近の新しい大学改革の動きなどを念頭に置きつつ、その記述内容の全体的調整を図るべくそのための審議・検討に着手したい。

#### ⑤ 大学基準協会の50年史の執筆、編纂

本協会は、平成9年に50周年を迎えた。「年史編纂室」において50年史刊行を進めてきたが、本年度も、引き続き従来執筆分の完成を目指すとともに、新たに加えられた執筆分についても逐次、検討を行い執筆作業を進めることとする。

#### ⑥ 本協会に関する広報活動

本協会は、広報活動を通じて、協会の活動を内外の人々に紹介してきたが、協会の主要事業である大学評価活動をより多くの人々に理解してもらうため、「刊行物編纂委員会」を軸に「広報委員会」などが中心となり、一層充実・強化された広報活動を展開していくことが必要である。こうした方針を基礎に、本年度も引き続き、『会報』、「協会だより『じゅあ JUA』」等を刊行していくことを予定している。

また、本年度は、高等教育研究部門の機関誌である『大学評価研究』第2号の発刊を目指す。その他、『平成13年度大学一覧』の編集刊行も予定している。

#### ⑦ 「JUA 選書」の刊行

本年度は、協会の大学評価システム改革に関わる前記「(提言)」の審議とそのとりまとめに関与した人々の論稿並びに「本協会のあり方検討委員会小委員会」が中心となって行った二種の「大学評価に関するアンケート調査」の分析結果に関する調査研究報告書をベースに、『大学評価の今を読む』(仮題)(第12巻)を刊行する。

併せて、本年度は、今日の大学改革の原点を探り今後の改革方向を見定めるという視点から、本協会の会長経験者の一人である戸田修三氏のこれまでの論稿を集大成したものを JUA 選書第13巻として刊行したい。

⑧ 文部科学省の諸審議会等への対応

わが国では、これまで、大学審議会などにより、大学・大学院の教育研究にかかる提言が示され、こうした提言に基づき、適宜重要な制度改正がなされてきた。

また今後、中央教育審議会や教育改革国民会議などを舞台に、大学のあり方並びに、大学入試のあり方を含む高等教育と初・中等教育の接続の問題等について、議論が深められることが予想される。さらに、各省庁に設置されている各種審議会やその他の会議体等も、行革問題や規制緩和問題などとの関連において、大学の組織・機構、大学行政のあり方等について積極的な提言を行っていくことが不可避的状況にある。

こうしたことから、大学基準協会は、従来に引き続き、今後とも「会員の自主的努力と相互的援助によってわが国における大学の質的向上をはかる」という本来の使命を全うするため、こうした各種審議会等の審議動向を注視し、その要請に応じ適宜、公式の意見書を提出するなど、わが国高等教育政策の形成とその改善を側面的に支援するための活動を行っていくこととする。

⑨ コンピュータ・ネットワークシステムの整備

平成8年度からスタートさせた大学評価に関わるデータの蓄積、事務局の業務の効率化、さらにはインターネットを活用した本協会の事業概要等の国内外への発信を行っていくために、平成10年度よりコンピュータ・ネットワークシステム整備を図ってきている。

本年度も昨年度に引き続き、大学評価の際に各大学から提出される大学基礎データ調書ならびに毎年維持会員大学から提出される年次報告書に記載された数量的データを蓄積すべく、そのためのデータベースの作成作業を行っていくこととする。その際、今後の大学評価やその他の活動の基礎資料としてどのデータを蓄積していくのが適当であるか等について、「コンピュータ・ネットワークシステムの整備に関するワーキンググループ」を中心に、「相互評価委員会」、「判定委員会」、「基準委員会」並びに「本協会のあり方検討委員会」等の検討状況も考慮に入れながら、具体的検討を進めることとする。併せて、事務局業務に関わる各種データベースの作成も進めることとする。

⑩ 本協会の内部組織改革へ向けた取り組み

大学基準協会は、大学評価の一層の客観性・透明性の確保に向け、本年度も引き続き、協会の内部組織改革を行う。

大学基準協会の大学評価に対しては、従来より、評価の客観性を担保する有力な要素である「研究成果の裏付け」が備わっていないのではないかとの指摘がなされてきた。そうした指摘に応える形で、12年度の内部改革において、その研究機能をより十全に発揮させるべく、「高等教育研究部門」を「大学評価・研究部門」と改称の上、同部門の業務を、活動目的別に「企画・調査研究系」と「審査・評価系」の二つの系に大きく区分し、両系の指揮系統の確立に向け、そのための検討を行った。本年度は、出来るだけ早い時機に検討結果の実現を期すこととする。

また本年度は、同部門内に、主に、協会の評価プロセスの円滑な運用の確保に向け、大学評価申請予定の予備調査を行うとともに、審査・評価分科会の幹事としての役割を担う10~20名の

「特別評価委員」の制度を設けるべく、そのための条件整備を図ることとする。

なお、本年度も引き続き、理事会の諮問機関である「協会運営協議会」及び「顧問会議」の創設に必要な準備作業を行う。

別 掲 ( 2 )

第 2 号 議 案

(13. 3. 6)

平 成 13 年 度 収 支 予 算 書 (案)

平成13年4月1日から平成14年3月31日まで

(単位：円)

科 目	13 年 度 予 算 額	12 年 度 予 算 額	増 △ 減	備 考
I 収 入 の 部				
1 基本財産運用収入	[ 300,000]	[ 300,000]	[ 0]	
基本財産利息収入	300,000	300,000	0	
2 会 費 収 入	[ 232,900,000]	[ 231,000,000]	[ 1,900,000]	
維 持 費	204,700,000	204,700,000	0	大 学 35万円×247大学=8,645万円 学 部 10万円×875学部=8,750万円 二部・夜間主コース 5万円×147学部= 735万円 大学院 10万円×234大学=2,340万円 〔大 学 10万円×282大学=2,820万円
賛 助 費	28,200,000	26,300,000	1,900,000	
3 基本判定・評価費収入	[ 18,700,000]	[ 14,600,000]	[ 4,100,000]	判：30万円×17大学=510万円 5万円×41学部=205万円 715万円
加 盟 判 定 審 査 費	7,150,000	6,700,000	450,000	
相 互 評 価 費	11,550,000	7,900,000	3,650,000	相：30万円×22大学=660万円 5万円×99学部=495万円 1,155万円
4 刊行物実費収入	[ 700,000]	[ 700,000]	[ 0]	
刊 行 物 実 費 収 入	700,000	700,000	0	
5 雑 収 入	[ 3,870,000]	[ 4,250,000]	[△ 380,000]	
受 取 利 息 (一 般 口)	100,000	500,000	△ 400,000	
受 取 利 息 (特 定 口)	3,700,000	3,680,000	20,000	
雑 収 入	70,000	70,000	0	
6 特定預金取崩収入	[ 0]	[ 0]	[ 0]	
任 意 積 立 預 金 取 崩 収 入	0	0	0	
退 職 給 与 引 当 預 金 取 崩 収 入	0	0	0	
当期収入合計 (A)	256,470,000	250,850,000	5,620,000	
前期繰越収支差額	182,428	45,470,428	△ 45,288,000	
収 入 合 計 (B)	256,652,428	296,320,428	△ 39,668,000	
II 支 出 の 部				
1 事 業 費	[ 121,269,000]	[ 105,528,000]	[ 15,741,000]	
調 査 研 究 費	( 78,200,000)	( 82,100,000)	(△ 3,900,000)	
調 査 費	13,000,000	13,000,000	0	
研 究 会 合 費	4,500,000	4,500,000	0	
旅 費 交 通 費	15,000,000	19,000,000	△ 4,000,000	
通 信 運 搬 費	8,500,000	8,000,000	500,000	
消 耗 品 費	6,000,000	6,000,000	0	
消 耗 什 器 備 品 費	1,000,000	1,400,000	△ 400,000	

科 目	13年度予算額	12年度予算額	増 △ 減	備 考
修 繕 費	700,000	700,000	0	
印刷刊行費	22,000,000	22,000,000	0	
図書資料費	7,500,000	7,500,000	0	
判定委員会費	( 16,949,000)	( 8,250,000)	( 8,699,000)	判：17大学41学部
相互評価委員会費	( 22,120,000)	( 11,178,000)	( 10,942,000)	相：22大学99学部
理事会評議員会費	( 4,000,000)	( 4,000,000)	( 0)	
2 管理費	[ 111,040,000]	[ 115,610,000]	[△ 4,570,000]	
人 件 費	( 94,000,000)	( 98,370,000)	(△ 4,370,000)	
俸 給	87,000,000	90,000,000	△ 3,000,000	
法定福利費	7,000,000	8,370,000	△ 1,370,000	
退職金	0	0	0	
事務費	( 17,040,000)	( 17,240,000)	(△ 200,000)	
福利厚生費	300,000	300,000	0	
旅費交通費	2,640,000	2,640,000	0	
通信運搬費	500,000	500,000	0	
建物管理費	5,500,000	5,500,000	0	
消耗品費	600,000	600,000	0	
消耗什器備品費	100,000	100,000	0	
光熱水料	3,500,000	3,500,000	0	
修 繕 費	1,000,000	1,000,000	0	
火災保険料	20,000	20,000	0	
手数料	450,000	450,000	0	
渉外費	250,000	250,000	0	
表彰費	400,000	600,000	△ 200,000	
租税公課	280,000	280,000	0	
雑 費	1,500,000	1,500,000	0	
3 固定資産取得支出	[ 2,000,000]	[ 2,000,000]	[ 0]	(コンピュータ関係機器備品、機器備品の新規交換用他)
什器備品費	2,000,000	2,000,000	0	
4 基本金積増支出	[ 1,000,000]	[ 1,000,000]	[ 0]	(基本金積立て)
基本金投資有価証券				
購入支出	1,000,000	1,000,000	0	
5 特定預金支出	[ 20,000,000]	[ 71,000,000]	[△ 51,000,000]	(建物改修費、新規事業費等の積立て)
任意積立預金支出	20,000,000	71,000,000	△ 51,000,000	
退職給与引当預金支出	0	0	0	(目標額に近づいたことで0円計上)
6 予 備 費	[ 1,000,000]	[ 1,000,000]	[ 0]	
予 備 費	1,000,000	1,000,000	0	
当期支出合計 (C)	256,309,000	296,138,000	△ 39,829,000	
当期収支差額 (A-C)	161,000	△ 45,288,000	△ 45,449,000	
次期繰越収支差額 (B-C)	343,428	182,428	161,000	

(注) 1 借入限度額 0円 (参考)  
2 債務負担額 0円

科 目	13年1月現在
基 本 金	3,800万円
任 意 積 立 金	56,082万円
退職給与引当預金	3,981万円

(13. 3. 6)

維持会員への加盟・登録に関する件

維持会員として加盟・登録する大学は、次のとおりとする。(大学名五十音順)

- (私立) 岐 阜 女 子 大 学
- (公立) 釧 路 公 立 大 学
- (私立) 倉 敷 芸 術 科 学 大 学
- (私立) 国 士 館 大 学
- (私立) 鈴 鹿 医 療 科 学 大 学
- (私立) 聖 学 院 大 学
- (私立) 聖 隷 クリ ス ト フ ァ ー 看 護 大 学
- (私立) 創 価 大 学
- (国立) 奈 良 教 育 大 学
- (公立) 兵 庫 県 立 看 護 大 学
- (私立) プ ー ル 学 院 大 学
- (国立) 福 島 大 学
- (私立) 名 城 大 学
- (国立) 山 梨 大 学
- (国立) 山 梨 医 科 大 学

計 15大学

## 平成12年度判定委員会の審査結果報告について（概要）

### 1 加盟判定審査申請大学について

平成12年度加盟判定審査の申し込みがあったのは、賛助会員15大学・未入会2大学（41学部一二部を含まず）であった。

### 2 分科会における審査について

今年度は申請大学が17大学にのぼったため、判定委員会の下に例年より2分科会増の6つの大学審査分科会を設置し、17大学を分担して評価を行った。これに伴い幹事も2名増の6名を委嘱するとともに、大学審査分科会委員に専門分科会の主査を加え、審査体制の充実をはかった（主査・委員あわせて24名、幹事6名）。そこでは、それぞれの大学の理念・目的をはじめとして、教育研究上の組織、教員組織、施設・設備、財政、管理運営、学生に関する事項など、大学を総合的に審査すると同時に、その大学の自己点検・評価システムがその大学の理念・目的の実現に向けた一層の発展のため実際どれだけの効果を発揮しているかという点についても審査を行った。

また、申請大学の学部・学科・大学院研究科等については、国際文化・教養学系専門審査分科会、教育学系第1専門審査分科会、教育学系第2専門審査分科会、文学系第1専門審査分科会、文学系第2専門審査分科会、法学系専門審査分科会、政治経済学系専門審査分科会、行政社会・都市情報学系専門審査分科会、経済学系第1専門審査分科会、経済学系第2専門審査分科会、経営学系専門審査分科会、工学系第1専門審査分科会、工学系第2専門審査分科会、理工学系専門審査分科会、農学系専門審査分科会、看護・医学系専門審査分科会、医療科学系専門審査分科会、薬学系専門審査分科会、家政学系専門審査分科会、体育学系専門審査分科会、芸術学系専門審査分科会の21専門審査分科会（主査・委員あわせて66名）を設置し、各学問分野の特殊性に配慮しながら、学部・学科・大学院研究科等の理念・目的、教育課程とその履修方法、教員組織、教育研究指導のあり方、教育研究上の成果、教育研究用施設・設備など、教育研究にかかわる側面を中心に審査を行った。

### 3 加盟判定審査結果の報告について

判定委員会では、各分科会主査報告書をもとに厳正な審査を行った。

加盟判定審査結果としては、17大学中15大学は、大学基準に適合しているものとして認定したが、改善充実のため、次のとおり勧告・助言および参考意見を付すことが適当である旨の結論に達した。

なお、2大学は、審査途上において加盟判定審査申し込みの取り下げの申し入れがあった。

- ・ 勧告を付した大学 6大学
- ・ 助言を付した大学 15大学（全大学）  
長所の指摘に関わるもの

問題点の指摘に関わるもの	15大学（全大学）
・ 参考意見を付した大学	15大学（全大学）

各大学への勧告・助言（案）は、以下のような方針に基づいて作成された。

- ・ 勧告・助言には、各分科会の主査報告の総合評定を参考に作成した「概評」を付すこととし、そこには、自己点検・評価の結果を生かして大学の質的向上を図るよう一層の努力を期待する内容の一文を盛り込むこととした。
- ・ 勧告・助言を作成するに当たっては、加盟判定審査が資格審査的性格を有している点に鑑み、過去4回の加盟判定審査の方針を踏まえ、勧告として付すのが適当であるか、あるいは問題点の指摘に関わる助言として付すのが適当であるかを慎重に判断し、これを作成した。また、長所の指摘に関わる助言についても、各大学のもつ長所を一層伸長させる観点から付すこととした。さらに、各大学が一層の改善・改革を進めていく際に参考となると思われる意見についても、「参考意見」として付した。

#### 4 改善報告書の提出について

加盟判定審査の結果、協会から「勧告」、「助言」、「参考意見」を付された大学は、「勧告」および問題点の指摘に関わる「助言」については、改善報告書の提出が義務づけられている（『大学評価マニュアル』173頁）。

今年度、「勧告」や問題点の指摘に関わる「助言」が付された15大学から、改善報告書が提出されることになるが、その提出期限は、前年度同様3年後とすることとなった。

(13. 3. 6)

「相互評価」に関する件

相互評価において、本協会の「大学基準」に適合していることを認定する大学は、次の通りとする。  
(大学名五十音順)

(私立) 愛 知 大 学  
(私立) 神 奈 川 大 学  
(国立) 金 沢 大 学  
(私立) 北 里 大 学  
(私立) 京 都 橘 女 子 大 学  
(私立) 近 畿 大 学  
(公立) 神 戸 商 科 大 学  
(私立) 神 戸 女 学 院 大 学  
(私立) 上 智 大 学  
(私立) 昭 和 大 学  
(私立) 聖 路 加 看 護 大 学  
(私立) 天 理 大 学  
(私立) 東 京 薬 科 大 学  
(私立) 豊 田 工 業 大 学  
(国立) 長 崎 大 学  
(公立) 名 古 屋 市 立 大 学  
(私立) 北 星 学 園 大 学  
(公立) 横 浜 市 立 大 学

計 18大学

## 平成12年度相互評価委員会の評価結果報告について（概要）

### 1 今年度の相互評価における変更点について

#### ① 評価の組織体制について

第5回の大学評価となる今年度は、5月開催の第1回相互評価委員会において今年度の相互評価の組織体制の確立をはかった。その際、申請大学数が昨年の2倍にのぼったことから、大学全体に関わる事柄を評価する大学評価分科会を2分科会増やして、6つの分科会で評価を行う体制を作った。これに伴い、幹事も2名増員し計6名の幹事を委嘱することとした。また大学評価分科会は、従来相互評価委員会委員のみで構成していたが、分科会数が増えたことにより、専門分科会の主査から当該分科会に関連の深い方を大学評価分科会委員として兼務をお願いすることとした。

#### ② 実地視察の完全実施について

9月開催の第2回相互評価委員会において、平成14年度からの新しい大学評価システムにおいては、相互評価プロセスに、実地視察が組み込まれていることを受けて、今年度は申請全大学に対して実地視察を実施することを決定した（なお、昨年度は申請大学の半数の大学に対して試行的に実地視察を行った）。

### 2 相互評価申請大学について

平成12年度相互評価の申し込みがあったのは、維持会員校18大学（81学部—二部を含まず）であった。

### 3 分科会における評価について

今年度は相互評価委員会の下に、前述のとおり6つの大学評価分科会（主査6名、委員18名、幹事6名）を設置し、18大学を分担して評価を行った。そこでは、それぞれの大学の理念・目的をはじめとして、教育研究上の組織、教員組織、施設・設備・財政、管理運営、学生に関する事項など、大学を総合的に評価すると同時に、その大学の自己点検・評価システムがその大学の理念・目的の実現に向けた一層の発展のため実際どれだけの効果を発揮しているかという点についても評価を行った。

また、申請大学の学部・学科・大学院研究科等については、教育学系専門評価分科会、文学系第1専門評価分科会、文学系第2専門評価分科会、文学系第3専門評価分科会、文学系第4専門評価分科会、神学系専門評価分科会、国際学系第1専門評価分科会、国際学系第2専門評価分科会、国際学・外国語学系専門評価分科会、人間科学系専門評価分科会、社会福祉学系専門評価分科会、法学系第1専門評価分科会、法学系第2専門評価分科会、商学・経済学系第1専門評価分科会、商学・経済学系第2専門評価分科会、商学・経済学系第3専門評価分科会、経済学系専門評価分科会、経営学系専門評価分科会、理学系第1専門評価分科会、理学系第2専門評価分科会、工学系第1専門評価分科会、工学系第2専門評価分科会、工学系第3専門評価分科会、理工学系専門評価分科会、生命科学系専門評価分科会、農学系専門評価分科会、獣医学系専門評価分科会、水産学系専門評価

分科会、医学系第1専門評価分科会、医学系第2専門評価分科会、医学・医療衛生学系専門評価分科会、看護学系専門評価分科会、歯学系専門評価分科会、薬学系第1専門評価分科会、薬学系第2専門評価分科会、薬学系第3専門評価分科会、体育学系専門評価分科会、音楽学系専門評価分科会、芸術工学系専門評価分科会、人間生活学系専門評価分科会の40の専門評価分科会（主査40名、委員92名）を設置し、各学問分野の特殊性に配慮しながら、学部・学科・大学院研究科等の理念・目的、教育課程とその履修方法、教員組織、教育研究指導のあり方、教育研究上の成果、教育研究用施設・設備など、教育研究にかかわる側面を中心に評価を行った。

#### 4 実地視察について

今年度第2回相互評価委員会で決定した方針に基づき、申請のあった全大学に対し実地視察を行った。

実施視察の実施に際しては、分科会から提出された質問事項を中心に調査を行ったが、「マニュアル」を作成し、調査事項、手続に関し、一定程度の統一も図った。

実施視察には、原則として当該大学の評価にたずさわった相互評価委員会委員から2名の委員もしくは幹事が調査に当たった。但し、大学に設置されている学部が7学部以上で、その分野が人文・社会・自然にわたる場合は、1名増員し、3名の委員もしくは幹事と専門評価分科会の主査が調査に当たった。

大学側からは、いずれの大学の場合も、学長をはじめ教学側の主要な役職者や事務局責任者等の多数の出席があった。

第3回の相互評価委員会では、各大学に対する実地視察の報告が行われたが、書面のみからではわからない点が明瞭になり、また、各大学の改革に対する熱意や点検・評価にのぞむ熱心な姿勢が感じられ、実際に大学を訪れることの有効性が再確認された。

また、実地視察によって明らかとなった点については、当該大学に対する助言・勧告に適切に反映することに努めた。

#### 5 相互評価結果の報告について

相互評価委員会では、各分科会主査報告書並びに実地視察記録をもとに厳正な評価を行った。

相互評価結果としては、上記18大学は、大学基準に適合しているものとして認定したが、改善充実のため、次のとおり助言・勧告および参考意見を付すことが適当である旨の結論に達した。

- ・ 助言を付した大学
  - 長所の指摘に関わるもの 18大学（全大学）
  - 問題点の指摘に関わるもの 18大学（全大学）
- ・ 勧告を付した大学 11大学
- ・ 参考意見を付した大学 18大学（全大学）

なお、各大学への助言・勧告（案）は、以下のような方針に基づいて作成された。

- ・ 助言・勧告には、各分科会の主査報告の総合評価を重視するとともに、実地視察の結果をも反映させた内容の「概評」を付すこととした。

- ・ 助言については、長所の指摘に関わるもの、問題点の指摘に関わるものともに、大学の改善・向上のために有効と思われる事項について、主査報告書、実地視察結果を積極的に反映させた内容とした。
- ・ 勧告事項については、これまでの相互評価の経験を踏まえ、早急な改善を要する点に関する指摘にとどめた。

## 6 改善報告書の提出について

相互評価の結果、協会から「勧告」、「助言」、「参考意見」を付された大学は、「勧告」および問題点の指摘に関わる「助言」については、改善報告書の提出が義務づけられている（『大学評価マニュアル』173頁）。

今年度、問題点の指摘に関わる「助言」や「勧告」が付された全18大学から、改善報告書が提出されることになるが、その提出期限は、前年度同様3年後とすることとなった。

## 新構想の大学評価の平成14年度経過措置

大学基準協会は、平成12年5月の「大学評価の新たな地平を切り拓く（提言）」に基づき、平成14年度より新システムによる大学評価を実施することとしており、現在、その具体化のためのアクション・プランを作成中である。このうち、新システムの大学評価のために各大学が準備すべき書面の種類・内容に関わるアクション・プランの正式公表は、本年5月を予定している。

しかしながら、平成14年度実施の大学評価を申請予定する大学の立場としては、充実した点検・評価作業を行うためには書面提出期限までに相当程度の時間が確保されていることが必要である。

そこで、アクション・プラン策定のタイム・スケジュールと、大学として点検・評価作業に必要な準備期間を考慮して、平成14年度の新システムによる大学評価に限り、協会に提出する書面を中心に、以下のような取扱いをすることとする。

### (1) 点検・評価報告書

「新構想の大学評価に関するアクション・プラン（その1）」の「主要点検・評価項目比較表」（大学・学部・大学院研究科）に基づき、加盟判定審査については（A）群の柱に従い、相互評価については（A）群及び（B）群の柱に従い点検・評価報告書を作成するものとする。

### (2) 大学基礎データ調書

現行「大学評価マニュアル（改訂版）」のフォームに従い、原則、前年度5月1日現在のデータを用いて、これを作成するものとする。

教員個別表の扱いについては、現行「大学評価マニュアル（改訂版）」205頁の「b.教員個別表①専任教員」のフォームを基本に、同フォームの「学科目または講座の名称」、「兼務または応嘱」、「学内兼担、分担その他教務の分担」、「俸給額」の柱を除いたものを作成するものとする（なお、各学部毎に、俸給額の最高額・最低額を付記することとする）

### (3) 提出添付資料

私立大学については、会計監査済の三年間に亘る財務計算書類を提出するものとする。財務諸表に関わる国・公立大学の扱いについて、過渡期においては、特段の提出を求めない。

### (4) 調書等提出期限

平成14年6月末日とする

財団法人大学基準協会寄附行為 新・旧対照表

一 部 変 更 箇 所	
新 (傍線の部分)	旧
<p><b>第 2 章 目的及び事業</b></p> <p>第 3 条 この法人は、内外の大学に関する調査研究を行い、<u>会員の自主的努力と相互的援助によって</u>、わが国における大学の質的向上を図るとともに、大学教育の国際的協力に貢献することを目的とする。</p> <p>第 4 条</p> <p>一、<u>法人の正会員として認定するための加盟判定審査と正会員に対する相互評価</u></p> <p>二、大学の質的向上のための大学基準等の設定及び改善とその活用</p> <p>三、<u>内外の大学に関する資料の調査及び研究</u></p> <p>四、大学教育改善のための助言援助並びに情報の提供</p> <p>五、大学の質的向上に必要な研究会及び協議会等の開催</p> <p>六、大学教育に関する国際間の情報の交換並びに協力</p> <p>七、大学教育に関する資料の刊行</p> <p>八、その他目的を達成するために必要な事業</p> <p>2. <u>この法人の会員資格に関わる認定・相互評価</u>、大学の質的向上のための大学基準等の設定及び改善とその活用に関する規程は、別に定める。</p>	<p><b>第 2 章 目的及び事業</b></p> <p>第 3 条 この法人は、内外の大学に関する調査研究を行い、わが国における大学の質的向上を図るとともに、大学教育の国際的協力に貢献することを目的とする。</p> <p>第 4 条</p> <p>一、大学に関する内外の資料の調査及び研究</p> <p>二、大学の質的向上のための大学基準等の設定及び改善とその活用</p> <p>三、大学教育改善のための助言援助並びに情報の提供</p> <p>四、大学の質的向上に必要な研究会及び協議会等の開催</p> <p>五、大学教育に関する国際間の情報の交換並びに協力</p> <p>六、大学教育に関する資料の刊行</p> <p>七、その他目的を達成するために必要な事業</p> <p>2. 大学の質的向上のための大学基準等の設定及び改善とその活用に関する規程は、別に定める。</p>

<p><b>第4章 役員及び職員</b></p> <p>第14条 この法人に、次の役員をおく。  理事30名以上35名以内  (うち会長1名、副会長6名、<u>専務理事</u>1名)  監事2名</p> <p>第15条  3. <u>専務理事</u>は、理事のうちから理事会が選任する。</p> <p>第16条  3. <u>専務理事</u>は、(削除)会長を補佐してこの法人の業務を掌理する。</p> <p>第24条  2. 職員は、会長が任免する。  4. 事務局の長は事務局長とし、<u>専務理事</u>の指示を受け、事務局の事務を統轄する。</p> <p><b>第6章 正会員及び賛助会員</b></p> <p>第30条 この法人に、<u>正会員</u>及び賛助会員をおく。  2. <u>正会員</u>及び賛助会員に関する規程は、別に定める。</p> <p>第31条 <u>正会員</u>及び賛助会員は、別に定める規程により<u>正会員費</u>及び<u>賛助会員費</u>を納付しなければならない。</p> <p>第32条 <u>正会員</u>及び賛助会員は、この法人の刊行する会報その他の資料の頒布を受ける。</p>	<p><b>第4章 役員及び職員</b></p> <p>第14条 この法人に、次の役員をおく。  理事30名以上35名以内  (うち会長1名、副会長6名、<u>理事長</u>1名)  監事2名</p> <p>第15条  3. <u>理事長</u>は、理事のうちから理事会が選任する。</p> <p>第16条  3. <u>理事長</u>は、会長の定めるところにより、この法人を代表し、会長を補佐してこの法人の業務を掌理する。</p> <p>第24条  2. 職員は、<u>理事長</u>が任免する。  4. 事務局の長は事務局長とし、<u>理事長</u>の指示を受け、事務局の事務を統轄する。</p> <p><b>第6章 維持会員及び賛助会員</b></p> <p>第30条 この法人に、<u>維持会員</u>及び賛助会員をおく。  2. <u>維持会員</u>及び賛助会員に関する規程は、別に定める。</p> <p>第31条 <u>維持会員</u>及び賛助会員は、別に定める規程により<u>維持費</u>及び<u>賛助費</u>を納付しなければならない。</p> <p>第32条 <u>維持会員</u>及び賛助会員は、この法人の刊行する会報その他の資料の頒布を受ける。</p>
---	---

附則

この寄附行為は、平成13年5月18日から施行する。

その他の条項は、変更がないので、省略し、現行の寄附行為を添付します。

## 平成12年度改善報告書提出大学一覧

平成12年度において、改善報告書を提出した大学は以下の通りである。(計38大学、50音順)

愛知医科大学	東京医科大学
愛知学院大学	東京音楽大学
大阪医科大学	東京経済大学
岡山理科大学	東京電機大学
沖縄国際大学	同志社大学
神奈川工科大学	東北工業大学
関西外国語大学	東洋大学
関西学院大学	名古屋工業大学
岐阜薬科大学	南山大学
九州産業大学	新潟大学
神戸学院大学	新潟薬科大学
駒澤大学	二松学舎大学
札幌大学	日本大学
札幌医科大学	日本女子大学
四国大学	梅光女学院大学
城西国際大学	姫路工業大学
嵯山女学園大学	北海道医療大学
中京女子大学	武蔵工業大学
鶴見大学	立命館大学

## (検討結果の概要)

上記38大学から83件の勧告事項と141件の助言事項、合計224件の事項について改善報告を受けた。検討の結果、下記のように通知を行うこととなった。

1. 再勧告を付し、再度報告を求める事項：4件
2. 再度報告を求める事項：16件
3. 改善への取り組みは評価できるものなお改善が望まれる旨通知する事項（報告義務なし）：79件
4. 改善への取り組みを概ね評価できる旨通知する事項：123件
5. 評価申請当時提出したデータの誤りにより改善報告書の提出が求められていたため、データの訂正をもって改善報告書提出義務を果たしたものと見なす事項：2件

## 第 86 回 評 議 員 会 議 事 録

- 1 日 時 平成13年5月18日(金)  
午前10時～午後0時30分
- 2 場 所 如水会館(2階スターホール)  
(東京都千代田区一ツ橋2-1-1)
- 3 出席者 議長 丹保憲仁(放送大学)
- 大南正瑛(京都橘女子大学) 北原保雄(筑波大学) 小出忠孝(愛知学院大学) 児玉隆夫(大阪市立大学) 志村尚子(津田塾大学) 松尾 稔(名古屋大学) 永田眞三郎(関西大学) 今田 寛(関西学院大学) 阿部美哉(國學院大学) ウィリアム・カリー(上智大学) 磯野可一(千葉大学) 小間 篤(東京大学) 八田英二(同志社大学) 荒川正昭(新潟大学) 瀬在幸安(日本大学) 清成忠男(法政大学) 栗田 健(明治大学) 長田豊臣(立命館大学) 奥島孝康(早稲田大学) 神田道子(東洋大学) 平野 実(久留米大学) 葛谷昌之(岐阜薬科大学) 小野 繁(岩手医科大学) 赤岩英夫(群馬大学) 絹川正吉(国際基督教大学) 山縣喜代(聖心女子大学) 高倉公朋(東京女子医科大学) 小浦延幸(東京理科大学) 後藤祥子(日本女子大学) 森 陽(東京薬科大学) 小倉芳彦(学習院大学) 佐藤登志郎(北里大学) 稲垣慎二(愛知工業大学、後藤淳代理) 我妻建治(成城大学) 内藤幸穂(関東学院大学) 大橋秀雄(工学院大学) 飯塚幸子(実践女子大学) 常葉恵子(聖路加看護大学) 小谷 誠(東京電機大学) 桑原靖夫(獨協大学) 道上正規(鳥取大学) 柳田博明(名古屋工業大学) 久保庭信一(福岡大学、山下宏幸代理) 青野勝広(松山大学) 吉田榮夫(立正大学) 今木秀和(桃山学院大学、村田晴夫代理)
- 竹内政雄(椛山女学園大学、武藤泰敏代理) 柳井道夫(成蹊大学) 鈴木幸壽(和洋女子大学) 坂下 昇(流通経済大学) 田中 昭(城西大学) 谷本貞人(関西外国語大学) 高倉 翔(明海大学) 山崎一穎(跡見学園女子大学) 岡本靖正(東京学芸大学) 佐野博敏(大妻女子大学) 高木孝子(ノートルダム清心女子大学) 谷口弘行(神戸学院大学) 半田正夫(青山学院大学) 長澤雅男(愛知淑徳大学、小林素文代理) 植松 東(国立音楽大学) 荻上紘一(東京都立大学) 出村 彰(東北学院大学、倉松 功代理) 永澤 満(豊田工業大学) 宮本匡章(金沢学院大学) 佐野武弘(昭和薬科大学) 澤岡 昭(大同工業大学) 諸澤英道(常磐大学) 田中駿平(麗澤大学、廣池幹堂代理) 三橋 修(和光大学) 大里仁士(九州国際大学) 望月正隆(共立薬科大学) 石井摩耶子(恵泉女学園大学、荒井 献代理) 宗林正人(皇學館大学、岡田重精代理) 大嶋利夫(駿河台大学、竹下守夫代理) 松濤誠達(大正大学) 野口鉄也(東邦大学) 坂本正徳(明治薬科大学) 野々村昇(活水女子大学) 藤岡一郎(京都産業大学、新田政則代理) 和田義郎(名古屋市立大学) 杉山秋雄(神奈川工科大学) 秋野豊明(札幌医科大学) 水田宗子(城西国際大学) 高崎直道(鶴見大学) 寺田兼文(東京音楽大学、兎東俊之代理) 岩崎俊一(東北工業大学) 石川忠久(二松学舎大学) 小林陵二(石巻専修大学) 坂田 勝(拓殖大学) 生田富夫(中央学院大学) 木村光伸(名古屋学院大学) 金子敦郎(大阪国際大学) 岡田 晃(金沢経

済大学) 田中慎一郎(北九州市立大学)  
佐野哲郎(神戸親和女子大学) 前原英明  
(淑徳大学、長谷川匡俊代理) 石倉満郎  
(洗足学園大学、前田壽一代理) 小川英次  
(中京大学) 兵藤 釗(埼玉大学) 川並  
弘昭(聖徳大学) 本多健一(東京工芸大  
学) 葉佐井博巳(広島国際学院大学) 藤  
本黎時(広島市立大学) 柳田孝義(文教  
大学、石田恒好代理) 堀 幹夫(岐阜女  
子大学) 土井 章(倉敷芸術科学大学)  
三浦信行(国士舘大学) 飯坂良明(聖学  
院大学) 若江正三(創価大学) 小林哲也  
(プール学院大学) 兼松 顯(名城大学、  
網中政機代理)

**委任出席**一岸本忠三(大阪大学) 小川一  
乗(大谷大学) 河野伊一郎(岡山大学)  
林 勇二郎(金沢大学) 杉岡洋一(九州  
大学) 長尾 真(京都大学) 江口吾朗  
(熊本大学) 鳥居泰彦(慶應義塾大学)  
野上智行(神戸大学) 鈴木康司(中央大  
学) 内藤喜之(東京工業大学) 栗原 敏  
(東京慈恵会医科大学) 松田藤四郎(東京  
農業大学) 阿部博之(東北大学) 池田高  
良(長崎大学) 石 弘光(一橋大学) 原  
田康夫(広島大学) 中村睦男(北海道大  
学) 大橋英五(立教大学) 上山大峻(龍  
谷大学) 宇野英隆(千葉工業大学) 天野  
長久(昭和大学) 原田園子(神戸女学院  
大学) 出牛正芳(専修大学) 船本弘毅  
(東京女子大学) 森田潤司(同志社女子大  
学) ハンス ユーゲン・マルクス(南山  
大学) 石川達也(東京歯科大学) 脇田良  
一(明治学院大学) 武田信照(愛知大学)  
中村経紀(麻布大学) 日置紘士郎(関西  
医科大学) 野田起一郎(近畿大学) 小川  
秀興(順天堂大学) 山内 眞(東京神学  
大学) 齋藤史郎(徳島大学) 中原 爽  
(日本歯科大学) 江崎玲於奈(芝浦工業大

学) 吉沢英成(甲南大学) 日下 晃(武  
庫川女子大学) 相賀一郎(大阪府立大学)  
西川禪一(大阪工業大学) 市川太一(広  
島修道大学) 加計 勉(岡山理科大学)  
永井恒司(星薬科大学) 村上勝彦(東京  
経済大学) 佐川寛典(大阪歯科大学) 阿  
部謹也(共立女子大学) 阪本靖郎(神戸  
商科大学) 福場博保(昭和女子大学) 橋  
本武人(天理大学) 伊東 洋(東京医科  
大学) 鈴木 胖(姫路工業大学) 山内祥  
史(神戸海星女子学院大学) 加藤 寛  
(千葉商科大学) 冲永荘一(帝京大学)  
福井直敬(武蔵野音楽大学) 東野一彌  
(兵庫医科大学) 森田兼吉(梅光学院大  
学) 大友 浩(北星学園大学) 東谷穎人  
(神戸市外国語大学) 荒井章三(神戸松蔭  
女子学院大学) 宮地 茂(福山大学) 仲  
井 豊(愛知教育大学) 戸田安士(金城  
学院大学) 梶谷 誠(電気通信大学) 山  
火正則(神奈川大学) 横倉 尚(武蔵大  
学) 長坂信夫(朝日大学) 佐藤東洋士  
(桜美林大学) 神馬 敬(日本工業大学)  
鮎川恭三(愛媛大学) 角松正雄(熊本学  
園大学) 西垣二一(広島女学院大学) 安  
部元雄(宮城学院女子大学) ローレン  
ス・マクガレル(エリザベト音楽大学)  
福田國彌(大阪電気通信大学) 池田正澄  
(京都薬科大学) 塩谷惇子(清泉女子大  
学) 中山義崇(崇城大学) 村上隆太(西  
南学院大学) 高野邦彦(高千穂大学) 山  
名伸作(阪南大学) 加藤祐三(横浜市立  
大学) 藤本復禮(茨城キリスト教大学)  
長澤俊彦(杏林大学) 松田英毅(くらし  
き作陽大学) 大 京子(白百合女子大学)  
大森健一(獨協医科大学) 梶田叡一(京  
都ノートルダム女子大学) 青野一哉(福  
岡歯科大学) 廣重 力(北海道医療大学)  
堀川清司(武蔵工業大学) 長尾重武(武

蔵野美術大学) 廣中平祐(山口大学) 岸英司(英知大学) 森田嘉一(京都外国語大学) 中尾ハジメ(京都精華大学) 森本武利(神戸女子大学) 東智學(高野山大学) 泉太(産業医科大学) 須藤敏昭(大東文化大学) 鶴川昇(桐蔭横浜大学) 諏訪兼位(日本福祉大学) 田中教照(武蔵野女子大学) 松前達郎(東海大学) 山邊時雄(長崎総合科学大学) 樋口康子(日本赤十字看護大学) 加藤延夫(愛知医科大学) 島田眞久(大阪医科大学) 波平勇夫(沖縄国際大学) 山崎良也(九州産業大学) 雨宮眞也(駒澤大学) 山口昌男(札幌大学) 福岡登(四国大学) 渡邊良雄(上武大学) 小野功龍(相愛大学) 谷岡郁子(中京女子大学) 多村憲(新潟薬科大学) 加藤勝康(青森公立大学) 鯉淵信一(亜細亜大学) 菅野道廣(熊本県立大学) 東隆眞(駒沢女子大学) 山田達夫(大阪経済大学) 天野光三(大阪産業大学) 高久史麿(自治医科大学) 高久晃(富山医科薬科大学) 片岡千鶴子(長崎純心大学) 中村元保(梅花女子大学) 青木和男(福岡工業大学) 中井真孝(佛教大学) 横須賀薫(宮城教育大学) 板垣浩(横浜国立大学) 池上徹彦(会津大学) 吉田豊(弘前大学) 山路正雄(藤田保健衛生大学) 荒又重雄(釧路公立大学) 澤宏紀(鈴鹿医療科学大学) 深瀬須加子(聖隷クリストファー看護大学) 大久保哲夫(奈良教育大学) 南裕子(兵庫県立看護大学) 吉原泰助(福島大学) 椎貝博美(山梨大学) 吉田洋二(山梨医科大学)

(評議員262名中、出席113名、委任出席144名)

#### 賛助会員

吉田修(愛知産業大学、内藤昌代理)

三浦亮(秋田大学) 石田慎男(秋田県立大学、鈴木昭憲代理) 宮田武雄(茨城大学) 阿部帥(茨城県立医療大学) 貴志浩三(宇都宮大学) 酒井倫夫(桜花学園大学、湊吉正代理) 今岡典和(関西福祉大学、船曳宏保代理) 篠置昭男(関西福祉科学大学) 宮里達郎(九州工業大学) 林照康(京都女子大学、瓜生津隆真代理) 加藤真一(金城大学、三澤義一代理) 清水修(群馬県立女子大学、和田義昭代理) 北垣宗治(敬和学園大学) 住友弘一(高知女子大学、成田十次郎代理) 秋山守(埼玉工業大学) 谷崎昭男(相模女子大学、中村以正代理) 大黒トシ子(山陽学園大学) 吉田卓司(四国学院大学) 佐藤博明(静岡大学) 吉川通彦(島根大学) 内藤宏(湘南工科大学、糸山英太郎代理) 関國男(昭和音楽大学、五十嵐喜芳代理) 片桐武司(中部学院大学) 佐野雅洋(桐朋学園大学、江藤俊哉代理) 田崎清忠(東京純心女子大学) 桑島進(東京商船大学、杉崎昭生代理) 池田浩一(東京女子体育大学) 白澤宏規(東京造形大学) 高柳元明(東北薬科大学) 鳴田力夫(長野大学、井出嘉憲代理) 山元寅男(中村学園大学) 越原一郎(名古屋女子大学) 坂田弘(西日本工業大学) 池本卯典(日本獣医畜産大学) 古屋伸芳男(日本文理大学) 小山宙丸(白鷗大学) 大塚圭介(兵庫大学) 中刈正堯(兵庫教育大学) 島田燐子(文京女子大学) 北元喜朗(北陸大学) 示村悦二郎(北陸先端科学技術大学院大学) 内嶋善兵衛(宮崎公立大学)

(賛助会員 出席43名)

#### 特別出席者

伊東陽子(文部科学省高等教育局高等教育企画課係長)

外間 寛（判定委員会委員長、中央大学）  
光岡知足（獣医学教育研究委員会委員長、  
元東京大学）  
三宅事務局長

#### 4 議事日程

- (1) 平成12年度処務報告及び事業報告関する件（第1号議案）
- (2) 平成12年度収支決算に関する件（第2号議案）
- (3) 平成13年度収支予算（修正案）に関する件（第3号議案）
- (4) 「新構想の大学評価に関するアクション・プラン（その1）－『大学評価の新たな地平を切り拓く（提言）』を受けて－」に関する件（第4号議案）
- (5) 役員の改選に関する件（第5号議案）
- (6) 財団法人大学基準協会寄附行為の一部変更について
- (7) その他
  - ① 財団法人大学基準協会のマークについて

#### 5 議事

**三宅事務局長** 評議員会を開催させていただきます。

ただいまから、評議員会出席者数及び成立要件につきましてご報告させていただきます。

現在、ご出席の評議員の方は105名でございまして、委任のご出席の評議員は145名でございまして、合計250名の出席ということになってございます。評議員総数は262名でございまして、過半数の132名を満たしており、評議員会は成立要件を満たしております。

なお、本日、賛助会員の先生は33名おみえでございまして、以上、ご報告を終わります。

**議長（丹保会長）** おはようございます。お忙しいところをお集まりいただきまして、ありがとうございます。

会長をいたしております丹保でございます。

先月の末まで北海道大学の総長をいたしておりました。現在は北海道大学総長を退任いたしましたので、4月30日付で本協会の理事のポストを去ることになるのですが、規程によりまして、この総会が終るまで会長をさせていただきます。現在、放送大学の学長をやっております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

それでは、今日の議事に入りますが、一つ、二つ、大きなこの協会の転換についてのご相談でございます。その件については後ほどご報告を申し上げますが、大学が自律的に行動しようといはしますと、どうしても、その反対側のアクションとして評価ということをきちっとしなければいけない。この時代は我々が自律的に行動するのと対になってアカウントビリティを保証する評価ということが重要な時代になってきているというふうに認識いたしております。

大学基準協会は、非常に長い歴史をもって、戦後この評価の問題をやってまいりました。ずっとやってまいりましたが、わりとマイルドな、軽いといひますか、ライトという言葉がよろしいのでしょうか、そういう評価だけで本当に大学が社会にきちっと受け入れられるだろうかということが、問題になってまいります。かなりきちとした評価を世の中に示すことがこれから要求されるだろうという議論がずっと続いておりまして、今日はそのいくつかのことについてご相談、ご了解をいただきたいと思っております。

さらに、非常に大きな変化が周辺に起こりました。国立大学を対象にいたしました大学評価・学位授与機構が発足いたしました。今年度から具体的な大学評価に入りました。大学を評価するという場合に、そちらのほうは学部・学科を中心にして評価をいたします。大学基準協会は、大学をベースにして学部ま

で評価の手が及ぶというような仕組みでございまして、若干のつくりは違いますが、おそらく協働者であると同時に大きなコンピテーターが出てきたと思っております。それとの対比で、国・公・私立大学が全部加盟しており、その非常に大きな割合が加盟しております団体は、大学群ではここしかございません。従ってこれが日本の大学のいろいろな将来を占うための大きな鍵になる組織でございまして、どうぞ、またよろしく願いをいたしたいと思っております。私はこの評議員会で退任いたしますので、次の会長を中心にして、どうぞ新しい展開をお図りいただくようお願いをいたしまして、会議の開会のご挨拶にいたします。

それでは、今日の議事録署名人をお願いしなければいけないわけですが、恒例によりまずと、副会長の中からお願いしております。国・公立側から大阪市立大学の児玉副会長にお願いしたい。それから、私立側からは津田塾大学の志村副会長にお願いしたいと思っておりますので、どうぞ、よろしく願いいたします。

議事を進めるにあたりまして、お手元に議題の順序が書いてございますが、時間のやりくりの都合がございまして、例年そういうふうになっているのでございますが、日程変更をさせていただきたいと思っております。まず、役員改選手順の一部を第一番目に踏ませていただきまして、処理作業を議事が進行している間にさせていただきたいと思っております。従いまして、理事・監事の選考委員会をつくるということの議をまず最初に挙げさせていただきたいのでございますが、よろしゅうございましょうか。

〈日程第5 役員改選に関する件(第5号議案)〉(日程変更)  
議長(丹保会長) それでは、ご了解いただ

けたということで、役員改選に関する問題、5号議案でございまして、これの一部を最初にスタートさせていただきます。

理事と監事の任期が今日で満了いたします。寄附行為の14条は役員数を書いたものでございます。それから、15条、理事と監事の選任の仕組み書いたものでございます。それから、19条、役員の任期を書いたものでございますが、これがそれぞれ理事と監事の決め方でございます。

この14条は、法人に理事30名以上35名以内、内会長1名、副会長6名、理事長1名と、これは寄附行為の14条でございます。理事長につきましてはまた後ほどお話を申し上げ、仕組みを変えさせていただく案件がでございます。

それから、15条に理事及び監事は評議員会でこれを選任すると書いてございます。ここは評議員会でございますので、理事と監事はここで選任いただくこととなります。

会長及び副会長は理事の互選により定めると書いてございます。これは、理事を決めていただきまして、後ほど、午後になりますが、理事会で会長、副会長を決めさせていただいてご報告するという形になります。

そのことでございますが、19条にまいりますと、この法人の役員の任期は2年とする。但し再任することを妨げないと書いてございます。補欠または増員により選任された役員の任期は前任者または現任者の残任任期とする。役員はその任期満了後でも、後任者が就任するまではその職務を行う。私はその形で1カ月、北海道大学を去りまして正規の会員ではなくなっていますが会長職をさせていただいております。役員は、この法人の役員としてふさわしくない行為のあった場合、または特別の事情のある場合は、任期中であっても、評議員会の同意及び理事会の議決によりこれを解任することができる。というの

が役員に関する条項でございます。

それで、この中で役員を選出するための選考委員会というのを立てていただかなければいけません。理事・監事の選考委員を選ぶという手続がありまして、その投票をお願いしなければいけないわけです。選挙によって選出する選考委員、これは理事ではございませんで、選考委員会は10名で、それぞれ国・公立側5名、私立側5名というのが従来の慣行でございます。同数選ぶということになっております。現会長と副会長は自動的に選考委員になります。被選挙権者は今日のご出席の評議員でございます。欠席の方には投票権はございません。理事はご出席の方で決めるという形になります。

従って、投票用紙には国・公立側と私立側の2種類がございます。それぞれ5名ずつ丸印をつけていただきます。5名を超える丸印がある投票用紙は全部無効になります。5名以下であれば1名でも有効でございます。委任状につきましては、現在ご出席の方の投票結果をもって委任とするという形で処理させていただきたいと思っておりますが、よろしゅうございましょうか。

そういうことでございますので、投票用紙をお配りします。

**三宅事務局長** それでは用紙を配らせていただきます。

**議長（丹保会長）** 開票の立会人をお願いしなければいけないわけでございますが、勝手でございますが、国・公立側からは千葉大学の磯野先生、私立大学は関西学院大学の今田先生をお願いをさせていただきたいと思っておりますが、よろしく願いをいたします。

(投票用紙配布)

**三宅事務局長** それでは、投票用紙について一部変更のご報告をさせていただきます。

**事務局** ご投票いただく前に、投票用紙でち

よっと変更がございますので、お配り終わりましたところでご説明をさせていただきたいと思っております。

投票用紙は今日ここにご出席の先生が選考委員になるということになりますものですから、ただいまお見えでない先生がいらっしゃるのと、ご予定がついて急遽お見えくださった先生がいらっしゃいますので、申し上げたいと思っております。

それでは申し上げます。1枚目が国・公立大学になっておりますが、全員ご出席でして、2枚目の私立の方ですが、2列分かれておりますが、右側の方の列の9番目、鶴見大学高崎先生が現時点でお見えではございませんので、投票されてもこのままですとご参加できないということでございます。それと、もう一方、早稲田大学の奥島孝康先生がお見えくださいましたので、投票用紙の一番下が空欄でございますので、そこに早稲田大学、奥島孝康、総長とお書き下さい。

もう一度申し上げます。右側の列の上から9番目、鶴見大学高崎先生が今のところお見えではございません。そして、お見えくださいました早稲田大学・奥島孝康先生を最後の空欄のところにお加えいただいて、それでご投票いただければというふうに思います。よろしく願いいたします。

(投票)

**議長（丹保会長）** もしよろしければ集票をさせていただきますと思っております。

**三宅事務局長** よろしゅうございますか。それでは、おそれいりますが投票用紙を回収させていただきます。

(集票)

**議長（丹保会長）** それでは、議題に戻りたいと思っております。

<日程第1 平成12年度処務報告及び事業報告に関する件（第1号議案）>

**議長（丹保会長）** 第1号議案でございます。処務報告と事業報告でございますが、まず、処務報告につきましては筑波大学の北原副会長からご報告いただきます。お願いいたします。

**北原副会長（筑波大学）** 北原でございます。庶務担当を仰せつかっております。

お手元の第1号議案1というのをご覧いただきたと思いますが、処務報告、処務という字が何かおもしろい字ですが、これがずっとこういう報告になっております。ほとんど表でございますので、ご覧いただくしかございませんが、1ページから役員に関する事項ということで、会長、副会長、理事の名前が載っております。

2ページは顧問に関する事項。いずれも平成12年度末現在であります。それから、同ページに職員に関する事項。現在事務局の職員がそういうメンバーになっております。

それから、3ページに、評議員に関する事項。先生方のお名前が就任順に載っております。これがずっと続いております。

それから、10ページから委員会に関する事項。これがずいぶん細かいいろいろな委員会がございます。特に、基準委員会、判定委員会、相互評価委員会です。それから審査・評価分科会などがずっと載っております。

そして、30ページに役員会等に関する事項というところからは、理事会、臨時理事会で議題となりました事項、それからその議題の内容が時系列で並んでございます。

39ページには、評議員会が2回開催されましたその議題が載っております。

それから、40ページをご覧いただきますと、許可認可及び承認に関する事項、なし。それから8番目としまして維持会員、平成13年3月末日における維持会員は247大学であり、学部は949学部であると。これは次に掲げて

ございます。それから、同じページの9に、賛助会員に関する事項ということで、やはり、本年の3月末日における賛助会員は282大学、学部は516学部であると、これも別掲してございます。文部科学省指示に関する事項、なしということでございます。

41ページ以降に維持会員の名簿と賛助会員の名簿とございます。

以上でございますが、何か間違っているところとかお気づきの点がございましたら、お教えいただければと思います。

**議長（丹保会長）** ありがとうございます。膨大な記録資料でございますので、またお目通しいただきまして、後ほどでもお気づきの点がありましたら、事務局のほうにお知らせいただければ幸いであると思っております。

それでは、まず処務報告を終りまして、次に事業報告に移りたいと思います。事業報告につきましては、それぞれ担当の理事・委員長からご報告をいたしますが、まず、最初の導入の部分につきましては、北原副会長からまず説明していただきます。

**北原副会長（筑波大学）** それでは、第1号議案の2というのをご覧いただきたいと思います。平成12年度事業報告案でございます。いま会長からお話がありましたように、私はその1ページのはじめにというところをご報告いたしまして、あと細かいところは各担当理事・委員長にお願いするということにいたします。

今日、わが国の大学は、いろんな要請がありまして、多様で個性的な活動を展開すべく大学全般のあり方について改革を進めていくことが急務となっております。

そして、これからの大学はその教育研究に創意工夫を凝らして、多様な資質・個性をもつ学生を積極的に育てていく必要に迫られております。同時に、不断に自己の組織・活動

を点検し評価することが求められております。さらに、18歳人口の急減などを考えますと、協会としてこれらの問題に対しまして具体的に対処することが、大学評価の責任主体として是非とも必要であるという状況でございます。

今日、公財政に支えられている大学は、アカウンタビリティの履行を視野に入れつつ、自らの組織・活動を厳正に評価し、適宜、学外者による検証を受けることが強く求められております。また、大学評価そのものの国際的通用力を向上させることの重要性が強く説かれているところであります。さらに、先般の大学審議会答申の提言にも見られますように、多元的評価システムの整備が急がれている中、先ほどの会長のお話にもありましたように、平成12年4月には、大学評価・学位授与機構が新たに発足いたしまして、評価分野も次第に競争的な環境下に置かれるようになっております。

そういう状況を背景にいたしまして、基準協会では、平成12年度は、『大学評価マニュアル』に則りまして、前回までの大学評価の経験を生かし、第5回目の大学評価活動を行いました。そして、前年度に引き続きまして、大学評価システムの円滑な運用のうえで必要な諸条件の整備に向け調査・研究を行いますとともに、コンピュータ・ネットワークシステムの整備等の具体的措置も講じたところであります。

また、大学評価のための協会独自の基準の系統的な整備を視野に入れました基準の改定作業を鋭意進めました。

さらに、大学評価の領域にも競争的な環境・条件が醸成されつつある中で、より客観的で精度の高い第三者評価システムを具備する評価機関へと変容するように、組織活動の全面的な見直し作業を進めました。

このようなことを踏まえまして、これから本年度の事業報告をさせていただくわけですが、その1ページの下から5行目以下に書いてあります、①から⑩と、この諸項目を柱にこれから12年度の活動の報告をさせていただくということでございます。よろしく願いいたします。

**議長（丹保会長）** ありがとうございます。今ちょっと手違いがございまして、開票立会人に磯野先生をお願いしたのですが、磯野先生はご報告をいただく事項があったものですから、新潟大学の荒川先生とご交替いただきましたので、ご勘弁をいただきたいと思っております。どうも手違いをいたしまして、申しわけございません。荒川先生が行かれまして、磯野先生戻って来られます。よろしく願いいたします。

それでは、次に、本協会の一番大事な仕事でございます加盟判定審査、相互評価に関してでございますが、まず、その加盟判定審査という、本協会のメンバーとしてお迎えしていかどうかということ判定する委員会に関してでございます。現在のところは賛助会員とそれから維持会員、維持会員というのはおかしいからということで、後ほど定款の変更をし、正会員という名前にこの会議からあとしたいと思っておりますが、その二つのことにつきまして昨年度たくさんの大学が手を挙げていただきました。

まず、加盟判定審査でございますが、2ページでございますが、中央大学の外間先生が判定委員会委員長でございますので、外間先生からご説明をいただきます。よろしく願いいたします。

**外間判定委員会委員長（中央大学）** ご報告申し上げます。平成12年度の加盟判定審査に関しましては、資料の2ページから4ページにかけて記載がございました。

平成12年度におきましては、17大学から加盟判定審査の申し込みがございました。これを受けまして、加盟判定審査の組織体制を立ち上げたわけでありましたが、判定委員会は委員長、副委員長のもとに20名の委員をお願いいたしました。また、6名の幹事をお願いいたしました。そして、判定委員会のもとに6つの大学審査分科会を設け、そして申請大学の専門分野に対応いたしまして、21の専門審査分科会を設置いたしました。大学審査分科会は6つでございますが、ここには、あわせて24人の委員の先生方を委嘱いたしました。専門審査分科会は21ございますが、あわせて66人の委員の先生方をお願いいたしました。

こういう組織体制で加盟判定審査を行いましたが、審査のありました17大学のうち2つの大学では、審査の途上で申請の取下げがございました。結局、15大学につきまして審査のち、評議員会、理事会の議を経て、いずれも大学基準に適合するものと判定されました。その大学基準に適合するものと判定されました15大学の大学名が、3ページから4ページにかけて掲げられております。国立・私立・公立が含まれております。大学名は50音順になっております。

以上、ご報告申し上げます。

**議長（丹保会長）** ありがとうございます。ここにございますように、3ページ、岐阜女子大学、釧路公立大学、倉敷芸術科学大学、国土館大学、鈴鹿医療科学大学、聖学院大学、聖隷クリストファー看護大学、創価大学、奈良教育大学、兵庫県立看護大学、プール学院大学、福島大学、名城大学、山梨大学、山梨医科大学が、この協会に加盟していただくことができるようになりました。

次は、相互評価でございまして、維持会員として加盟されたメンバーが、さらにその後の展開をみせていただくという評価でござい

ます。委員長は群馬大学学長の赤岩先生でございますが、赤岩先生からご報告いただきます。

**赤岩相互評価委員会委員長（群馬大学）** ご報告申し上げます。平成12年度には、相互評価の実施に先立ち委員会を開きまして、今年度は申請のありました大学すべてに対して、分科会での評価が終わったあとに、実地視察を実施することを決めております。その他につきましては、前年度の方針を踏襲いたしました。

相互評価委員会、それから各分科会、その他の組織につきましては、お手元の書類をご参照ください。

そして、平成12年度に相互評価の申し込みのあった大学は、下に書いてある国・公・私立18大学でございますが、提出された資料をもとにいたしまして、各分科会で慎重に評価を行いました。そのあとで、今申しましたように、全18大学に対して実地視察を実施いたしまして、その結果をあわせて、相互評価委員会で総合的な評価を行いました。

実際、私も実地視察に1大学まいりましたが、書類上の数値ではかなり施設が狭いようなものでも、実際行ってみますと、非常に効率よく工夫されておって、感心したような例もございまして、実地視察の効果というのは、かなりあったのではないかと考えております。

その結果につきましては、評議員会、理事会の議を経て、すべてこの18大学が大学基準に適合するものとして認定が行われました。

以上でございます。

**議長（丹保会長）** ありがとうございます。今年度は具体的に各大学をお訪ねいたしました。いろいろと意見交換をいたしました。

7ページにございますように、愛知大学、神奈川大学、金沢大学、北里大学、京都橘女子大学、近畿大学、神戸商科大学、神戸女学

院大学、上智大学、昭和大学、聖路加看護大学、天理大学、東京薬科大学、豊田工業大学、長崎大学、名古屋市立大学、北星学園大学、横浜市立大学の18大学でございます。維持会員という名前でご承認をいただいたわけですが、本日、あとで寄附行為が変わりますと、これは正会員ということになりまして、このメンバーを中心にしてこれからいろいろなことが展開するということになります。後ほどまた新しいルールをご相談いたしますので、そのルールの中でお働きいただくということになると思います。

それでは、今、両委員長からご説明をいただきますが、この判定・評価をするにあたりまして、基準というものをいろいろ立ててやってまいります。今大変に大学の組織が流動化いたしております。昔は理学や工学という2文字学部でしたが、現在は4文字学部と俗に言っております環境何々学部、国際何々学部とかという4文字学部が大変増えてまいりまして、基準を設定することもそう簡単ではなくなっております。さらには、ほかのいろいろな組織が基準をもちはじめしております。それとのバランスの問題もございまして、なかなか容易でないことが起こっているということをご認識いただいたうえで、明治大学総長でございます栗田先生が基準設定の委員会の委員長でございますので、栗田先生からご報告をいただきたいと思っております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

**栗田基準委員会委員長（明治大学）** ご報告申し上げます。今、会長からお話がありましたように、基準委員会は本協会が行います大学評価の基準の制定あるいは改定を任務といたしておりますが、本協会のもっております大学基準の多くは、かなり昔に制定されたもので、現在、特に大学設置基準の大綱化以降の状況とは甚だ適合性を欠くような状況にな

っております。

そこで、2年前に前期の基準委員会からの申し継ぎを受けまして、基準の全体としてのあり方をこの段階で再検討するというところで、体系化ということを目指しながら、それぞれの分野における基準の改定という作業をはじめたところでございます。

体系化と申しますのは、従来、それぞれの分野の基準がその都度の必要に応じてつくられてきたというような事情から、必ずしも相互の連関が明確でないということ、あるいは学部基準、教育基準といったような大学を見る視点の違い等が、それぞれ別のシステムになっているといったような、非常に錯綜した状況にありますものを、全体としての評価基準というものにまとめていく必要があるというご指摘が引き継がれまして、今年度20名の委員の方々、1名の幹事の方とご相談しながら、7回ほど委員会を開き、その間に検討しております。

特に、基準委員会といたしましては、この体系化の基礎となるようなものとしての学部教育に相当します学士課程基準という基準の策定を、今期の重要な課題といたしまして進めてまいりました。これについては、一定の結論を得まして、現在、理事会にご報告申し上げてきているということでございます。

その間に、新しい教育分野というものが各種、例えば学際的なもの、あるいは今まで大学教育では取り上げなかったようなものが取り上げられるようになってきているというような事情で、新しく起こります問題につきましては、それぞれの専門分野の委員会を設定いたしまして、以下、8ページ以降ご覧いただきますような各種委員会を設置することを理事会にご提案し、ご承認を得てきたところでございます。

基準委員会報告は現在理事会に提出されて、

理事会でのご審議を経て、全体の会議のほうに移されるかというように考えております。

現状、そういう段階であるということをご報告申しまして、終りたいと思います。

**議長（丹保会長）** ありがとうございます。今、栗田委員長からご報告ございましたように、基準というものを考える視点そのものが大変に難しい状況を迎えておられて、大綱化以降さまざまな動きがございますので、非常に硬い基準で何かをするというようなことがなかなかできない分野もたくさんございます。それ等を含めてこれからまた続けて重要なご検討をいただくことになると考えております。

この点について、何かご発言等ございましたでしょうか。よろしければあとへいきまして、もし戻りましてご意見あれば頂戴いたします。

その次は、獣医学教育研究委員会というのがございまして、獣医学教育の検討がされてまいりました。委員長は、元東京大学の教授でございます光岡先生でございます。どうぞ、よろしく願いいたします。

**光岡獣医学教育研究委員会委員長（元東京大学）** 獣医学教育研究委員会は、私を委員長といたしまして、13名の委員で、また1名の幹事で構成されております。さらに、もう少し詳しく具体的に審議するために6名の小委員会委員と1名の幹事をもって小委員会を結成しております。平成12年度におきまして、2回の委員会と、5回の小委員会を開催いたしまして、そこではかねてから審議を進めてきました獣医学に関する大学院の基準の修正作業を進めてまいりまして、委員会としてはほぼ成案、完成させたところでございます。この基準につきましては、早い時期に今年度、13年度に基準委員会、並びに理事会に審議をお願いし、できるだけ速やかにその成案を得た段階で、公表したいと考えております。

どうぞよろしく、ご審議をお願いいたします。

**議長（丹保会長）** ありがとうございます。獣医というのは大変に大きな分野でございます。しかもかなり専門性を重んじる分野でございますので、大学院ということを入れたご議論をいただいております。

光岡先生、ありがとうございます。

次へまいります。工学教育研究委員会でございますが、担当理事の名古屋大学総長の松尾先生からご説明いただきます。

**松尾工学教育研究委員会担当理事（名古屋大学）** 松尾でございます。私の前の國岡担当理事のときに、東京都立大学の古川先生を委員長にいたしまして、14名の委員と1名の幹事をもちまして、いろいろな検討の結果、工学教育に関する基準の最終案をとりまとめ、平成12年7月27日付で国・公・私立大学及び関係機関に公表したところでございます。

その背景には、委員会での議論とともに、維持・賛助会員校に向けて実施いたしましたアンケートにおける意見等々が、その審議の中に加えられております。

以上でございますが、なお、先ほどから会長あるいは基準委員会委員長からお話がございますように、工学に関する基準とか評価の問題も非常に勢いで動いているところでございますから、やはり、進化性をもったものであると、そういうふうにご理解をいただくのがよろしいかと思っております。

なお、この委員会は、基準をすでに公表いたしましたので、解散をいたしております。

以上です。

**議長（丹保会長）** ありがとうございます。工学教育に関しましては、吉川元東大総長が会長でございますJABEEや、また、各学会もかなり活発にいろんなことを展開しておりますので、我々それを横で見ながら、我々

のいろいろな判定のやり方を、これから決めていかなければならない。難しいというよりは、むしろ相互にコーポレーティブな動きをどうやってやるかという問題が新しく出てきているというふうにご理解いただきたいと思えます。

その次は、大学通信教育基準検討委員会でございまして、法政大学総長の清成先生からお願いいたします。

**清成大学通信教育基準検討委員会委員長（法政大学）** ご報告申し上げます。現在、通信教育は大変大きく変化しつつあるわけですが、従来の郵便による通信制からいわゆるITを活用したバーチャルカレッジ、あるいはオンラインカレッジへの転換ということが進みつつあるわけで、こうなりますと、基準も根本的に改定しなければならないということになるわけですが、しかも、通信制、通学生の区分というのは非常に曖昧になってまいりますし、大学院においてもIT活用ということになるわけですが、ただ、わが国ではまだ実践例が非常に少ないということがございます。

しかし、これから急速に変わるわけですが、拙速でこの基準を設定するというのは非常に困難であるということで、昨年度は主として諸外国の通信教育でありますとか、遠隔教育の現状とそれからその評価に関する調査を続けたわけでございまして、今後、そうした調査結果を踏まえつつ、かつわが国におきます通信教育の新しい展開状況を睨みながら検討いたしたいと、こういう段階でございまして。

以上でございます。

**議長（丹保会長）** ありがとうございます。今、清成先生からご報告いただきましたように、通信教育というのは従来のカテゴリーを一変しつつありまして、バーチャルユニバー

シティであるとか、ロングディスタンスエディケーションであるとか、世界のライフロングスタディの中の大きな趨勢の一つになりますので、これからこの協会といたしましても、相当覚悟をしていろいろなことを考えなければならないというふうにも思えます。今、清成先生のお手元でいろいろなことの展開を図っていただいております。どうもありがとうございます。

次へまいります。次は、保健学系教育基準検討委員会ですが、日本大学総長の瀬在先生が委員長でございます。

**瀬在保健学系教育基準検討委員会委員長（日本大学）** 委員長の瀬在でございます。この保健学系の教育基準検討委員会の経過につきましては、9ページの下のほうに書かれています。

7人の委員の方々とともにこの検討を行ってきております。そして、平成12年度は10回の委員会を精力的に開催させていただきました。御存知のように、保健学系は分野がさまざまでございます。非常に多彩ということでございます。従いまして、その基準づくりには大変苦慮したというでございますが、委員の方々、それぞれの分野を代表する方々に入っていたいたわけでございます。そして、鋭意審議を続けまして、現在、ほぼこの大綱と申しましうか、作業が終わりつつあるということでございまして、今、保健学系の各関係大学からアンケート調査を行うため、基準案をまとめている最中でございます。今年の夏には基準委員会のほうにこの案を提出するという予定で、今作業を進めております。

以上でございます。

**議長（丹保会長）** ありがとうございます。今、瀬在先生からお話をいただきましたように、保健学系がまた一つ大きく展開をはじめております学問分野でございまして、またこ

の協会としても十分力を入れて対応しなければいけないと考えております。どうもありがとうございます。

次は、看護学教育でございますが、担当理事でございます千葉大学学長の磯野先生からご報告いただきます。

**磯野看護学教育研究委員会担当理事（千葉大学）** 磯野でございます。それではご報告させていただきます。

この看護学教育も同様でございますが、大変に今、高度化、進展化している状態でございます。いろいろな基準の見直しが要求されているところでございます。委員長は元本協会の看護学教育研究委員会の副委員長の平山朝子先生でございますが、現在は岐阜県立看護大学の学長をしておられます。この方の強い要望もございまして、先の383回の理事会で認められまして、この委員会の設立をみたわけでございます。

ここに書かれております7名の委員で構成されております。この委員の先生方、皆様方すでに前回の教育及び関係基準に関与されている方も多くございまして、大変この方面におきましてベテランの方々ばかりでございます。平成12年度には3回の委員会が開催されたわけでございます。この最終の3回目ときには、各々、皆様方の役割分担を決めまして、その分担について一つの成案を出していただきたいというふうな形で進んでおりまして、かなりのところまで進んでいると伺っております。ご報告申し上げます。

以上でございます。

**議長（丹保会長）** ありがとうございます。看護も非常にたくさん大学の数が今できてきておりまして、この質的保証というのをどうするかというのは、また、この協会にとっても非常に重要な局面に入ってきていると思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いをい

たします。

それでは、平成12年度実施の大学評価のための体制というのをご検討いただきました。相互評価委員会の委員長の群馬大学学長の赤岩先生からお願いをいたします。

**赤岩相互評価委員会委員長（群馬大学）** ご報告いたします。お手元の10ページの③に本協会が行った平成12年度の大学評価のための体制確立策をまとめてございます。

毎年、大学評価の内容手続を理解していただくために、大学評価セミナーというのをやっておりまして、例年は役員の講演、それから評価プロセスに関して協会スタッフの説明、それからまたすでに大学評価を受けた大学の関係者から報告をいただくと、こういうことでもございましたが、今年は、実際に評価に携わった委員からの報告を加えるとともに、米国の北西部地区の基準協会からラリー・ステューブンスさんという実務者をお呼びし、講演をしてもらったというのが、ちょっと違っております。

また、9月には、分科会の委員を対象にして、評価をスムーズに行うために評価者の研修セミナーを行っておりまして、相互評価委員会、判定委員会、それぞれ2回開催いたしております。

それから、これは前年度に引き続いてでございますが、大学評価を受けることを予定している大学、あるいはご検討中の大学等から希望がございました場合には、協会の役員もしくは事務局スタッフを派遣して、個別に協会の大学評価というのとはどんなものかという説明会を実施いたしました。

以上でございます。

**議長（丹保会長）** ありがとうございます。我々は相互評価を基本にいたしまして、お互いの質を保証しあうというのが、この協会の基本的な考え方でございますので、評価をす

る人、受ける人が同じレベルで成長していきませんと、評価の質がよくなりません。そういう意味で、外からのご意見も聞きながら、我々自体で評価をし、その評価を受けた方のいろんなご意見を又頂戴して、じゃ、ここを直さなければいけないか、無駄なところをしないか、必要以上の書類を出すというようなことも、大変な無駄でございますので、その点でもだんだんに賢くなっていかなければならないと思います。そういうことを12年度、今赤岩委員長が申しあげましたような形でさせていただきます。

これにつきましては、評価を受けた側、それからさせていただいた側も、いろんな意見がございます。特に評価を受けられた大学が、こんなに膨大な書類を出してこのぐらいの評価書しかもらえないのかというようなことも、私の耳にも入ってきたりしておりますので、いろんな意味でバランスのいい評価をどうやってやるかということこれから心がけたいと思います。どうぞ、ご意見を頂戴し、ご協力をお願いしたいと思っております。どうもありがとうございました。

その次は、大学と大学院評価に関する調査検討ということについてです。「本協会のあり方検討委員会」というのはこれまでずっと続いておまして、鳥居先生の時代からかなり速度をあげてまいりました。そして、私の会長の代につながってまいりました。委員長は会長でございますが、大南先生が前の立命館大学の総長でいらっしゃった時代から、今は京都橘女子大学にお移りになりましたが、ずっと具体的に作業をし、議論をしていただいております。あとで、またアクション・プランという形でかなり具体的なお話をいたしますが、まず、その全体の流れで今年どういうふうに進んでいるかということについて、大南先生からお話をいただきたいと思います。

います。

**大南本協会のあり方検討委員会副委員長（京都橘女子大学）** ご報告を申し上げます。後ほど、第4号議案のところで「アクション・プラン(その1)」についてご報告を申し上げますので、ここでは簡単に11ページの内容について少しご報告を申し上げておきます。

このアクション・プランをつくるために、本年度は本協会のあり方検討委員会を部分的に改組させていただきました。委員長は、先ほど会長が申されましたように丹保会長でございます。副委員長は私、大南がお引き受けをいたしまして、12名の委員で構成をさせていただきました。そのもとに、具体的ないろいろなアクション・プランをつくるための議論を進めなければなりませんので、本協会のあり方検討委員会小委員会をつくらせていただきまして、私がお委員長を担当させていただきました。そして、この委員会は19名の委員で構成させていただきました。そして、この小委員会の任務の機能的な遂行のために、さらにその下に3つの分科会を設置して、現在動いております。具体的には、評価項目・評価指標検討分科会、それから、2つ目には、評価組織体制・プロセス等検討分科会、3つ目が組織・機構、財政検討分科会の3分科会でございます。

次のページにまいりまして、平成12年度でございますが、本協会のあり方検討委員会は1回、それから小委員会は12回、組織・機構、財政検討分科会は6回、開かせてもらいました。そして、事の重要性に鑑み、理事会との合同会議、すなわち本協会のあり方検討委員会拡大委員会を2回開かせていただいたということで、先般、3月6日の評議員会に上程をいたしました。「新構想の大学評価に関するアクション・プラン」をつくりあげたということでございます。

以上でございます。

**議長（丹保会長）** ありがとうございます。たくさんの方を今年度させていただきましたが、とりわけ、このアクション・プランにまでまいりました本協会のあり方検討委員会。大南先生は小委員会委員長で、大変な数の会議とご議論をまとめていただきました。後ほど成果品につきましてご議論いただきます。

以上のご報告でございますが、また後ほどの議題の中で、もしご質問等があれば受けたいと思います。

次へまいります。12ページの中ごろをご覧くださいますと、海外の評価機関との国際連帯ということがございます。評価というのは、全体の中でいろんなことがあります、大学が国際的なレベルをキープするということももう一つの大変大きな任務になっております。一言でいえばグローバリゼーションなのですが、そういうことだけでなく、国際水準のレベルというのをどうやって保証するかという問題が大きく出てまいります。従いまして、この協会も高等教育質保証機関国際連合と、大変長い名前でございますが、INQAAHEという団体にも加盟いたしております。

インドで定期総会がございました。大南先生と職員が参加いたしまして、大変にタフな会議であったと伺っておりますが、びっしりと議論をして成果をもって帰ってきてくださいました。以降、いろいろな議論がありまして、日本はまだ新参でございますが、日本を代表した評価機関としては本協会が入っております。大学評価・学位授与機構からも人が行っていたようでございますが、全体としていろんなことが起こりますので、また進み次第ご報告をいたしたいと思っております。

その次が、大学基準協会の50年史の執筆、編纂で、12ページの一番下のブロックでございますが、木村孟会長の時代に50周年をさせ

ていただいたわけでございますが、そのときの50年史の編纂が残っておりました。桜美林大学の寺崎先生がこの道の大家でいらっしゃるしまして、ここの委員の先生方と一緒に年史をおまとめいただいておりますが、もうやがて55年目がまいります。50年から55年の5年間というのは大変にこの協会が大きく動いた5年でもございますので、50年史がよろしいのか、55年史がいいのかわかりませんが、鋭意、完成を目指して仕事を進めていただいておりますと同時に、資料の修復、調整、保存といったようなことについても配慮をはじめておりますので、ご報告を申し上げたいと思います。

その次、13ページにまいります。本協会に関する広報活動でございます。様々な広報活動が必要でございますが、まだ十分だとは到底思えません。『大学評価研究』という雑誌も動きだしました。

まず、第一番目の刊行物編纂委員会は、前の金沢大学の学長で、今金沢経済大学の学長をお務めでございます岡田先生が委員長でいらっしゃいますので、岡田先生からご報告いただけますか。

**岡田刊行物編纂委員会委員長（金沢経済大学）** ご紹介されました岡田でございます。広報活動の一つとしての刊行物編纂委員会、これはただいま会長からお話がありましたように、13ページの上のほうに記載されております。

6名の委員でもって構成されておまして、平成12年度においてはJUAA選書第12巻『大学評価の今を読む』という著書の刊行、あるいはまた、今日の大学改革の原点を探って、今後の改革方向を見定めるというそういう視点から、ご承知かと思いますが、本協会の会長経験者のお一人であります戸田修三氏のこれまでの論考を集大成したものを13巻と

して刊行することが検討されました。

また、平成13年度以降、JUAA 選書第14、15巻、これには『工学教育基準とその活用』『高等教育の判例50選』、これについて委員会で検討し、刊行の合意がなされております。

以上でございます。

**議長（丹保会長）** ありがとうございます。

『大学評価研究』が発行されはじめました。担当は津田塾大学学長の志村副会長でございますので、志村先生からご報告いただきます。**志村『大学評価研究』編集委員会委員長（津田塾大学）** 志村でございます。報告の13ページの真ん中あたりに記載がございますが、本協会の評価活動の一層の強化の一環として創刊が決定されました『大学評価研究』の編集委員会は、そこにお名前が載っております6名の委員の方と、三宅事務局長が幹事として鋭意作業を進めて、大変質の高い論文、たくさんのご寄稿を得て事業を進めてまいりました。

以上でございます。

**議長（丹保会長）** ありがとうございます。

それでは、広報委員会ですが、愛知学院大学学長の小出先生からお願いいたします。

**小出広報委員会委員長（愛知学院大学）** 広報委員会委員長を仰せつかっております小出でございます。志村先生の報告の次のところでございます。

私以下7名の委員をもって構成されておりました、平成12年度は、会報第82号を刊行いたしました。そのほかに、大学評価活動を会員大学の教職員の皆さんに広く、理解してもらうための協会広報紙『じゅあ JUAA』第25号、第26号を刊行いたしました。また、毎年刊行いたしております『平成12年度大学一覧』も編集刊行いたしました。

以上でございます。

**議長（丹保会長）** ありがとうございます。

大学審議会等への対応でございまして、文部省の大学審議会から「平成12年度の大学入試の改善について（中間まとめ）」と、それから「グローバル化時代に求められる高等教育のあり方について」と、これは審議の内容でございますが、意見を求めてまいりました。理事会の各メンバーから意見を頂戴いたしまして、それをまとめて議論したうえで、審議会へ送らせていただきました。

また、大学評価・学位授与機構から、「平成12年度に着手する大学評価の内容・方法について」と、意見の聴取がまいりました。これも我々のほうは非常に長い経験をもっておりますので、それに基づいて非常に的確なご意見が理事のメンバーの中から出てまいりまして、それを集約いたしまして、同機構に送りました。これはお互いに支えあい競争しあっていく仲間でございますので、できるだけお互い情報交換を進めながらと思っておりますので、よろしく願いをいたしたいと思っております。

大変立派な意見をいただきましたことを、御礼を申し上げます。

その次、コンピュータ・ネットワークシステムの整備でございますが、大南副会長からお願いいたします。

**大南コンピュータネットワークシステムの整備に関するワーキンググループ主査（京都橘女子大学）** これは14ページのところを簡単にご報告します。

平成12年度には、主として協会のホームページをきちっと整備したいということに努めさせていただきました。あるいは、また維持会員校、理事・監事名簿、そこに書いてあるようなさまざまな情報を含めるということにさせていただいております。

それから、経理業務のOA化につきましては、平成11年度に導入された公益法人会計ソ

フトを本格的に稼働させたということが、この平成12年度の経過でございます。

**議長（丹保会長）** ありがとうございます。

以上でご報告等がだいたい終わりでございますが、その他の活動というのが一番下に書いてございます。

大学基準協会の資料の公開につきまして、マイクロフィルム化された資料のアウトプットというのかアウトプリントというのでしょうか、ファイリング等々、それからワープロで駄目になりそうな古い資料の入力等々について心がけております。できるだけ公開をして、皆様に使っていただけるような手続に入ったということでございます。よろしくどうぞお願いをいたします。

これで事業報告をざっとご報告したわけでございますが、何か全体でお気づきの点ございませうか。時間の制限等もありまして、概要のお話でございまして恐縮でございますが、ご了承いただければ幸いです。（拍手）

ありがとうございました。

それでは、議事を中断させていただきます。先ほどの理事の選考委員の投票結果をご報告申し上げます。

国・公立側でございますが、会長、副会長はメンバーに入るといふ話は先ほど申し上げました。荻上東京都立大学学長、それから、磯野千葉大学学長、小間東京大学副学長、兵藤埼玉大学学長、赤岩群馬大学学長、荒川新潟大学学長、岡本東京学芸大学学長の順でございますが、上位5人ということになりますと、荻上先生、磯野先生、小間先生、兵藤先生、赤岩先生までをお願いをいたしたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

私立側でございますが、早稲田大学の奥島総長、上智大学のウィリアム・カリー学長、同志社大学の八田学長、法政大学の清成総長、

関西学院大学の今田学長、次点が青山学院大学の半田学長と国際基督教大学の絹川学長の順でございますので、奥島先生、ウィリアム・カリー先生、八田先生、清成先生、今田先生をお願いをいたしたいと思っております。

よろしゅうございませうか。今田先生と荒川先生の立会人署名をいただいております。どうもありがとうございました。

先ほど磯野先生が、ご報告の任にあるのを忘れておまして、立会人をお願いして大変失礼いたしました。

それでは、若干会議を中断させていただきます。休憩に入ります。別室で理事の選考をさせていただきます。3階けやきの間で選考委員会を開かせていただきますので、今の10人の先生と会長、副会長が集まることになります。

休憩はだいたい10分とっておりますので、30分の前には再開したいと思いますので、遅くとも30分と思っておりますので、ご配慮いただきたいと思います。

（休憩）

**三宅事務局長** 大変長らくお待たせいたしました。それでは評議員会を再開いたします。

**議長（丹保会長）** お待たせいたしました。それでは、ご報告を申し上げます。

理事と監事を決めさせていただきました。口頭で申し上げますので、ご記録いただきたいと思います。

国・公立側は、大阪大学、九州大学、京都大学、千葉大学、東京大学、東京工業大学、東北大学、名古屋大学、新潟大学、一橋大学、群馬大学、東京医科歯科大学、筑波大学、埼玉大学。公立が、大阪市立大学、東京都立大学、横浜市立大学でございます。監事が北海道大学でございます。

私立側を申し上げます。関西大学、関西学院大学、慶應義塾大学、中央大学、同志社大

学、日本大学、法政大学、明治大学、立命館大学、早稲田大学、日本女子大学、津田塾大学、北里大学、愛知学院大学、工学院大学、金沢工業大学、京都橘女子大学が理事校でございまして、監事は国際基督教大学でございます。

従って、監事は北海道大学と国際基督教大学をお願いをするということでございます。

ご了承いただけますでしょうか。ご異議なければこの国・公立側17名、私立側17名、プラス2名の監事の体制で今期の理事会を構成させていただきます。(拍手) どうもありがとうございました。

## 〈日程第2 平成12年度収支決算に関する件(第2号議案)〉

議長(丹保会長) それでは、議題に戻ります。次の議題は、平成12年度収支決算に関する件、2号議案でございます。小出副会長から資料によってご説明をいただきます。小出先生、お願いいたします。

小出副会長(愛知学院大学) 財務担当の副会長を仰せつかっております愛知学院の小出でございます。皆さんもうお疲れのようでございますので、なるべく簡単にさせていただきます。よろしくお願いいたします。

お手元の資料の平成12年度収支決算書をご覧いただきたいと思っております。2号議案と書いてございます。

まず、収入の部でございますが、1 基本財産運用収入、予算30万円に対しまして、決算額が11万1070円となりまして、18万8930円の減でございます。これは利率の低下による利息の収入減でございます。

2 番目が、会費収入でございます。予算が2億3100万円に対しまして、決算額が2億3290万円となりまして、190万円の増でございます。この会費収入がこの協会の収入の90数%を占める一番大事な収入源でございます

が、維持費と賛助費と分かれています。

維持費は維持会員校の費用でございます。備考に書いてありますように247大学が35万円ずつ、学部別で875学部が10万円ずつです。それから、二部・夜間主コース147学部が5万円ずつ、大学院をお持ちの234大学が10万円ずつということで、収入が計算されまして、トータル2億3290万円でございます。これは変わりありません。

賛助費、賛助会員の費用でございますが、備考に書いてありますように、282大学が10万円ずつの会費でございます。予算が2630万円に対しまして決算2820万円となりまして、190万円の増でございます。賛助会員が19大学増えたことによる収入増でございます。

次が、3 基本判定・評価費収入でございますが、決算額が1635万円となりまして、予算に比べまして175万円の増でございます。これは、加盟判定審査費が710万円増で40万円増でございますが、予算上より1大学3学部増えまして、昨年度、加盟判定審査を申請したのは17大学41学部であったことによります。

それから、相互評価費でございますが、925万円でございます。予算に比べて135万円増でございます。これは18大学81学部の評価をしたわけでございますが、予算上よりは3大学13学部も増えたということによる収入増でございます。

それから、4 刊行物実費収入330万4999円、予算に比べまして260万4999円増でございますが、これは協会の発行しております『大学評価マニュアル』及び選書1巻から10巻までの平成11年度の本協会実費負担分約296万円が頒布先のエイデル研究所から入金されたことと、そのほかは『大学の自己点検・評価の手引き』等の実費頒布収入でございます。

次に雑収入でございますが、464万1608円と予算に比べまして約39万円の増でございます

す。この雑収入の収入増は大学評価セミナーの参加費によるものがほとんどでございます。

6 特定預金取崩収入71万7567円、これは退職給与引当預金の取崩収入でございます。

以上でございます、当期収入(A)は、予算2億5085万円に對してまして、決算額は2億5802万5244円で、予算に比べまして717万5244円の増でございます。これに前期繰越収支差額4547万428円を加えまして、全収入合計(B)は3億349万5672円となりまして、予算に比べまして、717万5244円の増となっております。

次に支出の部に移らせていただきます。

1 事業費でございますが、決算額9329万6613円で、予算に比べまして1223万1387円の減でございます。事業の部の中に調査研究費が6585万552円の決算でございます、予算に比べまして1624万9448円の減でございます。細かい項目が調査費以降に書いてありますが、ほとんどの科目が予算に比べまして決算減で終わっております。大きいのは調査費の331万円減、旅費交通費の117万円減、消耗品費の113万円減、消耗什器備品費の128万円減、印刷刊行費577万円減、図書資料費の281万円減等が大きい減でございます。これらはいずれも、昨年度予定いたしました各種委員会の開催が、予定よりも少なく済んだということによりまして決算額の減でございます。

次に、判定委員会費、決算額750万2137万円、予算に比べまして74万7863円の減でございますが、相互評価委員会費は1571万4562万円と、予算に比べまして453万円ほど増となっております。これは、先ほど収入で申し上げましたように、相互評価を受けられた大学が非常に増えたためによる支出増でございます。

それから、理事会評議員会費422万9362円、予算に比べまして22万9362円の増になってい

ます。

ということで、事業費全体といたしましては、予算に比べまして1223万円の減になっております。

次に、2 管理費でございますが、決算額1億323万4846円で、予算に比べまして1237万5154円の減でございます。大きいのは人件費8891万円でございます、予算に比べまして945万9578円の減でございます。これは職員2名を予定していたのですが、採用せずに欠員のまま、現状の職員で頑張ったということによる決算額の減でございます。

それから、事務費が1432万4424円、予算に比べまして291万5576円の減でございます。これは職員が節約に努めたこと等によるものでございますが、その中で建物管理費だけが予算に比べまして60万円ばかり増となっております。これは協会の建物ができて7年たちまして、冷暖房など空調関係の機械が故障したため支出が増えたことによるものです。あと、手数料と雑費が若干予算をオーバーしておりますが、トータルといたしまして予算以内で収まっております。

次に、3 固定資産取得支出でございますが、予算は200万円ですが、今年は新しい機械、備品等を買いませんでしたので、ゼロでございます。

それから、4 基本金積増支出100万円、これは予算どおりでございます。今年予算100万円を積み立てまして、今基本金といたしましてトータル3800万円積んであります。

5 番目の特定預金支出でございますが、予算どおり7100万円執行させていただきました。これは任意積立預金としてあるわけでございますが、これによりまして現在5億6082万円任意積立金が積んであります。それから退職給与引当預金支出はゼロでございます。

6 予備費は今年度使いませんでした。

以上、トータルをいたしまして、当期支出合計(C)は2億6853万1459円、予算に比べて2760万6541円の減になっています。当期収支差額(A-C)は1050万6215円マイナスとなっておりますが、前期繰越金を入れた収入との差額(B-C)が次期繰越金になるわけでございます。これは3496万4213円ということになりまして、この金額を次年度へ繰り越すということになるわけでございます。

以上でございます。

**議長(丹保会長)** どうもありがとうございます。それでは、監査報告をいただけますでしょうか。絹川先生、お願いいたします。

**絹川監事(国際基督教大学)** 去る4月13日に鈴木章夫監事と共に、平成12年度の業務及び経理について監査をいたしました結果、すべて適正妥当であることを確認しましたので、ご報告します。

**議長(丹保会長)** ありがとうございます。国際基督教大学の絹川先生と東京医科歯科大学の鈴木先生のお2人の監事から監査をいただきまして、今の報告を頂戴いたしました。

以上のような収支決算でございますが、大きく増えましたのは、相互評価で実地視察等をはじめたことにより若干増えたということと、それから、その他事務局が大変に節約に努めてくれましたということで、日常経費がずいぶん減りました。それから、本協会のあり方委員会等につきましては、ずいぶんと頻繁に会議をしたんですが、ルーチンの委員会が例年に比べて本協会のあり方検討委員会の方に委員会の精力がいったこともありまして、ちょっとそのあり方が見えるまでは動かなかったということもございまして、トータルでは若干減りました。

そんなことで、平成12年度の決算が今ご報告いたしましたように出てまいりました。何か、ご質問をいただくような事項、ございま

しょうか。

今のところ健全財政でやっておりますので、これからまた事業を拡大いたしますと、またいろいろなことの議論が次期の理事会であるように思いますが、今年の収支決算、これでお認めいただいてよろしゅうございましょうか。(拍手)

ありがとうございます。ご承認いただいたことにいたします。

### 〈日程第3 平成13年度収支予算(修正案)に関する件(第3号議案)〉

**議長(丹保会長)** それでは、その次へまいりまして、平成13年度の予算でございます。基本的には3月の評議員会でご承認をいただいておりますが、その後、この決算が出てくるまでは繰越金等を固定できませんでしたので、今日が最終の案になります。修正案につきまして、小出副会長からお願いいたします。**小出副会長(愛知学院大学)** 13年度の収支予算の修正案を説明させていただきます。

今、会長が申されましたように、12年度の決算が決まったということと、この4月1日付をもちまして、新しく維持会員・賛助会員の移動が起こったことによるものでございます。修正部分だけ申し上げます。

1ページ目、会費収入の維持費が2億1710万円と1240万円増になります。その理由は、先ほど事業計画で報告がありましたように、15大学が維持会員校になられたということによる収入増。一方、賛助費でございますが、140万円減で2680万円と修正されています。これは、14大学が維持会員のほうに移られたことによる収入減でございます。

以上によりまして、当期収入(A)は2億6747万円となりまして、1100万円増の修正とさせていただきます。前期繰越金を加えまして、当期全収入(B)3億243万4213円と修正させていただきますと思います。

支出の部でございますが、1 事業費、2 管理費、全部予算どおりで修正はいたしません。それから、3 固定資産取得支出、4 基本金積増支出も修正いたしません。

修正いたしますのは、5 特定預金支出でございますが、4600万円増の6600万円と補正をさせていただきたい。これは、先ほどの決算で出ました繰越金の増と、それからこの会費増とによるものをこちらに含めています。この特定預金は、欄外に書いてありますように、建物の改修費、新規事業等の積立等に使う目的で積み立ててあります。また下の欄外に書いてありますが、下から2つ目の基本金が3800万円、任意積立金が5億6082万円ということ。そこに今年度6600万円さらに増える予定になるわけです。

以上をもちまして、当期支出合計(C)は3億230万9000円ということになります。当期収支差額(A-C)は3483万9000円となりますが、次期繰越収支差額(B-C)でいきますと、12万5213円のプラスになるという補正予算でございます。

以上、よろしく願いいたします。

**議長(丹保会長)** ありがとうございます。前回以降、修正をいたしましたのは、維持会員校、後ほどお話しいたしますが実態は同じなのでございますが、正会員ということになります。大変嬉しいことに14校も増えました。さらに、賛助費はその賛助会員が維持会員(正会員)に移行したことによりまして若干減りましたが、トータルではメンバーに加わっていただいた学校がたくさんございますので、会員校数は減少はしておりません。その他の日常の出し入れを修正いたしましたものが、平成13年度の収支予算書という格好で今、出させていただいたものでございます。

お認めいただいでよろしゅうございませうか。もし、特段のご異論がなければご承認

いただけたということにして、先へ進ませていただきます。(拍手) ありがとうございます。

〈日程第4 「新構想の大学評価に関するアクション・プラン(その1) —『大学評価の新たな地平を切り拓く(提言)』を受けて—」に関する件(第4号議案)〉

**議長(丹保会長)** それでは、次の議題でございます、第4号議題でございます。お手元に新構想の大学評価に関するアクション・プラン(その1)というのがございます。今年度の理事会、それから本協会のあり方検討委員会等が精力を傾注した成果品の一部でございますが、主にご担当いただきました大南副会長からご説明をいただいでご判断をいただきたいと思ひます。大南先生、お願いいたします。

**大南本協会のあり方検討委員会副委員長(京都橘女子大学)** それでは、説明させていただきます。時間の関係がありますので、端折ったご説明になることをお許しいただきたいと思ひます。

本日は、賛助会員の先生方がかなりおいででございますので、賛助会員の先生方にとっては初めての文章でもございますので、多少全般的なことも述べながら、評議員会としては前回これはすでに配布済みでございますので、その後検討した項目の問題点のようなどころを中心にして説明を申し上げたいと思ひます。

表紙をめくっていただきますとそこに序が書いてございまして、この度のこのアクション・プランはサブタイトルにございますように、前回、『大学評価の新たな地平を切り拓く(提言)』を公表させていただきました。昨年5月でございます。それを受けてのアクション・プランでございます。具体的にこのアクション・プラン(その1)は、以下の内

容より構成されています。1. 加盟判定審査と相互評価のシステム改革、2. 新構想の大学評価システムにおける大学評価の単位の改革、3. 大学基準協会と学協会の評価組織の連携、4. 大学院評価の改革、5. 大学・学部と大学院における主要点検・評価項目、大学基礎データ項目の精選化・充実化策、6. 添付資料の簡素化策、これは出していただく書面審査の書類等の簡素化策、7. 新しい特別評価委員制度の導入、8. 組織体制、評価プロセスにおける外部有識者の参画、9. 法人組織における専務理事職の新設、これだけのことがこの内容に盛り込まれています。

なお、引き続きまして、異議申立審査会の創設等に示されるような大学評価の組織体制とプロセスの改革、あるいはまた大学評価活動の国際連帯と社会貢献策、それから財政政策等につきましては、「アクション・プラン(その2)」として公表の予定でございます。

そこで、内容を端折ってご説明いたします。3ページをお開きいただきます。

大学評価の単位という表題がついております。新構想の大学評価システムではどうなるのかということですが、基本的には加盟判定審査・相互評価におきまして、従来どおり大学を一つの評価単位とする考え方は踏襲させていただきます。従って、相互評価につきましても、特段の理由に基づく部局単位の評価を新設はいたしましたが、大学単位で行うことを常則といたします。3ページの(2)のところに相互評価において部局単位で評価申請を受け付ける際の留意点を書いてございます。

そこで、前回の評議員会後に、特段の理由に対する具体的な説明を加えておくべきではないかというご指摘がございましたので、3ページのところにはそこに加筆させていただきました。例えば、特色ある学部・大学院研究

科を選択あるいは先行的に相互評価の対象として申請をしてその認定を受けることをとおして、大学全体の教育研究の活性化を図る契機にしたいというケースもございましょう。あるいは、逆に、教育研究の内容や質に問題があると考えられる部局の改善・改革を促進させていく契機として、この相互評価を活用しようとする、そういう部局単位での評価申請というものがあるのではないかと、事例をそこに少し書かせていただきました。

4ページにまいりまして、その場合には、部局単位の書面審査だけではなくて、必要な範囲で評価対象を全学事項まで広げるということを含んでおります。上から4行目に「必要な範囲内で」という言葉が出てきますが、この必要な範囲内というのが、少しわかりにくいのではないかと。やはり、明示されるべきではないかということで、これは具体的にはマニュアル等で明示をさせていただきます。これは、具体的に申しますと、管理運営、財政、それから全学共通的な教育組織等がその内容として含まれます。

それから5ページを見ていただきます。大学基準協会と学協会との連携。これは先ほど会長が冒頭のところでかなりご挨拶がございました。そこで、この連携策を具体的に提言されているわけでございますが、5ページのところで、専門分野の横断的な評価を本協会が直接行うことの可能性ということがそこに書かれておりまして、これは、学協会が学的な評価を行ったものを基準協会がお受けして、それを認定するということの可否をめぐる問題で、6ページのところには、そういう全国横断型評価の結果を外部評価として検証することというのは、現状では困難ではないかという判断を、今のところアクション・プランとして明記をさせていただいております。これは、協会の主体性の問題とも関わっており

まして、そういうことにさせていただきました。

それから、7ページが大学院評価のあり方でございます、大学院評価はかなりウェートをかけて議論をいたしました。この7ページの下に(2)大学院に対する評価の単位というのがございますが、この大学単位で評価を受け付け、当該大学を「大学」として包括評価する中で、大学院研究科を評価することが常則です。しかしながら、先ほども申しましたように、特段の理由のある場合については、部局単位を評価に入れるということですから、大学院はその対象の一つになります。

ただし、8ページの上から4行目等にありますように、学部を基礎を置く大学院研究科については、それが学部の教員組織によって担われ、意思決定もそうした組織に委ねられている限りにおいて、当面単独の申請単位としては認めないということにさせていただいております。ですから、その限りでない場合は、部局単位の対象になる。例えば、専門大学院しかりであり、あるいは連合大学院、あるいは連携大学院、大学院重点大学等々でございます。

それから、10ページをお開き願います。点検・評価項目の精選化・充実化策というヘディングが出ております。ここで私どもは、この度11～12ページにわたりましてA群、B群、C群というような表記をいたしました。

A群というのは、11ページの最後の行でございます。大学もしくは学部・学科・大学院研究科等として具備することが必要不可欠であるもの、これをA群という表記をいたしました。それから、B群というのは、必須不可欠とはいえないまでも、大学もしくは学部・学科・大学院研究科等として具備することが高度に望まれるもの。これをB群というようにいたしまして、大きくはA群とB群に分け

させていただきました。

さらに、この度新しくC群として、大学もしくは学部・学科・大学院研究科等において具備することが一応望ましいとはいえ、大学の設置形態、建学の精神、理念・目的の差異や、それぞれの大学の置かれている地理的条件の違い、大学の規模、構成する学部・学科等の種類・性格の違いを考慮して、点検・評価項目として採用するかどうかは、申請者側の判断に委ねると、そういうものをC群としました。

一例を申し上げます。14ページを見ていただきます。これは大学・学部における主要点検・評価項目比較表でございます。今申しましたように、このA群というのが、主として加盟判定審査の対象になるということを明記させていただきました。それから、相互評価はA群とB群です。ただし、加盟判定審査においてはB群を、相互評価においては、C群を参照することができるようにさせていただきました。内容的にCというのは先ほどのような説明でございます。

ですから、この大学基準協会の大学評価の場合には、各大学の理念・目的等を大切にしてきた歴史がございます。従って、このA群、B群、C群のところを見てまいりますと、現行ではそういう理念・目的の適切性ということがうたわれておりましたが、B群ではその達成状況を問い、さらに、C群では例えばオプションとしていろんなものがそこに入っております。例えば目的・目標を検証する仕組みの導入状況であるとか、あるいは社会との関わりの中での見直しの状況であるとか、あるいは新しく大学そのものの健全性、モラル等を問うという、そういうC群のようなものが含まれてきたということです。

例えば、16ページを見ていただきます。これは教育研究の内容等にかかりまして、C群

の最後のところに、学生の心身の健康と保持・増進のための教育的配慮の状況。これは、実は省令によります大綱化以降、保健体育科目のあり様というものが大綱化されてきたその後の経緯を踏まえております。そういう中で、改めてC群として、学生の心身の健康の保持・増進のための教育的配慮の状況というものをに入れていくということが、前回の評議員会の原案から追加されている部分です。

それから、飛びまして37ページを見ていただきたいと思えます。「財政」に関する主要点検・評価項目の充実化でございます。実は、財政を評価する分科会を新しくつくることが具体的なアクション・プランになっております。ただし、ここに書いてございます別記1というのは、あくまで参照として例示したものでありまして、例えば、国立大学、公立大学、私立大学にそれぞれにこういう問題を問うということではございません。これはあくまで参考として例示したものでありまして、この中のいくつかを主要点検項目として採択をさせてもらったという意味では、これは資料の性格をもちます。

例えば、国・公・私立大学の共通の評価の視点として置いたものとして申しますと、①教育研究と財政の1番上。これはB群に含めたわけでありまして。ちょっと見てもらいますとわかりますように、教育研究目的・目標を具体的に実現するうえで必要な財政基盤（もしくは配分予算）の充実度というようなものを含めたわけでありまして。

それから、2つ飛びまして、中長期的な財政計画云々というこれもB群に入れました。

②外部資金というにつきましては、その2つとともにB群に含めました。

③予算の配分と執行につきましては、最初のをB群に含めました。

この予算の配分と執行についての下から2

つ目、予算執行の状況、分析評価云々ということを含めました。

④財務監査としては、アカウントビリティ云々というのをB群に、そして1つ飛びまして外部監査システムとその運用の適切性、これはB群に含めました。

それから、⑤財政公開については、A群に含めたと、そういうことでございます。

38ページを見てもらいますと、これは国立大学に固有の評価の視点であるとか、公立大学に固有の評価の視点であるとか、私立大学に固有の評価の視点等が書かれておりまして、前回の評議員会から後に、私立大学の関係者から、私学の自由性・自主性を尊重する視点からいえば、こういう評価の視点をあまり明示しないほうがいいのではないかというご意見等がございました。具体的には、このアクション・プランでは、上から5つ目、すなわち消費収支差額と帰属収支差額の関係及び消費収支差額累計額の適切性、これをA群に求めるということのみでございます。

それから、その次が63ページでございます。大学基礎データ項目というのがございます。これは、要するに大学基準協会の評価は、基本は書類審査でございます。ただし、相互評価は必ず実地調査を行うということになっております。現在すでに実地調査は行われているわけでありまして、相互評価では原則として実施いたします。しかしながら、書面審査ということも非常に重要でございます。この大学基礎データにつきまして、64ページを見ていただきたいと思えます。

先ほどA群、B群、C群の話をしたわけですが、64ページの真ん中から下ぐらいのところ、加盟判定審査・相互評価における大学基礎データ項目については、点検・評価項目とできるだけ一致させることにいたします。具体的に申しますと、A群というも

のが加盟判定審査です。それから、A群プラスB群が相互評価です。ですから、そういう形で大学基礎データ調査を策定されるということになります。

66ページ以下のところに大学基礎データ項目（全学）比較表というのがありまして、新構想の大学評価では、現行のものとういう具合に変わるかということが明示されております。ご覧いただきたいと思います。

72ページを見ていただきたいと思います。かなり整理をいたしまして、新しくつけ加えた項目もございます。例えば、国際交流というようなところは新規項目でございます。例えば、国別国際交流の締結先の機関の状況であるとか、それから人的な交流の状況、それから学生生活への配慮については、奨学金の給付状況、73ページを見てもらいますと、生活相談室の利用状況一覧というようなものも、これは新規項目として基礎データの中に含まれるということでございます。

77ページを見てもらいます。先ほどは全学対象の大学基礎データ項目でございましたが、ここは学部、大学院研究科でございます。そのところでは、例えば教育の内容方法等につきまして、新規項目がいくつか出ております。78ページもそうでございます。新規項目がいくつか出ているということをご覧いただきたいと思います。

それから、95ページを見てもらいたいと思います。大学基準協会、こういう大学の新しい評価体制を支えるための組織・機構をどう改革するかということでございまして、結論的なお話を104ページで申し上げたいと思います。

104ページが、大学基準協会組織・機構図でございまして、スター印のついているのが新設もしくは改組後の名称でございます。すなわち、上から見てまいりますと、顧問会議、

協会運営協議会、これらはアクション・プラン（その2）で明らかにさせていただき予定です。それから、専務理事職を新しく設けることになっております。この身分は専任職でございまして、本協会を本務とするということが専務理事の一つの職種になります。一応、任期は2年、正規職員でございます。3期6年を上限といたします。それから、年齢は72歳までということですが、勤務形態は非常勤的なものを含むということです。

それから、新しい分野で申しますと、従来の大学の評価あるいは企画・調査系を名称ならびに組織を変えまして、大学評価・研究部というように位置づけることにいたします。そして、そのもとに研究部長というものを置くことができることにすでに規定上なっているわけですが、これをできるだけ早い段階でつくらせていただきたいというアクション・プランです。

それから、その下に、グループが2つ、具体的な企画・調査研究系と、審査・評価系がございまして、それにそれぞれ主幹が設けられます。

特に新しい部分は、特別評価委員グループというものでして、この身分は契約職員でございまして、年次計画的に約10名規模の者を、今後、大学評価の進捗状況に照らして充足をして参ります。これは非常勤職でございますが、本協会が本務であるということがあり、本協会のこういう大学評価の経験者、あるいは大学評価に関する一つのいろいろな見識、経験をお持ちの方々をお招きします。そういう特別評価委員を新しい人事としておこしたというところが、充実した点でございます。

ですから、全体的に、先ほど小出副会長から予算のお話しがございましたが、現在私どもの協会のスタッフ数というのは、職員数は14名です。内、正規職員が9名という状況で

す。これではなかなかこれだけの改革を支える体制というのは難しいという判断から、平成14年度以降のこのアクション・プランでは、年次計画的に増員計画を具体化して、このアクション・プランに盛り込まれているわけです。

規模はだいたい40名ぐらいの規模を今のところ想定をしているということで、内正規職員も、現在の9名から12、13名の規模に増やします。それから、特別評価委員も先ほど申しましたように、10名規模というところに到達できるような規模。ですから、協会のスタッフも非常勤も含め現在の3倍近くに強化するなかで、こういう体制を考えてまいりたいということです。

このページの裏側、103ページですが、このような新構想の大学評価システムによる年間スケジュールがどのように変わるかということを見ていただきたいと思います。それを見ていただきますと、従来はだいたい5月ごろからこういう申請書類の提出期限がはじまったわけですが、この度は、少し申請資料の提出期限を早めまして3月。この段階から評価体制を確立し、分科会による評価がはじまり、主査報告書の作成が行われ、実地視察が行われ、助言・勧告作成が行われ、そして委員会における認定が行われる。そして、その間に異議申立の期間を設けさせていただくということで、最終的に理事会、評議員会、そして評価結果の最終承認を理事会が行って、認定結果の当該大学への通知というものを3月の末日に行いたい。こういう具合に大きく年間のスケジュールを変更させていただきます。

時間の関係上、以上にとどめさせていただきます。

**議長（丹保会長）** ありがとうございます。大変に膨大な仕事をやっていただいております。その前半部分についての具体的なご提

案でございます。問題といたしましては、評価項目をかなり明確にグレード分けをして表記したと、そのことによって、判断する方もされる方の側も明確な対応が可能になるだろうと、これが一つでございます。

それからもう一つは、最後に申し上げた協会の組織を若干膨らませないといけないなということです。これは収支決算に絡みますので一既には、すぐにはいきませんので、アクション・プランのその2とも絡みながら、収支予算計画とも絡みながら、次期の理事会のもとで具体的な詰めへ運ぶということでございます。

国の機構は、事務方が100人弱、それから教員が20人ぐらいでございます。100人体制でございます。とても我々のようなボランティアな組織ではそこまでのことはできませんが、やはり、20人、30人という数をいろんな形でもっていないと、具体的なことができないというのが、かなり長い議論の結果でございます。これを現実のものにするためにはもう少しご議論いただかなければならないというふうに、理事会では議論が進んでおりました。

重要なことが展開はじめておりますので、もしご質問がありましたら頂戴をして、またこのアクション・プランをお読みいただいて、具体的な段階に入るときにまたご意見を頂戴できればと思っております。

今、この瞬間でというのは大変でございますが、予稿は維持会員だけにしか送ってなかったようでございますので、今日、製本として全会員にお配りいたしました。従って、一応のご了承をいただけたら、これをもとにして次の展開に入りたいと思いますが、まだ、確定はしないで、いろんな問題についての弾力性を残しておきたいと思いますが、そんな取扱いをさせていただくことを前提にして、

このアクション・プランのその1を次の議論の重要な資料としてお認めいただいでよろしゅうございましょうか。(拍手)

ありがとうございました。大変な仕事を小委員会においてしてくださいまして、膨大な時間と労力をかけてくださいました。まことにありがとうございます。

それでは、このアクション・プランについての案件を終わります。

**議長(丹保会長)** 次へまいります。寄附行為の一部変更でございます。お手元でございますように、理事会でいろいろ議論いたしました寄附行為を文部科学省に認可をもらわなければいけませんので、変更をお願いいたしまして、この5月14日付で遠山文部科学大臣のお名前で頂戴いたしております。

内容をざっと申し上げますが、資料をご覧いただきたいと思えます。新・旧対照表という別紙がございます。

主要な事項でございますが、第3条目的の中で、この協会が「会員の自主的努力と相互的援助によって」相互でア kredィテーションをやっていくということについての部分が十分に書かれていなかったものでございますから、現実の表現を「会員の自主的努力と相互的援助」と、活動の主体がこういうものであるということを書き込ませていただきました。

そして、4条で、何をするかということがいま一つ明確に書かれておりませんでした。「法人の正会員として認定するための加盟判定審査」、これは今、維持会員とっておりますが、ここで正会員という言葉が最初に出てまいりまして、やはり正会員というのは一番わかりがいいのではないかとということで、内容としては変わりはありません。ただし、名称としては法人の正会員というふうに名前を改めさせていただきます、その認定のた

めの加盟判定審査と、そして正会員に対する相互評価と、これもあとからアクション・プランをお読みいただくとわかりますが、7年サイクルの相互評価をするということを書いておりますので、その部分について一番大きな仕事をここに明確に書かせていただいたというのが、4条の1でございます。

それから、資料・調査ということで「内外の大学に」と、国際化がかなり急速に進展しているものでございますから、3番目に「大学」を「内外の大学」と書かせていただきました。

それから、4条2項でございますが、「大学の質的向上の基準等の設定」云々と、若干わかりにくい表現でありましたものを、「この法人の会員資格にかかわる認定・相互評価」と行う行為を明確に書き改めさせていただきました。

これが、目的及び事業の第2章の変更点でございます。

それから、役員及び職員ということで、理事等々は変わりませんが、理事長という職をこの協会をもっておりましたが、理事長と会長の権限等のバッティングの問題がありまして、理事長という職をずっと置かないで会長が理事長を兼ねるという形でやってまいりました。

ただ、会長というのは私でございますが、非常勤職でございますので、なかなか細かいところまで手が回りかねておりまして、いろんな判断をするのにどうしても専務理事という者がほしいということです。ただ、理事長と違しまして、専務理事は会長、副会長の指揮を受けますので、命令系統がはっきりしているということです。ただし、専務理事でございますから理事会メンバーとして事務局長以下を指揮して事務を行うということになります。ただ、会長と理事長がいま一緒の人間

がやっておりますが、専務理事と事務局長が一緒の人間になる可能性も十分にございまして、そこらあたりの議論はまたこれからだと思っております。

2枚目にまいりまして、「専務理事は理事のうちから理事会が選任する」ということで、一応、専務理事になっていただきたい方に対しては、理事にあげるということがまず第一条件になります。

第16条では、「専務理事は会長を補佐して、法人の業務を掌理する」ということをございまして、会長を補佐するというのが専務理事の仕事でございます。

24条で、「職員は、会長が任免する」と、前は「理事長が任免する」ということになっておりまして、大変に責任体制、命令系統が不明確でありました。これは、任免は会長がするというふうに、理事長と専務理事は違うというふうなつくりをここでしております。

それから、「事務局の長は事務局長である」となっていますが、「専務理事の指示を受けて、事務局の事務を統括する」ということで、事務局に対する理事会を代表する者は専務理事であるということになります。

それから、第6章は、維持会員と正会員という名称の読み替えでございまして、基本的なつくりは今のアクション・プランでもおわかりのように、まったく変わりません。従って、正会員という形でこれから維持会員を呼ばせていただき、正会員の費用でございますから正会員費と、そして、まだ正会員にならない加盟判定審査を受けていないメンバーにつきましては賛助会員でございますから、賛助会員費というものを頂戴するということになります。ここは会員名称と費用についての明確化を図ったということでございます。

大きく変わりますのは、専務理事制を入れたということと、寄附行為の目的の中に加盟

判定審査と相互評価を入れたいということです。しかもこれは自主努力で行われますよと、いわば今までやってきたことを明確にしたというのが、この寄附行為の改正でございます。

副会長先生、どなたかからお加えいただくことありますか。よろしゅうございますか。

以上でございますが、文部科学省からご了承いただいておりますので、もし、特段のご異議がなければ、以後、この寄附行為でいきたいと思いますが、よろしゅうございましょうか。(拍手)

ありがとうございました。

それで、予定をいたしておりました議事はこれで終わりでございますが、一つ、報告がございます。お手元に封筒がいております。紙を入れるために封筒が配られておりますが、この表紙をご覧くださいますと、新しいロゴが出ております。これは武蔵野美術大学の小谷教授にお願いをいたしまして、ロゴをつくっていただきまして、理事会で何回か意見をいただきまして、結果として、この封筒のこの表面のものを基準協会のいろいろなものに使わせていただくということになりました。若干の使う場所によって大小関係がございますが、基本的に「J U A A」と書いてありますものは、J U A Aとこれを読むのでございますが、これは読めるか読めないかなんていう議論があったんですが、J U A Aと書かれておりますもので、Japan University Accreditation Association と書いてありますものを周りに置いて理解ができるというふうになっております。ご活用いただければ幸いです。

もう最後になりました。もし何かご質問やご意見などございましたら、頂戴して終りたいと思いますが、いかがでございますか。

**大塚賛助会員代表者（兵庫大学）** 賛助会員兵庫大学の代表者でございます。1点だけお尋

ねしたいのは、今度維持会員の名称を正会員としたことは結構なことだと私たちも思いますが、賛助会員という名称はそのまま残っております。ここでいう正会員というのは賛助会員の中で審査を受けて正会員になるのか、これは賛助会員というプロセスを経ずに直接にここにどこかの大学や学部が、正会員になることができるのか。この点についてご説明をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。賛助会員の権利関係等の問題です。

**議長（丹保会長）** 今、大塚先生のご質問の件ですが、まず賛助会員になっていただきます。この協会に加盟していただきます。そして、そのあとまた正会員になるための審査を受けて、二段のステップで正会員になっていただきます。従って、真っ直ぐということはないわけでございます。

**大塚賛助会員代表者（兵庫大学）** その点は、寄附行為関係の中ではどんな形で明示されておるのでしょうか。

**議長（丹保会長）** 寄附行為関係の中での明示、私はちょっと今法規全部覚えてないのですが。

**大塚賛助会員代表者（兵庫大学）** この寄附行為関係の中で、その点どうなっているかということですか。

**議長（丹保会長）** 正会員になるための加盟判定審査というのがありまして、加盟判定審査を受けることができるのは賛助会員ということを書いてあったと思いますが。

**三宅事務局長** よろしゅうございますか。現行の加盟判定審査をお受けになる場合、賛助会員での段階と、未入会からの段階と両段階で加盟判定審査を受けて、正会員になれます。

**議長（丹保会長）** 可能ですか。

**三宅事務局長** 可能でございます。

**議長（丹保会長）** 失礼しました。私、その

ケースを1回も、1つも知らないものですから、間違った答弁をしたようでございます。真っ直ぐ正会員になることも可能だそうでございます。最初の審査が正会員になるための審査ということもできる。そのようでございます。すみません。どうも不勉強でございました。

**大塚賛助会員代表者（兵庫大学）** そういうお答えでいきますと、この賛助会員の権利と関係、義務関係の問題はどういうことになるのかということ、正会員という名称と同時にこの権利・義務関係をお示し願わないと、我々として非常に困った問題だと思っておりますが、いかがでしょうか。

**議長（丹保会長）** はい、これは、判定委員会委員長のほうからご説明いただけますか。ちょっとこの会の中における評価のランクが違うのでございますが、どなたがいいのでしょうか、この説明は。相互評価委員会委員長からお話いただけますか。それとも、事務局説明できますか、ランクの違う会員であるということ。

ですから、賛助会員には誰でもなれる。誰でもというのはおかしいですが、大学であれば誰でも加盟をしていただけますが、正会員になるためには、一定の資格をクリアしなれないということになりますので、本当は全部が正会員であれば、大変に嬉しいわけでございますが、なかなか費用とそれから加盟判定審査を受けるということの段階がありますので、全員が正会員にはなかなか出来ません。従って、今、賛助会員と正会員の数がほぼ相半ばしております。

**三宅事務局長** それではただいまのご質問、賛助会員の権利や義務に関するご質問ですが、現在の寄附行為につきましては、第32条に、維持会員及び賛助会員は、この法人の刊行する会報、その他の資料の頒布を受ける。こう

いう1項目だけでございますが、その他のいろんな情報、資料等々を機会あるごとに、この評議員会はいろんな慣行に基づいて、5月には必ず賛助会員の方をお迎えして、一堂に会してご審議いただくということの過去の例から行っている。その点ぐらいでございます。**議長（丹保会長）** 大塚先生に非常にご満足いただける回答になったかどうか自信がありませんが。

**大塚賛助会員代表者（兵庫大学）** これ、私非常に気にしておりますのは、これは昨年も、一昨年も申しました。この評議員会というのは非常に重要な会だと思っておりますが、この評議員会の総会の成立要件ですが、これは実際問題からいいますと、今日も冒頭に報告がありましたように、委任状出席が過半数を占めるそういう出席状況でこの会が成立しています。非常に形式的な会合になってしまっている。それでも一応維持会員のほうはたくさん出席があって、委任状を含めると全数に近い、かなり大きな出席率で結構だと思いますが、一方賛助会員の場合は280校で校数だけでしたら維持会員の数をオーバーしております。しかし、その中でも今日の出席は36名にとどまっています。これは冒頭で報告がありました。

こういった問題が、ほとんど点検されずに、何かいいことばかり言われておるみたいな感じいたします。たしかにこの協会の個別の委員会は非常によく活動されています。ところが、どうやら、協会の活動は個別の専門委員会活動の中に埋没して、全体としてのこの基準協会の役割というものを果たしていないのではないかという課題を申し上げましたので、その点に関連しまして、この問題ももう少し、せっかくこの会合を本当に競争的な関係の中で文部科学省の官営の施設に対しまして、我々の民間と申しますか、いわゆるNGOに

匹敵するそういう基準協会であるはずなのに、そこらに関連する研究がほとんどされていない。従って、大学評価という言葉がありますが、大学基準は一体どうなっているのだと、そういった問題を危惧を感じますので、あえてこの点を申し上げたいし、協会の存立の委員会の重要なことではないかということで、あえて課題として希望を出させていただきました。

以上でございます。

**議長（丹保会長）** 伺っておきます。それで、今のお話で若干の誤解がございます。理事会がこの協会では基本的な事項を決めております。従って、理事会は正会員校からしか選ばれません。従って、この協会の基本的な事項に参画する場合には、理事会メンバーを出せる正会員になっていただくことが、一つ要件でございます。

ただ、賛助会員というのは、我々なるべく多くのメンバーで仕事をしておりますので、賛助会員というのも大事なエレメントだと考えておりますが、今、大塚先生がおっしゃったような一方的な判断では、たぶんいかなんだろうと思います。実際に具体的な作業をやっておりますのは、必ずしも正会員だけではなくて賛助会員もやっております。しかし、定款からいきますと、理事会がいろんなことを決めるということになっておりまして、評議員会の議を経てというのもありますが、理事会が最終的な決定機関であるということも、ご理解いただきたいと思います。

ただ、今大変にいろいろなお話をいただきましたので、次の理事会でこの事項を、たくさん理事の方がいらっしゃいますから聞いていただきまして、先に進めたいと思っております。賛助会員の先生方にも大変なご尽力をいただいておりますし、できるだけ審査を受けて正会員になっていただくということをお考

えいただければ、幸いです。

ほかにご意見ございませんでしょうか。もしよろしければ、今回の評議員会を終わらせていただきます。

2年間会長をさせていただきまして、いろいろとご支援いただきましてありがとうございます。私、これで退任いたします。本当にありがとうございました。大変不幸なことに放送大学は加盟しておりませんので、私がおこへ出てくるのもうちょっと時間がかかりますが、また戻ってこようと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございます。

**三宅事務局長** 長時間にわたりまして、まことにありがとうございました。

## 平 成 12 年 度 事 業 報 告

はじめに

今日、わが国の大学は、高等教育と学術研究の中心機関としての基本的使命を果たすとともに、国際化・情報化の進展する社会とこうした社会状況に個人が適切に対応していくために不可欠な生涯学習などの要請に応じ、多様で個性的な活動を展開すべく大学全般のあり方について改革を進めていくことが急務である。

また、これからの大学は、諸科学の発達や社会・経済情勢の変化にも適切に対応させつつ、各々の大学の持つ個性と特徴を十二分に発揮させるようその教育研究に創意工夫をこらし、多様な資質・個性を持つ学生を積極的に育てていく必要に迫られている。同時に、大学の社会に対する責任を履行するため、大学自身の判断と責任において教育研究水準を向上させるよう、不断に自己の組織・活動を点検し評価することが求められている。さらには、18歳人口の急減を考慮すると、高等教育への進学率が大きく上昇することに伴う今後の大学教育の質の保証のあり方が重要な検討課題であり、協会としてこれらの問題に対して具体的に対処することが、大学評価の責任主体として是非とも必要である。

今日、国・自治体における行財政改革が急速に進行する中で、公財政に支えられた大学は、アカウンタビリティの履行を視野に入れつつ、自らの組織・活動を厳正に評価し、適宜、学外者による検証を受けることが強く求められている。また、グローバリゼーションの進展に伴い、わが国大学及びそこに置かれる教育プログラムの質や国境を越えた通用性を高める上で、大学評価そのものの国際的通用力を向上させることの重要性が強く説かれている。さらに、平成10年10月の大学審議会答申の提言にも見られるような「多元的評価システム」の整備が急がれる中、平成12年4月には「大学評価・学位授与機構」が新たに発足し、評価分野も次第に競争的環境下に置かれつつある。

大学評価をめぐるそうした状況を背景に、平成12年度は、『大学評価マニュアル』に則り、前回までの大学評価の経験を活かし、第5回目の大学評価活動を行った。そして、前年度に引き続き、大学評価システムの円滑な運用の上で必要な諸条件の整備に向け、調査研究を行うとともに、コンピュータ・ネットワークシステムの整備等の具体的措置も講じた。

また、大学評価のための協会独自の基準の系統的整備を視野に入れた基準の改定作業を進めた。

さらに、前述の如く、大学評価の領域にも競争的な環境・条件が醸成されつつある中で、大学基準協会は、より客観的で精度の高い第三者評価システムを具備する評価機関へと変容すべく、そのための組織・活動の全面的見直し作業を進めた。

以上の点を踏まえ、本事業報告において、以下に示す10の項目、即ち ① 本協会による大学評価、② 諸基準の改定、③ 平成12年度の大学評価のための体制の確立、④ 大学、大学院等の評価に関する調査検討、⑤ 海外の評価機関との国際連帯、⑥ 大学基準協会の50年史の執筆、編纂、⑦ 本協会に関する広報活動、⑧ 大学審議会等への対応、⑨ コンピュータ・ネットワークシステムの整備、⑩

その他の活動、の諸項目を柱に、平成12年度に展開した協会活動を具体的に説明していくこととする。

## ① 本協会による大学評価

### (1) 加盟判定審査

平成12年度の加盟判定審査は、判定委員会とその下にある各分科会によって行われた。

判定委員会は、外間 寛（委員長、中央大学）、内田博文（副委員長、九州大学）、池間 誠（一橋大学）、石川 啓（関西大学）、大島 晃（上智大学）、大西有三（京都大学）、近藤博之（大阪大学）、佐々木嬉代三（立命館大学）、佐藤登志郎（北里大学）、白井克彦（早稲田大学）、鈴木典比古（国際基督教大学）、西川禪一（大阪工業大学）、林 良博（東京大学）、樋口龍雄（東北大学）、樋口美雄（慶應義塾大学）、船本弘毅（東京女子大学）、前出吉光（北海道大学）、茂木俊彦（東京都立大学）、茂里一紘（広島大学）、山本眞一（筑波大学）の20名の委員と石井彰三（東京工業大学）、関口正司（九州大学）、塚越幹郎（東京理科大学）、中林一樹（東京都立大学）、野村 稔（早稲田大学）、日高克平（中央大学）の6名の幹事をもって構成された。

平成12年度においては、加盟判定審査申し込み大学に対応して、判定委員会の下、6つの大学審査分科会、また、申し込み大学の専門分野に対応して、国際文化・教養学系専門審査分科会、教育学系第1専門審査分科会、教育学系第2専門審査分科会、文学系第1専門審査分科会、文学系第2専門審査分科会、法学系専門審査分科会、政治経済学系専門審査分科会、行政社会・都市情報学系専門審査分科会、経済学系第1専門審査分科会、経済学系第2専門審査分科会、経営学系専門審査分科会、工学系第1専門審査分科会、工学系第2専門審査分科会、理工学系専門審査分科会、農学系専門審査分科会、看護・医学系専門審査分科会、医療科学系専門審査分科会、薬学系専門審査分科会、家政学系専門審査分科会、体育学系専門審査分科会、及び、芸術学系専門審査分科会の21専門審査分科会が設けられた。

このうち、上記大学審査分科会の委員には、第1群では前出吉光（主査、北海道大学）、大島晃（上智大学）、佐藤登志郎（北里大学）、船本弘毅（東京女子大学）の4名、第2群では山本眞一（主査、筑波大学）、外間 寛（中央大学）、宮本美沙子（日本女子大学）、吉沢英成（甲南大学）の4名、第3群では茂里一紘（主査、広島大学）、絹川正吉（国際基督教大学）、近藤博之（大阪大学）、林 良博（東京大学）の4名、第4群では石川 啓（主査、関西大学）、池間 誠（一橋大学）、瀬在幸安（日本大学）、西川禪一（大阪工業大学）の4名、第5群では佐々木嬉代三（主査、立命館大学）、鈴木典比古（国際基督教大学）、樋口龍雄（東北大学）、茂木俊彦（東京都立大学）の4名、第6群では白井克彦（主査、早稲田大学）、内田博文（九州大学）、大西有三（京都大学）、樋口美雄（慶應義塾大学）の4名を委嘱した。

また、専門審査分科会の委員には、国際文化・教養学系では絹川正吉（主査、国際基督教大学）、橋本隆夫（神戸大学）、百瀬 宏（広島市立大学）の3名、教育学系第1では茂木俊彦（主査、東京都立大学）、石黒宣俊（愛知教育大学）、奥川義尚（京都外国語大学）の3名、教育学系第2では近藤博之（主査、大阪大学）、浪本勝年（立正大学）、横須賀 薫（宮城教育大学）の3名、文学系第1では北原保雄（主査、筑波大学）、神作光一（東洋大学）、西田 修（立教大学）の3名、文学系第2では大島 晃（主査、上智大学）、加藤晴久（恵泉女学園大学）、久保紘章（法政大学）の3名、法学系では内田博文（主査、九州大学）、納谷廣美（明治大学）、野村豊弘（学習院大学）、山

下威士（新潟大学）の4名、政治経済学系では池間 誠（主査、一橋大学）、福尾洋一（関西学院大学）、宮崎隆次（千葉大学）の3名、行政社会・都市情報学系では手島 孝（主査、元熊本県立大学）、赤塚雄三（東洋大学）、中村紀一（筑波大学）の3名、経済学系第1では樋口美雄（主査、慶應義塾大学）、江夏由樹（一橋大学）、柴田悟一（横浜市立大学）、増田壽男（法政大学）の4名、経済学系第2では吉沢英成（主査、甲南大学）、中野幸紀（関西学院大学）、服部容教（大阪市立大学）の3名、経営学系では鈴木典比古（主査、国際基督教大学）、陶山計介（関西大学）、吉原正彦（青森公立大学）の3名、工学系第1では大西有三（主査、京都大学）、赤池志郎（神奈川工科大学）、本間和明（東京電機大学）の3名、工学系第2では樋口龍雄（主査、東北大学）、大成幹彦（東京理科大学）、奥村次徳（東京都立大学）の3名、理工学系では西川禪一（主査、大阪工業大学）、赤池正巳（東京理科大学）、村上敬宜（九州大学）の3名、農学系では林 良博（主査、東京大学）、伊東 正（千葉大学）、北出俊昭（明治大学）の3名、看護・医学系では佐藤登志郎（主査、北里大学）、濱田悦子（日本赤十字看護大学）、馬淵 宏（金沢大学）、丸山知子（札幌医科大学）の4名、医療科学系では瀬在幸安（主査、日本大学）、佐藤健次（東京医科歯科大学）、渡辺 敏（北里大学）の3名、薬学系では、濱 堯夫（主査、神戸学院大学）、野村靖幸（北海道大学）、舟崎紀昭（京都薬科大学）の3名、家政学系では宮本美沙子（主査、日本女子大学）、高阪謙次（椛山女学園大学）、小見山二郎（実践女子大学）の3名、体育学系では杉岡洋一（主査、九州大学）、北森義明（順天堂大学）、渡部晴行（愛媛大学）の3名、芸術学系では神林恒道（主査、大阪大学）、潮 隆雄（広島市立大学）、小林陸一郎（京都精華大学）の3名をそれぞれ委嘱して専門審査分科会を構成した。

平成12年度加盟判定審査の申し込みのあった17大学中、審査途上において申請取り下げ申し入れのあった2大学を除く15大学について、判定委員会並びに各分科会における書類審査の後、評議員会、理事会の議を経て、次の大学がいずれも「大学基準」に適合するものと判定された。

(私立) 岐 阜 女 子 大 学  
(公立) 釧 路 公 立 大 学  
(私立) 倉 敷 芸 術 科 学 大 学  
(私立) 国 士 館 大 学  
(私立) 鈴 鹿 医 療 科 学 大 学  
(私立) 聖 学 院 大 学  
(私立) 聖 隷 クリ ス ト フ ァ ー 看 護 大 学  
(私立) 創 価 大 学  
(国立) 奈 良 教 育 大 学  
(公立) 兵 庫 県 立 看 護 大 学  
(私立) プ ー ル 学 院 大 学  
(国立) 福 島 大 学  
(私立) 名 城 大 学  
(国立) 山 梨 大 学  
(国立) 山 梨 医 科 大 学

## 計 15大学 (大学名五十音順)

### (2) 相互評価

平成12年度は、相互評価実施に先立ち、第1回相互評価委員会において、相互評価申請のあった全大学に対し、各分科会での評価終了後に、実地視察を実施すること、その他の点については昨年度の方針を踏襲することを決定した。

具体的な評価は、相互評価委員会とその下にある各分科会によって行われた。

相互評価委員会は、赤岩英夫 (委員長、群馬大学)、佐藤登志郎 (副委員長、北里大学)、石渡茂 (国際基督教大学)、稲垣康善 (名古屋大学)、大南正瑛 (京都橘女子大学)、木村靖二 (東京大学)、小西砂千夫 (関西学院大学)、佐藤東洋士 (桜美林大学)、生和秀敏 (広島大学)、多胡圭一 (大阪大学)、富田房男 (北海道大学)、長田豊臣 (立命館大学)、西川孝夫 (東京都立大学)、西澤宗英 (青山学院大学)、藤原値賀人 (大阪市立大学)、船本弘毅 (東京女子大学) 古川 顯 (京都大学)、南塚信吾 (千葉大学)、山崎勝男 (早稲田大学)、六車 明 (慶應義塾大学) の20名の委員と、阿部和厚 (北海道大学)、柴 忠義 (北里大学)、白井紘行 (群馬大学)、手塚和彰 (千葉大学)、牧野暢男 (日本女子大学)、松本芳男 (日本大学) の6名の幹事で構成された。

平成12年度においては、相互評価申し込み大学に対応して、第1群から第6群まで、6つの大学評価分科会が設置され、また、申し込み大学の専門分野に対応して、教育学系専門評価分科会、文学系第1専門評価分科会、文学系第2専門評価分科会、文学系第3専門評価分科会、文学系第4専門評価分科会、神学系専門評価分科会、国際学系第1専門評価分科会、国際学系第2専門評価分科会、国際学・外国語学系専門評価分科会、人間科学系専門評価分科会、社会福祉学系専門評価分科会、法学系第1専門評価分科会、法学系第2専門評価分科会、商学・経済学系第1専門評価分科会、商学・経済学系第2専門評価分科会、商学・経済学系第3専門評価分科会、経済学系専門評価分科会、経営学系専門評価分科会、理学系第1専門評価分科会、理学系第2専門評価分科会、工学系第1専門評価分科会、工学系第2専門評価分科会、工学系第3専門評価分科会、理工学系専門評価分科会、生命科学系専門評価分科会、農学系専門評価分科会、獣医学系専門評価分科会、水産学系専門評価分科会、医学系第1専門評価分科会、医学系第2専門評価分科会、医学・医療衛生学系専門評価分科会、看護学系専門評価分科会、歯学系専門評価分科会、薬学系第1専門評価分科会、薬学系第2専門評価分科会、薬学系第3専門評価分科会、体育学系専門評価分科会、音楽学系専門評価分科会、芸術工学系専門評価分科会、環境科学系専門評価分科会の40専門評価分科会が設けられた。

このうち、大学評価分科会の委員には、第1群では富田房男 (主査、北海道大学)、池田正澄 (京都薬科大学)、佐藤登志郎 (北里大学)、藤原値賀人 (大阪市立大学) の4名、第2群では南塚信吾 (主査、千葉大学)、石渡 茂 (国際基督教大学)、木村靖二 (東京大学)、船本弘毅 (東京女子大学) の4名、第3群では生和秀敏 (主査、広島大学)、稲垣康善 (名古屋大学)、佐川寛典 (大阪歯科大学)、六車 明 (慶應義塾大学) の4名、第4群では長田豊臣 (主査、立命館大学)、赤岩英夫 (群馬大学)、上村 洸 (東京理科大学)、山崎勝男 (早稲田大学) の4名、第5群では佐藤東洋士 (主査、桜美林大学)、中井真孝 (佛教大学)、西澤宗英 (青山学院大学)、古川 顯 (京都大学) の4名、第6群では大南正瑛 (主査、京都橘女子大学)、小西砂千夫 (関西学院大学)、多胡圭一 (大阪大学)、西川孝夫 (東京都立大学) の4名をそれぞれ委嘱した。

また、専門評価分科会の委員には、教育学系では須藤敏昭（主査、大東文化大学）、水内 宏（千葉大学）、武藤英男（群馬大学）の3名、文学系第1では木村靖二（主査、東京大学）、古川隆夫（岡山大学）、吉田謙二（同志社大学）の3名、文学系第2では鈴木康司（主査、中央大学）、出渕敬子（日本女子大学）、矢澤修次郎（一橋大学）の3名、文学系第3では中井真孝（主査、佛教大学）、鳥居邦朗（武蔵大学）、丸山幸彦（徳島大学）、本池 立（岡山大学）の4名、文学系第4では柳井道夫（主査、成蹊大学）、浅沼圭司（成城大学）、高山信雄（大正大学）、水島裕雅（広島大学）の4名、神学系では船本弘毅（主査、東京女子大学）、荒井 献（恵泉女学園大学）、ハンス ユーゲン・マルクス（南山大学）の3名、国際学系第1では志村尚子（主査、津田塾大学）、塩崎弘明（長崎純心大学）、西村幸次郎（一橋大学）の3名、国際学系第2では横川 新（主査、成城大学）、小林規威（淑徳大学）、佐藤 滋（東北大学）の3名、国際学・外国語学系では岩瀬悉有（主査、関西学院大学）、桑田禮彰（駒澤大学）、酒井 府（獨協大学）、原田松三郎（神戸市外国語大学）の4名、人間科学系では山崎勝男（主査、早稲田大学）、赤池憲昭（愛知学院大学）、清水貞夫（宮城教育大学）の3名、社会福祉学系では山崎美貴子（主査、明治学院大学）、里見賢治（大阪府立大学）、松溪憲雄（龍谷大学）の3名、法学系第1では多胡圭一（主査、大阪大学）、金子征史（法政大学）、新藤宗幸（立教大学）の3名、法学系第2では西澤宗英（主査、青山学院大学）、岡本博志（北九州大学）、関 俊彦（東北大学）、竹下 賢（関西大学）の4名、商学・経済学系第1では石渡 茂（主査、国際基督教大学）、丑山 優（九州大学）、東海幹夫（青山学院大学）、若杉隆平（横浜国立大学）の4名、商学・経済学系第2では小西砂千夫（主査、関西学院大学）、大滝精一（東北大学）、椿 弘次（早稲田大学）の3名、商学・経済学系第3では村上勝彦（主査、東京経済大学）、田村正紀（神戸大学）、藤田幸男（愛知学院大学）の3名、経済学系では古川 顯（主査、京都大学）、池宮城秀正（明治大学）、貝山道博（埼玉大学）、名城邦夫（名古屋学院大学）の4名、経営学系では小川英次（主査、中京大学）、光澤滋朗（同志社大学）、山倉健嗣（横浜国立大学）の3名、理学系第1では上村 洸（主査、東京理科大学）、斉藤 肇（姫路工業大学）、瀬川幸一（上智大学）の3名、理学系第2では児玉隆夫（主査、大阪市立大学）、橋本弘信（東京工業大学）、安岡高志（東海大学）の3名、工学系第1では西川孝夫（主査、東京都立大学）、斎藤信男（慶應義塾大学）、水谷惟恭（東京工業大学）の3名、工学系第2では藤原値賀人（主査、大阪市立大学）、安藤信好（武蔵工業大学）、平岡節郎（名古屋工業大学）の3名、工学系第3では稲垣康善（主査、名古屋大学）、坂田 勝（拓殖大学）、平尾公彦（東京大学）の3名、理工学系では小口泰平（主査、芝浦工業大学）、川井正雄（名古屋工業大学）、小林 猛（名古屋大学）、牟田泰三（広島大学）の4名、生命科学系では佐野武弘（主査、昭和薬科大学）、大倉一郎（東京工業大学）、東隆親（東京理科大学）の3名、農学系では林 良博（主査、東京大学）、伊東 正（千葉大学）、北出俊昭（明治大学）の3名、獣医学系では中村経紀（主査、麻布大学）、酒井健夫（日本大学）、宮崎 昭（京都大学）の3名、水産学系では繪面良男（主査、北海道大学）、天野良平（東海大学）、宮澤啓輔（広島大学）の3名、医学系第1では荒川正昭（主査、新潟大学）、石川紘一（日本大学）、植田規史（愛媛大学）、布施勝生（自治医科大学）の4名、医学系第2では秋野豊明（主査、札幌医科大学）、加藤治文（東京医科大学）、本田 昂（富山医科薬科大学）、森松 稔（久留米大学）の4名、医学・医療衛生学系では磯野可一（主査、千葉大学）、佐藤 剛（札幌医科大学）、板東武彦（新潟大学）、真柄直郎（東京慈恵会医科大学）の4名、看護学系では樋口康子（主査、日

本赤十字看護大学)、中島紀恵子(北海道医療大学)、野口美和子(千葉大学)、藤枝知子(東京女子医科大学)の4名、歯学系では佐川寛典(主査、大阪歯科大学)、高江洲義矩(東京歯科大学)、福田博(北海道大学)の3名、薬学系第1では葛谷昌之(主査、岐阜薬科大学)、竹口紀晃(富山医科薬科大学)、永井正博(星薬科大学)、西野武志(京都薬科大学)の4名、薬学系第2では池田正澄(主査、京都薬科大学)、井原正隆(東北大学)、遠藤豊成(共立薬科大学)、平野和行(岐阜薬科大学)の4名、薬学系第3では濱堯夫(主査、神戸学院大学)、野村靖幸(北海道大学)、舟崎紀昭(京都薬科大学)の3名、体育学系では杉岡洋一(主査、九州大学)、北森義明(順天堂大学)、渡部晴行(愛媛大学)の3名、音楽学系では植松東(主査、国立音楽大学)、佐藤幹一(東京学芸大学)、寺田兼文(東京音楽大学)の3名、芸術工学系では長尾重武(主査、武蔵野美術大学)、原直久(日本大学)、三村翰弘(筑波大学)の3名、環境科学系では六車明(主査、慶應義塾大学)、青山勳(岡山大学)の2名を、それぞれ委嘱して専門評価分科会を構成した。

平成12年度相互評価の申し込みのあった18大学について、提出された書類をもとに、各分科会において慎重に評価を行うとともに、分科会での評価終了後、全18大学に対し実地視察を実施し、その結果もあわせ、相互評価委員会で総合的に評価を行った。

以上の評価結果については、評議員会、理事会の議を経て、次の大学がいずれも「大学基準」に適合するものとして、相互評価の認定が行われた。

- (私立) 愛知大学
  - (私立) 神奈川大学
  - (国立) 金沢大学
  - (私立) 北里大学
  - (私立) 京都橘女子大学
  - (私立) 近畿大学
  - (公立) 神戸商科大学
  - (私立) 神戸女学院大学
  - (私立) 上智大学
  - (私立) 昭和大学
  - (私立) 聖路加看護大学
  - (私立) 天理大学
  - (私立) 東京薬科大学
  - (私立) 豊田工業大学
  - (国立) 長崎大学
  - (公立) 名古屋市立大学
  - (私立) 北星学園大学
  - (公立) 横浜市立大学
- 計18大学(大学名五十音順)

## ② 諸基準の改定

本年度における諸基準の改定のための検討は、主に「基準委員会」、「獣医学教育研究委員会」、「工学教育研究委員会」、「大学通信教育基準検討委員会」、「保健学系教育基準検討委員会」、「看護学教育研究委員会」によって行われてきた。

#### (1) 基準委員会

基準委員会は、栗田 健（委員長、明治大学）をはじめ、赤岩英夫（副委員長、群馬大学）、青山善充（東京大学）、有本 卓（立命館大学）、岩崎庸男（筑波大学）、江原武一（京都大学）、岡野昌雄（国際基督教大学）、國井和郎（大阪大学）、斎藤彬夫（東京工業大学）、佐々木土師二（関西大学）、白井克彦（早稲田大学）、瀬在幸安（日本大学）、手塚喬介（青山学院大学）、戸松秀典（学習院大学）、野澤秀樹（九州大学）、前出吉光（北海道大学）、馬渡尚憲（東北大学）、水林 彪（東京都立大学）、薬師寺泰蔵（慶應義塾大学）、山内惟介（中央大学）の20名の委員と田村泰彦（群馬大学）の1名の幹事をもって構成し、本年度においては、7回の委員会を開催した。

今年度においては、学士課程全体の教育研究活動のあり方を示す新たな「学士課程基準」の設定に向けた検討を行い、その原案を取りまとめた。また、「専門分野別基準」の具体的改定作業を行うための専門分野の特定作業を引き続き行い、農学系と工学系研究科の委員会設置を理事会に提言し、その承認を得た。

そして、こうした検討結果を「基準委員会報告」として取りまとめ、今後の検討課題と策定計画を示した。

#### (2) 獣医学教育研究委員会

獣医学教育研究委員会は、光岡知足（委員長、元東京大学）をはじめ、林 良博（副委員長、東京大学）、植村 興（大阪府立大学）、大橋秀法（元岐阜大学）、唐木英明（東京大学）、酒井健夫（日本大学）、品川森一（帯広畜産大学）、鈴木直義（元帯広畜産大学）、立山 晋（宮崎大学）、内藤善久（岩手大学）、原田悦守（鳥取大学）、前出吉光（北海道大学）、山根義久（東京農工大学）の13名の委員、並びに赤堀文昭（麻布大学）の1名の幹事をもって構成されている。また、委員会に課せられた事項を具体的に審議するために、当委員会の下に「獣医学教育研究委員会小委員会」が置かれている。同小委員会は、光岡知足（委員長、元東京大学）をはじめ、林 良博（副委員長、東京大学）、唐木英明（東京大学）、酒井健夫（日本大学）、鈴木直義（元帯広畜産大学）、山根義久（東京農工大学）の6名の委員、並びに赤堀文昭（麻布大学）の1名の幹事をもって構成されている。

平成12年度においては、2回の委員会と5回の小委員会が開催された。そこでは、かねてより審議を進めてきた「獣医学に関する大学院基準」の修正作業を進め、委員会としての案をほぼ完成させた（同基準については、平成13年度には基準委員会並びに理事会に議論の場を移し、できるだけ速やかにその成案を得た上で公表する運びである）。

#### (3) 工学教育研究委員会

工学教育研究委員会は、松尾 稔 担当理事（名古屋大学、任期 平成11年12月～12年10月——岡岡昭夫 前担当理事（元青山学院大学、任期 平成10年12月～11年12月）の後任）の下、古川勇二（委員長、東京都立大学）をはじめ、岡村博之（東京理科大学）、奥田宗幸（東京理科大学）、川島一彦（東京工業大学）、岸浪建史（北海道大学）、小林 猛（名古屋大学）、斎藤彬夫（東京工業大学）、斎藤信男（慶應義塾大学）、豊田国昭（北海道工業大学）、樋口龍雄（東北大学）、平岡節郎（名古屋工業大学）、平尾公彦（東京大学）、山川 宏（早稲田大学）、吉田裕一（元上智大学）の14

名の委員と奥村次徳（東京都立大学）の1名の幹事をもって構成し、今年度においては、「工学教育に関する基準」について、委員会としての最終案を取りまとめるべく、前年度に本協会維持・賛助会員校に向けて実施した「工学教育に関する基準」案に対するアンケートで示された意見をもとに、さらに検討を重ねた。そして平成12年7月27日付で「工学教育に関する基準」を決定し、国・公・私立大学及び関係機関に公表した。

#### (4) 大学通信教育基準検討委員会

大学通信教育基準検討委員会は、基準委員会の提言に基づき、マルチメディアをはじめとする情報通信技術を活用した教育等を含む「遠隔教育（distance education）」の概念を視野に入れ、現行の『大学通信教育基準』およびその解説』を改定することを目的として、平成11年9月2日開催の第373回理事会にて承認を受けて設置された委員会であり、清成忠男（委員長、法政大学）をはじめ、江澤郁子（日本女子大学）、白井克彦（早稲田大学）、宮本 晃（日本大学）、薬師寺泰蔵（慶應義塾大学）、山内惟介（中央大学）、澤登寛聡（委員兼幹事、法政大学）の7名の委員によって構成されている。

平成12年度においては、4回の委員会が開催され、大学院を含む通信教育の実践例についてのヒアリングを行うとともに、諸外国の「通信教育」や「遠隔教育」の現状とその質の維持方策に関する調査に着手した。

#### (5) 保健学系教育基準検討委員会

保健学系教育基準検討委員会は、瀬在幸安（委員長、日本大学）をはじめ、佐藤健次（東京医科歯科大学）、深井小久子（川崎医療福祉大学）、丸山知子（札幌医科大学）、丸山仁司（国際医療福祉大学）、山本洋一（鈴鹿医療科学大学）、渡辺 敏（北里大学）、小川節郎（委員兼幹事、日本大学）の8名の委員で構成されている。

平成12年度は10回の委員会が開催され、保健学系教育に関する基準の作成に向けて、検討作業が進められた。その作業にあたっては、専門分野別基準のプロトタイプとして作成された「工学教育に関する基準」を参考に、保健学系における教育研究に関する条件、学生への教育指導上並びに学生生活への配慮などの項目について、具体的に検討が行われた。また、各専攻領域毎に参考例としてモデルカリキュラムを提示すべく授業科目サンプルや履修年次推移表サンプルの検討作業も行われた。

#### (6) 看護学教育研究委員会

看護学教育研究委員会は、元本協会看護学教育研究委員会副委員長、平山朝子氏（岐阜県立看護大学）より、看護学教育及び同研究科関係基準並びに関係資料の再検討の要望に基づき、平成12年10月13日開催の第383回理事会にて承認を受けて設置された。磯野可一担当理事（千葉大学）の下、平山朝子（委員長、岐阜県立看護大学）をはじめ、石垣和子（浜松医科大学）、中西睦子（神戸市看護大学）、野口美和子（千葉大学）、樋口康子（日本赤十字看護大学）、菱沼典子（聖路加看護大学）、金川克子（委員兼幹事、石川県立看護大学）の7名の委員で構成されている。

平成12年度においては、3回の委員会が開催され、現行の看護学教育に関する基準及び同研究科分科基準並びに関連報告書の改定作業が進められた。

### ③ 平成12年度の大学評価のための体制の確立

本協会では、毎年、大学評価の内容・手続をより多くの大学関係者に理解してもらうために、「大学評価セミナー」を実施しているが、平成12年度は、より充実した内容のセミナーを4月に全国4会場で開催した。すなわち、例年実施している本協会の大学評価の意義・目的に関する協会役員の講演や、評価プロセス等に関する協会スタッフの説明、すでに大学評価を受けた大学の関係者からの報告に加え、実際に評価に携わった委員からの報告や、米国地区基準協会のアクレディテーションの実務者による講演等の内容で実施した。

また、4月には会員大学を対象としてアンケート調査を行い、平成12年度大学評価の申請を予定している大学数の把握に努めた。このアンケート結果と、これまでの経験を踏まえ、判定委員会並びに相互評価委員会の正・副委員長合同打合せ会において、平成12年度の組織体制の整備、分科会の運営等の方針を決定した。この方針に基づいて、判定委員会、相互評価委員会の下に分科会を設置した。

なお、14年度から実施が予定されている新構想の大学評価システムへの体制を整備するため、11月に、大学評価申請に関する緊急アンケートを実施した。

9月には、分科会委員を対象に評価者研修セミナーを、相互評価委員会、判定委員会それぞれ2回にわたり開催し、大学評価の趣旨とその具体的実施方法の周知を図り、分科会による審査・評価に臨んだ。

また、前年度に引き続き、大学評価を受けることを予定もしくは検討している大学等からの希望に応じて、協会の役員もしくは事務局スタッフを派遣して、個別に大学評価に関わる説明会を実施した。

#### ④ 大学、大学院等の評価に関する調査検討

大学評価をめぐる昨今の情勢を背景に、大学基準協会は、従来の大学評価システムとそれを支える協会の組織機構の全面的見直しに着手すべく、「本協会のあり方検討委員会」と同「小委員会」並びに「小委員会」委員を構成メンバーとする3つの分科会の下で、そのための検討を鋭意行い、本年5月に「大学評価の新たな地平を切り拓く（提言）」を公にした。

そして、上記提言を具体的に実行に移すためのアクション・プランの策定に向け、従来の本協会のあり方検討委員会、同小委員会の改組を行い、そこで同プランの検討を行った。

改組後の「本協会のあり方検討委員会」は、丹保憲仁（委員長、北海道大学）、大南正瑛（副委員長、京都橘女子大学）、奥島孝康（早稲田大学）、北原保雄（筑波大学）、小出忠孝（愛知学院大学）、児玉隆夫（大阪市立大学）、志村尚子（津田塾大学）、戸田修三（元中央大学）、鳥居泰彦（慶應義塾大学）、長尾 眞（京都大学）、松尾 稔（名古屋大学）、宮本美沙子（日本女子大学）の12名の委員で構成されている。

また、「本協会のあり方検討委員会小委員会」は、大南正瑛（委員長、京都橘女子大学）、赤岩英夫（群馬大学）、阿部和厚（北海道大学）、荒川正昭（新潟大学）、有本 章（広島大学）、岩瀬悉有（関西学院大学）、大西有三（京都大学）、大橋秀雄（工学院大学）、小口泰平（芝浦工業大学）、上村 洸（東京理科大学）、絹川正吉（国際基督教大学）、清成忠男（法政大学）、栗田 健（明治大学）、小出忠孝（愛知学院大学）、児玉隆夫（大阪市立大学）、野村 稔（早稲田大学）、外間 寛（中央大学）、光岡知足（元東京大学）、山本眞一（筑波大学）の19名の委員で構成されている。

また「本協会のあり方検討委員会小委員会」の任務の機動的遂行のため、活動目的に応じ、同「小委員会」委員を構成メンバーとする3つの分科会が設置された。それが、評価項目の基礎となってい

る基準や指標のあり方の調査研究を目的とした「評価項目・評価指標検討分科会」、大学評価の体制やプロセスの調査研究を目的とした「評価組織体制・プロセス等検討分科会」、大学基準協会の内部体制の改革と協会の財政強化等の検討を目的とした「組織・機構、財政検討分科会」の3分科会である。

「評価項目・評価指標検討分科会」は、栗田 健（主査、明治大学）、有本 章（広島大学）、岩瀬 有（関西学院大学）、大西有三（京都大学）、上村 洸（東京理科大学）、山本眞一（筑波大学）の6名の委員で、「評価組織体制・プロセス等検討分科会」は、外間 寛（主査、中央大学）、赤岩英夫（群馬大学）、阿部和厚（北海道大学）、小口泰平（芝浦工業大学）、絹川正吉（国際基督教大学）、野村 稔（早稲田大学）の6名の委員で、「組織・機構、財政検討分科会」は、大南正瑛（主査、京都橘女子大学）、荒川正昭（新潟大学）、清成忠男（法政大学）、小出忠孝（愛知学院大学）、児玉隆夫（大阪市立大学）の5名の委員でそれぞれ構成されている。

「本協会のあり方検討委員会」に付託された審議事項は、今後の協会活動の抜本的見直しを迫るような重要事項である点に鑑み、同委員会と理事会の合同委員会として、「本協会のあり方検討委員会拡大委員会」が設けられ、そこで、適宜、必要事項について審議が行われた（「拡大委員会」は、「本協会のあり方検討委員会」及び「理事会」の構成メンバーと同一なので、そのメンバー名はここでは省略する）。

平成12年度は、「本協会のあり方検討委員会」は1回、「本協会のあり方検討委員会小委員会」は12回、「組織・機構、財政検討分科会」は6回（うち1回は持ち回り会議）、「本協会のあり方検討委員会拡大委員会」は2回、それぞれ開催された。

以上のような作業を踏まえた委員会での本格審議の過程では、大学評価の意義・背景、評価単位、大学・学部に関わる主要点検・評価項目、大学院研究科等に関わる主要点検・評価項目、大学基礎データ項目、提出添付資料の種類、本協会と他の評価機関等との関係、協会の組織・機構の改革方策、協会の財政強化策など大学基準協会の大学評価システムとこれを支える協会の組織・機構の抜本的改革方策について広範かつ詳細な検討が行われた。そして、その検討の成果は「新構想の大学評価に関するアクション・プラン（その1）－『大学評価の新たな地平を切り拓く』を受けて」（案）として取りまとめられ、3月6日の評議員会に上程された。

また、事務局レベルにおいて、前年度に引き続き大学評価そのものの有効性を高める上で必要と考えられる資料の収集や調査検討を実施した。

なお、事務局ベースで進めてきた教育評価に関する文献調査にも一応の区切りが付き、現在、これを公的刊行物にすべくそのための準備作業を行っている。

#### ⑤ 海外の評価機関との国際連帯

大学基準協会は、本協会が実施する大学評価を国際的にピアールすべく、その活動に着手した。具体的には、平成8年に加盟した「高等教育質保証機関国際連合（INQAAHE）」の定期総会に出席し、そこで本協会の大学評価活動並びに平成14年度以降の大学評価の新たな改革方向についてプレゼンテーションを行った。また、近い将来、同国際連合に加盟する機関が参加できるような本協会主催の国際会議の開催についての検討を行った。

#### ⑥ 大学基準協会の50年史の執筆、編纂

大学基準協会の50年史の執筆、編纂作業は、これまで主として年史編纂室において行われてきた。

この年史編纂室は、寺崎昌男（主査、桜美林大学）、古屋野素材（明治大学）、田中征男（和光大学）、前田一男（立教大学）の4名の委員をもって構成されており、平成12年度は、特に劣化の進む協会資料の修復・調整作業等が行われた。

#### ⑦ 本協会に関する広報活動

本協会は、広報活動を通じて、協会の活動を内外の人々に紹介してきたが、協会の主要事業である大学評価活動をより多くの人々に理解してもらうため、「刊行物編纂委員会」を軸に「広報委員会」などが中心となり、一層充実・強化された広報活動を展開していくことが必要である。

刊行物編纂委員会は、岡田 晃（委員長、金沢経済大学）をはじめ、小出忠孝（愛知学院大学）、三宅恭二（大学基準協会）、前田早苗（同）、早田幸政（同）、工藤 潤（同）の6名の委員をもって構成され、平成12年度においては、JUA 選書第12巻『大学評価の今を読む』（仮題）の刊行について検討がなされた上、今日の大学改革の原点を探り今後の改革方向を見定めるという視点から、本協会の会長経験者の一人である戸田修三氏のこれまでの論稿を集大成したものを JUA 選書第13巻として刊行することが検討され、同2巻を刊行することが決定された。また、平成13年度以降、JUA 選書第14、15巻として『工学教育基準とその活用』（仮題）、『高等教育の判例50選』（仮題）についても検討され、刊行の合意がなされた。

『大学評価研究』編集委員会は、志村尚子（委員長、津田塾大学）をはじめ、大谷隆一（京都大学）、大南正瑛（京都橘女子大学）、國岡昭夫（元青山学院大学）、土橋信男（北星学園大学）、早田幸政（大学基準協会）の6名の委員と三宅恭二（同）の1名の幹事をもって構成され、『大学評価研究』創刊号の企画・編集について検討された。

広報委員会は、小出忠孝（委員長、愛知学院大学）をはじめ、植田康夫（上智大学）、大石準一（関西大学）、黒田千秋（東京工業大学）、瀬岡吉彦（関東学院大学）、谷口晋吉（一橋大学）、平林千牧（法政大学）の7名の委員をもって構成され、平成12年度は、『会報』第82号を刊行した。その他に、大学評価活動を会員大学の教職員に広く理解してもらうべく協会広報誌『じゅあ JUA』第25号、第26号を刊行し、また、『平成12年度大学一覧』を編集刊行した。

#### ⑧ 大学審議会等への対応

平成12年度は、文部省大学審議会より「大学入試の改善について（中間まとめ）」並びに「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について（審議の概要）」に関わる意見を聴取したい旨の要請がなされた。これに対し、理事会は、各役員の見解を聴取、集約の上、意見書を取りまとめ、同審議会へこれを提出した。

また、大学評価・学位授与機構より「平成12年度に着手する大学評価の内容・方法等について（案）」に関わる意見を聴取したい旨の要請がなされたことに対しても、理事会は、各役員の見解を聴取、集約の上、意見書を取りまとめ、同機構にこれを提出した。

#### ⑨ コンピュータ・ネットワークシステムの整備

協会の大学評価に関わるデータの蓄積、事務局の業務の効率化・合理化、さらにはインターネットを活用した国内外への情報発信を推進するために、平成9年度、「大学基準協会のコンピューターネットワークシステムの整備に関するワーキンググループ」を設置した。同ワーキンググループは、大南正瑛（主査、京都橘女子大学）をはじめ、小出忠孝（愛知学院大学）、三宅恭二（大学基準協会）、工藤 潤（同）、日永龍彦（同）の5名の委員で構成されている。

平成12年度は、協会ホームページについては、維持会員校、理事・監事名簿、刊行物一覧等の更新を行ったほか、大学評価結果（和文・英文）、審議会等への意見書、協会広報誌『じゅあ』等の情報提供を行った。また、経理業務のOA化については、平成11年度に導入された公益法人会計ソフトを本格的に稼働させた。

#### ⑩ その他の活動

大学基準協会は、先に、協会創立50周年記念事業の一環として、大学基準協会の部分的な資料公開に向けた事業展開を行った。

具体的には、公開用資料の選別を行うとともに、マイクロフィルム化された記録資料のプリントアウト及びファイリング、未製本の雑誌類の製本、原資料の劣化を防ぐためのワープロ入力等による複製の作成等の作業を行った。

別 掲 ( 2 )

第 2 号 議 案

(13. 5. 18)

平成12年度収支決算書類

収 支 計 算 書

平成12年 4 月 1 日から平成13年 3 月31日まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I 収入の部				
1 基本財産運用収入	[ 300,000]	[ 111,070]	[ 188,930]	
基本財産利息収入	300,000	111,070	188,930	
2 会費収入	[ 231,000,000]	[ 232,900,000]	[△ 1,900,000]	大学 35万円×247大学=8,645万円 学 部 10万円×875学部=8,750万円 二部・夜間主コース 5万円×147学部= 735万円 大学院 10万円×234大学=2,340万円 大学 10万円×282大学=2,820万円
維持費	204,700,000	204,700,000	0	
賛助費	26,300,000	28,200,000	△ 1,900,000	
3 基本判定・評価費収入	[ 14,600,000]	[ 16,350,000]	[△ 1,750,000]	
加盟判定審査費	6,700,000	7,100,000	△ 400,000	
相互評価費	7,900,000	9,250,000	△ 1,350,000	
4 刊行物実費収入	[ 700,000]	[ 3,304,999]	[△ 2,604,999]	
刊行物実費収入	700,000	3,304,999	△ 2,604,999	
5 雑収入	[ 4,250,000]	[ 4,641,608]	[△ 391,608]	
受取利息(一般口)	500,000	87,755	412,245	
受取利息(特定口)	3,680,000	3,863,297	△ 183,297	
雑収入	70,000	690,556	△ 620,556	
6 特定預金取崩収入	[ 0]	[ 717,567]	[△ 717,567]	
任意積立預金取崩収入	0	0	0	
退職給与引当預金取崩収入	0	717,567	△ 717,567	
当期収入合計(A)	250,850,000	258,025,244	△ 7,175,244	
前期繰越収支差額	45,470,428	45,470,428	0	
収入合計(B)	296,320,428	303,495,672	△ 7,175,244	
II 支出の部				
1 事業費	[ 105,528,000]	[ 93,296,613]	[ 12,231,387]	
調査研究費	( 82,100,000)	( 65,850,552)	( 16,249,448)	
調査費	13,000,000	9,683,164	3,316,836	
研究会合費	4,500,000	4,319,618	180,382	
旅費交通費	19,000,000	17,824,585	1,175,415	
通信運搬費	8,000,000	7,692,477	307,523	
消耗品費	6,000,000	4,860,080	1,139,920	
消耗什器備品費	1,400,000	116,529	1,283,471	

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
修 繕 費	700,000	441,000	259,000	
印 刷 刊 行 費	22,000,000	16,229,295	5,770,705	
図 書 資 料 費	7,500,000	4,683,804	2,816,196	
判 定 委 員 会 費	( 8,250,000)	( 7,502,137)	( 747,863)	
相 互 評 価 委 員 会 費	( 11,178,000)	( 15,714,562)	(△ 4,536,562)	
理 事 会 評 議 員 会 費	( 4,000,000)	( 4,229,362)	(△ 229,362)	
2 管 理 費	[ 115,610,000]	[ 103,234,846]	[ 12,375,154]	
人 件 費	( 98,370,000)	( 88,910,422)	( 9,459,578)	
俸 給	90,000,000	80,845,159	9,154,841	
法 定 福 利 費	8,370,000	7,347,696	1,022,304	
退 職 金	0	717,567	△ 717,567	
事 務 費	( 17,240,000)	( 14,324,424)	( 2,915,576)	
福 利 厚 生 費	300,000	78,810	221,190	
旅 費 交 通 費	2,640,000	1,612,140	1,027,860	
通 信 運 搬 費	500,000	198,095	301,905	
建 物 管 理 費	5,500,000	6,104,280	△ 604,280	
消 耗 品 費	600,000	88,625	511,375	
消 耗 什 器 備 品 費	100,000	0	100,000	
光 熱 水 料	3,500,000	2,970,121	529,879	
修 繕 費	1,000,000	495,810	504,190	
火 災 保 險 料	20,000	18,540	1,460	
手 数 料	450,000	546,273	△ 96,273	
涉 外 費	250,000	218,650	31,350	
表 彰 費	600,000	100,000	500,000	
租 税 公 課	280,000	241,600	38,400	
雑 費	1,500,000	1,651,480	△ 151,480	
3 固 定 資 産 取 得 支 出	[ 2,000,000]	[ 0]	[ 2,000,000]	
什 器 備 品 費	2,000,000	0	2,000,000	
4 基 本 金 積 増 支 出	[ 1,000,000]	[ 1,000,000]	[ 0]	
基 本 金 投 資 有 価 証 券 購 入 支 出	1,000,000	1,000,000	0	
5 特 定 預 金 支 出	[ 71,000,000]	[ 71,000,000]	[ 0]	
任 意 積 立 預 金 支 出	71,000,000	71,000,000	0	
退 職 給 与 引 当 預 金 支 出	0	0	0	
6 予 備 費	[ 1,000,000]	[ 0]	[ 1,000,000]	
予 備 費	1,000,000	0	1,000,000	
当 期 支 出 合 計 (C)	296,138,000	268,531,459	27,606,541	
当 期 収 支 差 額 (A - C)	△ 45,288,000	△ 10,506,215	△ 34,781,785	
次 期 繰 越 収 支 差 額 (B - C)	182,428	34,964,213	△ 34,781,785	

## 正味財産増減計算書

平成12年4月1日から平成13年3月31日まで

(単位：円)

科 目	金 額	
I 増加の部		
1 資産増加額		
基本金積増額	1,000,000	
什器備品購入額	0	
退職給与引当預金増加額	0	
任意積立預金増加額	71,000,000	72,000,000
2 負債減少額		
退職給与引当金取崩額	717,567	717,567
増加額合計		72,717,567
II 減少の部		
1 資産減少額		
当期収支差額	10,506,215	
建物減価償却額	13,259,808	
図書(書籍)減価償却額	858,173	
什器備品減価償却額	2,936,850	
退職給与引当金取崩額	717,567	28,278,613
2 負債増加額		
退職給与引当金繰入額	0	
任意積立金繰入額	71,000,000	71,000,000
減少額合計		99,278,613
当期正味財産減少額		26,561,046
前期繰越正味財産額		2,747,934,272
期末正味財産合計額		2,721,373,226

## 貸借対照表

平成13年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	255,544		
預金 5口	33,010,396		
未収金	1,750,000		
流動資産合計		35,015,940	
2 固定資産			
(1) 投資有価証券	38,000,000		
基本財産合計	38,000,000		
(2) その他の固定資産			
土地	1,800,000,000		
建物	828,001,344		
保証金(契約警備分)	29,000		
電話加入権	58,300		
図書	9,917,249		
什器備品	10,403,120		
退職給与引当預金	39,831,001		
年史刊行積立預金	13,000,000		
任意積立預金	560,820,000		
その他の固定資産合計	3,262,060,014		
固定資産合計		3,300,060,014	
資産合計			3,335,075,954
II 負債の部			
1 流動負債			
預り金	51,727		
流動負債合計		51,727	
2 固定負債			
退職給与引当金	39,831,001		
年史刊行積立金	13,000,000		
任意積立金	560,820,000		
固定負債合計		613,651,001	
負債合計			613,702,728
III 正味財産の部			
正味財産			2,721,373,226
(うち基本金)			( 38,000,000)
(うち当期正味財産減少額)			( 26,561,046)
負債及び正味財産合計			3,335,075,954

## 計算書類に対する注記

### 1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

投資有価証券……総平均法による原価基準を採用している。

(2) 固定資産の減価償却等について

什器備品……定額法による減価償却法を実施している。

図書……定額法による減価償却法を実施している。

(3) 引当金の計上基準について

退職給与引当金……原則として、期末退職給与の要支給額に相当する金額を計上している。

(4) 資金の範囲について

資金の範囲には、現金、預金及び預り金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記3に記載のとおりである。

### 2. 基本財産の増減及びその残高は次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
投資有価証券	37,000,000	1,000,000	0	38,000,000

### 3. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期末残高
現金・預金	43,807,974	33,265,940
未収金	1,700,000	1,750,000
合計	45,507,974	35,015,940
預り金	37,546	51,727
次期繰越収支差額	45,470,428	34,964,213

### 4. 固定資産の取得価格・減価償却累計額及び当期末残高は次のとおりである。

(単位：円)

科目	取得価格	減価償却累計額	当期末残高
土地	1,800,000,000	0	1,800,000,000
建物(RC)	920,820,000	92,818,656	828,001,344
什器備品	32,773,438	22,370,318	10,403,120
図書	27,205,409	17,288,160	9,917,249
合計	2,780,798,847	132,477,134	2,648,321,713

# 財 産 目 録

平成13年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額	金 額	金 額
(資産の部)			
I 流動資産			
1 現金・預金			
(1) 現金 現金手許有高	255,544		
(2) 普通預金 (東京三菱銀行市ヶ谷支店)	7,272,029		
(3) 通知預金 (           "           )	0		
(4) 定期預金 (自由金利)(       "       )	10,000,000		
(5) 郵便振替貯金	0		
(6) 金銭信託 (中央三井信託銀行新宿西口支店)	316,433		
(7) 普通預金 (           "           )	2,051,934		
(8) 定期預金 (           "           )	13,370,000		
現金・預金合計	33,265,940		
2 未収金	1,750,000		
流動資産合計		35,015,940	
II 固定資産			
1 基本財産			
(1) 投資有価証券 (中央三井信託銀行新宿西口支店)			
基本財産合計	38,000,000		
2 その他の固定資産			
(1) 土地	1,800,000,000		
(2) 建物	828,001,344		
(3) 保証金 建物契約警備分	29,000		
(4) 電話加入権	58,300		
(5) 図書	9,917,249		
(6) 什器備品	10,403,120		
(7) 貸付信託 (中央三井信託銀行新宿西口支店)	39,810,000		
(8) 普通預金 (           "           ) (退職給与引当分計)	( 39,831,001)		
(9) 定期預金 (中央三井信託銀行新宿西口支店) (年史刊行費積立分)	13,000,000		
(10) 貸付信託 (中央三井信託銀行新宿西口支店) (任意積立分)	67,200,000		
(11) 定期預金 (中央三井信託銀行新宿西口支店) (任意積立分計)	493,620,000 ( 560,820,000)		
その他の固定資産合計	3,262,060,014		
固定資産合計		3,300,060,014	
資産合計			3,335,075,954
(負債の部)			
I 流動負債			
預り金	51,727		
流動負債合計		51,727	
II 固定負債			
1 退職給与引当金	39,831,001		
2 年史刊行積立金	13,000,000		
3 任意積立金	560,820,000		
固定負債合計		613,651,001	
負債合計		613,702,728	
正味財産			2,721,373,226

(写)

監 査 報 告

平成12年度の業務および経理について監査の結果、すべて適正妥当なるものと認める。

平成13年 4 月13日

財団法人 大学基準協会

監 事 絹 川 正 吉 ㊟  
監 事 鈴 木 章 夫 ㊟

別 掲 ( 2 )

第 3 号 議 案

(13. 5.18)

平成13年度収支予算書 (修正案)  
平成13年 4 月 1 日から平成14年 3 月31日まで

(単位：円)

科 目	修正予算額	予算額	増 △ 減	備 考
I 収入の部				
1 基本財産運用収入	[ 300,000]	[ 300,000]	[ 0]	
基本財産利息収入	300,000	300,000	0	
2 会費収入	[ 243,900,000]	[ 232,900,000]	[ 11,000,000]	
維持費	217,100,000	204,700,000	12,400,000	{ 大 学 35万円×262大学=9,170万円 学 部 10万円×927学部=9,270万円 二部・夜間主コース 5万円×156学部= 780万円 大学院 10万円×249大学=2,490万円 { 大 学 10万円×268大学=2,680万円
賛助費	26,800,000	28,200,000	△ 1,400,000	
3 基本判定・評価費収入	[ 18,700,000]	[ 18,700,000]	[ 0]	判：30万円×17大学=510万円 5万円×41学部=205万円 715万円
加盟判定審査費	7,150,000	7,150,000	0	
相互評価費	11,550,000	11,550,000	0	相：30万円×22大学=660万円 5万円×99学部=495万円 1,155万円
4 刊行物実費収入	[ 700,000]	[ 700,000]	[ 0]	
刊行物実費収入	700,000	700,000	0	
5 雑収入	[ 3,870,000]	[ 3,870,000]	[ 0]	
受取利息 (一般口)	100,000	100,000	0	
受取利息 (特定口)	3,700,000	3,700,000	0	
雑収入	70,000	70,000	0	
6 特定預金取崩収入	[ 0]	[ 0]	[ 0]	
任意積立預金取崩収入	0	0	0	
退職給与引当預金取崩収入	0	0	0	
当期収入合計 (A)	267,470,000	256,470,000	11,000,000	
前期繰越収支差額	34,964,213	182,428	34,781,785	
収入合計 (B)	302,434,213	256,652,428	45,781,785	
II 支出の部				
1 事業費	[ 121,269,000]	[ 121,269,000]	[ 0]	
調査研究費	( 78,200,000)	( 78,200,000)	( 0)	
調査費	13,000,000	13,000,000	0	
研究会合費	4,500,000	4,500,000	0	
旅費交通費	15,000,000	15,000,000	0	
通信運搬費	8,500,000	8,500,000	0	
消耗品費	6,000,000	6,000,000	0	
消耗什器備品費	1,000,000	1,000,000	0	

科 目	修正予算額	予算額	増 △ 減	備 考
修繕費	700,000	700,000	0	
印刷刊行費	22,000,000	22,000,000	0	
図書資料費	7,500,000	7,500,000	0	
判定委員会費	( 16,949,000)	( 16,949,000)	( 0)	判：17大学41学部
相互評価委員会費	( 22,120,000)	( 22,120,000)	( 0)	相：22大学99学部
理事会評議員会費	( 4,000,000)	( 4,000,000)	( 0)	
2 管理費	[ 111,040,000]	[ 111,040,000]	[ 0]	
人件費	( 94,000,000)	( 94,000,000)	( 0)	
俸 給	87,000,000	87,000,000	0	
法定福利費	7,000,000	7,000,000	0	
退職金	0	0	0	
事務費	( 17,040,000)	( 17,040,000)	( 0)	
福利厚生費	300,000	300,000	0	
旅費交通費	2,640,000	2,640,000	0	
通信運搬費	500,000	500,000	0	
建物管理費	5,500,000	5,500,000	0	
消耗品費	600,000	600,000	0	
消耗什器備品費	100,000	100,000	0	
光熱水料	3,500,000	3,500,000	0	
修繕費	1,000,000	1,000,000	0	
火災保険料	20,000	20,000	0	
手数料	450,000	450,000	0	
渉外費	250,000	250,000	0	
表彰費	400,000	400,000	0	
租税公課	280,000	280,000	0	
雑 費	1,500,000	1,500,000	0	
3 固定資産取得支出	[ 2,000,000]	[ 2,000,000]	[ 0]	(コンピュータ関係機器備品、機器備品の新規交換用他)
什器備品費	2,000,000	2,000,000	0	
4 基本金積増支出	[ 1,000,000]	[ 1,000,000]	[ 0]	(基本金積立て)
基本金投資有価証券				
購入支出	1,000,000	1,000,000	0	
5 特定預金支出	[ 66,000,000]	[ 20,000,000]	[ 46,000,000]	(建物改修費、新規事業費等の積立て)
任意積立預金支出	66,000,000	20,000,000	46,000,000	
退職給与引当預金支出	0	0	0	(目標額に近づいたことで0円計上)
6 予備費	[ 1,000,000]	[ 1,000,000]	[ 0]	
予備費	1,000,000	1,000,000	0	
当期支出合計 (C)	302,309,000	256,309,000	46,000,000	
当期収支差額 (A-C)	△ 34,839,000	△ 161,000	△ 35,000,000	
次期繰越収支差額 (B-C)	125,213	343,428	△ 218,215	

(注) 1 借入限度額 0円  
2 債務負担額 0円

(参考)

科 目	13年4月現在	13年度繰入予算
基 本 金	3,800万円	100万円
任 意 積 立 金	56,082万円	6,600万円
退職給与引当預金	3,983万円	0円

## 財団法人大学基準協会寄附行為 新・旧対照表

一 部 変 更 箇 所	
新 (傍線の部分)	旧
<p><b>第 2 章 目的及び事業</b></p> <p>第 3 条 この法人は、内外の大学に関する調査研究を行い、<u>会員の自主的努力と相互的援助によって</u>、わが国における大学の質的向上を図るとともに、大学教育の国際的協力を貢献することを目的とする。</p> <p>第 4 条</p> <p>一、<u>法人の正会員として認定するための加盟判定審査と正会員に対する相互評価</u></p> <p>二、大学の質的向上のための大学基準等の設定及び改善とその活用</p> <p>三、<u>内外の大学に関する資料の調査及び研究</u></p> <p>四、大学教育改善のための助言援助並びに情報の提供</p> <p>五、大学の質的向上に必要な研究会及び協議会等の開催</p> <p>六、大学教育に関する国際間の情報の交換並びに協力</p> <p>七、大学教育に関する資料の刊行</p> <p>八、その他目的を達成するために必要な事業</p> <p>2. <u>この法人の会員資格に関わる認定・相互評価</u>、大学の質的向上のための大学基準等の設定及び改善とその活用に関する規程は、別に定める。</p>	<p><b>第 2 章 目的及び事業</b></p> <p>第 3 条 この法人は、内外の大学に関する調査研究を行い、わが国における大学の質的向上を図るとともに、大学教育の国際的協力を貢献することを目的とする。</p> <p>第 4 条</p> <p>一、大学に関する内外の資料の調査及び研究</p> <p>二、大学の質的向上のための大学基準等の設定及び改善とその活用</p> <p>三、大学教育改善のための助言援助並びに情報の提供</p> <p>四、大学の質的向上に必要な研究会及び協議会等の開催</p> <p>五、大学教育に関する国際間の情報の交換並びに協力</p> <p>六、大学教育に関する資料の刊行</p> <p>七、その他目的を達成するために必要な事業</p> <p>2. 大学の質的向上のための大学基準等の設定及び改善とその活用に関する規程は、別に定める。</p>

<p><b>第4章 役員及び職員</b></p> <p>第14条 この法人に、次の役員をおく。  理事30名以上35名以内  (うち会長1名、副会長6名、<u>専務理事</u>1名)  監事2名</p> <p>第15条  3. <u>専務理事</u>は、理事のうちから理事会が選任する。</p> <p>第16条  3. <u>専務理事</u>は、(削除)会長を補佐してこの法人の業務を掌理する。</p> <p>第24条  2. 職員は、会長が任免する。  4. 事務局の長は事務局長とし、<u>専務理事</u>の指示を受け、事務局の事務を統轄する。</p> <p><b>第6章 正会員及び賛助会員</b></p> <p>第30条 この法人に、<u>正会員</u>及び賛助会員をおく。  2. <u>正会員</u>及び賛助会員に関する規程は、別に定める。</p> <p>第31条 <u>正会員</u>及び賛助会員は、別に定める規程により<u>正会員費</u>及び<u>賛助会員費</u>を納付しなければならない。</p> <p>第32条 <u>正会員</u>及び賛助会員は、この法人の刊行する会報その他の資料の頒布を受ける。</p>	<p><b>第4章 役員及び職員</b></p> <p>第14条 この法人に、次の役員をおく。  理事30名以上35名以内  (うち会長1名、副会長6名、理事長1名)  監事2名</p> <p>第15条  3. 理事長は、理事のうちから理事会が選任する。</p> <p>第16条  3. 理事長は、会長の定めるところにより、この法人を代表し、会長を補佐してこの法人の業務を掌理する。</p> <p>第24条  2. 職員は、理事長が任免する。  4. 事務局の長は事務局長とし、理事長の指示を受け、事務局の事務を統轄する。</p> <p><b>第6章 維持会員及び賛助会員</b></p> <p>第30条 この法人に、<u>維持会員</u>及び賛助会員をおく。  2. <u>維持会員</u>及び賛助会員に関する規程は、別に定める。</p> <p>第31条 <u>維持会員</u>及び賛助会員は、別に定める規程により維持費及び賛助費を納付しなければならない。</p> <p>第32条 <u>維持会員</u>及び賛助会員は、この法人の刊行する会報その他の資料の頒布を受ける。</p>
---	--

附則

この寄附行為は、平成13年5月18日から施行する。

その他の条項は、変更がないので、省略し、現行の寄附行為を添付します。

# 会 員 名 簿

## 1. 正 会 員

(平成13. 9. 3現在)

(登録年順に基づく五十音順)

国 公 私	大 学 名	登 録 年	学 部 名	協 会 に 対 す る 代 表 者 名	大 学 所 在 地
1 国	大 阪 大 学	昭27	文、人間科学、法、経、理、医、歯、薬、工、基礎工	岸 本 忠 三	吹田市山田丘1-1 〒565-0871
2 公	大 阪 市 立 大 学	27	商一、商二、経一、経二、法一、法二、文一、文二、理、工、医、生活科学	児 玉 隆 夫	大阪市住吉区杉本3-3-138 〒558-8585
3 私	大 谷 大 学	27	文	小 川 一 乘	京都市北区小山上総町 〒603-8143
4 国	岡 山 大 学	27	文、教育、法一、法二、経一、経二、理、医、歯、薬、工、環境理工、農	河 野 伊 一 郎	岡山市津島中1-1-1 〒700-8530
5 国	金 沢 大 学	27	文、教育、法、経、理、医、薬、工	林 勇 二 郎	金沢市角間町 920-1192
6 私	関 西 大 学	27	法一、法二、文一、文二、経一、経二、商一、商二、社会一、社会二、総合情報、工	永 田 眞 三 郎	吹田市山手町3-3-35 〒564-8680
7 私	関 西 学 院 大 学	27	神、文、社会、法、経、商、理、総合政策	今 田 寛	西宮市上ヶ原一番町1-155 〒662-8501
8 国	九 州 大 学	27	文、教育、法、経、理、医、歯、薬、工、農	杉 岡 洋 一	福岡市東区箱崎6-10-1 〒812-8581
9 国	京 都 大 学	27	総合人間、文、教育、法、経、理、医、薬、工、農	長 尾 真	京都市左京区吉田本町 〒606-8501
10 国	熊 本 大 学	27	文、教育、法、理、医、薬、工	江 口 吾 朗	熊本市黒髪2-39-1 〒860-8555
11 私	慶 應 義 塾 大 学	27	文、経、法、商、医、理工、総合政策、環境情報、看護医療	安 西 祐 一 郎	東京都港区三田2-15-45 〒108-8345
12 国	神 戸 大 学	27	文、国際文化、発達科学、法、経、経営、理、医、工、農	野 上 智 行	神戸市灘区六甲台町1-1 〒657-8501
13 私	國 學 院 大 学	27	文一、文二、経、法	阿 部 美 哉	東京都渋谷区東4-10-28 〒150-8440
14 私	上 智 大 学	27	神、文、法、経、外国語、比較文化、理工	ウイリアム・カリ	東京都千代田区紀尾井町7-1 〒102-8554
15 国	千 葉 大 学	27	文、教育、法、経、理、医、薬、看護、工、園芸	磯 野 可 一	千葉市稲毛区弥生町1-33 〒263-8522
16 私	中 央 大 学	27	法、経、商、理工、文一、文二、総合政策	鈴 木 康 司	八王子市東中野742-1 〒192-0393
17 国	東 京 大 学	27	教養、文、教育、法、経、理、医、薬、工、農	小 間 篤	東京都文京区本郷7-3-1 〒113-8654
18 国	東 京 工 業 大 学	27	理、工、生命理工	内 藤 喜 之	東京都目黒区大岡山2-12-1 〒152-8550
19 私	東 京 慈 恵 会 医 科 大 学	27	医	栗 原 敏	東京都港区西新橋3-25-8 〒105-8461
20 私	東 京 農 業 大 学	27	応用生物科学、地球環境科学、国際食料情報、生物産業、農	松 田 藤 四 郎	東京都世田谷区桜丘1-1-1 〒156-8502
21 私	同 志 社 大 学	27	神、文、法、経、商、工	八 田 英 二	京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町601 7602-8580
22 国	東 北 大 学	27	文、教育、法、経、理、医、歯、薬、工、農	阿 部 博 之	仙台市青葉区片平2-1-1 〒980-8577
23 国	長 崎 大 学	27	教育、経、医、歯、薬、工、環境科学、水産	池 田 高 良	長崎市文教町1-14 〒852-8521
24 国	名 古 屋 大 学	27	文、教育、法、経、情報文化、理、医、工、農	松 尾 稔	名古屋市千種区不老町 〒464-8601
25 国	新 潟 大 学	27	人文、教育人間科学、法、経、理、医、歯、工、農	荒 川 正 昭	新潟市五十嵐二の町8050 〒950-2181

	国 公 私 別	大 学 名	登 録 年	学 部 名	協 会 に 対 す る 代 表 者 名	大 学 所 在 地
26	私	日 本 大 学	昭27	法一、法二、文理、経一、経二、商、芸術、国際関係、理工、生産工、工、医、歯、松戸歯、生物資源科学、薬	瀬 在 幸 安	東京都千代田区九段南4-8-24 〒102-0074
27	私	日本医科大学	27	医	浅 野 伍 朗	東京都文京区千駄木1-1-5 〒113-8602
28	国	一 橋 大 学	27	法、社会、経、商	石 弘 光	国立市中2-1 〒186-8601
29	国	広 島 大 学	27	総合科学、文、教育、法、経、理、医、歯、工、生物生産	牟 田 泰 三	東広島市鏡山1-3-2 〒739-8511
30	私	法 政 大 学	27	法一、法二、文一、文二、経一、経二、工、社会一、社会二、経営、国際文化、人間環境、現代福祉、情報科学	清 成 忠 男	東京都千代田区富士見2-17-1 〒102-8160
31	国	北 海 道 大 学	27	文、教育、法、経、理、医、歯、薬、工、農、獣医、水産	中 村 睦 男	札幌市北区北八条西五丁目 〒060-0808
32	私	明 治 大 学	27	法一、法二、商一、商二、政治経済一、政治経済二、文一、文二、理工、農、経営	栗 田 健	東京都千代田区神田駿河台1-1 〒101-8301
33	私	立 教 大 学	27	文、経、理、社会、法、観光、コミュニティ福祉	大 橋 英 五	東京都豊島区西池袋3-34-1 〒171-8501
34	私	立 命 館 大 学	27	法、経、経営、産業社会、文、理工、国際関係、政策科学	長 田 豊 臣	京都市北区等持院北町56-1 〒603-8577
35	私	龍 谷 大 学	27	文、経、経営、法、理工、社会、国際文化	上 山 大 峻	京都市伏見区深草塚本町67 〒612-8577
36	私	早 稲 田 大 学	27	政治経済、法、一文、二文、教育、商、理工、社会科学、人間科学	奥 島 孝 康	東京都新宿区西早稲田1-6-1 〒169-8050
37	私	千 葉 工 業 大 学	28	工、情報科学、社会システム科学	宇 野 英 隆	習志野市津田沼2-17-1 〒275-8588
38	私	東 洋 大 学	28	文一、文二、経一、経二、法一、法二、社会一、社会二、工、経営一、経営二、国際地域、生命科学	神 田 道 子	東京都文京区白山5-28-20 〒112-8606
39	私	久 留 米 大 学	29	文、法、経、商、医	平 野 実	久留米市旭町67 〒830-0011
40	私	昭 和 大 学	29	医、歯、薬	細山田 明 義	東京都品川区旗の台1-5-8 〒142-8555
41	公	岐 阜 薬 科 大 学	30	薬	葛 谷 昌 之	岐阜市三田洞東5-6-1 〒502-8585
42	私	神 戸 女 学 院 大 学	30	文、音楽、人間科学	原 田 園 子	西宮市岡田山4-1 〒662-8505
43	私	専 修 大 学	30	経一、経二、法一、法二、経営、商一、商二、文、ネットワーク情報	出 牛 正 芳	東京都千代田区神田神保町3-8-1 〒101-8425
44	私	東 京 女 子 大 学	30	文理、現代文化	船 本 弘 毅	東京都杉並区善福寺2-6-1 〒167-8585
45	私	同 志 社 女 子 大 学	30	学芸、生活科学、現代社会	森 田 潤 司	京田辺市興戸南鋒立97-1 〒610-0395
46	私	南 山 大 学	32	文、外国語、経、経営、法、総合政策、数理情報	ハンス ユーゲン・マルクス	名古屋市昭和区山里町18 〒466-8673
47	私	東 京 歯 科 大 学	35	歯	石 川 達 也	千葉市美浜区真砂1-2-2 〒261-8502
48	私	明 治 学 院 大 学	37	文、文二、経、経二、社会、法、国際	脇 田 良 一	東京都港区白金台1-2-37 〒108-8636
49	私	愛 知 大 学	38	文、経一、国際コミュニケーション、経二、法一、法二、経営、現代中国	武 田 信 照	豊橋市町畑町字畑1-1 〒441-8522
50	私	麻 布 大 学	38	獣医、環境保健	中 村 経 紀	相模原市淵野辺1の17の71 〒229-8501
51	私	岩 手 医 科 大 学	38	医、歯	小 野 繁	盛岡市内丸19-1 〒020-8505
52	私	関 西 医 科 大 学	38	医	日 置 紘 士 郎	守口市文園町10-15 〒570-8506

国 公 私 別	大 学 名	登 録 年	学 部 名	協 会 に 対 す る 代 表 者 名	大 学 所 在 地
53 私	近 畿 大 学	昭38	法一、法二、商経一、商経二、理工一、理工二、薬、文芸、農、医、生物理工、工、九州工	野 田 起一郎	東大阪市小若江3-4-1 〒577-8502
54 国	群 馬 大 学	38	教育、社会情報、医、工	赤 岩 英 夫	前橋市荒牧町4-2 〒371-8510
55 私	国 際 基 督 教 大 学	38	教養	絹 川 正 吉	三鷹市大沢3-10-2 〒181-8585
56 私	順 天 堂 大 学	38	医、スポーツ健康科学	小 川 秀 興	東京都文京区本郷2-1-1 〒113-8421
57 私	聖 心 女 子 大 学	38	文	山 縣 喜 代	東京都渋谷区広尾4-3-1 〒150-8938
58 国	東 京 医 科 歯 科 大 学	38	医、歯	鈴 木 章 夫	東京都文京区湯島1-5-45 〒113-8510
59 私	東 京 女 子 医 科 大 学	38	医、看護	高 倉 公 朋	東京都新宿区河田町8-1 〒162-8666
60 私	東 京 神 学 大 学	38	神	山 内 眞	三鷹市大沢3-10-30 〒181-0015
61 私	東 京 理 科 大 学	38	理一、理二、薬、工一、工二、理工、基礎工、経営	小 浦 延 幸	東京都新宿区神楽坂1-3 〒162-8601
62 国	徳 島 大 学	38	総合科学、医、歯、薬、工	齋 藤 史 郎	徳島市新蔵町2-24 〒770-8501
63 私	日 本 歯 科 大 学	38	歯、新潟歯	中 原 爽	東京都千代田区富士見1-9-20 〒102-8159
64 私	日 本 女 子 大 学	38	家政、文、人間社会、理	後 藤 祥 子	東京都文京区目白台2-8-1 〒112-8681
65 私	芝 浦 工 業 大 学	39	工一、工二、システム工	江 崎 玲 於 奈	東京都港区芝浦3-9-14 〒108-8548
66 私	津 田 塾 大 学	39	学芸	志 村 尚 子	小平市津田町2-1-1 〒187-8577
67 私	東 京 薬 科 大 学	39	薬、生命科学	森 陽	八王子市堀ノ内1432-1 〒192-0392
68 私	甲 南 大 学	40	文、理、経、法、経営	吉 沢 英 成	神戸市東灘区岡本8-9-1 〒658-8501
69 私	武 庫 川 女 子 大 学	40	文、生活環境、音楽、薬	山 本 俊 治	西宮市池開町6-46 〒663-8558
70 公	大 阪 府 立 大 学	41	工、農、経、総合科学、社会福祉	南 勉	堺市学園町1-1 〒599-8531
71 私	大 阪 工 業 大 学	42	工、情報科学	西 川 禪 一	大阪市旭区大宮5-16-1 〒535-8585
72 私	学 習 院 大 学	42	法、経、文、理	小 倉 芳 彦	東京都豊島区目白1-5-1 〒171-8588
73 私	広 島 修 道 大 学	45	商、経済科学、人文、法	市 川 太 一	広島市安佐南区沼出町大塚1717 〒731-3195
74 私	岡 山 理 科 大 学	47	理、工、総合情報	山 村 泰 道	岡山市理大町1-1 〒700-0005
75 私	北 里 大 学	48	薬、獣医畜産、医、水産、看護、理、医療衛生	佐 藤 登 志 郎	東京都港区白金5-9-1 〒108-8641
76 私	愛 知 工 業 大 学	50	工一、経営情報科学	後 藤 淳	豊田市八草町八千草1247 〒470-0392
77 私	大 阪 学 院 大 学	50	流通科学、経営科学、経、法、外国語、国際、情報、企業情報	白 井 善 康	吹田市岸部南2-36-1 〒564-8511
78 私	成 城 大 学	50	経、文芸、法	我 妻 建 治	東京都世田谷区成城6-1-20 〒157-8511
79 私	星 薬 科 大 学	50	薬	永 井 恒 司	東京都品川区荏原2-4-41 〒142-8501
80 私	東 京 経 済 大 学	51	経一、経二、経営一、経営二、コミュニケーション、現代法	村 上 勝 彦	国分寺市南町1-7-34 〒185-8502

	国 公 私 別	大 学 名	登 録 年	学 部 名	協 会 に 対 す る 代 表 者 名	大 学 所 在 地
81	私	愛知学院大学	昭52	文、情報社会政策、商、経営、法、歯	小出忠孝	日進市岩崎町阿良池12 〒470-0195
82	私	大阪歯科大学	52	歯	佐川寛典	枚方市楠葉花園町8-1 〒573-1121
83	私	関東学院大学	52	文、経、法、工	大野功一	横浜市金沢区六浦町4834 〒236-8501
84	私	共立女子大学	52	家政、文芸、国際文化	阿部謹也	東京都千代田区一ツ橋2-2-1 〒101-8433
85	私	工学院大学	52	工一、工二	大橋秀雄	東京都新宿区西新宿1-24-2 〒163-8677
86	公	神戸商科大学	52	商経	阪本靖郎	神戸市西区学園西町8-2-1 〒651-2197
87	私	実践女子大学	52	文、生活科学	飯塚幸子	日野市大坂上4-1-1 〒191-8510
88	私	昭和女子大学	52	文、生活科学	福場博保	東京都世田谷区太子堂1-7 〒154-8533
89	私	聖路加看護大学	52	看護	常葉恵子	東京都中央区明石町10-1 〒104-0044
90	私	天理大学	52	人間、文、国際文化、体育	橋本武人	天理市袖之内町 〒632-8510
91	私	東京医科大学	52	医	伊東洋	東京都新宿区新宿6-1-1 〒160-8402
92	私	東京電機大学	52	工一、工二、理工、情報環境	小谷誠	東京都千代田区神田錦町2-2 〒101-8457
93	私	獨協大学	52	外国語、経、法	桑原靖夫	草加市学園町1-1 〒340-0042
94	国	鳥取大学	52	教育地域科学、医、工、農	道上正規	鳥取市湖山町南4-101 〒680-8550
95	国	名古屋工業大学	52	工一、工二	柳田博明	名古屋市昭和区御器所町 〒466-8555
96	公	姫路工業大学	52	工、理、環境人間	鈴木胖	姫路市書写2167 〒671-2201
97	私	福岡大学	52	人文、法、経、商、商二、理、工、医、薬、スポーツ科学	山下宏幸	福岡市城南区七隈8-19-1 〒814-0180
98	私	松山大学	52	経、経営、人文、法	青野勝広	松山市文京町4-2 〒790-8578
99	私	神戸海星女子学院大学	53	文	山内祥史	神戸市灘区青谷町2-7-1 〒657-0805
100	私	千葉商科大学	53	商経、政策情報	加藤寛	市川市国府台1-3-1 〒272-8512
101	私	帝京大学	53	文、経、法、医、薬、理工	沖永莊一	東京都板橋区加賀2-11-1 〒173-8605
102	私	武蔵野音楽大学	53	音楽	福井直敬	東京都練馬区羽沢1-13-1 〒176-8521
103	私	立正大学	53	仏教、文、経、経営、法、社会福祉、地球環境科学	吉田榮夫	東京都品川区大崎4-2-16 〒141-8602
104	国	筑波大学	54	第一学群、第二学群、第三学群、医学専門学群、体育専門学群、芸術専門学群	北原保雄	つくば市天王台1-1-1 〒305-8577
105	私	兵庫医科大学	54	医	東野一彌	西宮市武庫川町1-1 〒663-8501
106	私	桃山学院大学	54	文、社会、経、経営	村田晴夫	和泉市まなび野1-1 〒594-1198
107	私	梅光学院大学	55	文、現代コミュニケーション	森田兼吉	下関市吉見妙寺町365 〒759-6534
108	私	椋山女学園大学	56	生活科学、文、人間関係、文化情報	武藤泰敏	名古屋市千種区星が丘元町17-3 〒464-8662
109	私	成蹊大学	56	経、工、文、法	柳井道夫	武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 〒180-8633

	国 公 私 別	大 学 名	登 録 年	学 部 名	協 会 に 対 す る 代 表 者 名	大 学 所 在 地
110	私	北 星 学 園 大 学	昭56	文、経、社会福祉	大 友 浩	札幌市厚別区大谷地西2-3-1 〒004-8631
111	私	和 洋 女 子 大 学	56	人文、家政	鈴 木 幸 壽	市川市国府台2-3-1 〒272-8533
112	公	神 戸 市 外 国 語 大 学	57	外国語一、外国語二	東 谷 穎 人	神戸市西区学園東町9-1 〒651-2187
113	私	流 通 経 済 大 学	57	経、社会、流通情報、法	坂 下 昇	竜ヶ崎市平畑120 〒301-8555
114	私	城 西 大 学	58	経、理、薬	田 中 昭	坂戸市けやき台1-1 〒350-0295
115	私	神 戸 松 蔭 女 子 学 院 大 学	59	文	荒 井 章 三	神戸市灘区篠原伯母野山町1-2-1 〒657-0015
116	私	福 山 大 学	59	経、工、薬、人間文化	宮 地 茂	福山市東村町字三蔵985の1 〒729-0292
117	国	愛 知 教 育 大 学	60	教育	田 原 賢 一	刈谷市井ヶ谷町広沢1 〒448-8542
118	私	関 西 外 国 語 大 学	60	外国語、国際言語	谷 本 貞 人	枚方市北方鉢町16-1 〒573-1001
119	私	金 城 学 院 大 学	60	文、家政、現代文化	戸 田 安 士	名古屋守山区大森2-1723 〒463-8521
120	国	電 気 通 信 大 学	60	電気通信	梶 谷 誠	調布市調布ヶ丘1-5-1 〒182-8585
121	私	神 奈 川 大 学	62	法、二法、経、二経、経営、外国語、理、工、二工	山 火 正 則	横浜市神奈川区六角橋3-27-1 〒221-8686
122	私	金 沢 工 業 大 学	62	工	黒 田 壽 二	石川県石川郡野々市町扇が丘7-1 〒921-8501
123	私	明 海 大 学	62	外国語、経、不動産、歯	高 倉 翔	坂戸市けやき台1-1 〒350-0283
124	私	武 蔵 大 学	62	経、人文、社会	横 倉 尚	東京都練馬区豊玉上1-26-1 〒176-8534
125	私	跡 見 学 園 女 子 大 学	63	文	山 崎 一 穎	新座市中野1-9-6 〒352-8501
126	国	東 京 学 芸 大 学	63	教育	岡 本 靖 正	小金井市貫井北町4-1-1 〒184-8501
127	私	大 妻 女 子 大 学	平元	家政、文、社会情報、人間関係、比較文化	佐 野 博 敏	東京都千代田区三番町12 〒102-8357
128	私	ノートルダム清心女子大学	元	文、人間生活	高 木 孝 子	岡山市伊福町2-16-9 〒700-8516
129	私	朝 日 大 学	2	歯、経営、法	長 坂 信 夫	岐阜県本巣郡穂積町大字穂積1851-1 〒501-0296
130	私	桜 美 林 大 学	2	文、経、国際、経営政策	佐 藤 東 洋 士	町田市常盤町3758 〒194-0294
131	私	神 戸 学 院 大 学	2	栄養、法、経、薬、人文	谷 口 弘 行	神戸市西区伊川谷町有瀬518 〒651-2180
132	私	日 本 工 業 大 学	2	工	神 馬 敬	埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1-1 〒345-8501
133	私	青 山 学 院 大 学	3	文、文二、経、経二、法、経営、経営二、国際政治経済、理工	半 田 正 夫	東京都渋谷区渋谷4-4-25 〒150-8366
134	国	愛 媛 大 学	3	法文、教育、理、医、工、農	鮎 川 恭 三	松山市道後通又10-13 〒790-8577
135	私	熊 本 学 園 大 学	3	商一、商二、経、外国語、社会福祉一、社会福祉二	角 松 正 雄	熊本市大江2-5-1 〒862-8680
136	私	広 島 女 学 院 大 学	3	文、生活科学	西 垣 二 一	広島市東区牛田東4-13-1 〒732-0063
137	私	宮 城 学 院 女 子 大 学	3	学芸	安 部 元 雄	仙台市青葉区桜ヶ丘9-1-1 〒981-8557
138	私	愛 知 淑 徳 大 学	3	文、現代社会、コミュニケーション、文化創造	小 林 素 文	愛知県愛知郡長久手町大字長湫字片平9 〒480-1197

	国 公 私 別	大 学 名	登 録 年	学 部 名	協 会 対 する 代 表 者 名	大 学 所 在 地
130	私	エリザベト音楽大学	平4	音楽	ローレンス・マクガレル	広島市中区鞆町4-15 〒730-0016
140	私	大阪電気通信大学	4	工一、工二、情報工	福田 國 彌	寝屋川市初町18-8 〒572-8530
141	私	京都薬科大学	4	薬	池田 正 澄	京都市山科区御陵中内町5 〒607-8414
152	私	国立音楽大学	4	音楽	植松 東	立川市柏町5-5-1 〒190-8520
143	私	清泉女子大学	4	文	塩谷 惇子	東京都品川区東五反田3-16-21 〒141-8642
144	私	崇城大学	4	工、芸術	中山 義 崇	熊本市池田4-22-1 〒860-0082
145	公	東京都立大学	4	人文一、人文二、法一、法二、経一、経二、理一、理二、工一、工二	荻上 紘一	八王子市南大沢1-1 〒192-0397
146	私	足利工業大学	5	工	吉田 忠 雄	足利市大前町268-1 〒326-8558
147	私	西南学院大学	5	神、文、商、経、法	村上 隆 太	福岡市早良区西新6-2-92 〒814-8511
148	私	高千穂大学	5	商、経営	藤井 耐	東京都杉並区大宮2-19-1 〒168-8508
149	私	東北学院大学	5	文、経、法、工、教養	倉松 功	仙台市青葉区土樋1-3-1 〒980-8511
150	私	豊田工業大学	5	工	永澤 満	名古屋市天白区久方2-12-1 〒468-8511
151	私	阪南大学	5	流通、経、経営情報、国際コミュニケーション	山名 伸 作	松原市天美東5-4-33 〒580-8502
152	公	横浜市立大学	5	商、医、国際文化、理	加藤 祐 三	横浜市金沢区瀬戸22-2 〒236-0027
153	私	茨城キリスト教大学	6	文、生活科学	藤本 復 禮	日立市大みか町6-11-1 〒319-1295
154	私	金沢学院大学	6	文、経営情報、美術文化	宮本 匡 章	金沢市末町10 〒920-1392
155	私	杏林大学	6	医、保健、社会科学、外国語	長澤 俊 彦	三鷹市新川6-20-2 〒181-8611
156	私	くらしき作陽大学	6	音楽、食文化	松田 英 毅	倉敷市玉島長尾3515 〒710-0292
157	私	昭和薬科大学	6	薬	佐野 武 弘	町田市東玉川学園3-3165 〒194-8543
158	私	白百合女子大学	6	文	大 京 子	調布市緑ヶ丘1-25 〒182-8525
159	私	大同工業大学	6	工	澤 岡 昭	名古屋市南区滝春町10-3 〒457-8530
160	私	常磐大学	6	人間科学、国際、コミュニティ振興	諸澤 英 道	水戸市見和1-430-1 〒310-8585
161	私	獨協医科大学	6	医	大森 健 一	栃木県下都賀郡壬生町大字北小林880 〒321-0293
162	私	京都ノートルダム女子大学	6	人間文化	梶田 毅 一	京都市左京区下鴨南野々神町一 〒606-0847
163	私	福岡歯科大学	6	歯	青野 一 哉	福岡市早良区田村2-15-1 〒814-0193
164	私	北海道医療大学	6	薬、歯、看護福祉	廣 重 力	北海道石狩郡当別町字金沢1757 〒061-0293
165	私	武蔵工業大学	6	工、環境情報	堀川 清 司	東京都世田谷区玉堤1-28-1 〒158-8557
166	私	武蔵野美術大学	6	造形	長尾 重 武	小平市小川町1-736 〒187-8505
167	国	山口大学	6	人文、教育、経、理、医、工、農	廣中 平 祐	山口大学吉田1677の1 〒753-8511

	国 公 私 別	大 学 名	登 録 年	学 部 名	協 会 に 対 す る 代 表 者 名	大 学 所 在 地
168	私	麗澤大学	平6	外国語、国際経済	廣池幹堂	柏市光ヶ丘2-1-1 〒277-8686
169	私	和光大学	6	人間関係、表現、経	三橋修	町田市金井町2160 〒195-8585
170	私	英知大学	7	文	岸英司	尼崎市若王寺2-18-1 〒661-8530
171	私	九州国際大学	7	法、経、国際商	大里仁士	北九州市八幡東区平野1-6-1 〒805-8512
172	私	京都外国語大学	7	外国語	森田嘉一	京都市右京区西院笠日町6 〒615-8558
173	私	京都精華大学	7	芸術、人文	中尾ハジメ	京都市左京区岩倉木野町137 〒606-8588
174	私	京都橘女子大学	7	文、文化政策	大南正瑛	京都市山科区大宅山田町34 〒607-8175
175	私	共立薬科大学	7	薬	望月正隆	東京都港区芝公園1-5-30 〒105-8512
176	私	恵泉女学園大学	7	人文	荒井献	多摩市南野2-10-1 〒206-0032
177	私	皇學館大学	7	文、社会福祉	上杉千郷	伊勢市神田久志本町1704 〒516-8555
178	私	神戸女子大学	7	家政、文	森本武利	神戸市須磨区東須磨青山2-1 〒654-8585
179	私	高野山大学	7	文	東智學	和歌山県伊都郡高野町高野山385 〒648-0280
180	私	産業医科大学	7	医、産業保健	泉太	北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1 〒807-8555
181	私	駿河台大学	7	法、経、文化情報、現代文化	竹下守夫	飯能市大字阿須字一の木698 〒357-8555
182	私	大正大学	7	人間、文	松濤誠達	東京都豊島区西巢鴨3-20-1 〒170-8470
183	私	大東文化大学	7	文、経、外国語、法、国際関係、経営、環境創造	須藤敏昭	東京都板橋区高島平1-9-1 〒175-8571
184	私	桐蔭横浜大学	7	法、工	鶴川昇	横浜市青葉区鉄町1614 〒225-8502
185	私	東邦大学	7	医、薬、理	野口鉄也	東京都大田区大森西5-21-16 〒143-8540
186	私	日本福祉大学	7	社会福祉、経、情報社会科学	諏訪兼位	愛知県知多郡美浜町大字奥山字会下前35-6〒470-3295
187	私	武蔵野女子大学	7	文、現代社会、人間関係	田中教照	西東京市新町1-1-20 〒202-8585
188	私	明治薬科大学	7	薬	坂本正徳	清瀬市野塩2-522-1 〒204-8588
189	私	活水女子大学	8	文、音楽	野々村昇	長崎市東山手町1-50 〒850-8515
190	私	京都産業大学	8	経、理、法、経営、外国語、工、文化	新田政則	京都市北区上賀茂本山 〒603-8555
191	私	東海大学	8	文、工、第二工、海洋、理、政治経済、体育、教養、医、法、開発工、健康科学、電子情報	松前達郎	東京都渋谷区富ヶ谷2-28-4 〒151-0063
192	私	長崎総合科学大学	8	工、人間環境	山邊時雄	長崎市網場町536 〒851-0193
193	公	名古屋市立大学	8	医、薬、経、人文社会、芸術工学、看護	和田義郎	名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 〒467-8601
194	私	日本赤十字看護大学	8	看護	樋口康子	東京都渋谷区広尾4-1-3 〒150-0012
195	私	愛知医科大学	9	医、看護	加藤延夫	愛知県愛知郡長久手町大字岩作字雁又21 〒480-1195

	国 公 私 別	大 学 名	登 録 年	学 部 名	協 会 に 対 す る 代 表 者 名	大 学 所 在 地
196	私	大阪医科大学	平9	医	島田眞久	高槻市大学町2-7 〒569-8686
197	私	沖縄国際大学	9	法一、法二、商経一、商経二、総合文化	波平勇夫	宜野湾市字宜野湾2-6-1 〒901-2701
198	私	神奈川工科大学	9	工	杉山秋雄	厚木市下荻野1030 〒243-0292
199	私	九州産業大学	9	経済、商一、商二、経営、工、芸術、国際文化	山崎良也	福岡市東区松香台2-3-1 〒813-8503
200	私	駒澤大学	9	仏教、文、経、法、経営一、経営二	雨宮眞也	東京都世田谷区駒沢1-23-1 〒154-8525
201	私	札幌大学	9	経、外国語、経営、法、文化	山口昌男	札幌市豊平区西園三条7-3-1 〒062-8520
202	公	札幌医科大学	9	医、保健医療	秋野豊明	札幌市中央区南一条西一七丁目291 〒060-8556
203	私	四国大学	9	文、経営情報、生活科学	福岡登	徳島市応神町古川字戎子野123-1 〒771-1192
204	私	城西国際大学	9	経営情報、人文	水田宗子	東金市求名1 〒283-8555
205	私	上武大学	9	商、経営情報	渡邊良雄	伊勢崎市戸谷塚町634-1 〒372-8588
206	私	相愛大学	9	音楽、人文	小野功龍	大阪市住之江区南港中4-4-1 〒559-0033
207	私	中京女子大学	9	健康科学、人文	谷岡郁子	大府市横根町名高山55 〒474-0011
208	私	鶴見大学	9	文、歯	高崎直道	横浜市鶴見区鶴見2-1-3 〒230-8501
209	私	東京音楽大学	9	音楽	兔束俊之	東京都豊島区南池袋3-4-5 〒171-8540
210	私	東北工業大学	9	工	岩崎俊一	仙台市太白区八木山香澄町35の1 〒982-8577
211	私	新潟薬科大学	9	薬	多村憲	新潟市上新栄町5-13-2 〒950-2081
212	私	二松学舎大学	9	文、国際政治経済	石川忠久	東京都千代田区三番町6-16 〒102-8336
213	公	青森公立大学	10	経営経済	加藤勝康	青森市大字合子沢字山崎153-4 〒030-0196
214	私	亜細亜大学	10	経営、経、法、国際関係	鯉淵信一	武蔵野市境5-24-10 〒180-8629
215	私	石巻専修大学	10	理工、経営	小林陵二	石巻市南境新水戸1 〒986-8580
216	公	熊本県立大学	10	文、総合管理、環境共生	菅野道廣	熊本市月出3-1-100 〒862-8502
217	私	駒沢女子大学	10	人文	東隆眞	稲城市坂浜238〒206-8511
218	私	拓殖大学	10	商、政経、外国語、工、国際開発	坂田勝	東京都文京区小日向3-4-14 〒112-8585
219	私	中央学院大学	10	商、法	生田富夫	我孫子市久寺家451 〒270-1196
220	私	名古屋学院大学	10	経、商、外国語	木村光伸	瀬戸市上品野町1350 〒480-1298
221	私	大阪経済大学	11	経一、経二、経営一、経営二、経営情報	山田達夫	大阪市東淀川区大隅2-2-8 〒533-8533
222	私	大阪国際大学	11	経営情報、政経	金子敦郎	枚方市杉3-50-1 〒573-0192
223	私	大阪産業大学	11	経営、経、工、人間環境	天野光三	大東市中垣内3-1-1 〒574-8530
224	私	金沢経済大学	11	経一、経二	岡田晃	金沢市御所町丑10-1 〒920-8620

	国 公 私 別	大 学 名	登 録 年	学 部 名	協 会 に 対 す る 代 表 者 名	大 学 所 在 地
225	公	北九州市立大学	昭11	外国語、経、文、法、国際環境工	田 中 慎一郎	北九州市小倉南区北方4-2-1 〒802-8577
226	私	神戸親和女子大学	11	文	佐 野 哲 郎	神戸市北区鈴蘭台北町7-13-1 〒651-1111
227	私	自治医科大学	11	医	高 久 史 磨	栃木県河内郡南河内町薬師寺3311-1 〒329-0498
228	私	淑 徳 大 学	11	社会、国際コミュニケーション	長谷川 匡 俊	千葉市中央区大蔵寺町200 〒260-8701
229	私	洗 足 学 園 大 学	11	音楽	前 田 壽 一	川崎市高津区久本2-3-1 〒213-8580
230	私	中 京 大 学	11	文、社会、法、経、経営、商、情報科学、体育、心理	小 川 英 次	名古屋市長和区八事本町101-2 〒466-8666
231	国	富山医科薬科大学	11	医、薬	高 久 晃	富山市杉谷2630 〒930-0194
232	私	長崎純心大学	11	人文	片 岡 千 鶴 子	長崎市三ツ山町235 〒852-8558
233	私	梅 花 女 子 大 学	11	文	中 村 元 保	茨木市宿久庄2-19-5 〒567-8578
234	私	福 岡 工 業 大 学	11	工、情報工、社会環境	青 木 和 男	福岡市東区和白東3-30-1 〒811-0295
235	私	佛 教 大 学	11	文、教育、社会	中 井 真 孝	京都市北区紫野北花ノ坊町96 〒603-8301
236	国	宮 城 教 育 大 学	11	教育	横 須 賀 薫	仙台市青葉区荒巻字青葉 〒980-0845
237	国	横 浜 国 立 大 学	11	教育人間科学、経、経営、工一、工二	板 垣 浩	横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1 〒240-8501
238	公	会 津 大 学	12	コンピュータ理工	池 上 徹 彦	会津若松市一箕町鶴賀字上居合90 〒965-8580
239	国	埼 玉 大 学	12	教養、教育、経、理、工	兵 藤 釗	さいたま市下大久保255 〒338-8570
240	私	聖 徳 大 学	12	人文	川 並 弘 昭	松戸市岩瀬字向山550 〒271-8555
241	私	東 京 工 芸 大 学	12	工、芸術	本 多 健 一	東京都中野区本町2-9-5 〒164-8678
242	国	弘 前 大 学	12	人文、教育、医、理工、農学生命科学	吉 田 豊	弘前市文京町1 〒036-8560
243	私	広 島 国 際 学 院 大 学	12	工、現代社会	葉 佐 井 博 巳	広島市安芸区中野6-20-1 〒739-0321
244	公	広 島 市 立 大 学	12	国際、情報科学、芸術	藤 本 黎 時	広島市安佐南区大塚東3-4-1 〒731-3194
245	私	藤 田 保 健 衛 生 大 学	12	衛生、医	山 路 正 雄	豊明市沓掛町田楽ヶ窪1-98 〒470-1192
246	私	文 教 大 学	12	教育、人間科学、情報、文、国際	石 田 恒 好	東京都品川区旗の台3-2-17 〒142-0064
247	国	琉 球 大 学	12	法文、教育、理、医、工、農	森 田 孟 進	沖縄県中頭郡西原町字千原1 〒903-0213
248	私	岐 阜 女 子 大 学	13	家政、文	堀 幹 夫	岐阜市太郎丸80 〒501-2592
249	公	釧 路 公 立 大 学	13	経	荒 又 重 雄	釧路市芦野4-1-1 〒085-8585
250	私	倉 敷 芸 術 科 学 大 学	13	芸術、産業科学技術、国際教養	土 井 章	倉敷市連島町西之浦2640 〒712-8505
251	私	国 士 館 大 学	13	政経一、政経二、体育、工、法、文	三 浦 信 行	東京都世田谷区世田谷4-28-1 〒154-8515
252	私	鈴 鹿 医 療 科 学 大 学	13	保健衛生、医用工	澤 宏 紀	鈴鹿市岸岡町1001-1 〒510-0293
253	私	聖 学 院 大 学	13	政治経済、人文	飯 坂 良 明	上尾市戸崎1-1 〒362-8585

	国 公 私 別	大 学 名	登 録 年	学 部 名	協 会 に 対 す る 代 表 者 名	大 学 所 在 地
254	私	聖隷クリストファー看護大学	平13	看護	深 瀬 須加子	浜松市三方原町3453 〒433-8558
255	私	創 価 大 学	13	経、法、文、経営、教育、工	若 江 正 三	八王子市丹木町1-236 〒192-8577
256	国	奈 良 教 育 大 学	13	教育	大久保 哲 夫	奈良市高畑町 〒630-8528
257	公	兵 庫 県 立 看 護 大 学	13	看護	南 裕 子	明石市北王子町13-71 〒673-8588
258	私	プ ー ル 学 院 大 学	13	国際文化	小 林 哲 也	堺市横塚台4-5-1 〒590-0114
259	国	福 島 大 学	13	教育、経、行政社会	吉 原 泰 助	福島市松川町浅川字直道2 〒960-1296
260	私	名 城 大 学	13	法、経営、経、理工、農、薬、都市情報	網 中 政 機	名古屋市中白区塩釜口1-501 〒468-8502
261	国	山 梨 大 学	13	教育人間科学、工	椎 貝 博 美	甲府市武田4-4-37 〒400-8510
262	国	山 梨 医 科 大 学	13	医	吉 田 洋 二	山梨県中巨摩郡玉穂町下河東1110 〒409-3898
合 計		262大学		1000学部		

【付 記】

なお、平成9年度以降登録の大学は、平成8年度より新たに発足させた大学評価システムのうち、加盟判定審査にかかる審査・判定の結果、本協会への加盟・登録が承認された大学である。

平成8年度以降、相互評価認定を受けた大学は以下のとおりである。

平成8年度 22大学（五十音順）

(私) 愛知学院大学、(私) 岡山理科大学、(私) 関西外国語大学、(私) 関西学院大学、(公) 岐阜薬科大学、(私) 神戸学院大学、(私) 相山女学園大学、(私) 東京医科大学、(私) 東京経済大学、(私) 東京電機大学、(私) 同志社大学、(私) 東洋大学、(国) 名古屋工業大学、(私) 南山大学、(国) 新潟大学、(私) 日本大学、(私) 日本女子大学、(私) 梅光女学院大学、(公) 姫路工業大学、(私) 北海道医療大学、(私) 武蔵工業大学、(私) 立命館大学

平成9年度 16大学（五十音順）

(私) 桜美林大学、(国) 岡山大学、(私) 関西大学、(私) 関西医科大学、(私) 関東学院大学、(国) 群馬大学、(私) 甲南大学、(私) 芝浦工業大学、(国) 千葉大学、(私) 東京歯科大学、(私) 東京神学大学、(私) 同志社女子大学、(私) 獨協大学、(私) 明治大学、(私) 立教大学、(私) 龍谷大学

平成10年度 12大学（五十音順）

(私) 朝日大学、(私) 大阪歯科大学、(公) 大阪市立大学、(公) 大阪府立大学、(私) 大谷大学、(私) 京都薬科大学、(私) 熊本学園大学、(私) 久留米大学、(私) 実践女子大学、(私) 成城大学、(私) 専修大学、(私) 武庫川女子大学

平成11年度 9大学（五十音順）

(私) 青山学院大学、(私) 跡見学園女子大学、(私) 工学院大学、(私) 成蹊大学、(私) 大同工業大学、(私) 千葉工業大学、(私) 東邦大学、(私) ノートルダム清心女子大学、(私) 桃山学院大学

平成12年度 18大学（五十音順）

(私) 愛知大学、(私) 神奈川大学、(国) 金沢大学、(私) 北里大学、(私) 京都橘女子大学、(私) 近畿大学、(公) 神戸商科大学、(私) 神戸女学院大学、(私) 上智大学、(私) 昭和大学、(私) 聖路加看護大学、(私) 天理大学、(私) 東京薬科大学、(私) 豊田工業大学、(国) 長崎大学、(公) 名古屋市立大学、(私) 北星学園大学、(公) 横浜市立大学

## 2. 賛 助 会 員

(平成13. 9. 3現在)

(五十音順)

	国 公 私	大 学 名	学 部 名	協 会 に 対 す る 代 表 者 名	大 学 所 在 地
1	私	愛知学泉大学	家政、経営、コミュニティ政策	寺 部 暁	豊田市大池町汐取1 〒471-8532
2	公	愛知県立看護大学	看護	草 刈 淳 子	名古屋市守山区大字上志段 味字東谷 〒463-8502
3	私	愛知産業大学	造形、経営	内 藤 昌	岡崎市岡町字原山12-5 〒444-0005
4	私	青 森 大 学	経営、社会、工	天 谷 正	青森市幸畑2-3-1 〒030-0943
5	公	青森県立保健大学	健康科学	新 道 幸 恵	青森市大字浜館字間瀬58-1 〒030-8505
6	私	青森中央学院大学	経営法	久 保 豊	青森市大字横内字神田12 〒030-0132
7	国	秋 田 大 学	教育文化、医、工学資源	三 浦 亮	秋田市手形学園町1-1 〒010-8502
8	私	秋田経済法科大学	経、法	稲 田 俊 信	秋田市下北手桜字守沢46-1 〒010-8515
9	公	秋 田 県 立 大 学	システム科学技術、生物資源科学	鈴 木 昭 憲	秋田市下新城中野字街道端 西241-7 〒010-0146
10	国	旭川医科大学	医	久 保 良 彦	旭川市西神楽四線5-3-11 〒078-8307
11	私	芦 屋 大 学	教育	奥 田 眞 丈	芦屋市六磨荘町13-22 〒659-8511
12	国	茨 城 大 学	人文、教育、理、工、農	宮 田 武 雄	水戸市文京2-1-1 〒310-8512
13	公	茨城県立医療大学	保健医療	阿 部 帥	茨城県稲敷郡阿見町阿見 4669-2 〒300-0394
14	国	岩 手 大 学	人文社会科学、農、工、教育	海 妻 矩 彦	盛岡市上田3-18-8 〒020-8550
15	公	岩手県立大学	看護、社会福祉、ソフトウェア情報、総合政策	西 澤 潤 一	岩手県岩手郡滝沢村滝沢字 菓子152-52 〒020-0173
16	私	上野学園大学	音楽、国際文化	石 橋 裕	東京都台東区東上野4-24-12 〒110-8642
17	国	宇 都 宮 大 学	教育、農、工、国際	貴 志 浩 三	宇都宮市峰町350 〒321-8505
18	私	江 戸 川 大 学	社会	太 田 次 郎	流山市駒木474〒270-0198
19	私	奥 羽 大 学	歯、文	影 山 英 之	郡山市富田町字三角堂31-1 〒963-8611
20	私	桜花学園大学	人文	湊 吉 正	豊田市太平町七曲12-1 〒471-0057
21	私	追手門学院大学	経、経営、人間、文	戸 塚 登	茨木市西安威2-1-15 〒567-8502
22	国	大 分 大 学	教育福祉科学、経、工	野 村 新	大分市旦野原700 〒870-1192
23	国	大分医科大学	医	中 山 巖	大分県大分郡狭間町医大ヶ 丘1-1 〒879-5593
24	私	大阪音楽大学	音楽	西 岡 信 雄	豊中市庄内幸町1-1-8 〒561-8555
25	国	大阪外国語大学	外国語	赤 木 攻	箕面市粟生間谷東8-1-1 〒562-8558
26	国	大阪教育大学	教育一、教育二	中 谷 彪	柏原市旭ヶ丘4-698-1 〒582-8582
27	私	大阪経済法科大学	経、法	藤 田 整	八尾市楽音寺6-10 〒581-8511

	国 公 私 別	大 学 名	学 部 名	協 会 対 する 代 表 者 名	大 学 所 在 地
28	私	大阪芸術大学	芸術	塚本邦彦	大阪府南河内郡河南町東山 469 〒585-8555
29	私	大阪国際女子大学	人間科学	奥田吾朗	守口市藤田町6-21-57 〒570-8555
30	私	大阪樟蔭女子大学	学芸、人間科学	森 眞太郎	東大阪市菱屋西4-2-26 〒577-8550
31	私	大阪商業大学	経、総合経営	谷岡一郎	東大阪市御厨栄町4-1-10 〒577-8505
32	公	大阪女子大学	人文社会、理	丸山高司	堺市大仙町2-1 〒590-0035
33	私	大阪体育大学	体育	野田敏彦	大阪府泉南郡熊取町朝代台 1-1 〒590-0496
34	公	大阪府立看護大学	看護	小島操子	羽曳野市はびきの3-7-30 〒583-8555
35	私	大阪明浄大学	観光	田中俊夫	大阪府泉南郡熊取町大久保 南5-3-1 〒590-0493
36	私	大阪薬科大学	薬	矢内原千鶴子	高槻市奈佐原4-20-1 〒569-1094
37	私	大谷女子大学	文	左藤 恵	富田林市錦織志北3-11-1 〒584-8540
38	私	大手前大学	文、社会文化	米山俊直	西宮市御茶家所町6-42 〒662-8552
39	公	岡山県立大学	保健福祉、情報工、デザイン	本田和男	総社市窪木111〒719-1197
40	私	岡山商科大学	商、法経	井尻昭夫	岡山市津島京町2-10-1 〒700-8601
41	私	沖縄大学	法経一、法経二、人文一、人文二	新崎盛暉	那覇市字国場555 〒902-8521
42	国	小樽商科大学	商	山田家正	小樽市緑3-5-21 〒047-8501
43	国	お茶の水女子大学	文教育、理、生活科学	本田和子	東京都文京区大塚2-1-1 〒112-8610
44	国	帯広畜産大学	畜産	佐々木康之	帯広市稲田町西二線11 〒080-8555
45	国	香川大学	教育、法、経、工、農	近藤浩二	高松市幸町1-1 〒760-8521
46	国	香川医科大学	医	田邊正忠	香川県木田郡三木町大字池 戸1750-1 〒761-0793
47	私	学習院女子大学	国際文化交流	早川東三	東京都新宿区戸山3-20-1 〒162-8650
48	国	鹿児島大学	法文、理、教育、農、水産、医、工、歯	田中弘允	鹿児島市那元1-21-24 〒890-8580
49	私	鹿児島国際大学	経、社会、国際文化	津曲貞春	鹿児島市下福元町8850 〒891-0191
50	私	鹿児島純心女子大学	国際人間、看護	稲井道子	川内市天辰町2365 〒895-0011
51	私	神奈川歯科大学	歯	野口政宏	横須賀市稲岡町82 〒238-8580
52	私	金沢医科大学	医	竹越 囊	石川県河北郡内灘町字大学 1-1 〒920-0293
53	公	金沢美術工芸大学	美術工芸	乾 由明	金沢市小立野5-11-1 〒920-8656
54	私	川崎医科大学	医	勝村達喜	倉敷市松島577〒701-0192
55	私	川崎医療福祉大学	医療福祉、医療技術	江草安彦	倉敷市松島288〒701-0193
56	私	関西国際大学	経営、人間	村上 敦	三木市志染町青山1-18 〒673-0521

	国 公 私 別	大 学 名	学 部 名	協 会 に 対 す る 代 表 者 名	大 学 所 在 地
57	私	関西福祉大学	社会福祉	船 曳 宏 保	赤穂市新田字釜家後380-3 〒678-0255
58	私	関西福祉科学大学	社会福祉	笹 置 昭 男	柏原市旭ヶ丘3-11-1 〒582-0026
59	私	神田外語大学	外国語	石 井 米 雄	千葉市美浜区若葉1-4-1 〒261-0014
60	国	北見工業大学	工	厚 谷 郁 夫	北見市公園町165 〒090-8507
61	私	吉備国際大学	社会、保健科学、社会福祉	梅 内 拓 生	高梁市伊賀町8 〒716-8508
62	国	岐 阜 大 学	教育、地域科学、農、工、医	黒 木 登 志 夫	岐阜市柳戸1-1 〒501-1193
63	私	岐阜経済大学	経、経営	池 永 輝 之	大垣市北方町5-50 〒503-8550
64	私	岐阜聖徳学園大学	教育、外国語、経済情報	北 畠 典 生	岐阜県羽島郡柳津町高桑2078 〒501-6194
65	私	九州看護福祉大学	看護福祉	江 頭 洋 祐	玉名市富尾888〒865-0062
66	私	九州共立大学	経、経二、工	森 肇	北九州市八幡西区自由ヶ丘1-8 〒807-8585
67	国	九州芸術工科大学	芸術工	吉 田 將	福岡市南区塩原4-9-1 〒815-8540
68	国	九州工業大学	工、情報工	宮 里 達 郎	北九州市戸畑区仙水町1-1 〒804-8550
69	公	九州歯科大学	歯	内 田 康 也	北九州市小倉北区真鶴2-6-1 〒803-8580
70	私	九州女子大学	家政、文	簇 島 豊	北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 〒807-8586
71	私	九州東海大学	工、農、応用情報	川 島 協	熊本市渡鹿9-1-1 〒862-8652
72	私	九州ルーテル学院大学	人文	河 野 重 昭	熊本市黒髪3-12-16 〒860-8520
73	私	共愛学園前橋国際大学	国際社会	津嘉山 繪智子	前橋市小屋原町1154-4 〒379-2192
74	私	京都学園大学	経、経営、法、人間文化	傳 田 功	亀岡市菅我部町南条大谷1-1 〒621-8555
75	国	京都教育大学	教育	村 田 隆 紀	京都市伏見区深草藤森町1 〒612-0863
76	私	京都光華女子大学	文、人間関係	高 木 英 明	京都市右京区西京極葛野町38 〒615-0882
77	国	京都工芸繊維大学	工芸、繊維	木 村 光 祐	京都市左京区松ヶ崎橋上町 〒606-8585
78	私	京都女子大学	文、家政、現代社会	瓜生津 隆 真	京都市東山区今熊野北日吉町35 〒605-8501
79	公	京都市立芸術大学	美術、音楽	西 島 安 則	京都市西京区大枝岩掛町13-6 〒610-1197
80	私	京都文教大学	人間	樋 口 和 彦	宇治市榎島町千足80 〒611-0041
81	私	金 城 大 学	社会福祉	三 澤 義 一	松任市笠間町1200 〒724-8511
82	公	群馬県立女子大学	文	和 田 義 昭	群馬県佐波郡玉村町大字上之手1395-1 〒370-1127
83	私	敬 愛 大 学	経、国際	小 田 英 郎	千葉市稲毛区穴川1-5-21 〒263-8588
84	私	敬和学園大学	人文	北 垣 宗 治	新発田市大字富塚字三賀境1270 〒957-8585
85	公	県立広島女子大学	国際文化、生活科学	今 永 清 二	広島市南区宇品東1-1-71 〒734-8558

	国 公 私 別	大 学 名	学 部 名	協会に対する 代 表 者 名	大 学 所 在 地
86	私	甲子園大学	栄養、経営情報、人間文化	木下 富雄	宝塚市紅葉ヶ丘10-1 〒665-0006
87	国	高知大学	人文、教育、理、農	山本 晉平	高知市曙町2-5-1 〒780-8520
88	国	高知医科大学	医	池田 久男	南国市岡豊町小蓮 〒783-8505
89	私	高知工科大学	工	岡村 甫	高知県香美郡土佐山田町宮ノ口185 〒782-8502
90	公	高知女子大学	生活科学、文化、看護、社会福祉	成田 十次郎	高知市永国寺町5-15 〒780-8515
91	私	甲南女子大学	文、人間科学	塩原 勉	神戸市東灘区森北町6-2-23 〒658-0001
92	私	神戸芸術工科大学	芸術工	鈴木 成文	神戸市西区学園西町8-1-1 〒651-2196
93	私	神戸国際大学	経	吉田 弘	神戸市垂水区学が丘5-1-1 〒655-0004
94	公	神戸市看護大学	看護	中西 睦子	神戸市西区学園西町3-4 〒651-2103
95	国	神戸商船大学	商船	原 潔	神戸市東灘区深江南町5-1-1 〒658-0022
96	私	神戸薬科大学	薬	津波古 充朝	神戸市東灘区本山北町4-19-1 〒658-8558
97	私	郡山女子大学	家政	関口 富左	郡山市開成3-25-2 〒963-8503
98	私	国際大学		島野 卓爾	新潟県南魚沼郡大和町大字穴地新田777 〒949-7277
99	私	国際仏教学大学院大学		原 實	東京都港区虎ノ門5-3-23 〒105-0001
100	私	国際武道大学	体育	篠田 基行	勝浦市新宮841 〒299-5295
101	私	埼玉医科大学	医	束 博彦	埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38 〒350-0495
102	公	埼玉県立大学	保健医療福祉	北川 定謙	越谷市三野宮820 〒343-8540
103	私	埼玉工業大学	工	秋山 守	埼玉県大里郡岡部町大字普濟寺1690 〒369-0293
104	国	佐賀大学	文化教育、経、理工、農	佐古 宣道	佐賀市本庄町1 〒840-8502
105	国	佐賀医科大学	医	杉森 甫	佐賀市鍋島5-1-1 〒849-8501
106	私	相模女子大学	学芸	中村 以正	相模原市文京2-1-1 〒228-8533
107	私	作新学院大学	経営、地域発展	矢内原 勝	宇都宮市竹下町908 〒321-3295
108	私	札幌学院大学	商一、商二、人文、法、経、社会情報	狩野 陽	江別市文京台11 〒069-8555
109	私	産能大学	経営情報、経営	上野 一郎	伊勢原市上粕屋1573 〒259-1197
110	私	山陽学園大学	国際文化	大黒 トシ子	岡山市平井1-14-1 〒703-8501
111	国	滋賀大学	教育、経	宮本 憲一	彦根市馬場1-1-1 〒522-8522
112	国	滋賀医科大学	医	吉川 隆一	大津市瀬田月輪町 〒520-2192
113	公	滋賀県立大学	環境科学、工、人間文化	西川 幸治	彦根市八坂町2500 〒522-8533
114	私	志學館大学	文、法	砂川 恵伸	鹿児島県姶良郡隼人町内1904 〒899-5194

	国 公 私 別	大 学 名	学 部 名	協会に対する 代 表 者 名	大 学 所 在 地
115	私	四 国 学 院 大 学	文、社会	吉 田 卓 司	善通寺市文京町3-2-1 〒765-8505
116	国	静 岡 大 学	人文、教育、理、工、農、情報	佐 藤 博 明	静岡市大谷836〒422-8529
117	公	静 岡 県 立 大 学	薬、食品栄養科学、国際関係、経営情報、看護	廣 部 雅 昭	静岡市谷川52-1 〒422-8526
118	私	静 岡 産 業 大 学	経営、国際情報	大 坪 檀	磐田市大原1572-1 〒438-0043
119	私	静 岡 文 化 芸 術 大 学	文化政策、デザイン	木 村 尚 三 郎	浜松市野口町1794-1 〒430-8533
120	私	静 岡 理 工 科 大 学	理工	塩 田 進	袋井市豊沢2200-2 〒437-8555
121	国	島 根 大 学	法文、教育、総合理工、生物資源科学	吉 川 通 彦	松江市西川津町1060 〒690-8504
122	国	島 根 医 科 大 学	医	下 山 誠	出雲市塩冶町89-1 〒693-8501
123	公	島 根 県 立 大 学	総合政策	宇 野 重 昭	浜田市野原町2433-2 〒697-0016
124	公	下 関 市 立 大 学	経	下 山 房 雄	下関市大学町2-1-1 〒751-8510
125	私	就 実 女 子 大 学	文	柴 田 一	岡山市西川原1-6-1 〒703-8516
126	私	秀 明 大 学	総合経営、国際協力	北 村 汎	八千代市真木野210 〒276-0002
127	私	十 文 字 学 園 女 子 大 学	社会情報	鈴 木 一 雄	新座市菅沢2-1-28 〒352-8510
128	国	上 越 教 育 大 学	学校教育	大 沢 健 郎	上越市山屋敷町1 〒943-8512
129	私	湘 南 工 科 大 学	工	糸 山 英 太 郎	藤沢市辻堂西海岸1-1-25 〒251-8511
130	私	尚 美 学 園 大 学	芸術情報、総合政策	赤 松 憲 樹	川越市豊田本1373 〒350-1118
131	私	昭 和 音 楽 大 学	音楽	五 十 嵐 喜 芳	厚木市関口808〒243-8521
132	私	女 子 栄 養 大 学	栄養、栄養二	香 川 芳 子	坂戸市千代田3-9-21 〒350-0288
133	私	女 子 美 術 大 学	芸術	小 松 弘 光	相模原市麻溝台1900 〒228-8538
134	国	信 州 大 学	人文、教育、理、医、工、農、繊維、経	森 本 尚 武	松本市旭3-1-1 〒390-8621
135	私	杉 野 女 子 大 学	家政	中 原 好 文	東京都品川区上大崎4-6-19 〒141-8652
136	私	鈴 鹿 国 際 大 学	国際	勝 田 吉 太 郎	鈴鹿市郡山町字西高山663-222 〒510-0263
137	私	成 安 造 形 大 学	造形	木 村 至 宏	大津市仰木の里東4-3-1 〒520-0248
138	私	聖カタリナ女子大学	社会福祉	ホピノ・サンミゲル	北条市北条660〒799-2496
139	私	聖マリアンナ医科大学	医	村 山 正 博	川崎市宮前区菅生2-16-1 〒216-8511
140	私	聖 和 大 学	教育、人文	宮 田 満 雄	西宮市岡田山7-54 〒662-0827
141	私	仙 台 大 学	体育	糸 野 豊	宮城県柴田郡柴田町船岡南2-2-18 〒989-1693
142	私	仙 台 白 百 合 女 子 大 学	人間	飯 山 義 子	仙台市泉区本町6-1 〒981-3107
143	国	総合研究大学院大学		小 平 桂 一	神奈川県三浦郡葉山町上山口 字間門1560-35 〒240-0193

	国 公 私 別	大 学 名	学 部 名	協 会 対 する 代 表 者 名	大 学 所 在 地
144	私	園田学園女子大学	国際文化	一 谷 宣 弘	尼崎市南塚口町7-29-1 〒661-8520
145	私	第一経済大学	経	都 築 泰 寿	太宰府市五条3-11-25 〒818-0197
146	私	高岡法科大学	法	吉 原 節 夫	高岡市戸出石代307-3 〒939-1193
147	公	高崎経済大学	経、地域政策	石 井 学	高崎市上並榎町1300 〒370-0801
148	私	高松大学	経営	三 浦 和 夫	高松市春日町960 〒761-0194
149	私	宝塚造形芸術大学	造形	池 田 正 男	宝塚市花屋敷つつじが丘7-27 〒665-0803
150	私	玉川大学	文、農、工、経営	小 原 芳 明	町田市玉川学園6-1-1 〒194-8610
151	私	多摩美術大学	美術、造形表現	辻 惟 雄	東京都世田谷区上野毛3-15-34 〒158-8558
152	私	筑紫女学園大学	文	名 本 幹 雄	太宰府市石坂2-12-1 〒818-0192
153	私	千葉経済大学	経	佐久間 彊	千葉市稲毛区轟町3-59-5 〒263-0021
154	私	中京学院大学	経営	安 達 元 成	中津川市千旦林1-104 〒509-9195
155	私	中部大学	工、経営情報、国際関係、人文、応用生物	飯 吉 厚 夫	春日井市松本町1200 〒487-8501
156	私	中部学院大学	人間福祉	片 桐 武 司	関市倉知4909 〒501-3993
157	私	つくば国際大学	産業社会	望 月 哲 太 郎	土浦市真鍋6-3960-1 〒300-0051
158	公	都留文科大学	文	久保木 哲 夫	都留市田原3-8-1 〒402-8555
159	私	帝塚山大学	人文科学、経、経営情報、法政策	岩 井 宏 實	奈良市帝塚山7-1-1 〒631-8501
160	私	帝塚山学院大学	文、人間文化	皆 川 基	大阪狭山市今熊2-1823 〒589-8585
161	私	東海学園大学	経、人文	村 瀬 忠 雄	名古屋市東区筒井1-2-35 〒461-0003
162	私	東海女子大学	文	原 田 勇 彦	各務原市那加桐野町5 〒504-8511
163	国	東京外国語大学	外国語	池 端 雪 浦	府中市朝日町3-11-1 〒183-8534
164	私	東京家政大学	家政、文	清 水 司	東京都板橋区加賀1-18-1 〒173-8602
165	国	東京芸術大学	美術、音楽	澄 川 喜 一	東京都台東区上野公園12-8 〒110-8714
166	私	東京工科大学	工、メディア	相 磯 秀 夫	八王子市片倉町1404-1 〒192-8580
167	私	東京国際大学	商、経、国際関係、人間社会	岡 本 清	川越市の場北1-13-1 〒350-1197
168	私	東京純心女子大学	現代文化	田 崎 清 忠	八王子市滝山町2-600 〒192-0011
169	国	東京商船大学	商船	杉 崎 昭 生	東京都江東区越中島2-1-6 〒135-8533
170	私	東京女子体育大学	体育	池 田 浩 一	国立市富士見台4-30-1 〒186-8668
171	国	東京水産大学	水産	降 島 史 夫	東京都港区港南4-5-7 〒108-8477
172	私	東京造形大学	造形	白 澤 宏 規	八王子市宇津貫町1556 〒192-8588

	国 公 私 別	大 学 名	学 部 名	協会に対する 代 表 者 名	大 学 所 在 地
173	公	東京都立科学技術大学	工	原 島 文 雄	日野市旭が丘6-6 〒191-0065
174	公	東京都立保健科学大学	保健科学	米 本 恭 三	東京都荒川区東尾久7-2 -10 〒116-8551
175	国	東京農工大学	農、工	宮 田 清 蔵	府中市暗見町3-8-1 〒183-8538
176	私	同 朋 大 学	文、社会福祉	沼 波 政 保	名古屋市中村区稲葉地町7 -1 〒453-8540
177	私	東 邦 音 楽 大 学	音楽	三 室 戸 東 光	川崎市今泉84 〒350-0015
178	私	桐 朋 学 園 大 学	音楽	江 藤 俊 哉	綱布市若葉町1-41-1 〒182-8510
179	私	東 北 福 祉 大 学	社会福祉	萩 野 浩 基	仙台市青葉区国見1-8-1 〒981-8522
180	私	東 北 薬 科 大 学	薬	高 柳 元 明	仙台市青葉区小松島4-4 -1 〒981-8558
181	私	東洋英和女学院大学	人間科学、社会科学	塚 本 哲 也	横浜市緑区三保町32-1 〒226-0015
182	私	東 和 大 学	工	上 床 隆 彦	福岡市南区筑紫ヶ丘1-1 -1 〒815-8510
183	私	常 磐 会 学 園 大 学	国際コミュニケーション	味 府 艶 子	大阪市平野区喜連東1-4 -12 〒547-0021
184	私	徳 島 文 理 大 学	家政、音楽、薬、文、工、総合政策	村 崎 正 人	徳島市寺島本町東1-8 〒770-8560
185	私	常 葉 学 園 大 学	教育、外国語	齋 藤 諦 淳	静岡市瀬名1-22-1 〒420-0911
186	国	図 書 館 情 報 大 学	図書館情報	吉 田 政 幸	つくば市春日1-2 〒305-8550
187	私	苫 小 牧 駒 澤 大 学	国際文化	大 久 保 治 男	苫小牧市錦岡521-293 〒059-1292
188	国	富 山 大 学	人文、教育、経、理、工	小 澤 浩	富山市五福3190 〒930-8555
189	公	富 山 県 立 大 学	工	中 島 恭 一	富山県射水郡小杉町黒河 5180 〒939-0398
190	国	豊 橋 技 術 科 学 大 学	工	後 藤 圭 司	豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1 -1 〒441-8580
191	私	豊 橋 創 造 大 学	経営情報	鈴 木 安 昭	豊橋市牛川町字松下20-1 〒440-8511
192	国	長 岡 技 術 科 学 大 学	工	服 部 賢	長岡市上富岡町1603-1 〒940-2188
193	私	長 崎 国 際 大 学	人間社会	和 田 光 史	佐世保市ハウステンボス町 2825-7 〒859-3298
194	私	長 野 大 学	産業社会	井 出 嘉 憲	上田市下之郷658-1 〒386-1298
195	公	長 野 県 看 護 大 学	看護	見 藤 隆 子	駒ヶ根市赤穂1694 〒399-4117
196	私	中 村 学 園 大 学	家政、流通科学	山 元 寅 男	福岡市城南区別府5-7-1 〒814-0198
197	私	名 古 屋 音 楽 大 学	音楽	今 榮 國 晴	名古屋市中村区稲葉地町7 -1 〒453-8540
198	私	名 古 屋 外 国 語 大 学	外国語、国際経営	平 井 俊 彦	日進市岩崎町竹ノ山57 〒470-0197
199	私	名 古 屋 経 済 大 学	経、法	末 岡 熙 章	犬山市字内久保61-1 〒484-8504
200	私	名 古 屋 芸 術 大 学	音楽、美術	大 島 俊 三	愛知県西春日井郡師勝町熊 之庄280 〒481-8503
201	私	名 古 屋 産 業 大 学	環境情報ビジネス	伊 藤 達 雄	尾張旭市新居町山の田3255 -5 〒488-8711

	国 公 私 別	大 学 名	学 部 名	協 会 に 対 す る 代 表 者 名	大 学 所 在 地
202	私	名古屋商科大学	商、外国語、経営情報	栗本 宏	日進市米野木町三ヶ峰4-4 〒470-0193
203	私	名古屋女子大学	家政、文	越原 一郎	名古屋市瑞穂区汐路町3-40 〒467-8610
204	私	名古屋造形芸術大学	造形芸術	石黒 鏑 二	小牧市大字大草字年上坂6004 〒485-8563
205	私	那 須 大 学	都市経済	一 河 秀 洋	黒磯市鹿野崎131 〒329-3121
206	私	奈 良 大 学	文、社会	藤 井 学	奈良市山陵町1500 〒631-8502
207	公	奈良県立医科大学	医	岡 島 英五郎	橿原市四条町840 〒634-8521
208	私	奈良産業大学	経、法、経営、情報	伊 瀬 敏 郎	奈良県生駒郡三郷町立野北3-12-1 〒636-8503
209	国	奈良女子大学	文、理、生活環境	丹 羽 雅 子	奈良市北魚屋東町 〒630-8506
210	国	奈良先端科学技術大学院大学		鳥 居 宏 次	生駒市高山町8916-5 〒630-0101
211	国	鳴門教育大学	学校教育	溝 上 泰	鳴門市鳴門町高島 〒772-8502
212	私	新潟工科大学	工	丹 野 頼 元	柏崎市大字藤橋1719 〒945-1195
213	私	新潟国際情報大学	情報文化	武 藤 輝 一	新潟市みずき野3-1-1 〒950-2292
214	私	新潟青陵大学	看護福祉心理	木 下 安 子	新潟市水道町1-5939 〒951-8121
215	私	西日本工業大学	工	坂 田 弘	福岡県京都郡苅田町大字新津1633-1 〒800-0394
216	私	日本獣医畜産大学	獣医畜産	池 本 卯 典	武蔵野市境南町1-7-1 〒180-8602
217	私	日本女子体育大学	体育	金 子 明 友	東京都世田谷区北烏山8-19-1 〒157-8565
218	私	日本赤十字九州国際看護大学	看護	小 島 通 代	宗像市アスティ1-1 〒811-4157
219	私	日本赤十字北海道看護大学	看護	松 木 光 子	北見市曙町664-1 〒090-0011
220	私	日本体育大学	体育	長谷川 正 明	東京都世田谷区深沢7-1-1 〒158-8508
221	私	日本文理大学	工、商経	古屋仲 芳 男	大分市大字一木1727-162 〒870-0397
222	私	人間環境大学	人間環境	竹 市 明 弘	岡崎市本宿町上三本松6-2 〒444-3505
223	私	白 鷗 大 学	経営、法	小 山 宙 丸	小山市大行寺1117 〒323-8585
224	私	八 戸 大 学	商	日 置 孝次郎	八戸市大字美保野13-98 〒031-8588
225	私	八戸工業大学	工	高 橋 燦 吉	八戸市大字妙字大開88-1 〒031-8501
226	私	花 園 大 学	文、社会福祉	西 村 惠 信	京都市中京区西ノ京壺ノ内町8-1 〒604-8456
227	私	浜 松 大 学	経営情報、国際経済	木 元 進一郎	浜松市都田町1230 〒431-2102
228	国	浜松医科大学	医	寺 尾 俊 彦	浜松市半田山1-20-1 〒431-1392
229	私	姫路獨協大学	外国語、法、経済情報	木 村 修 三	姫路市上大野7-2-1 〒670-8524
230	私	兵 庫 大 学	経済情報、健康科学	大 塚 圭 介	加古川市平岡町新在家2301 〒675-0101

国 公 私	大 学 名	学 部 名	協会に対する 代 表 者 名	大 学 所 在 地
231 国	兵庫教育大学	学校教育	中 洩 正 堯	兵庫県加東郡社町下久米 942-1 〒673-1494
232 私	弘前学院大学	文、社会福祉	田 澤 吉 郎	弘前市稔町13-1 〒036-8577
233 私	広島経済大学	経	石 田 恒 夫	広島市安佐南区祇園5-37 -1 〒731-0192
234 私	広島工業大学	工、環境	櫻 井 春 輔	広島市佐伯区三宅2-1- 1 〒731-5193
235 私	広島文教女子大学	文	五十嵐 二 郎	広島市安佐北区可部東1- 2-1 〒731-0295
236 私	フェリス女学院大学	文、音楽、国際交流	佐 竹 明	横浜市中区山手町37 〒231-8660
237 国	福 井 大 学	教育地域科学、工	児 嶋 眞 平	福井市文京3-9-1 〒910-8507
238 国	福井医科大学	医	須 藤 正 克	福井県吉田郡松岡町下合月 23-3 〒910-1193
239 公	福井県立大学	経、生物資源、看護福祉	常 脇 恒一郎	福井県吉田郡松岡町兼定高 4-1-1 〒910-1195
240 私	福井工業大学	工	三 宅 正 宣	福井市学園3-6-1 〒910-0028
241 国	福岡教育大学	教育	菰 口 治	宗像市大字赤間729-1 〒811-4192
242 公	福岡県立大学	人間社会	保田井 進	田川市大字伊田4395 〒825-8585
243 私	福岡国際大学	国際コミュニケーション	相 賀 一 郎	太宰府市五条4-16-1 〒818-0193
244 私	福岡女学院大学	人文、人間関係	齊 藤 皓 彦	福岡市南区日佐3-42-1 〒811-1313
245 公	福岡女子大学	文、人間環境	岡 照 雄	福岡市東区善住ヶ丘1-1- 1 〒813-8529
246 公	福島県立医科大学	医、看護	茂 田 士 郎	福島市光が丘1 〒960-1295
247 私	富 士 大 学	経	小山田 了 三	花巻市下根子450-3 〒025-8501
248 私	富士常葉大学	流通経済、環境防災	徳 山 明	富士市大淵325〒417-0801
249 私	藤女子大学	文、人間生活	永 田 淑 子	札幌市北区北16条西2丁目 21 〒001-0016
250 私	文化女子大学	服装、造形、文	大 沼 淳	東京都渋谷区代々木3-22 -1 〒151-8523
251 私	文京女子大学	経営、人間、外国語	島 田 燁 子	埼玉県入間郡大井町亀久保 1196 〒356-8533
252 私	平成国際大学	法	佐 藤 栄太郎	加須市水深大立野2000 〒347-8504
253 私	別 府 大 学	文	西 村 駿 一	別府市大字北石垣82 〒874-8501
254 私	北 陸 大 学	薬、外国語、法	北 元 喜 朗	金沢市太陽が丘1-1 〒920-1180
255 国	北陸先端科学技術大学院大学		示 村 悦二郎	石川県能美郡辰口町旭台1 -1 〒923-1292
256 私	北海道浅井学園大学	人間福祉、生涯学習システム	浅 井 幹 夫	江別市文京台23 〒069-8511
257 国	北海道教育大学	教育	村 山 紀 昭	札幌市北区あいの里五条3 -1-3 〒002-8501
258 私	北海道工業大学	工	柴 田 拓 二	札幌市手稲区前山七条15- 4-1 〒006-8585
259 私	北海道東海大学	芸術工、国際文化、工	光 澤 舜 明	札幌市南区南沢五条1-1 -1 〒005-8601

	国 公 私 別	大 学 名	学 部 名	協会に対する 代 表 者 名	大 学 所 在 地
260	私	北海道薬科大学	薬	伊藤 敬一	小樽市桂岡町7-1 〒047-0264
261	私	松 阪 大 学	政治経済	梅村 光弘	松阪市久保町1846 〒515-8511
262	私	松本歯科大学	歯	西連寺 永康	塩尻市大字広丘字郷原1780 〒399-0781
263	私	松山東雲女子大学	人文	別府 恵子	松山市桑原3-2-1 〒790-8531
264	国	三 重 大 学	人文、教育、医、工、生物資源	矢谷 隆一	津市上浜町1515 〒514-8507
265	私	南大阪大学	経営	足立 喜典	大阪府南河内郡美原町平尾 1060-1 〒587-8555
266	私	南九州大学	園芸	澁谷 義夫	宮崎市大字田吉6307-1 〒880-0911
267	私	身延山大学	仏教	浅井 圓道	山梨県南巨摩郡身延町身延 3567 〒409-2597
268	国	宮崎大学	教育文化、農、工	二神 光次	宮崎市学園木花台西1-1 〒889-2192
269	国	宮崎医科大学	医	森 満 保	宮崎県宮崎郡清武町大字木 原5200 〒889-1692
270	公	宮崎公立大学	人文	内嶋 善兵衛	宮崎市船塚1-1-2 〒880-8520
271	私	宮崎産業経営大学	法、経営、経	田代 知代	宮崎市古城町丸尾100 〒880-0931
272	国	室蘭工業大学	工	田頭 博昭	室蘭市水元町27-1 〒050-8585
273	私	名 桜 大 学	国際	東江 平之	名護市字為又1220-1 〒905-8585
274	私	明治鍼灸大学	鍼灸	栗山 欣彌	京都府船井郡日吉町 〒629-0392
275	私	明 星 大 学	理工、人文、情報、日本文化、経	日江井 榮二郎	日野市程久保2-1-1 〒191-8506
276	私	目 白 大 学	人文、人間社会	佐藤 弘毅	東京都新宿区中落合4-31 -1 〒161-8539
277	私	盛 岡 大 学	文	門屋 光昭	岩手県岩手郡滝沢村滝沢字 砂込808 〒020-0173
278	私	安田女子大学	文	河野 眞	広島市安佐南区安東6-13 -1 〒731-0153
279	国	山 形 大 学	人文、教育、理、工、農、医	仙道 富士郎	山形市小白川町1-4-12 〒990-8560
280	私	山梨学院大学	法、商、経営情報	古屋 忠彦	甲府市酒折2-4-5 〒400-8575
281	私	酪農学園大学	酪農、獣医、環境システム	大谷 俊昭	江別市文京台緑町582-1 〒069-8501
282	私	流通科学大学	商、情報、サービス産業	伊賀 隆	神戸市西区学園西町3-1 〒651-2188
283	私	ルーテル学院大学	文	清重 尚弘	三鷹市大沢3-10-20 〒181-0015
284	国	和歌山大学	教育、経、システム工	守屋 駿二	和歌山市栄930〒640-8510
285	公	和歌山県立医科大学	医	山本 博之	和歌山市紀三井寺811-1 〒641-8509
合計		285大学	513学部		

# 名 簿

(平成13. 9. 3現在)

## 役 員

(五十音順)

会 長	大 南 正 瑛	京都橘女子大学	(学長)	理 事	黒 田 壽 二	金沢工業大学	(総長)
副会長	北 原 保 雄	筑波大学	(学長)	"	後 藤 祥 子	日本女子大学	(学長)
"	児 玉 隆 夫	大阪市立大学	(学長)	"	小 間 篤	東京大学	(副学長)
"	松 尾 稔	名古屋大学	(総長)	"	佐 藤 登 志 郎	北里大学	(学長)
"	奥 島 孝 康	早稲田大学	(総長)	"	杉 岡 洋 一	九州大学	(総長)
"	小 出 忠 孝	愛知学院大学	(学長)	"	鈴 木 章 夫	東京医科歯科大学	(学長)
"	志 村 尚 子	津田塾大学	(学長)	"	鈴 木 康 司	中央大学	(学長)
理 事	赤 岩 英 夫	群馬大学	(学長)	"	瀬 在 幸 安	日本大学	(総長)
"	阿 部 博 之	東北大学	(総長)	"	内 藤 喜 之	東京工業大学	(学長)
"	荒 川 正 昭	新潟大学	(学長)	"	長 尾 真	京都大学	(総長)
"	磯 野 可 一	千葉大学	(学長)	"	永 田 眞 三 郎	関西大学	(学長)
"	今 田 寛	関西学院大学	(学長)	"	長 田 豊 臣	立命館大学	(総長)
"	大 橋 秀 雄	工学院大学	(学長)	"	八 田 英 二	同志社大学	(学長)
"	荻 上 紘 一	東京都立大学	(総長)	"	兵 藤 釧	埼玉大学	(学長)
"	加 藤 祐 三	横浜市立大学	(学長)	監 事	中 村 睦 男	北海道大学	(総長)
"	岸 本 忠 三	大阪大学	(総長)	"	絹 川 正 吉	国際基督教大学	(学長)
"	清 成 忠 男	法政大学	(総長)				
"	栗 田 健	明治大学	(総長)	事務局長	澤 田 進		

## 評 議 員

(五十音順)

氏 名	大 学 名	職 名	氏 名	大 学 名	職 名
青 木 和 男	福岡工業大学	(学長)	荒 井 猷	恵泉女学園大学	(学長)
青 野 一 哉	福岡歯科大学	(学長)	荒 井 章 三	神戸松蔭女子学院大学	(学長)
青 野 勝 広	松山大学	(学長)	荒 川 正 昭	新潟大学	(学長)
赤 岩 英 夫	群馬大学	(学長)	荒 又 重 雄	釧路公立大学	(学長)
我 妻 建 治	成城大学	(学長)	安 西 祐 一 郎	慶應義塾大学	(学長)
秋 野 豊 明	札幌医科大学	(学長)	安 部 元 雄	宮城学院女子大学	(学長)
淺 野 伍 朗	日本医科大学	(学長)	飯 坂 良 明	聖学院大学	(学長)
東 智 學	高野山大学	(学長)	飯 塚 幸 子	実践女子大学	(学長)
東 隆 眞	駒沢女子大学	(学長)	生 田 富 夫	中央学院大学	(学長)
阿 部 謹 也	共立女子大学	(学長)	池 上 徹 彦	会津大学	(学長)
阿 部 博 之	東北大学	(総長)	池 田 高 良	長崎大学	(学長)
阿 部 美 哉	國學院大学	(学長)	池 田 正 澄	京都薬科大学	(学長)
天 野 光 三	大阪産業大学	(学長)	石 弘 光	一橋大学	(学長)
網 中 政 機	名城大学	(学長)	石 川 忠 久	二松学舎大学	(学長)
雨 宮 眞 也	駒澤大学	(学長)	石 川 達 也	東京歯科大学	(学長)
鮎 川 恭 三	愛媛大学	(学長)	石 田 恒 好	文教大学	(学長)

泉	太	産業医科大学	(学長)	角松正雄	熊本学園大学	(学長)
磯野可一	千葉大学	(学長)	金子敦郎	大阪国際大学	(学長)	
板垣浩一	横浜国立大学	(学長)	川並弘昭	聖徳大学	(学長)	
市川太一	広島修道大学	(学長)	神田道子	東洋大学	(学長)	
伊東洋寛	東京医科大学	(学長)	岸英司	英知大学	(学長)	
今田寛一	関西学院大学	(学長)	岸本忠三	大阪大学	(学長)	
岩崎俊一	東北工業大学	(学長)	北原保雄	筑波大学	(学長)	
ウィリアム・カリー	上智大学	(学長)	絹川正吉	国際基督教大学	(学長)	
上杉千郷	皇學館大学	(理事長)	木村光伸	名古屋学院大学	(学長)	
植松東峻	国立音楽大学	(学長)	清成忠男	法政大学	(総長)	
上山大峻	龍谷大学	(学長)	葛谷昌之	岐阜薬科大学	(学長)	
鵜川昇	桐蔭横浜大学	(学長)	倉松功	東北学院大学	(学長)	
兎東俊之	東京音楽大学	(学長)	栗田健	明治大学	(総長)	
宇野英隆	千葉工業大学	(学長)	栗原敏	東京慈恵会医科大学	(学長)	
江口吾朗	熊本大学	(学長)	黒田壽二	金沢工業大学	(総長)	
江崎玲於奈	芝浦工業大学	(学長)	桑原靖夫	獨協大学	(学長)	
大久保哲夫	奈良教育大学	(学長)	小出忠孝	愛知学院大学	(学長)	
大里仁士	九州国際大学	(学長)	鯉淵信一	亜細亜大学	(学長)	
大友浩	北星学園大学	(学長)	河野伊一郎	岡山大学	(学長)	
大南正瑛	京都橘女子大学	(学長)	小浦延幸	東京理科大学	(理事長)	
大野功一	関東学院大学	(学長)	小谷誠	東京電機大学	(学長)	
大橋英五	立教大学	(総長)	兎玉隆夫	大阪市立大学	(学長)	
大橋秀雄	工学院大学	(学長)	後藤淳	愛知工業大学	(学長)	
大森健一	獨協医科大学	(学長)	後藤祥子	日本女子大学	(学長)	
岡田晃	金沢経済大学	(学長)	小林哲也	プール学院大学	(学長)	
岡本靖正	東京学芸大学	(学長)	小林素文	愛知淑徳大学	(学長)	
小川一乘	大谷大学	(学長)	小林陵二	石巻専修大学	(学長)	
小川英次	中京大学	(学長)	小間篤	東京大学	(副学長)	
小川秀興	順天堂大学	(学長)	齋藤史郎	徳島大学	(学長)	
荻上紘一	東京都立大学	(総長)	坂下昇	流通経済大学	(学長)	
冲永莊一	帝京大学	(総長)	坂田勝	拓殖大学	(学長)	
奥島孝康	早稲田大学	(総長)	坂本正徳	明治薬科大学	(学長)	
小倉芳彦	学習院大学	(学長)	阪本靖郎	神戸商科大学	(学長)	
小野功龍	相愛大学	(学長)	佐川寛典	大阪歯科大学	(学長)	
小野繁一	岩手医科大学	(学長)	佐藤登志郎	北里大学	(学長)	
梶田叡	京都ノートル大学	(学長)	佐藤東洋士	桜美林大学	(学長)	
梶谷誠	電気通信大学	(学長)	佐野武弘	昭和薬科大学	(学長)	
片岡千鶴子	長崎純心大学	(学長)	佐野哲郎	神戸親和女子大学	(学長)	
加藤勝康	青森公立大学	(学長)	佐野博敏	大妻女子大学	(学長)	
加藤延夫	愛知医科大学	(学長)	澤宏紀	鈴鹿医療科学大学	(学長)	
加藤寛三	千葉商科大学	(学長)	澤岡昭義	大同工業大学	(学長)	
加藤祐三	横浜市立大学	(学長)	椎貝博義	山梨大学	(学長)	

塩谷惇子	清泉女子大学	(学長)	長坂信夫	朝日大学	(学長)
島田眞久	大阪医科大学	(学長)	長澤俊彦	杏林大学	(学長)
志村尚子	津田塾大学	(学長)	永澤満	豊田工業大学	(学長)
白井善康	大阪学院大学	(学長)	永田眞三郎	関西大学	(学長)
神馬敬	日本工業大学	(学長)	長田豊臣	立命館大学	(総長)
菅野道廣	熊本県立大学	(学長)	中原爽	日本歯科大学	(理事長)
杉岡洋一	九州大学	(総長)	中村経紀	麻布大学	(学長)
杉山秋雄	神奈川工科大学	(学長)	中村睦男	北海道大学	(総長)
鈴木章夫	東京医科歯科大学	(学長)	中村元保	梅花女子大学	(学長)
鈴木康司	中央大学	(学長)	中山義崇	崇城大学	(学長)
鈴木幸壽	和洋女子大学	(学長)	波平勇夫	沖繩国際大学	(学長)
鈴木胖	姫路工業大学	(学長)	西垣二一	広島女学院大学	(学長)
須藤敏昭	大東文化大学	(学長)	西川禎一	大阪工業大学	(学長)
諏訪兼位	日本福祉大学	(学長)	新田政則	京都産業大学	(学長)
瀬在幸安	日本大学	(総長)	野上智行	神戸大学	(学長)
大京子	白百合女子大学	(学長)	野口鉄也	東邦大学	(理事長)
高木孝子	ノートルダム清心女子大学	(学長)	野田起一郎	近畿大学	(学長)
高久晃	富山医科薬科大学	(学長)	野々村昇	活水女子大学	(学長)
高久史	自治医科大学	(学長)	葉差井博巳	広島国際学院大学	(学長)
高倉公朋	東京女子医科大学	(学長)	橋本武人	天理大学	(学長)
高倉翔	明海大学	(学長)	長谷川匡俊	淑徳大学	(学長)
高崎直道	鶴見大学	(学長)	八田英二郎	同志社大学	(学長)
竹下守夫	駿河台大学	(学長)	林勇二郎	金沢大学	(学長)
武田信照	愛知大学	(学長)	原田園子	神戸女学院大学	(学長)
田中昭	城西大学	(学長)	ハンズ・ユーゲ ン・マルクス	南山大学	(学長)
田中教照	武蔵野女子大学	(学長)	半田正夫	青山学院大学	(学長)
田中愼一郎	北九州市立大学	(学長)	日置紘士郎	関西医科大学	(学長)
谷岡郁子	中京女子大学	(学長)	東谷穎人	神戸市外国語大学	(学長)
谷口弘行	神戸学院大学	(学長)	東野一彌	兵庫医科大学	(学長)
谷本貞人	関西外国語大学	(学長)	樋口康子	日本赤十字看護大学	(学長)
田原賢一	愛知教育大学	(学長)	平野実	久留米大学	(学長)
多村憲	新潟薬科大学	(学長)	兵藤釗	埼玉大学	(学長)
出牛正芳	専修大学	(学長)	廣池幹堂	麗澤大学	(学長)
土井章	倉敷芸術科学大学	(学長)	廣重力	北海道医療大学	(学長)
常葉恵子	聖路加看護大学	(学長)	廣中平祐	山口大学	(学長)
戸田安士	金城学院大学	(学長)	深瀬須加子	聖隷クリスト ファー看護大学	(学長)
内藤喜之	東京工業大学	(学長)	福井直敬	武蔵野音楽大学	(学長)
中井真孝	佛教大学	(学長)	福岡登	四国大学	(学長)
永井恒司	星薬科大学	(学長)	福田國彌	大阪電気通信大学	(理事長)
長尾重武	武蔵野美術大学	(学長)	福場博保	昭和女子大学	(学長)
中尾ハジメ	京都精華大学	(学長)	藤井耐	高千穂大学	(学長)
長尾真	京都大学	(総長)	藤本復禮	茨城キリスト教大学	(学長)

藤本 黎時	広島市立大学	(学長)	森本 武利	神戸女子大学	(学長)
船本 弘毅	東京女子大学	(学長)	諸澤 英道	常磐大学	(学長)
細山田 明義	昭和大学	(学長)	柳井 道夫	成蹊大学	(学長)
堀 幹夫	岐阜女子大学	(学長)	柳田 博明	名古屋工業大学	(学長)
堀川 清司	武蔵工業大学	(学長)	山内 眞	東京神学大学	(学長)
本多 健一	東京工芸大学	(学長)	山縣 喜代	聖心女子大学	(学長)
前田 壽一	洗足学園大学	(学長)	山口 昌男	札幌大学	(学長)
松尾 稔	名古屋大学	(総長)	山崎 一穎	跡見学園女子大学	(学長)
松田 藤四郎	東京農業大学	(理事長)	山崎 良也	九州産業大学	(学長)
松田 英毅	くらしき作陽大学	(学長)	山路 正雄	藤田保健衛生大学	(理事長)
松濤 誠達	大正大学	(学長)	山下 宏幸	福岡大学	(学長)
松前 達郎	東海大学	(学長)	山田 達夫	大阪経済大学	(学長)
三浦 信行	国士舘大学	(学長)	山名 伸作	阪南大学	(学長)
水田 宗子	城西国際大学	(学長)	山内 祥史	神戸海星女子学院大学	(学長)
道上 正規	鳥取大学	(学長)	山火 正則	神奈川大学	(学長)
南 努	大阪府立大学	(学長)	山邊 時男	長崎総合科学大学	(学長)
南 裕子	兵庫県立看護大学	(学長)	山村 泰道	岡山理科大学	(学長)
三橋 修	和光大学	(学長)	山本 俊治	武庫川女子大学	(学長)
官地 茂	福山大学	(学長)	横倉 尚	武蔵大学	(学長)
官本 匡章	金沢学院大学	(学長)	横須賀 薫	宮城教育大学	(学長)
牟田 泰三	広島大学	(学長)	吉沢 英成	甲南大学	(学長)
武藤 泰敏	椋山女学園大学	(学長)	吉田 忠雄	足利工業大学	(学長)
村上 勝彦	東京経済大学	(学長)	吉田 豊	弘前大学	(学長)
村上 隆太	西南学院大学	(学長)	吉田 洋二	山梨医科大学	(学長)
村田 晴夫	桃山学院大学	(学長)	吉田 榮夫	立正大学	(学長)
望月 正隆	共立薬科大学	(学長)	吉原 泰助	福島大学	(学長)
森 陽	東京薬科大学	(学長)	ローレンス・マクガレル	エリザベト音楽大学	(学長)
森田 兼吉	梅光学院大学	(学長)	若江 正三	創価大学	(学長)
森田 潤司	同志社女子大学	(学長)	脇田 良一	明治学院大学	(学長)
森田 孟進	琉球大学	(学長)	和田 義郎	名古屋市立大学	(学長)
森田 嘉一	京都外国語大学	(理事長)	渡邊 良雄	上武大学	(学長)

## 顧問

(順序不同)

氏名	大学名	氏名	大学名
山内 俊吉	(元副会長、元東京工業大学学長)	清水 司	(元副会長、元早稲田大学総長)
中村 哲	(元副会長、元法政大学総長)	末松 安晴	(元会長、元東京工業大学学長)
井出 源四郎	(元副会長、元千葉大学学長)	田中 郁三	(元会長、元東京工業大学学長)
肥田野 直	(元副会長、元東京大学教授)	戸田 修三	(元会長、元中央大学学長)
石川 忠雄	(元会長、元慶應義塾大学学長)	西原 春夫	(元会長、元早稲田大学総長)
川井 健	(元副会長、元一橋大学学長)	吉田 亮	(元副会長、元千葉大学学長)
塩野谷 祐一	(元副会長、元一橋大学学長)	和田 光史	(元会長、元九州大学総長)

# 委 員 会

(平成13. 9. 3)

## 1 基準委員会

役名	氏名	大学名
委員長	瀬在幸安	日本大学
副委員長	小間篤	東京大学
委員	浅野幸一郎	関西大学
〃	有本卓	立命館大学
〃	池田輝政	名古屋大学
〃	岩崎庸男	筑波大学
〃	江原武一	京都大学
〃	岡野昌雄	国際基督教大学
〃	金子征史	法政大学
〃	坂巻清	東北大学
〃	讚井浩平	上智大学
〃	白井克彦	早稲田大学
〃	多賀谷一照	千葉大学
〃	納谷廣美	明治大学
〃	野澤秀樹	九州大学
〃	藤田正一	北海道大学
〃	古屋一仁	東京工業大学
〃	茂里一紘	広島大学
〃	薬師寺泰蔵	慶應義塾大学
〃	山内惟介	中央大学
幹事	新田義彦	日本大学

### 大学通信教育基準検討委員会

役名	氏名	大学名
委員長	清成忠男	法政大学
委員	江澤郁子	日本女子大学
〃	白井克彦	早稲田大学
〃	宮本晃	日本大学
〃	薬師寺泰蔵	慶應義塾大学
〃	山内惟介	中央大学
委員兼幹事	中野榮夫	法政大学

### 保健学系教育基準検討委員会

役名	氏名	大学名
委員長	瀬在幸安	日本大学
委員	佐藤健次	東京医科歯科大学
〃	深井小久子	川崎医療福祉大学
〃	丸山知子	札幌医科大学

委員	丸山仁司	国際医療福祉大学
〃	山本洋一	鈴鹿医療科学大学
〃	渡辺敏	北里大学
委員兼幹事	小川節郎	日本大学

### 農学系教育基準検討委員会

役名	氏名	大学名
担当理事	荒川正昭	新潟大学
委員長	林良博	東京大学

### 工学系研究科基準検討委員会

役名	氏名	大学名
担当理事	黒田壽二	金沢工業大学
委員長	古川勇二	東京都立大学

## 2 判定委員会

役名	氏名	大学名
委員長	外間寛	中央大学
副委員長	内田博文	九州大学
委員	池間誠	一橋大学
〃	石川啓	関西大学
〃	大島晃	上智大学
〃	大西有三	京都大学
〃	近藤博之	大阪大学
〃	佐々木嬉代三	立命館大学
〃	佐藤登志郎	北里大学
〃	白井克彦	早稲田大学
〃	鈴木典比古	国際基督教大学
〃	西川禰一	大阪工業大学
〃	林良博	東京大学
〃	樋口龍雄	東北大学
〃	樋口美雄	慶應義塾大学
〃	船本弘毅	東京女子大学
〃	前出吉光	北海道大学
〃	茂木俊彦	東京都立大学
〃	茂里一紘	広島大学
〃	山本眞一	筑波大学
幹事	石井彰三	東京工業大学
〃	関口正司	九州大学

幹事	塚越幹郎	東京理科大学
〃	中林一樹	東京都立大学
〃	野村稔	早稲田大学
〃	日高克平	中央大学

委員	志村尚子	津田塾大学
〃	丹保憲仁	放送大学
〃	戸田修三	元中央大学
〃	鳥居泰彦	元慶應義塾大学
〃	長尾真	京都大学
〃	松尾稔	名古屋大学

### 3 相互評価委員会

役名	氏名	大学名
委員長	赤岩英夫	群馬大学
副委員長	佐藤登志郎	北里大学
委員	石渡茂	国際基督教大学
〃	稲垣康善	名古屋大学
〃	木村靖二	東京大学
〃	小西砂千夫	関西学院大学
〃	佐藤東洋士	桜美林大学
〃	生和秀敏	広島大学
〃	多胡圭一	大阪大学
〃	富田房男	北海道大学
〃	長田豊臣	立命館大学
〃	西川孝夫	東京都立大学
〃	西澤宗英	青山学院大学
〃	藤原值賀人	大阪市立大学
〃	船本弘毅	東京女子大学
〃	古川顯	京都大学
〃	光澤滋朗	同志社大学
〃	南塚信吾	千葉大学
〃	山崎勝男	早稲田大学
〃	六車明	慶應義塾大学
幹事	阿部和厚	北海道大学
〃	遠藤美光	千葉大学
〃	柴忠義	北里大学
〃	白井紘行	群馬大学
〃	丹羽重博	日本大学
〃	牧野暢男	日本女子大学

### 4 本協会のあり方検討委員会

役名	氏名	大学名
委員長	大南正瑛	京都橘女子大学
副委員長	清成忠男	法政大学
委員	奥島孝康	早稲田大学
〃	北原保雄	筑波大学
〃	小出忠孝	愛知学院大学
〃	児玉隆夫	大阪市立大学

### 本協会のあり方検討委員会小委員会

(◎印は本委員会委員)

役名	氏名	大学名
委員長◎	清成忠男	法政大学
委員	赤岩英夫	群馬大学
〃	阿部和厚	北海道大学
〃	荒川正昭	新潟大学
〃	有本章	広島大学
〃	岩瀬悉有	関西学院大学
〃	大西有三	京都大学
〃	大橋秀雄	工学院大学
〃	小口泰平	芝浦工業大学
〃	上村洸	東京理科大学
〃	絹川正吉	国際基督教大学
〃	栗田健	明治大学
〃◎	小出忠孝	愛知学院大学
〃◎	児玉隆夫	大阪市立大学
〃	瀬在幸安	日本大学
〃	野村稔	早稲田大学
〃	外間寛	中央大学
〃	光岡知足	元東京大学
〃	山本眞一	筑波大学

### 評価項目・評価指標検討分科会

役名	氏名	大学名
主査	栗田健	明治大学
委員	有本章	広島大学
〃	岩瀬悉有	関西学院大学
〃	大西有三	京都大学
〃	上村洸	東京理科大学
〃	山本眞一	筑波大学

### 評価組織体制・プロセス等検討分科会

役名	氏名	大学名
主査	外間寛	中央大学

委員	赤岩英夫	群馬大学
〃	阿部和厚	北海道大学
〃	小口泰平	芝浦工業大学
〃	絹川正吉	国際基督教大学
〃	野村稔	早稲田大学

組織・機構、財政検討分科会

役名	氏名	大学名
主査	清成忠男	法政大学
委員	荒川正昭	新潟大学
〃	小出忠孝	愛知学院大学
〃	児玉隆夫	大阪市立大学
〃	瀬在幸安	日本大学

5 獣医学教育研究委員会

(〇印は小委員会委員)

役名	氏名	大学名
委員長	〇光岡知足	元東京大学
副委員長	〇林良博	東京大学
委員	植村興	大阪府立大学
〃	大橋秀法	元岐阜大学
〃	〇唐木英明	東京大学
〃	〇酒井健夫	日本大学
〃	品川森一	帯広畜産大学
〃	〇鈴木直義	元帯広畜産大学
〃	立山晉	宮崎大学
〃	内藤善久	岩手大学
〃	原田悦守	鳥取大学
〃	前出吉光	北海道大学
〃	〇山根義久	東京農工大学
幹事	〇赤堀文昭	麻布大学

6 看護学教育研究委員会

役名	氏名	大学名
担当理事	磯野可一	千葉大学
委員長	平山朝子	岐阜県立看護大学
委員	石垣和子	千葉大学
〃	中西睦子	神戸市看護大学
〃	野口美和子	千葉大学
〃	樋口康子	日本赤十字看護大学
〃	菱沼典子	聖路加看護大学
委員兼幹事	金川克子	石川県立看護大学

8 刊行物編纂委員会

役名	氏名	大学名
委員長	岡田晃	金沢経済大学
委員	小出忠孝	愛知学院大学
〃	三宅恭二	元大学基準協会
〃	前田早苗	大学基準協会
〃	早田幸政	大学基準協会
〃	工藤潤	大学基準協会

9 『大学評価研究』編集委員会

役名	氏名	大学名
委員長	志村尚子	津田塾大学
委員	赤岩英夫	群馬大学
〃	大谷隆一	京都大学
〃	國岡昭夫	元青山学院大学
〃	中村睦男	北海道大学
〃	早田幸政	大学基準協会
幹事	澤田進	大学基準協会

10 広報委員会

役名	氏名	大学名
委員長	小出忠孝	愛知学院大学
委員	植田康夫	上智大学
〃	大石準一	関西大学
〃	奥村次徳	東京都立大学
〃	黒田千秋	東京工業大学
〃	谷口晋吉	一橋大学
〃	平林千牧	法政大学

11 年史編纂室

役名	氏名	大学名
主査	寺崎昌男	桜美林大学
委員	古屋野素材	明治大学
〃	田中征男	和光大学
〃	前田一男	立教大学

平成12年度大学評価分科会関係名簿

(平成13. 3. 7)

1 判定委員会

役名	氏名	大学名
委員長	外間 寛	中央大学
副委員長	内田博文	九州大学
委員	池間 誠	一橋大学
"	石川 啓	関西大学
"	大島 晃	上智大学
"	大西有三	京都大学
"	近藤博之	大阪大学
"	佐々木嬉代三	立命館大学
"	佐藤登志郎	北里大学
"	白井克彦	早稲田大学
"	鈴木典比古	国際基督教大学
"	西川 禪一	大阪工業大学
"	林 良博	東京大学
"	樋口龍雄	東北大学
"	樋口美雄	慶應義塾大学
"	船本弘毅	東京女子大学
"	前出吉光	北海道大学
"	茂木俊彦	東京都立大学
"	茂里一紘	広島大学
"	山本真一	筑波大学
幹事	石井彰三	東京工業大学
"	関口正司	九州大学
"	塚越幹郎	東京理科大学
"	中林一樹	東京都立大学
"	野村 稔	早稲田大学
"	日高克平	中央大学

(○印は本委員会委員)

(1) 大学審査分科会 (第一群)

役名	氏名	大学名
主査	○前出吉光	北海道大学
委員	○大島 晃	上智大学
"	○佐藤登志郎	北里大学
"	○船本弘毅	東京女子大学

(2) 大学審査分科会 (第二群)

役名	氏名	大学名
----	----	-----

主査	○山本真一	筑波大学
委員	○外間 寛	中央大学
"	宮本美沙子	日本女子大学
"	吉沢英成	甲南大学

(3) 大学審査分科会 (第三群)

役名	氏名	大学名
主査	○茂里一紘	広島大学
委員	絹川正吉	国際基督教大学
"	○近藤博之	大阪大学
"	○林 良博	東京大学

(4) 大学審査分科会 (第四群)

役名	氏名	大学名
主査	○石川 啓	関西大学
委員	○池間 誠	一橋大学
"	瀬在幸安	日本大学
"	○西川 禪一	大阪工業大学

(5) 大学審査分科会 (第五群)

役名	氏名	大学名
主査	○佐々木嬉代三	立命館大学
委員	○鈴木典比古	国際基督教大学
"	○樋口龍雄	東北大学
"	○茂木俊彦	東京都立大学

(6) 大学審査分科会 (第六群)

役名	氏名	大学名
主査	○白井克彦	早稲田大学
委員	○内田博文	九州大学
"	○大西有三	京都大学
"	○樋口美雄	慶應義塾大学

(7) 国際文化・教養学系専門審査分科会

役名	氏名	大学名
主査	絹川正吉	国際基督教大学
委員	橋本隆夫	神戸大学
"	百瀬 宏	広島市立大学

(8) 教育学系第1専門審査分科会

役名	氏名	大学名
主査	○茂木俊彦	東京都立大学
委員	石黒宣俊	愛知教育大学
"	奥川義尚	京都外国語大学

(9) 教育学系第2専門審査分科会

役名	氏名	大学名
主査	○近藤博之	大阪大学
委員	浪本勝年	立正大学
"	横須賀薫	宮城教育大学

(10) 文学系第1専門審査分科会

役名	氏名	大学名
主査	北原保雄	筑波大学
委員	神作光一	東洋大学
"	西田修	立教大学

(11) 文学系第2専門審査分科会

役名	氏名	大学名
主査	○大島晃	上智大学
委員	加藤晴久	恵泉女学園大学
"	久保紘章	法政大学

(12) 法学系専門審査分科会

役名	氏名	大学名
主査	○内田博文	九州大学
委員	納谷廣美	明治大学
"	野村豊弘	学習院大学
"	山下威士	新潟大学

(13) 政治経済学系専門審査分科会

役名	氏名	大学名
主査	○池間誠	一橋大学
委員	福尾洋一	関西学院大学
"	宮崎隆次	千葉大学

(14) 行政社会・都市情報学系専門審査分科会

役名	氏名	大学名
主査	手島孝	元熊本県立大学
委員	赤塚雄三	東洋大学
"	中村紀一	筑波大学

(15) 経済学系第1専門審査分科会

役名	氏名	大学名
主査	○樋口美雄	慶應義塾大学
委員	江夏由樹	一橋大学
"	柴田悟一	横浜市立大学
"	増田壽男	法政大学

(16) 経済学系第2専門審査分科会

役名	氏名	大学名
主査	吉沢英成	甲南大学
委員	中野幸紀	関西学院大学
"	服部容教	大阪市立大学

(17) 経営学系専門審査分科会

役名	氏名	大学名
主査	○鈴木典比古	国際基督教大学
委員	陶山計介	関西大学
"	吉原正彦	青森公立大学

(18) 工学系第1専門審査分科会

役名	氏名	大学名
主査	○大西有三	京都大学
委員	赤池志郎	神奈川工科大学
"	本間和明	東京電機大学

(19) 工学系第2専門審査分科会

役名	氏名	大学名
主査	○樋口龍雄	東北大学
委員	大成幹彦	東京理科大学
"	奥村次徳	東京都立大学

(20) 理工学系専門審査分科会

役名	氏名	大学名
主査	○西川禎一	大阪工業大学
委員	赤池正巳	東京理科大学
"	村上敬宜	九州大学

(21) 農学系専門審査分科会

役名	氏名	大学名
主査	○林良博	東京大学
委員	伊東正	千葉大学
"	北出俊昭	明治大学

(22) 看護・医学系専門審査分科会

役名	氏名	大学名
主査	○佐藤登志郎	北里大学
委員	濱田悦子	日本赤十字看護大学
"	馬淵宏	金沢大学
"	丸山知子	札幌医科大学

(23) 医療科学系専門審査分科会

役名	氏名	大学名
主査	瀬在幸安	日本大学
委員	佐藤健次	東京医科歯科大学
"	渡辺敏	北里大学

(24) 薬学系専門審査分科会

役名	氏名	大学名
主査	濱堯夫	神戸学院大学
委員	野村靖幸	北海道大学
"	舟崎紀昭	京都薬科大学

(25) 家政学系専門審査分科会

役名	氏名	大学名
主査	宮本美沙子	日本女子大学
委員	高阪謙次	椋山女学園大学
"	小見山二郎	実践女子大学

(26) 体育学系専門審査分科会

役名	氏名	大学名
主査	杉岡洋一	九州大学
委員	北森義明	順天堂大学
"	渡部晴行	愛媛大学

(27) 芸術学系専門審査分科会

役名	氏名	大学名
主査	神林恒道	大阪大学
委員	潮隆雄	広島市立大学
"	小林陸一郎	京都精華大学

2 相互評価委員会

役名	氏名	大学名
委員長	赤岩英夫	群馬大学
副委員長	佐藤登志郎	北里大学
委員	石渡茂	国際基督教大学

委員	稲垣康善	名古屋大学
"	大南正瑛	京都橘女子大学
"	木村靖二	東京大学
"	小西砂千夫	関西学院大学
"	佐藤東洋士	桜美林大学
"	生和秀敏	広島大学
"	多胡圭一	大阪大学
"	富田房男	北海道大学
"	長田豊臣	立命館大学
"	西川孝夫	東京都立大学
"	西澤宗英	青山学院大学
"	藤原值賀人	大阪市立大学
"	船本弘毅	東京女子大学
"	古川顯	京都大学
"	南塚信吾	千葉大学
"	山崎勝男	早稲田大学
"	六車明	慶應義塾大学
幹事	阿部和厚	北海道大学
"	柴忠義	北里大学
"	白井紘行	群馬大学
"	手塚和彰	千葉大学
"	牧野暢男	日本女子大学
"	松本芳男	日本大学

(○印は本委員会委員)

(1) 大学評価分科会 (第一群)

役名	氏名	大学名
主査	○富田房男	北海道大学
委員	池田正澄	京都薬科大学
"	○佐藤登志郎	北里大学
"	○藤原值賀人	大阪市立大学

(2) 大学評価分科会 (第二群)

役名	氏名	大学名
主査	○南塚信吾	千葉大学
委員	○石渡茂	国際基督教大学
"	○木村靖二	東京大学
"	○船本弘毅	東京女子大学

(3) 大学評価分科会 (第三群)

役名	氏名	大学名
主査	○生和秀敏	広島大学
委員	○稲垣康善	名古屋大学
"	佐川寛典	大阪歯科大学
"	○六車明	慶應義塾大学

(4) 大学評価分科会 (第四群)

役名	氏名	大学名
主査	○長田豊臣	立命館大学
委員	○赤岩英夫	群馬大学
"	上村洗	東京理科大学
"	○山崎勝男	早稲田大学

(5) 大学評価分科会 (第五群)

役名	氏名	大学名
主査	○佐藤東洋士	桜美林大学
委員	中井真孝	佛教大学
"	○西澤宗英	青山学院大学
"	○古川顯	京都大学

(6) 大学評価分科会 (第六群)

役名	氏名	大学名
主査	○大南正瑛	京都橘女子大学
委員	○小西砂千夫	関西学院大学
"	○多胡圭一	大阪大学
"	○西川孝夫	東京都立大学

(7) 教育学系専門評価分科会

役名	氏名	大学名
主査	須藤敏昭	大東文化大学
委員	水内宏	千葉大学
"	武藤英男	群馬大学

(8) 文学系第1専門評価分科会

役名	氏名	大学名
主査	○木村靖二	東京大学
委員	古川隆夫	岡山大学
"	吉田謙二	同志社大学

(9) 文学系第2専門評価分科会

役名	氏名	大学名
----	----	-----

主査	鈴木康司	中央大学
委員	出淵敬子	日本女子大学
"	矢澤修次郎	一橋大学

(10) 文学系第3専門評価分科会

役名	氏名	大学名
主査	中井真孝	佛教大学
委員	鳥居邦朗	武蔵大学
"	丸山幸彦	徳島大学
"	本池立	岡山大学

(11) 文学系第4専門評価分科会

役名	氏名	大学名
主査	柳井道夫	成蹊大学
委員	浅沼圭司	成城大学
"	高山信雄	大正大学
"	水島裕雅	広島大学

(12) 神学系専門評価分科会

役名	氏名	大学名
主査	○船本弘毅	東京女子大学
委員	荒井猷	恵泉女学園大学
"	ハンス ユーゲン・マールクス	南山大学

(13) 国際学系第1専門評価分科会

役名	氏名	大学名
主査	志村尚子	津田塾大学
委員	塩崎弘明	長崎純心大学
"	西村幸次郎	一橋大学

(14) 国際学系第2専門評価分科会

役名	氏名	大学名
主査	横川新	成城大学
委員	小林規威	淑徳大学
"	佐藤滋	東北大学

(15) 国際学・外国語学系専門評価分科会

役名	氏名	大学名
主査	岩瀬悉有	関西学院大学
委員	桑田禮彰	駒澤大学
"	酒井府	獨協大学
"	原田松三郎	神戸市外国語大学

(16) 人間科学系専門評価分科会

役名	氏名	大学名
主査	○山崎勝男	早稲田大学
委員	赤池憲昭	愛知学院大学
"	清水貞夫	官城教育大学

(17) 社会福祉学系専門評価分科会

役名	氏名	大学名
主査	山崎美貴子	明治学院大学
委員	里見賢治	大阪府立大学
"	松溪憲雄	龍谷大学

(18) 法学系第1専門評価分科会

役名	氏名	大学名
主査	○多胡圭一	大阪大学
委員	金子征史	法政大学
"	新藤宗幸	立教大学

(19) 法学系第2専門評価分科会

役名	氏名	大学名
主査	○西澤宗英	青山学院大学
委員	岡本博志	北九州大学
"	関俊彦	東北大学
"	竹下賢	関西大学

(20) 商学・経済学系第1専門評価分科会

役名	氏名	大学名
主査	○石渡茂	国際基督教大学
委員	丑山優	九州大学
"	東海幹夫	青山学院大学
"	若杉隆平	横浜国立大学

(21) 商学・経済学系第2専門評価分科会

役名	氏名	大学名
主査	○小西砂千夫	関西学院大学
委員	大滝精一	東北大学
"	椿弘次	早稲田大学

(22) 商学・経済学系第3専門評価分科会

役名	氏名	大学名
主査	村上勝彦	東京経済大学
委員	田村正紀	神戸大学

委員 藤田幸男 愛知学院大学

(23) 経済学系専門評価分科会

役名	氏名	大学名
主査	○古川顯	京都大学
委員	池宮城秀正	明治大学
"	貝山道博	埼玉大学
"	名城邦夫	名古屋学院大学

(24) 経営学系専門評価分科会

役名	氏名	大学名
主査	小川英次	中京大学
委員	光澤滋朗	同志社大学
"	山倉健嗣	横浜国立大学

(25) 理学系第1専門評価分科会

役名	氏名	大学名
主査	上村洸	東京理科大学
委員	斉藤肇	姫路工業大学
"	瀬川幸一	上智大学

(26) 理学系第2専門評価分科会

役名	氏名	大学名
主査	児玉隆夫	大阪市立大学
委員	橋本弘信	東京工業大学
"	安岡高志	東海大学

(27) 工学系第1専門評価分科会

役名	氏名	大学名
主査	○西川孝夫	東京都立大学
委員	斎藤信男	慶應義塾大学
"	水谷惟恭	東京工業大学

(28) 工学系第2専門評価分科会

役名	氏名	大学名
主査	○藤原値賀人	大阪市立大学
委員	安藤信好	武蔵工業大学
"	平岡節郎	名古屋工業大学

(29) 工学系第3専門評価分科会

役名	氏名	大学名
主査	○稲垣康善	名古屋大学

委員 坂田 勝 拓殖大学  
" 平尾 公彦 東京大学

(30) 理工学系専門評価分科会

役名 氏名 大学名  
主査 小口 泰平 芝浦工業大学  
委員 川井 正雄 名古屋工業大学  
" 小林 猛 名古屋大学  
" 牟田 泰三 広島大学

(31) 生命科学系専門評価分科会

役名 氏名 大学名  
主査 佐野 武弘 昭和薬科大学  
委員 大倉 一郎 東京工業大学  
" 東 隆親 東京理科大学

(32) 農学系専門評価分科会

役名 氏名 大学名  
主査 林 良博 東京大学  
委員 伊東 正 千葉大学  
" 北出 俊昭 明治大学

(33) 獣医学系専門評価分科会

役名 氏名 大学名  
主査 中村 経紀 麻布大学  
委員 酒井 健夫 日本大学  
" 宮崎 昭 京都大学

(34) 水産学系専門評価分科会

役名 氏名 大学名  
主査 繪面 良男 北海道大学  
委員 天野 良平 東海大学  
" 宮澤 啓輔 広島大学

(35) 医学系第1専門評価分科会

役名 氏名 大学名  
主査 荒川 正昭 新潟大学  
委員 石川 紘一 日本大学  
" 植田 規史 愛媛大学  
" 布施 勝生 自治医科大学

(36) 医学系第2専門評価分科会

役名 氏名 大学名  
主査 秋野 豊明 札幌医科大学  
委員 加藤 治文 東京医科大学  
" 本田 昂 富山医科薬科大学  
" 森松 稔 久留米大学

(37) 医学・医療衛生学系専門評価分科会

役名 氏名 大学名  
主査 磯野 可一 千葉大学  
委員 佐藤 剛 札幌医科大学  
" 板東 武彦 新潟大学  
" 真柄 直郎 東京慈恵会医科大学

(38) 看護系専門評価分科会

役名 氏名 大学名  
主査 樋口 康子 日本赤十字看護大学  
委員 中島 紀恵子 北海道医療大学  
" 野口 美和子 千葉大学  
" 藤枝 知子 東京女子医科大学

(39) 歯学系専門評価分科会

役名 氏名 大学名  
主査 佐川 寛典 大阪歯科大学  
委員 高江洲 義矩 東京歯科大学  
" 福田 博 北海道大学

(40) 薬学系第1専門評価分科会

役名 氏名 大学名  
主査 葛谷 昌之 岐阜薬科大学  
委員 竹口 紀晃 富山医科薬科大学  
" 永井 正博 星薬科大学  
" 西野 武志 京都薬科大学

(41) 薬学系第2専門評価分科会

役名 氏名 大学名  
主査 池田 正澄 京都薬科大学  
委員 井原 正隆 東北大学  
" 遠藤 豊成 共立薬科大学  
" 平野 和行 岐阜薬科大学

(42) 薬学系第3専門評価分科会

役名	氏名	大学名
主査	濱 堯夫	神戸学院大学
委員	野村 靖幸	北海道大学
〃	舟崎 紀昭	京都薬科大学

(43) 体育学系専門評価分科会

役名	氏名	大学名
主査	杉岡 洋一	九州大学
委員	北森 義明	順天堂大学
〃	渡部 晴行	愛媛大学

(44) 音楽学系専門評価分科会

役名	氏名	大学名
主査	植松 東	国立音楽大学
委員	佐藤 幹一	東京学芸大学
〃	寺田 兼文	東京音楽大学

(45) 芸術工学系専門評価分科会

役名	氏名	大学名
主査	長尾 重武	武蔵野美術大学
委員	原 直久	日本大学
〃	三村 翰弘	筑波大学

(46) 環境科学系専門評価分科会

役名	氏名	大学名
主査	○六車 明	慶應義塾大学
委員	青山 勳	岡山大学

# 大学基準協会 設置・廃止委員会一覧

(平成13. 9. 3現在)

## 1 改組法人化前の委員会

委員会名	設置年月日	廃止年月日			
通信教育部委員会	昭22. 8.26	昭23.12.20	体育保健研究委員会	昭22.10.14	昭26.12.21
新学制に関する研究委員会	"	"	短期大学よりの進学に関する研究小委員会	昭26. 1.30	昭28. 3.31
社会事業学部基準分科会	昭22. 9. 9	"	学士号委員会	昭26. 2.10	昭26. 2.22
新聞学教育基準分科会	昭22. 9.23	"	神学教育基準分科会	昭26. 3.26	昭26.12.21
体育保健研究委員会	昭22.10.14	"	工業教育研究委員会	昭26. 5.17	昭28. 3.31
獣医学教育基準分科会	"	"	定款改正研究小委員会	昭26.12.21	昭27. 6.16
薬学教育基準分科会	"	昭26.12.21	法隆寺金堂壁画集贈呈対策小委員会	昭27. 5. 6	昭28. 6. 9
歯学教育基準分科会	"	"	夜間部研究委員会	昭27. 7.15	昭34. 4.28
医学教育基準分科会	"	昭32.12.19	大学院研究委員会	昭27. 9.24	昭28. 7.17
家政学教育基準分科会	昭22.11.11	昭23.12.20	一般教育研究委員会	昭27.11.29	昭30. 3.17
大学地方委譲問題研究委員会	昭22.12.17	昭23. 2.24	衛生看護学教育基準分科会	昭28. 1.22	昭29. 5.18
神学教育基準分科会	昭23. 1.13	昭23.12.20	図書館学教育基準分科会	昭28. 7.17	"
法学教育研究委員会	"	昭29. 7.14	新聞学教育基準分科会	"	"
図書館研究関西地区委員会	"	昭26. 9.25	芸術学教育基準分科会	"	"
同 東京地区委員会	昭23. 1.17	"	大学及び大学院問題研究委員会	"	昭34. 9.15
一般教育研究委員会	"	昭27.10.28	同 神学部門委員会	"	昭32.12.19
大学行政研究委員会	昭23. 2.24	昭23.12.20	同 農学部門委員会	"	"
教員養成基準分科会	"	昭24.10.18	同 工学部門委員会	"	"
教授法及び指導研究委員会	"	"	同 法学部門委員会	"	"
仏教学教育基準分科会	昭23. 3.30	昭23.12.20	同 商学部門委員会	"	"
一般教育研究委員会社会科学部			歯学教育基準分科会	昭29. 3. 9	"
門 東京地区委員会	昭23. 4.27	昭26. 9.25	獣医学教育研究委員会	昭29. 4.27	"
同同 関西地区委員会	"	"	専門教育研究委員会	昭29. 9.28	"
通信教育審査委員会	昭23. 5.24	昭24.10.18	同 工学部門委員会	"	"
芸術学教育基準分科会	昭23. 6.22	昭23.12.20	同 商経学部門委員会	"	"
定款研究委員会	"	昭24. 6.21	同 法学部門委員会	"	"
同 関西地区委員会	"	"	学生生活研究委員会	"	昭34. 4.28
一般教育研究委員会人文科学部			大学院基準改訂特別委員会	昭29.10.29	昭30. 7.12
門 東京地区委員会	昭23. 7.20	昭26. 9.25	保健体育研究委員会	"	昭34. 4.28
同同 関西地区委員会	"	"	一般教育研究委員会	昭30. 3.17	昭32.12.19
同自然科学部門東京地区委員会	"	"	大学基準協会創立十年記念祝賀会準備委員会	昭31. 9.11	昭32. 9.24
同同 関西地区委員会	"	"	大学基準協会創立十年記念論文集編纂委員会	"	"
会員資格審査規定研究委員会	昭24. 6.21	昭25. 9.12	大学基準協会十年史編纂委員会	"	昭32. 9.24
学芸学部基準分科会	昭24.12.20	昭26.12.21	薬学教育基準分科会	"	昭32. 2.21
経営学教育基準分科会	"	昭28. 3.31	通信教育研究委員会	昭31.10.23	昭34. 4.28
通信教育研究委員会	"	昭31.10.23	医学に関する大学院基準特別委員会	昭31.12.18	昭34. 9.15
学生生活指導研究小委員会	昭25. 5. 2	昭26.12.21	歯学に関する大学院基準特別委員会	"	"
大学単位研究小委員会	"	"	大学関係等調査委員会	昭32. 9.24	昭38. 6.11
会員資格審査委員会	昭25. 6.13	昭24.12.17	科学技術教育研究委員会	"	昭34. 4.28
カリキュラム研究委員会	昭25. 7. 4	昭34. 4.28	給与規程改訂小委員会	"	昭32.12.19
「新・旧制大学卒業生の待遇均等化について」起草小委員会	昭25. 9.12	昭25.10.14	教員養成制度研究委員会	昭32.11.26	昭34. 4.28
大学院法学課程分科会	昭25. 9.19	昭26.12.21	一般教育研究委員会	昭32.12.19	昭38. 6.11
大学院商学課程分科会	昭25. 9.19	昭26.12.21	大学への進学課程研究委員会	昭33. 7.22	昭34. 4.28
同 工学課程分科会	"	"	大学基準協会拡充強化委員会	昭33. 9.25	昭35. 2.29
同 農学課程分科会	"	"			
論文博士検定方法研究小委員会	昭25.10. 3	"			
図書館基準研究小委員会	昭25.12.12	"			

大学制度研究委員会	昭34. 4. 28	昭42. 6. 6
教員養成研究分科会	"	"

## 2 改組法人化後の委員会

委 員 会 名	設置年月日	廃止年月日
通信教育研究委員会	昭36. 1. 23	昭38. 6. 11
歯学教育基準分科会	昭36. 2. 11	昭42. 6. 6
大学制度研究委員会外国語教育研究分科会	昭36. 10. 24	昭38. 6. 11
医学教育基準分科会	昭37. 9. 25	昭42. 6. 6
教員養成制度研究委員会		
国語専門委員会	昭37. 12. 4	"
同    社会専門委員会	"	"
同    英語専門委員会	"	"
同    理科専門委員会	"	"
同    数学専門委員会	"	"
同 小学校教員養成専門委員会		
英文大学要覧編集委員会	昭38. 6. 11	昭43. 10. 15
一般教育研究委員会	"	昭42. 6. 6
単位制度研究分科会	"	"
入試制度研究分科会	"	昭44. 3. 31
通信教育制度研究分科会	"	昭42. 6. 6
大学改善方策委員会	"	"
大学改善協力委員会	"	"
広報委員会	"	"
専門教育研究委員会	昭39. 3. 28	"
同    文学部関係分科会	昭38. 6. 11	"
同    法学部関係分科会	昭39. 3. 28	"
同    経済学部関係分科会	"	"
同    理学部関係分科会	"	"
同    工学部関係分科会	"	"
同    農学部関係分科会	"	"
同    医学部関係分科会	"	"
同    歯学部関係分科会	"	"
同    薬学部関係分科会	"	"
同    家政学部関係分科会	"	"
専門教育研究委員会		
体育学部関係分科会	昭39. 3. 28	昭42. 6. 6
同    芸術学部関係分科会	"	"
同    教育学部関係分科会	"	"
教員養成制度研究委員会		
音楽専門委員会	昭39. 4. 28	"
同    美術専門委員会	"	"
同    保健体育専門委員会	"	"
同    保健専門委員会	"	"
同    技術専門委員会	"	"
同    家庭専門委員会	"	"
同    職業専門委員会	"	"
同    職業指導専門委員会	"	"
同    工芸専門委員会	昭39. 9. 29	"
同    書道専門委員会	"	"

「大学教育の改善について」起草委員会	昭40. 1. 19	昭40. 2. 5
大学制度研究委員会	昭42. 6. 6	昭44. 3. 31
同    大学教育制度研究分科会	"	"
同    教員養成制度研究分科会	"	"
同    単位制度研究分科会	"	"
同    入試制度研究分科会	"	"
同    通信教育制度研究分科会	"	"
同    研究体制研究分科会	"	"
同    施設設備研究分科会	"	"
同    財政経営研究分科会	"	"
大学教育研究委員会		
同    一般教育研究分科会	"	"
同同    自然科学部会	"	"
同同    社会科学部会	"	"
同同    人文科学部会	"	"
同    外国語教育研究分科会	"	"
同    保健体育研究分科会	"	"
同    専門教育研究分科会	"	"
同同    法学部関係部会	"	"
同同    文学部関係部会	"	"
同同    経済学部関係部会	"	"
同同    理学部関係部会	"	"
同同    工学部関係部会	"	"
同同    農学部関係部会	"	"
同同    医学部関係部会	"	"
同同    歯学部関係部会	"	"
同同    薬学部関係部会	"	"
同同    教育学部関係部会	"	"
厚生補導研究委員会	昭42. 6. 6	昭44. 3. 31
大学改善協力委員会	"	"
広報委員会	"	"
大学問題研究会議	昭44. 8. 10	昭53. 3. 31
医学教育研究委員会	昭45. 6. 9	昭55. 4. 22
歯学教育研究委員会	"	"
大学入試制度改革研究委員会	"	昭61. 3. 31
大学問題研究会議管理運営小委員会	昭45. 9. 22	昭53. 3. 31
大学問題研究会議研究教育小委員会	"	"
大学問題研究会議大学財政小委員会	"	"
広報委員会	昭46. 1. 26	昭50. 7. 15
獣医学教育研究委員会	昭46. 4. 20	昭55. 4. 22
通信教育研究委員会	昭47. 12. 19	昭50. 11. 11
家政学教育基準分科会	昭48. 7. 17	昭50. 2. 18
薬学教育研究委員会	"	昭55. 4. 22
衛生看護学教育研究委員会	"	昭51. 11. 16
新聞学基準分科会	"	昭49. 6. 14
学芸学部基準分科会	"	"
体育学教育研究委員会	"	昭55. 4. 22
図書館学教育研究委員会	昭48. 10. 23	昭52. 11. 22
図書館員養成課程研究委員会	"	昭52. 2. 15
大学図書館研究委員会	"	昭52. 4. 19

社会福祉学教育研究委員会	昭49. 7.16	昭53.11.21	自己評価実施方法検討委員会	昭58. 6.24	昭62. 3.31
外国語学部教育研究委員会	"	昭51.11.16	大学の在り方研究委員会	"	平 2.12.17
栄養学部教育研究委員会	"	昭55. 4.22	獣医学教育研究委員会	昭58.10.18	昭61.10.21
文学部教育研究委員会	"	昭52.11.22	国際化時代の大学教育研究委員会		
教育学部教育研究委員会	"	昭52.12.20	会	昭59. 4.17	昭61. 6.23
人文学部教育研究委員会	"	昭51.11.16	大学入試制度改革研究委員会	昭61. 4. 1	平 2. 4.23
社会学部基準分科会	"	昭50.12.12	大学院問題研究委員会	昭61. 4.15	昭63. 8. 1
社会科学部教育研究委員会	"	昭55. 4.22	獣医学系大学院研究委員会	昭61. 7.15	平 2. 9.17
法学部教育研究委員会	"	"	自己評価実施準備委員会	昭62. 1.20	平 2.12.17
政治学教育研究委員会	"	"	大学設置・大学評価調査研究委員会	昭62. 7.21	平 2. 7.17
経済学部教育研究委員会	"	昭55.10.21	判定委員会「調書(様式)」改定案作成委員会	昭63. 4. 1	平 8. 3.31
経営学部教育研究委員会	"	"	保健体育のあり方研究委員会	昭63. 5.17	平 1. 3.31
商学部教育研究委員会	"	昭52.11.22	広報委員会「じゅあ」編集小委員会		
理学部教育研究委員会	"	昭57. 6.15	広報委員会会報編集小委員会	昭63. 7.15	平 8.11.18
理工学部教育研究委員会	"	昭55. 4.22	大学院問題研究委員会	"	"
工学部教育研究委員会	"	昭56.10.20	獣医学教育研究委員会	昭63. 8. 1	平 3. 6.18
基礎工学部教育研究委員会	"	昭55. 4.22	大学院問題研究委員会	平 2. 9.17	平 9. 4.24
農学部教育研究委員会	"	"	建設委員会	平 3. 6.18	平 5. 7. 5
畜産学部教育研究委員会	"	"	大学改革の実施状況に関する調査研究委員会	平 4. 4.21	平 7. 3.31
政経学部教育研究委員会	"	"	看護学教育研究委員会	平 5. 6. 8	平 8. 5.20
商経学部教育研究委員会	"	"	看護学教育研究委員会小委員会	"	平 9. 5.22
農獣医学部教育研究委員会	"	"	大学院問題研究委員会	平 5. 7.27	"
大学院問題研究委員会	"	昭54. 6.26	会費等改訂検討委員会	平 5. 9.20	平 8. 3.31
広報委員会	昭50. 7.15	昭55. 9. 9	大学改革の実施状況に関する調査研究委員会作業部会	平 6. 9.13	平 7. 3.31
調査委員会	昭50. 9. 2	昭54. 6.26	大学のあり方検討委員会	平 6.12.12	平 8. 5.20
一般教育研究委員会	昭52. 1.18	昭56. 4.21	同 大学教育検討分科会	平 7. 6.26	平11. 3.31
会長選出に関する規程小委員会	"	昭52.12.20	大学院改革の実施状況に関する調査研究委員会	平 7. 9.18	"
創立三十周年記念準備世話人会	昭52. 4.19	昭52. 7.19	大学基準協会創立五十周年事業準備委員会	平 8. 6.17	平12. 3. 7
大学図書館問題研究委員会	"	昭63. 6.20	大学院改革の実施状況に関する調査研究委員会作業部会	平 8. 7.11	平 9. 5.22
音楽教育研究委員会	昭53. 2.14	昭56.10.20	大学基準協会創立五十周年記念事業実行委員会	平 8.11.18	平12. 3. 7
美術教育研究委員会	昭53. 3.29	昭57. 6.15	大学基準協会のコンピューターネットワークシステムの整備に関するワーキンググループ	平 9. 5.22	平 9. 7.31
宗教学教育研究委員会	昭53. 7.25	昭56.10.20	臨定問題調査研究委員会	平 9.12.17	平13. 6.29
大学院問題研究委員会	昭54. 6.26	昭61. 4.15	工学教育研究委員会	平10. 3.17	平11. 3.31
調査委員会	"	昭59. 4.17	本協会のあり方検討委員会小委員会 教育研究評価システム調査研究分科会	平10.10.22	平12.10.13
教育学部教育研究委員会	"	昭57. 6.15	同 評価指標、評価基準調査研究分科会	平11. 3.21	平12. 6.16
学制研究委員会	"	昭60. 9.17	同 評価指標、評価基準調査研究分科会	"	"
大学自己評価研究委員会	"	昭62. 3.31	本協会のあり方検討委員会小委員会 本協会の大学評価システム検討分科会	"	"
単位認定研究委員会	"	昭58. 9. 6		"	"
図書館情報学教育基準(大学院課程)小委員会	"	昭63. 6.20		"	"
大学通信教育(放送教育)研究委員会	昭54.10.24	昭61. 3.18			
農・畜産学教育研究委員会	昭55. 4.22	昭57. 6.15			
専門教育研究委員会	昭55.12.16	昭62. 3.31			
一般教育研究委員会	昭57. 6.15	昭59. 4.17			
教育系大学院研究委員会	"	昭59. 9.18			
常務役員の選任に関する申合せ検討委員会	"	昭58. 1.18			
医学に関する大学院基準分科会	昭57. 9.21	平 6. 9.13			
歯学に関する大学院基準分科会	"	"			
獣医学教育基準分科会	昭58. 2.15	昭59. 4.17			
教員養成の在り方研究委員会	昭58. 6.24	昭61. 4.15			
本協会の在り方研究委員会	"	"			
国際交流研究委員会	"	昭61. 5.20			

1 会報 (法人化後の会報特集号のみ掲載)

第14号	大学入試問題	(昭43・12)
第15号	学生問題	(昭44・3)
第17号	一般教育	(昭44・9)
第18号	各国教育制度	(昭45・3)
第20号	大学改革問題	(昭45・9)
第21号	大学図書館	(昭46・2)
第25号	大学の大衆化と多様化をめぐる諸問題	(昭49・2)
第26号	大学院をめぐる諸問題	(昭49・3)
第30号	人文学部・人間科学部をめぐって	(昭50・11)
第31号	大学における研究情報・図書問題	(昭51・3)
第33号	最近における医・歯学教育の諸問題	(昭52・1)
第34号	大学と社会	(昭52・9)
第37号	大学教育の開放(エクステンション)の問題	(昭53・12)
第38号	大学における附置研究所等のあり方	(昭54・6)
第40号	大学と高校教育	(昭54・11)
第41号	大学における健康管理は如何にあるべきか	(昭55・5)
第43号	新しい大学キャンパスの構想	(昭56・6)
第45号	西欧における大学基準等	(昭57・4)
第47号	留学生問題	(昭57・10)
第48号	入学者選抜方式の諸実験	(昭58・3)
第50号	大学の基本的理念をめぐって	(昭58・12)
第51号	高等教育の多様化と大学	(昭59・3)
第53号	大学における語学教育の在り方	(昭59・11)
第54号	大学における語学教育の位置づけについて	(昭60・3)
第56号	青年の進路選択と大学の専攻	(昭61・4)
第58号	大学卒業—その理念と実態	(昭61・12)
第60号	大学の基礎をめぐる諸問題	(昭63・4)
第62号	大学の基礎をめぐる諸問題(続)	(昭63・12)
第64号	単位制度をめぐって	(平2・4)
第66号	欧米以外の国々の大学	(平3・4)
第68号	後継者養成—将来の大学の展望において	(平4・5)
第70号	学位制度をめぐって	(平5・5)
第72号	大学改革の行方と今後の大学基準協会の役割	(平6・4)

- 第76号 「大学評価」全国説明会記録 (平8・1)  
 第79号 創立50周年記念号 (平10・3)

## 2 J・U・A・A内外大学関係情報資料

- (1) 時間の短縮、選択範囲の拡大—高等学校以後の教育—カーネギー高等教育委員会の提出する特別報告および勧告 (昭47・9)  
 (2) 大学入学試験制度改革に関する報告 (昭47・9)  
 (3) 現段階における日本の大学問題に関する見解 (昭53・4)  
 (4) 共通大学入学試験に関する報告 (昭53・4)  
 (5) ニューイングランド高等教育機関協会—高等教育機関協会加入校の基準・自己評価—その目的と方法 (昭53・10)  
 (6) 米国における基準協会について (昭54・12)  
 (7) 一般教育研究委員会中間報告—一般教育の回顧と展望— (昭55・12)  
 (8) 新制度の入学者を迎える大学—昭和57年高校学習指導要領改訂と大学の一般教育—一般教育研究委員会緊急報告 (昭59・3)  
 (9) 大学における専門教育の問題点 (昭60・3)  
 (10) 国際交流の新展開を求めて—現状・課題・提言— (昭61・2)  
 (11) 国際化と大学教育の課題 (昭61・3)  
 (12) 大学における専門教育の改善充実について (昭61・11)  
 (13) 公・私立大学院の現状と問題点 (昭63・2)  
 (14) 大学入学者選抜制度に関する問題点 (平元・8)  
 (15) 大学院制度をめぐる課題と展望 (平3・2)  
 (16) 大学院の諸問題と改革の方向 (平5・7)  
 (17) アク্রেディテーションのための実地視察の手法 (平8・6)  
 (18) 大学改革を探る (続) (平9・3)  
 (19) 大学教育の改革と創造 (平11・6)

## 3 資料

- ・「大学基準」及びその解説 (昭22・11)
- ・「大学基準」及びその解説 (昭23・2)
- ・「大学通信教育基準」及びその解説 (昭23・3)
- ・「大学基準」及びその解説 (昭23・7)
- ・「大学院基準」及びその解説 (昭24・5)
- ・新制大学に於ける一般体育科目設置の参考資料 (昭24・9)
- ・大学に於ける一般教育 (一般教育研究委員会中間報告) (昭24・7)
- ・大学基準協会定款・大学基準・大学院基準 (昭24・11)
- ・「大学基準」及びその解説 (昭25・9)
- ・大学に於ける一般教育 (一般教育研究委員会第2次中間報告) (昭25・9)

- ・大学に於ける一般教育（一般教育研究委員会報告） (昭26・9)
- ・適格判定について (昭26・11)
- ・大学教育における分科教育基準集 (昭28・5)
- ・「大学基準」及びその解説 (昭28・5)
- ・会員資格審査用調書様式 (昭29・4)
- ・大学基準協会案内—大学の審査— (昭29・4)
- ・「大学基準」及びその解説 (昭29・6)
- ・会員資格審査用調書様式 (昭30・4)
- ・「大学院基準」及びその解説 (昭30・7)
- ・会員資格審査用調書様式（第2号）医学部・歯学部 (昭32・4)
- ・大学における厚生補導 (昭33・7)
- ・大学における保健体育の在り方 (昭34・3)
- ・法学・商経学・工学・科学技術各専門教育研究委員会報告 (昭34・3)
- ・医学に関する大学院基準及びその解説・歯学に関する大学院基準及びその解説 (昭34・8)
- ・「大学基準」適用判定用「調書」様式 (昭36・3)
- ・「大学基準」適用判定用「調書」様式（医学部・歯学部） (昭36・4)
- ・大学基準適用判定用調書（様式） (昭38・6)
- ・大学基準適用判定用（医歯学部用）調書（様式） (昭38・6)
- ・外国語教育研究分科会報告 (昭39・2)
- ・中学校及び高等学校教員の養成に関する教育課程案について (昭39・2)
- ・大学教育の改善について (昭40・4)
- ・「中学校及び高等学校教員の養成に関する教育課程案」について (昭40・4)
- ・小学校教員の養成に関する「教員養成制度に関する改善方策要綱」並びに同「教育課程案」について (昭40・4)
- ・大学入学試験に関する中間報告 (昭40・4)
- ・専門教育研究委員会「法、文、経、理、工、農、教育各学部関係分科会」報告 (昭41・6)
- ・大学基準適用判定用（除医歯学）調書（様式） (昭42・7)
- ・大学基準適用判定用（医歯学部用）調書（様式） (昭42・7)
- ・財団法人大学基準協会基準集 (昭44・11)
- ・「大学基準」およびその解説 (昭46・7)
- ・大学基準適用判定用調書（様式） (昭47・5)
- ・大学基準適用判定用特別調書（様式） (昭47・5)
- ・大学基準適用判定用調書（様式） (昭48・4)
- ・大学基準適用判定用特別調書（様式） (昭48・4)
- ・「大学基準」およびその解説 (昭49・6)

- ・大学基準適用判定用調書（様式） (昭49・6)
- ・財団法人大学基準協会について (昭50・3)
- ・大学基準適用判定用調書(様式) (昭50・4)
- ・大学基準適用判定用特別調書（様式） (昭53・4)
- ・「大学院基準」及びその解説 (昭50・5)
- ・「大学通信教育基準」及びその解説 (昭50・5)
- ・「大学基準」およびその解説 (昭54・2)
- ・大学基準適用判定用調書（様式） (昭56・6)
- ・大学基準適用判定用特別調書（様式） (昭56・6)
- ・財団法人大学基準協会基準集 (昭57・7)
- ・財団法人大学基準協会について (昭60・3)
- ・大学に於ける一般教育（一般教育研究委員会報告）（復刻版） (昭26・9)
- ・「大学通信教育基準」およびその解説 (昭61・5)
- ・財団法人大学基準協会基準集 (昭62・7)
- ・大学基準適用判定用調書（様式） (平元・6)
- ・大学基準適用判定用特別調書（様式） (平元・6)
- ・米国西部地区基準協会ア kredィテーション・ハンドブック (平2・3)
- ・大学基準適用判定用調書（様式） (平3・3)
- ・財団法人大学基準協会基準集 (平3・12)
- ・調書作成上の留意事項－「調書（様式）」追補－ (平4・5)
- ・21世紀の看護学教育－基準の設定に向けて－（看護学教育研究委員会報告） (平6・4)
- ・「大学基準」およびその解説 (平6・5)
- ・看護学教育に関する基準 (平6・7)
- ・看護学教育に関する基準 (平6・11)
- ・「大学院基準」およびその解説 (平8・3)
- ・看護学の大学院の基準設定に向けて (平8・7)
- ・獣医学教育に関する基準 (平9・2)
- ・看護学研究科分科教育基準 (平9・2)
- ・看護学研究科分科教育基準 (平9・6)
- ・米国基準協会等の大学評価に関する実態調査報告書（中間報告） (平10・2)
- ・大学院の自己点検・評価の手引き (平11・3)
- ・米国基準協会等の大学評価に関する実態調査報告書（第2次中間報告） (平11・9)

#### 4 大学一覧等

- ・大学基準協会関係大学一覧 (昭33・3)

- ・ 会員大学要覧 (昭33・11)
  - ・ 昭和33年度専任教員名簿 (昭34・11)
  - ・ 昭和34年度大学基準協会大学一覧 (昭34・6)
  - ・ 昭和38年度大学総覧 (昭39・7)
  - ・ 昭和40年度大学総覧 (昭41・3)
  - ・ 昭和50年度大学一覧 (昭51・3)
  - ・ 昭和51年度大学一覧 (昭52・3)
  - ・ 昭和52年度大学一覧 (昭53・3)
  - ・ 昭和53年度大学一覧 (昭53・12)
  - ・ 昭和54年度大学一覧 (昭55・1)
  - ・ 昭和55年度大学一覧 (昭55・12)
  - ・ 昭和56年度大学一覧 (昭57・2)
  - ・ 昭和57年度大学一覧 (昭58・1)
  - ・ 昭和58年度大学一覧 (昭58・12)
  - ・ 昭和59年度大学一覧 (昭59・12)
  - ・ 昭和60年度大学一覧 (昭60・12)
  - ・ 昭和61年度大学一覧 (昭61・12)
  - ・ 昭和62年度大学一覧 (昭62・12)
  - ・ 昭和63年度大学一覧 (昭63・12)
  - ・ 平成元年度大学一覧 (平元・12)
  - ・ 平成2年度大学一覧 (平2・12)
  - ・ 平成3年度大学一覧 (平3・12)
  - ・ 平成4年度大学一覧 (平5・2)
  - ・ 平成5年度大学一覧 (平6・2)
  - ・ 平成6年度大学一覧 (平7・2)
  - ・ 平成7年度大学一覧 (平8・2)
  - ・ 平成8年度大学一覧 (平9・3)
  - ・ 平成9年度大学一覧 (平10・2)
  - ・ 平成10年度大学一覧 (平11・2)
  - ・ 平成11年度大学一覧 (平12・2)
  - ・ 平成12年度大学一覧 (平13・3)
- 5 英文大学要覧**
- ・ Japanese University and Colleges 1966-1967 (昭42・12)
  - ・ Japanese University and Colleges 1975 (昭51・3)
- 6 その他**
- ・ 大学基準協会創立十年記念論文集—新制大学の諸問題— (昭32・6)

- ・大学基準協会十年史 (昭32・6)
- ・外国における大学教育 (昭33・6)
- ・大学の自己点検・評価の手引き (平4・5)
- ・本協会のあり方に関する第3次中間まとめ—大学基準協会による当面の「加盟判定審査」と「相互評価」のあり方を中心として— (平5・4)
- ・大学設置・評価の研究 (大学基準協会叢書、東信堂刊) (平2・6)
- ・大学・カレッジ自己点検ハンドブック (大学基準協会企画、紀伊國屋書店刊) (平4・5)
- ・アメリカ北中部地区基準協会の大学・カレッジ評価ハンドブック (大学基準協会企画、紀伊國屋書店刊) (平7・1)
- ・大学評価マニュアル〈改訂版〉 (平9・3)
- ・季刊教育法 1997年7月臨時増刊号 大学の使命—改革・評価の理念 (平9・7)
- ・大学評価の新たな地平を切り拓く(提言) (平12・5)
- ・新構想の大学評価に関するアクション・プラン (その1)—「大学評価の新たな地平を切り拓く(提言)」を受けて— (平13・5)
  
- ・J U A A選書1 青木宗也編『大学改革と大学評価』(大学基準協会監修、エイデル研究所刊) (平7・6)
- ・J U A A選書2 田中征男著『戦後改革と大学基準協会の形成』(大学基準協会監修、エイデル研究所刊) (平7・11)
- ・J U A A選書3 石井紫郎編『転換期の大学院教育』(大学基準協会監修、エイデル研究所刊) (平8・2)
- ・J U A A選書4 青木宗也著『大学論—大学「改革」から「大学」改革へ—』(大学基準協会監修、エイデル研究所刊) (平7・12)
- ・J U A A選書5 青木宗也、示村悦二郎編『大学改革を探る 大学改革に関する全国調査の結果から—』(大学基準協会監修、エイデル研究所刊) (平8・12)
- ・J U A A選書6 木村 孟編『大学の質を問う』(大学基準協会監修、エイデル研究所刊) (平9・7)
- ・J U A A選書7 大学基準協会事務局高等教育研究部門編『資料にみる大学基準協会五十年の歩み』(大学基準協会監修、エイデル研究所刊) (平9・7)
- ・J U A A選書8 鳥居泰彦編『学術研究の動向と大学』(大学基準協会監修、エイデル研究所刊) (平11・3)
- ・J U A A選書9 大南正瑛編『いま、大学の臨時的定員を考える』(大学基準協会監修、エイデル研究所刊) (平11・3)
- ・J U A A選書10 岩山太次郎、示村悦二郎編『大学院改革を探る』(大学

基準協会監修、エイデル研究所刊)

(平11・12)

- ・ J U A A 選書11 丹保憲仁編『これからの大学と大学運営』(大学基準協会監修、エイデル研究所刊)

(平12・3)

# 受贈大学年史等目録

(大学名50音順)(平成13. 9. 30現在)

本協会で、平成13年9月末までに寄贈を受けた各大学の年史、学園史等については、下記のとおりです。

寄贈大学	書 誌 名	発行年	寄贈大学	書 誌 名	発行年
愛知大学	愛知大学十年のあゆみ	昭31	青山学院大学	青山学院九十年の歩み	昭39
〃	愛知大学二十年のあゆみ	昭47	〃	青山学院大学学友会九十年の歩み	昭39
〃	東亜同文書院大学と愛知大学	平 5	〃	青山学院九十年史	昭40
〃	愛知大学東亜同文書院大学記念センター報創刊号	平 6	〃	青山学院100年	昭50
〃	東亜同文書院大学と愛知大学第2集	平 6	〃	伝統と創造	昭50
〃	愛知大学史紀要第1号	平 6	〃	青山学院大学 理工学部10周年記念誌	昭50
〃	愛知大学史紀要第2号	平 7	〃	青山学院120年	平 8
〃	東亜同文書院大学と愛知大学第3集	平 7	秋田大学	秋田鉱山専門学校秋田大学鉱山学部 50年史	昭36
〃	愛知大学史紀要第3号	平 8	〃	創立九十年史	昭38
〃	東亜同文書院大学と愛知大学第4集	平 8	〃	秋田大学鉱山学部創設30周年記念資料集	昭55
〃	愛知大学の歴史	平 8	〃	秋田大学医学部創設十周年記念誌	昭55
〃	創立50周年記念事業記録	平 9	〃	秋田大学医学部附属看護学校十年史	昭58
〃	愛知大学五十年史資料編	平 9	〃	秋田大学医学部附属動物実験施設—その誕生と十年の歩み—	昭62
〃	大陸に生きて	平10	〃	秋田大学医学部20年史	平 3
愛知医科大学	愛知医科大学十年誌	昭57	秋田経済法科大学	学校法人秋田経済法科大学四十年史	平 8
〃	躍進する愛知医科大学 創立二十周年記念誌	平 4	朝日大学	創立十周年記念誌	昭56
愛知学院大学	愛知学院九十年誌	昭41	〃	知的アメニティーをめざして	平 2
〃	愛知学院百年誌	昭51	麻布大学	創立70周年記念誌	昭35
〃	百年のあゆみ	昭51	〃	創立80周年記念誌	昭45
〃	目で見る愛知学院120年	平 8	〃	麻布大学90年史	昭55
〃	愛知学院百二十年誌	平 9	〃	学校法人麻布獣医学園創立100周年	平 2
愛知学泉大学	安城学園八十年誌	平 4	〃	百年のあゆみ	平 3
愛知県立大学	愛知県立大学50周年記念写真集	平 8	旭川大学	旭川大学経済学部 二十五年史	平 6
愛知工業大学	故後藤鉀二前学園長を偲ぶ 創立六十年史	昭47	旭川医科大学	旭川医科大学十年史	昭60
〃	70周年記念略史	昭57	〃	旭川医科大学二十年の軌跡	平 6
〃	名古屋電気学園80年の歩み	平 4	亜細亜大学	太田耕造全集第二巻	昭57
愛知淑徳大学	創立八十周年記念 愛知淑徳学園小史	昭60	〃	亜細亜学園四十年史	昭58
〃	愛知淑徳大学15年	平 2	〃	太田耕造全集第一巻	昭58
〃	愛知淑徳大学創立90周年誌	平 7	〃	太田耕造全集第三巻	昭59
〃	大学開学二十周年記念-愛知淑徳大学20年誌	平 8			

寄贈大学	書誌名	発行年	寄贈大学	書誌名	発行年
亜細亜大学	太田耕造全集第四巻(補遺)	昭60	愛媛大学	愛媛大学農学部 創立八十周年記念誌	昭55
"	亜細亜学園の歩み	昭63	"	石鎚の嶺はるか—愛媛大学医学部十周年記念誌—	昭58
"	亜細亜学園五十年(追史編)	平4	"	國領と城北の半世紀 愛媛大学工学部50周年を記念して	平元
"	亜細亜学園五十年史(資料編)	平4	エリザベト音楽大学	Deo gratias エリザベト音楽大学創立50周年記念誌	平10
"	太田耕造全集第五巻(研究編)	平5	追手門学院大学	八十年志	昭43
足利工業大学	20足利工業大学	昭62	"	十年記念誌	昭51
"	学舎の若木生い立ちぬ—足利工業大学の教育と研究の軌跡—	平7	"	九十年誌	昭53
"	足利工業大学70年	平8	"	追手門学院大学二十年史	昭61
芦屋大学	芦大25年のあゆみ	昭63	"	追手門学院大学三十年史	平8
跡見学園女子大学	跡見学園九十年	昭40	桜美林大学	写真で見る桜美林学園史33年のあゆみ	昭54
"	跡見開学百年	昭50	"	桜美林学園創立40周年記念誌史料集第1号	昭61
"	跡見花蹊傳 跡見花蹊先生生誕百五十年記念	平2	"	桜美林学園創立40周年記念誌史料集第2号	昭61
石巻専修大学	石巻専修大学創立10周年記念誌	平12	"	桜美林学園創立40周年記念誌史料集第3号	昭62
茨城大学	茨城大学工学部 学園二十年史	昭34	"	桜美林学園創立40周年記念誌史料集第4号	昭63
"	茨城大学十年史	昭35	"	写真で見る桜美林学園史42年のあゆみ—創立者清水安三先生召天記念—	昭63
"	茨城大学三十年史	昭57	大分大学	大分大学創立50周年記念誌	平11
"	茨城大学五十周年史	平12	大分医科大学	大分医科大学十周年記念	平元
茨城キリスト教大学	二十年の歩み	昭62	"	仰岳II 大分医科大学開学二十周年記念	平10
岩手大学	岩手大学三十年資料	昭55	大阪大学	大阪大学二十五年誌	昭31
"	1949-'99 岩手大学50年のアルバム	平11	"	感染動物実験施設10年のあゆみ	昭52
岩手医科大学	岩手医科大学四十年史	昭43	"	十年誌	昭55
"	岩手医科大学五十年史 昭和五十三年	昭53	"	10年のあゆみ	昭56
"	創立五十周年記念写真集 昭和五十三年	昭53	"	大阪大学五十年史部局史	昭58
"	教養部二十年誌	昭60	"	大阪大学五十年史通史	昭60
"	岩手医科大学七十年史	平10	"	菅田榮治先生追想文集	平元
上野学園大学	上野学園 現在と60年の過去	昭39	"	細胞工学センターの歩み	平3
"	上野学園 創立70周年記念	昭49	"	大阪大学法学部50周年記念アルバム	平10
"	上野学園所蔵楽器目録	昭55	大阪医科大学	大阪医科大学50年史	昭60
"	上野学園 創立80周年記念	昭59	大阪音楽大学	大阪音楽文化史資料(明治、大正編)	昭43
"	上野学園 創立85周年記念論文集	平元	"	永井幸次郎先生と本学	昭48
"	上野学園所蔵楽器目録II	平2			
"	上野学園 創立90周年記念	平6			
宇都宮大学	宇都宮大学教養部十五年誌	昭59			
"	宇都宮大学四十年史	平2			
英知大学	英知大学30年の歩み	平5			

寄贈大学	書誌名	発行年	寄贈大学	書誌名	発行年
大阪音楽大学	関西音楽文化資料1973	昭48	大阪樟蔭女子大学	樟蔭学園創立六十周年記念誌 樟の年輪	昭52
"	永井幸次郎先生と本学	昭52	"	樟蔭学園創立80周年記念誌	平9
"	大阪音楽大学七〇年史 楽のまなびや	昭63	大阪商業大学	谷岡学園五十年史	昭53
"	大阪音楽大学七〇年史 楽のまなびや追録	平3	"	大阪商業大学50年史	平11
大阪音楽大学	大阪音楽大学110年史 楽のまなびや	平8	大阪女子大学	大阪女子大学五十年史	昭51
大阪教育大学	大阪学芸大学15年史	昭39	大阪女子大学	大阪女子大学 70年の歩み	平6
"	大阪教育大学120年のあゆみ	平6	大阪市立大学	大阪市立大学の百年 1880～1980	昭55
大阪経済大学	半世紀のあゆみ	昭58	"	大阪市立大学百年史 部局編	昭58
"	大阪経済大学創立五十周年記念論文集	昭59	"	大阪市立大学法学部三十年史	昭58
"	道理貫天地 黒正巖先生の思い出	昭62	"	大阪市立大学百年史 全学編	昭62
"	大阪経済大学 大学史紀要第1号	昭63	"	聞けや大和の清流に 大阪市立大学法学部創立40周年記念	平5
大阪経済法科大学	大阪経済法科大学創立20周年記念誌 新たな歴史の創造	平3	"	大阪市立大学医学部50年史	平6
大阪芸術大学	日韓国際交流作品展	平7	大阪体育大学	大阪体育大学十五年誌	昭55
"	学校法人塚本学院 50周年記念誌	平7	"	浪商学園六十年史	昭57
大阪工業大学	学校法人大阪工大摂南大学 65年史	昭62	"	浪商学園創立70周年記念誌 “翔”	平4
"	学校法人大阪工大摂南大学 70年史	平4	"	大阪体育大学三十年誌	平7
大阪国際女子大学	創立50周年記念誌	昭54	大阪電気通信大学	学園50年のあゆみ	平3
"	奥田政三の人とその業績	昭60	大阪府立大学	大阪府立大学十年史	昭36
"	六十年のあゆみ	平元	"	大阪府立大学総合科学部 10年のあゆみ	昭63
大阪産業大学	創立四十周年誌	昭43	"	社会福祉学部 10年の歩み	平3
"	学校法人大阪産業大学五十年史	昭55	"	大阪府立大学 獣医学科の百年	平5
"	風濤の軌跡60	平元	大阪薬科大学	創立75周年記念	昭54
"	学園創立70周年記念誌 軌	平10	"	大阪薬科大学八十年史	昭59
大阪歯科大学	大阪歯科大学 六十年のあゆみ	昭46	"	大阪薬科大学90年小史	平6
"	大阪歯科大学 70年のあゆみ	昭56	大谷大学	大谷大学のあゆみ	昭39
"	大阪歯科大学史 一	昭56	"	300年のあゆみ	昭40
"	大阪歯科大学史 二	昭56	"	大谷大学 三二〇年史の語るもの	昭62
"	大阪歯科大学史 三	平3	"	大谷大学近代100年のあゆみ	平9
"	大阪歯科大学大学院 設立30周年記念誌	平3	大谷女子大学	尋源 大谷学園六十年	昭44
大阪樟蔭女子大学	樟蔭学園創立50周年記念	昭42	大妻女子大学	大妻学院の80年—その現況とあゆみ—	平元
"	樟蔭の栞	昭50	"	大妻学院八十年史	平元
			大手前大学	展示資料目録	昭55
			"	大手前女子学園記	昭62
			岡山大学	岡山大学二十年史	昭44

寄贈大学	書 誌 名	発行年	寄贈大学	書 誌 名	発行年
岡山大学	岡山大学史昭和44～54年	昭55	帯広畜産大学	帯広畜産大学創立30周年記念誌	昭46
〃	岡山大学歯学部史 I 1979～1984	昭59	〃	40年のあゆみ	昭56
〃	岡山大学学内共同利用電算機設置25周年記念特集	昭62	〃	写真集帯広畜産大学五十年の歩み1941-1991	平 3
〃	看護教育67年の歩み	平元	香川大学	香川大学十年史	昭34
〃	(阿) あらたま	平元	〃	香川大学三十年史	昭57
〃	閉校記念誌	平元	〃	香川大学法学部10年誌	平 3
〃	閉校記念誌	平 2	〃	香川大学生涯学習教育研究センターのあゆみ	平 9
〃	岡山大学史 昭和54年～平成元年	平 2	香川医科大学	香川医科大学開講十周年記念誌	平 3
〃	岡山大学医学部附属病院 看護のあゆみ	平 3	学習院大学	学習院の歩み	昭38
〃	岡山大学教育学部附属中学校創立50周年記念写真集	平 9	〃	学習院大学三十年めの自画像	昭54
〃	岡山大学教育学部附属中学校五十年史	平 9	〃	学習院百年史第二編	昭55
〃	岡山大学医療技術短期大学部十周年記念誌	平11	〃	学習院百年史第一編	昭56
〃	岡山大学史 (平成元年～平成11年)	平11	〃	学習院百年史第三編	昭62
〃	岡山大学50年小史	平11	〃	学習院大学の50年 写真と図録	平11
岡山商科大学	吉備学園風雪七十年	昭56	〃	学習院大学五十年史 上巻	平12
〃	岡山商科大学二十年史	昭59	鹿児島大学	鹿児島大学十年史	昭35
〃	岡山商大論叢	昭59	鹿児島経済大学	創立五十周年記念論文集	昭59
〃	岡山商科大学三十年史	平 6	〃	鹿児島経済大学五十年史	昭62
岡山理科大学	加計学園創立二十周年記念誌	昭60	鹿児島女子大学	鹿児島女子大学十年史	平元
〃	加計学園創立三十周年記念誌	平 4	活水女子大学	活水学院百年史	昭55
沖縄県立芸術大学	沖縄県立芸術大学十年のあゆみ	平 8	神奈川大学	神奈川大学五十年小史	昭57
沖縄国際大学	沖縄国際大学十年史	昭60	〃	神奈川大学60年のあゆみ	昭63
〃	沖縄国際大学創立20周年	平 4	〃	神奈川大学創立六十周年記念論文集	平元
〃	沖縄国際大学創立20周年記念講演録 大濱信泉先生を偲んで	平 4	〃	神奈川大学史資料集第八集	平 4
〃	新聞記事にみる沖縄国際大学第2号	平 5	〃	神奈川大学史資料集第九集	平 5
〃	新聞記事にみる沖縄国際大学第3号	平 6	〃	神奈川大学史資料集第十集	平 6
〃	新聞記事にみる沖縄国際大学第4号	平 7	〃	神奈川大学史資料集第十一集	平 7
〃	新聞記事にみる沖縄国際大学第5号	平 8	〃	神奈川大学史資料集第十二集	平 8
〃	新聞記事にみる沖縄国際大学第6号	平 9	〃	神奈川大学史資料集第十三集	平 9
〃	新聞記事にみる沖縄国際大学第8号	平11	〃	神奈川大学史資料集第十四集	平10
			〃	神奈川大学70年のあゆみ	平10
			〃	神奈川大学創立七十周年記念論文集	平10
			〃	神奈川大学創立七十周年記念随想集	平10
			〃	神奈川大学史資料集第十五集 神奈川大学会議録(一)	平11
			〃	神奈川大学史資料集 第十六集	平12

寄贈大学	書 誌 名	発行年	寄贈大学	書 誌 名	発行年
神奈川大学	神奈川大学史資料集 第十七集	平13	関西外国語大学	穂谷キャンパス落成記念	昭59
神奈川工科大学	30年のあゆみ	平 5	"	関西外大づくり三十八年一若者の夢を育ててー	昭63
神奈川歯科大学	十周年記念誌	昭49	"	関西外国語大学五十年史	平 8
"	二十周年記念誌	昭59	関西学院大学	関西学院七十年史	昭34
"	三十周年記念誌	平 6	"	創意と交流 総合教育研究室十周年記念誌	昭58
金沢大学	金沢大学十年史	昭35	"	関西学院大学経済学部五十年史	昭59
"	金沢大学工学部五十年史	昭45	"	関西学院の100年	平元
"	金沢大学医学部百年史以後三十年の歩み	平 5	"	関西学院百年史資料編 I	平 6
"	創立50周年記念	平11	"	関西学院百年史資料編 II	平 7
"	金沢大学五十年史 部局編	平11	"	関西学院百年史通史編 I	平 9
金沢医科大学	金沢医科大学十年史	昭58	"	関西学院大学百年史通史編 II	平10
"	金沢医科大学二十年史	平 4	"	関西学院大学法学部五十年史	平12
金沢経済大学	稲置学園の五十年	昭57	関東学院大学	坂田祐と関東学院	昭48
金沢工業大学	学校法人金沢工業大学20年史	昭52	"	三十年の歩み	昭55
"	金沢工業大学学園創立20年の歩み	昭52	"	関東学院大学経済学部三十年史	昭55
金沢美術工芸大学	二十五年史	昭48	"	関東学院百年史	昭59
"	50年史	平 8	"	アルバート・アーノルド・ベネットその生涯と人物	昭60
鎌倉女子大学	創立50周年記念写真集 学園のあゆみ	平 5	"	関東学院大学50年史	平11
川崎医科大学	川崎学園創立10年誌	昭55	"	関東学院大学経済学部五十年史	平11
"	学校法人 川崎学園	昭55	"	関東学院大学工学部50年史	平11
関西大学	関西大学創立五十年史	昭11	北九州市立大学	15年の歩み	昭36
"	関西大学七十年史	昭31	"	20年その歩みと将来	昭41
"	関西大学百年のあゆみ	昭61	"	北九州大学30年年表	昭52
"	関西大学百年史 通史編 上	昭61	"	青嵐40年のあゆみ	昭61
"	関西大学百年史 人物編	昭61	"	北九州大学五十年史	平10
"	関西法律学校の創立とその精神	昭61	北里大学	北里研究所五十年誌	昭41
"	関西大学百年史 通史編 下	平 4	"	北里大学十年史	昭48
"	関西大学百年史 年表索引編	平 6	"	北里学園25年の歩み	昭62
"	関西大学百年史 資料編	平 8	"	北里柴三郎記念館	昭62
"	関西大学年史紀要 第9号	平 9	"	北里学園二十五年史	平元
"	関西大学年史紀要 第11号	平11	北見工業大学	北見工業大学二十五年史	昭60
関西医科大学	関西医科大学四十年の歩み	昭43	吉備国際大学	高梁学園史	平 2
"	関西医科大学六十年の歩み	平元	"	高梁学園30年の歩み	平 8
"	関西医科大学の歴史と建学の精神 教育理念 学風	平12	岐阜大学	岐阜大学医学部三十年史附属病院百年史	昭52
関西外国語大学	INDIAN BUDDHISM	昭55	"	岐阜大学農学部六十年史	昭58
			"	岐阜大学工学部史	昭59

寄贈大学	書誌名	発行年	寄贈大学	書誌名	発行年
岐阜大学	岐阜大学教養部二十年史	昭59	京都大学	京都大学百年史 資料編二	平12
〃	岐阜大学の五十年	平11	京都外国語大学	京都外国語大学30年のあゆみ	昭52
岐阜経済大学	10年略史	昭52	〃	沿革	昭57
岐阜聖徳学園大学	二十年のあゆみ	昭58	〃	学園五十年史	平11
岐阜薬科大学	岐阜薬科大学五十年史	昭57	京都学園大学	京都学園創立50周年記念誌	昭50
九州大学	九州大学五十年史 通史	昭42	〃	京都学園大学十周年記念誌	昭54
〃	九州大学五十年史 学術史 上巻	昭42	〃	京都学園60年誌	昭60
〃	九州大学五十年史 学術史 下巻	昭42	〃	京都学園大学20年のあゆみ	平2
〃	九州大学大学史料叢書第1輯	平5	〃	京都学園七十年史	平7
〃	九州大学大学史料叢書第2輯	平6	京都教育大学	開学十五周年誌	昭39
〃	九州大学大学史料叢書第4輯	平8	京都光華女子大学	創立40周年記念誌	昭55
〃	九州大学大学史料叢書第5輯	平9	〃	光華女子学園創立50周年記念誌	平2
〃	九州大学大学史料室所蔵写真目録—九州帝国大学時代—	平9	〃	光華女子学園五十年史	平2
〃	九州大学関係史料目録	平11	京都工芸繊維大学	工芸学部八十年	昭58
〃	九州大学大学史料叢書 第7輯	平11	京都産業大学	サギタリウス	昭44
九州共立大学・九州女子大学	自律処行 福原学園50周年記念誌	平9	〃	開学十周年記念	昭50
九州工業大学	九州工業大学七十五年	昭59	〃	二十年のあゆみ	昭60
九州国際大学	風雪二十年		〃	京都産業大学30年の歩み	平7
〃	八幡大学史	昭55	京都女子大学	京都女子学園八十年史	平2
〃	独立独歩—私の歩んだ道	昭58	〃	学園創立80周年記念 ふんだりけ縮刷版	平2
〃	九州国際大学五十年史	平9	〃	自然法爾—京都女子学園の教育理念—	平7
九州産業大学	学園十五年史	昭43	〃	新たなる旅立ち	平12
〃	1960~1990九州産業大学創立30周年記念写真集	平2	京都市立芸術大学	百年史京都市立芸術大学	昭56
九州歯科大学	九州歯科大学五十年史	昭42	〃	110周年記念10年略史	平2
〃	九州歯科大学七十五年史	平元	〃	京都市立芸術大学創立120周年記念 10年略史	平12
九州女子大学	福原学園三十年史	昭52	京都精華大学	京都精華短期大学の十年	昭54
〃	福原学園三十周年記念誌	昭52	京都造形芸術大学	瓜生山学園の歩み 短期大学開設から大学院開設まで	平8
九州保健福祉大学	学校法人高梁学園 九州保健福祉大学開学記念誌	平11	京都ノートルダム女子大学	ノートルダム女子大学三十年史	平3
京都大学	京都大学工学部土木工学教室六十年史	昭32	京都府立大学	創立20周年記念	
〃	京都大学七十年史	昭42	〃	創立30周年記念京都府立大学年表	昭55
〃	京大百年	平9	〃	開学90周年記念京都府立大学年表	昭60
〃	京都大学百年史写真集	平9	京都府立医科大学	京都府立医科大学八十年史	昭30
〃	京都大学百年史 総説編	平10			
〃	京都大学百年史 資料編一	平11			

寄贈大学	書誌名	発行年	寄贈大学	書誌名	発行年
京都府立医科大学	京都府立医科大学百年史	昭49	くらしき作陽大学	作陽学園創立50年史	昭55
京都薬科大学	京都薬科大学八十年史	昭39	久留米大学	久留米大学二十五年史	昭29
〃	京都薬科大学史(1964~1974)	昭49	〃	久留米大学五十年史	昭53
〃	京都薬科大学百年史	昭60	〃	創立50周年記念写真集	昭53
〃	京都薬科大学史(1984~1994)	平7	〃	久留米大学六十年史	昭63
共立女子大学	共立女子学園七十年史	昭31	〃	久留米大学ネパール医療技術協力の記録 - マチャブチャレの夜明け -	平2
〃	共立女子学園百年史	昭61	〃	久留米大学創立70周年記念アルバム	平10
〃	共立女子学園の一〇〇年	昭61	久留米工業大学	20周年記念(1958~1978)	昭53
〃	共立女子学園の一〇〇年	平8	〃	三十周年記念誌	平8
〃	共立女子学園百十年史	平8	群馬大学	群馬大学十年史	昭38
共立薬科大学	共立薬科大学四十年史	昭45	〃	群馬大学50年の歩み 輝く未来に向けて	平11
〃	50年の歩み 新教育棟竣工記念	昭56	敬愛大学	千葉敬愛学園五十年史	昭51
杏林大学	杏林学園十五年史	昭56	〃	千葉敬愛学園70年	平7
近畿大学	近畿大学創立65年のあゆみ	平2	慶應義塾大学	慶應義塾百年史 上巻	昭33
〃	近畿大学創立65周年記念 中央図書館蔵稀観書展 展覧目録	平2	〃	図説・慶應義塾百年小史 1858~1958	昭33
〃	理工学部50年の歩み	平6	〃	慶應義塾百年史 中巻(前)	昭35
金城学院大学	KINJO COLLEGE Seventy Years 1889~1959	昭34	〃	慶應義塾百年史 中巻(後)	昭39
〃	金城学院七十年史	昭35	〃	慶應義塾百年史 下巻	昭43
〃	金城学院八十年史	昭45	〃	慶應義塾百年史 付録	昭44
〃	金城学院最近十年誌1969-1979	昭55	〃	慶應義塾125年	昭58
〃	目で見る金城学院の一〇〇年史	平元	〃	慶應義塾大学理工学部五十年史	平元
〃	金城学院百年史	平8	恵泉女学園大学	恵泉女学園五十年の歩み	昭54
釧路公立大学	釧路公立大学沿革史・創立十周年記念	平9	工学院大学	工学院大学学園七十五年史	昭39
国立音楽大学	譜一時の調べにのせて(国立音楽大学の70年)	平8	〃	工学院大学学園百年史	平5
熊本大学	創立百周年記念誌	昭49	皇學館大学	創立九十年 再興十年	昭47
〃	熊本大学三十年史	昭55	〃	皇學館大学百年小史	昭57
〃	熊本大学医療技術短期大学部十年の歩み	昭62	甲子園大学	新たなる創造・飛躍への軌跡	平9
〃	創立20周年記念誌	平9	高知大学	高知大学の三十年	昭54
熊本学園大学	熊本商科大学熊本短期大学四十年史	昭58	〃	高知大学三十年史	昭57
〃	熊本学園創立五十周年記念論集	平4	〃	高知大学創立50周年写真集	平11
〃	開かれた世界を目指して国際交流10年のあゆみ	平4	高知医科大学	開学二十周年記念誌	平10
熊本県立大学	熊本県立大学開学五十周年記念誌	平10	高知工科大学	高知工科大学 創設のあゆみ	平11
熊本女子大学	創立15周年記念誌	昭40	高知女子大学	高知女子大学三十年史	昭52
			〃	高知女子大学五十年史	平7
			甲南大学	甲南学園の五十年	昭44

寄贈大学	書 誌 名	発行年	寄贈大学	書 誌 名	発行年
甲南大学	甲南学園五十年史	昭46	神戸女学院大学	神戸女学院写真集 Kobe College	昭61
〃	甲南学園の六十年	昭54	〃	学院史料1993. 3. vol.11	平 5
〃	甲南大学創立30周年記念講演会「日本とアメリカ」	昭58	〃	神戸女学院大学の125年	平12
〃	甲南大学の30年	昭59	神戸女子大学	行吉学園六十周年記念誌編集委員会	平12
〃	平生釼三郎の日記に関する基礎的研究	昭61	神戸松蔭女子学院大学	愛と自由と 松蔭女子学院90周年記念誌	昭57
〃	平生釼三郎講演集	昭62	〃	松蔭女子学院百年史	平 4
〃	平生釼三郎の総合的研究	平元	〃	松蔭女子学院 史料 第二集	平 7
甲南女子大学	創立六十周年記念誌	昭55	神戸親和女子大学	神戸親和女子大学三十年史	平 8
〃	甲南女子学園七十年の歩み	平 2	神戸薬科大学	神戸女子薬科大学35年のあゆみ	昭42
神戸大学	計測工学科創設二十周年記念誌	昭53	〃	出会い 神戸女子薬科大学創立四十周年記念	昭47
〃	神戸大学工学部30年の歩み	昭54	〃	証京45 神戸女子薬科大学創立45周年記念誌	昭52
〃	システム工学科創設10周年記念誌	昭57	〃	神戸女子薬科大学の昔と今	昭57
〃	神戸大学農学部学科・講座等の50年の歩み	平11	高野山大学	高野山大学五十年史	昭11
神戸海星女子学院大学	神戸海星女子学院短期大学創立30周年大学創立20周年記念誌	昭60	〃	高野山大学百年史	昭61
神戸学院大学	年表抄（昭和40～昭和51年）	昭51	郡山女子大学	創立二十年学園史	昭41
〃	課外活動史—10周年記念誌—	昭52	〃	創立三十年学園史	昭51
〃	神戸学院大学二十年史	昭61	〃	学園教育充実のために（一）	昭51
〃	学校法人神戸森学園80年のあゆみ『跡』	平 3	〃	創立四十年学園史	昭61
〃	神戸学院大学30年のあゆみ『SCENE』	平 8	〃	学園教育充実のために（二）	昭61
神戸国際大学	神戸国際大学史料集第一集 新しい社会新しい大学—学校と社会の基本的関係—	平 9	〃	創立四十周年記念論文集	昭62
〃	神戸国際大学30周年記念誌	平12	〃	50周年記念写真集	平 8
神戸市外国語大学	神戸市外国語大学二十年史	昭41	〃	創立五十年学園史	平 8
〃	神戸市外国語大学五十年史 1946～1996	平 8	〃	学園教育充実のために（三）	平 8
神戸商科大学	五十年の歩み	昭54	〃	人間生活学論考	平 8
〃	移転開学創立60周年記念写真集	平 2	國學院大学	國學院大學八十五年史	昭45
神戸商船大学	20年の歩み	昭47	〃	國學院大學八十五年史 史料篇	昭54
〃	30年のあゆみ	昭57	〃	國學院大學百年小史	昭57
〃	神戸商船大学七十五周年記念誌	平 8	〃	皇典講研究所草創期の人びと	昭57
神戸女学院大学	目でみる100年 1875～1975	昭50	〃	大嘗祭特別展示目録	
〃	神戸女学院百年史 総説	昭51	〃	國學院大學百年史 上巻	平 6
〃	神戸女学院百年史 各論	昭56	〃	國學院大學百年史 下巻	平 6
〃	岡田山の五十年	昭59	〃	草創期の國學院	平 9
			〃	有栖川宮ゆかりの名品	平 9
			国際大学	国際大学のあゆみ 1984	昭59
			国際基督教大学	An Adventure in Christian High Education in Japan	昭39

寄贈大学	書 誌 名	発行年	寄贈大学	書 誌 名	発行年
国際基督教大学	Catalog of the College of Liberal Arts.	昭40	滋賀大学	滋賀大学史 五十周年を迎えて	平11
"	An ICU Album	昭48	滋賀医科大学	開学十周年記念誌	昭59
"	明日の大学へのビジョン (1945~63年) 国際基督教大学創立史	平2	"	開院十周年記念誌	昭63
国際武道大学	The 10th Anniversary of International Budo University	平6	"	開学二十周年記念誌	平6
国土館大学	国土館80年のあゆみ	平9	"	滋賀医科大学「研究の歩み」1992~1995	平7
駒澤大学	駒澤大学八十年史	昭37	四国大学	航跡/徳ぶ草	平4
"	駒澤大学九十年史	昭47	四国学院大学	四国学院創立三十周年記念写真集	昭54
"	駒澤大学百年史	昭58	"	写真でみる四国学院50年の歩み	平11
駒沢女子大学	駒澤学園創立七十周年記念誌	平9	静岡大学	静岡大学十年史	昭37
埼玉大学	埼玉大学五十年史	平11	"	静岡大学二十五年史	昭51
埼玉医科大学	創立十年のあゆみ	昭57	"	静岡大学の五十年 通史 写真集	平11
"	埼玉医科大学附属図書館十年史	昭59	静岡県立大学	静岡県立大学創立十周年記念誌	平10
"	創立二十五年のあゆみ	平9	静岡薬科大学	50年の歩み	昭41
佐賀大学	佐賀大学四十年史	平6	"	大学開学25年創立62周年の歩み	昭53
佐賀医科大学	佐賀医科大学開講二十周年記念誌	平10	"	静薬六十五年史	昭57
相模女子大学	相模女子大学六十年史	昭35	自治医科大学	自治医科大学のあゆみ	昭49
"	創立七十周年記念教育史年表	昭45	"	自治医科大学創立十周年記念誌	昭57
"	相模女子大学八十年史	昭55	"	自治医科大学創立二十周年記念誌	平4
札幌大学	札幌大学十五年史	昭56	実践女子大学	実践女子学園七十年史	昭44
"	札幌大学30年史 [別冊] 札幌大学の歩み1967~1997	平9	"	実践女子学園八十年史	昭56
"	札幌大学30年史	平10	"	下田歌子先生小伝	昭57
札幌学院大学	学園創立40周年大学開学20周年記念誌	昭62	"	実践女子学園創立90周年記念	平元
"	写真集 PROMETHEUS 札幌学院大学50年	平9	"	実践女子学園創立100周年記念写真集	平11
"	札幌学院大学50年史 通史編	平12	四天王寺国際仏教大学	学校法人四天王寺学園六十年誌	昭56
"	札幌学院大学50年史 資料編	平12	芝浦工業大学	50年のあゆみ	昭52
札幌国際大学	札幌国際大学 札幌国際大学短期大学部 30周年記念誌	平11	"	60年のあゆみ	昭62
産業医科大学	産業医科大学開学十周年記念誌	平2	"	芝浦工業大学 六十年の軌跡	平3
"	産業医科大学産業医実務研究センター五周年記念誌 五年のあゆみ	平9	"	歴史における芝浦工業大学	平9
"	産業生態科学研究所10年の歩み	平9	"	芝浦工業大学70年のあゆみ	平9
"	産業医科大学開学二十周年記念資料集	平10	島根大学	島根大学史	昭56
産能大学	産能率大学のあゆみ	昭55	島根医科大学	開学10周年記念誌	昭60
滋賀大学	滋賀大学史	平元	"	開学二十周年記念誌	平7
			下関市立大学	下関市立大学創立三十周年記念論文集	昭61
			"	下関市立大学30年の歩み	昭61
			"	飛翔 下関市立大学創立40周年記念誌	平8

寄贈大学	書誌名	発行年	寄贈大学	書誌名	発行年
就実女子大学	就実学園八十年史	昭60	昭和大学	昭和大学の源流を探る	平9
〃	創立90周年「就実」	平6	〃	水原秋櫻子先生と昭和医博	平11
順天堂大学	順天堂大学図書館雑誌目録	昭44	昭和女子大学	昭和と教育源流考—大学の巻—	昭62
〃	山崎文庫目録	昭44	〃	昭和女子大学七十年史	平2
〃	順天堂の歩み	昭49	昭和薬科大学	昭和薬科大学四十年史	昭43
〃	順天堂史 上巻	昭55	〃	薬学への提言	昭55
〃	順天堂150年の歩み	昭63	〃	黄楊の木の回想	昭55
〃	順天堂史 下巻	平8	〃	昭和薬科大学60周年記念誌	平2
〃	順天堂創立150周年 記念事業誌	平9	〃	諏訪校舎教育25年誌	平2
上越教育大学	上越教育大学の設置と五年の歩み	昭58	女子栄養大学	要覧	昭45
〃	上越教育大学十周年記念誌	昭63	〃	香川栄養学園創立60周年記念誌	平5
〃	上越教育大学創立20周年記念誌 飛躍	平10	女子美術大学	女子美術大学略史	昭35
尚綱大学	尚綱学園百年史	平元	〃	女子美術大学八十年史	昭55
城西大学	城西大学10年の歩み	昭50	白百合女子大学	白百合女子大学創立25周年記念誌	平元
上智大学	上智大学五十年史	昭38	信州大学	信州大学教養部十年史	昭52
〃	上智大学創立六十周年 未来に向かって	昭48	〃	信州大学教養部二十年史	平元
〃	上智大学史資料第1集 (1903~1913)	昭55	〃	信州大学医学部五十年史	平6
〃	上智大学史資料集第2集 (1913~1928)	昭57	〃	信州大学教養部二十九年史	平7
〃	25年の歩み 上智大学外国語学部1958~1983	昭58	〃	信州大学創立50周年記念誌 新たな創造と交流をめざして	新平11
〃	上智大学中央図書館・総合研究棟	昭59	杉野女子大学	杉野学園五十年史	昭50
〃	上智大学ポルトガル・ブラジルセンター 二十五年の歩み	昭59	〃	杉野学園六十年史	昭61
〃	上智大学史資料集第3集 (1928~1948)	昭60	〃	杉野学園七十年史	平7
〃	上智大学創立75周年記念誌 上智短期大学創立15周年記念誌 上智社会福祉専門学校創立25周年記念誌	昭63	椋山女学園大学	椋山女学園七十五年史	昭55
〃	上智大学資料集第4集 (1948~1969)	平元	〃	「社会と女性たちと 夢の共創」 椋山女学園大学開学五十周年記念写真集	平11
〃	上智大学史資料集補遺 (1903~1969)	平5	成蹊大学	10年のあゆみ 成蹊大学工学部	昭47
〃	上智大学史資料集第5集 (1969~1989)	平7	〃	成蹊学園六十年史	昭48
上武大学	上武大学二十五年史	平5	〃	文学部十年史	昭50
昭和大学	昭和大学五十年史	昭55	〃	法学部十年の回顧と展望	昭53
〃	昭和大学薬学部二十年史	昭59	〃	成蹊大学の30年—年表と史料—	昭54
〃	昭和大学歯学部十年史	昭63	〃	成蹊大学経済学部論集	昭54
			〃	成蹊大学工学部20年のあゆみ	昭57
			〃	成蹊大学経済学部二十年のあゆみ	昭63
			〃	資料と年表—成蹊大学の40年—	平2
			〃	成蹊大学の50年	平13
			成城大学	成城学園五十年	昭42
			〃	成城学園六十年	昭52

寄贈大学	書 誌 名	発行年	寄贈大学	書 誌 名	発行年
成城大学	成城学園70年の歩み	昭62	聖和大学	聖和100年のあゆみ	昭55
〃	成城学園八十年	平10	〃	聖和保育史	昭60
〃	「成城大学開学五十周年」—記念式典・祝賀会の記録—	平12	〃	聖和幼稚園100年史	平 3
聖心女子大学	創立25周年記念聖心女子大学の歩み	昭48	摂南大学	摂南大学の歩み	平 7
〃	創立35周年記念施設整備竣工記念	昭58	専修大学	専修大学九十年小史	昭44
〃	聖心女子大学 1916~1948~1998	平10	〃	専修大学百年小史	昭54
清泉女子大学	清泉女子大学三十年の歩み	昭54	〃	専修大学百年史	昭56
聖徳大学	聖徳学園五十年の歩み	昭63	〃	相馬永胤伝	昭57
〃	聖徳学園五十五年の歩み	平元	〃	回想 相馬勝夫	昭59
〃	ケイト・グリーンナウェイ・コレクション	平 3	〃	専修大学105年	昭59
〃	楽章 I 聖徳学園シリーズコンサート第500回記念誌	平 5	〃	専修大学文学部20年のあゆみ	昭60
〃	聖徳学園創立60周年記念 イギリスの児童文学	平 5	〃	専修大学110年	平元
〃	川並総合研究所論叢 1	平 5	〃	専修大学教育学会設立四十周年記念誌	平 4
〃	聖徳学園六十年の歩み	平 5	〃	専修大学115年	平 6
〃	川並弘昭先生還暦記念論集	平 6	洗足学園大学	洗足学園 創立五十周年 記念誌	昭49
〃	川並総合研究所論叢 2	平 6	〃	洗足学園60年の歩み	昭59
〃	聖徳大学短期大学部創立三十周年記念論文集	平 7	〃	二十五周年記念誌	平 2
西南学院大学	西南学院史資料 (第1集)	昭55	〃	洗足学園の歩んだ70年	平 6
〃	西南学院史資料 (第2集)	昭55	仙台大学	10年のあゆみ	昭52
〃	西南学院年表 (一) 前史編・旧学制編	昭55	〃	25年のあゆみ	平 4
〃	西南学院年表 (二) 新学制編	昭55	創価大学	創価大学 人間教育10年の歩み	昭55
〃	西南学院七十年史	昭61	〃	創価大学 人間教育15年の歩み	昭60
〃	西南学院大学開学40周年 旧制高等学部から今日までのあゆみ	平元	園田学園女子大学	創立15年の歩み	昭53
西南女学院大学	西南女学院七十年史	平 6	〃	開学二十年の歩み 回顧と展望	昭58
聖マリアンナ医科大学	創立十周年記念誌	昭55	〃	けやき道 開学30年の歩み	平 5
〃	創立二十周年記念誌	平 2	第一経済大学	都築育英学園十五年史	昭56
聖路加看護大学	聖路加看護大学50年史	昭45	大正大学	大正大学五十年略史	昭51
〃	聖路加看護大学の70年	平 2	〃	写真でみる60年 大正大学創立六十周年記念	昭61
聖和大学	聖和女子大学 創立90周年記念写真集	昭45	大同工業大学	大同学園四十年史	昭54
〃	聖和女子大学 創立95周年記念写真集	昭50	〃	40周年記念集	昭54
			〃	写真でみる 大同学園50年のあゆみ	平元
			〃	写真で見る大学30年今—むかし	平 6
			大東文化大学	大東文化大学五十年史	昭48
			〃	大東文化大学七十年史	平 5
			〃	大東文化大学創立七十周年記念論集 (上巻)	平 5

寄贈大学	書誌名	発行年	寄贈大学	書誌名	発行年
大東文化大学	大東文化大学創立七十周年記念論集(中巻)	平5	中央大学	中央大学七十年史	昭30
〃	大東文化大学創立七十周年記念論集(下巻)	平5	〃	中央大学百年史編集ニュース第一号	昭57
〃	大東文化大学漢学会誌第32号	平5	〃	中央大学百年史編集ニュース第二号	昭58
高崎経済大学	高崎経済大学30年の歩み	昭62	〃	中央大学百年史編集ニュース第三号	昭58
〃	高崎経済大学40年の歩み	平9	〃	中央大学百年史編集ニュース第四号	昭59
高千穂大学	高千穂学園七十年の歩み	昭50	〃	中央大学関係史料第1集	昭59
〃	高千穂学園八十年史	昭58	〃	函説中央大学1885→1985	昭60
〃	高千穂学園90年のあゆみ	平5	〃	長谷川如是閑人・時代・思想と著作自録	昭60
拓殖大学	拓殖大学60年史	昭35	〃	長谷川如是閑連続公開講演集	昭60
〃	拓殖大学七十年外史	昭45	〃	中央大学百年史編集ニュース第五号	昭60
〃	拓殖大学八十年史	昭55	〃	中央大学百年記年行事記録	昭62
〃	拓殖大学工学部開設10周年記念誌	平9	〃	中央大学史資料集第二集	昭62
〃	拓殖大学外国語学部開設20周年記念誌	平11	〃	中央大学百年史編集ニュース第八号	昭62
〃	拓殖大学創立100周年1900-2000「右手に文化の炬をかかげ」	平12	〃	中央大学百年史編集ニュース第九号	昭62
〃	世界に天駆けた夢と群像／拓殖大学百年・小史	平12	〃	中央大学史資料集第三集	昭63
玉川大学	玉川教育 玉川学園三十年	昭35	〃	中央大学百年史編集ニュース第十三号	平元
〃	玉川学園五十年史	昭55	〃	中央大学史資料集第四集	平元
〃	玉川学園五十年史写真編	昭55	〃	中央大学史資料集第五集	平元
多摩美術大学	多摩美術大学50年史	昭61	〃	中央大学百年史編集ニュース第十四号	平2
〃	広告デザインの誕生から現代まで	平7	〃	中央大学史資料集第六集	平2
筑紫女学園大学	学校法人筑紫女学園創立90周年記念史「見つめていたのは、いつも未来」	平9	〃	中央大学史紀要第二号	平2
千葉大学	千葉大学医学部八十五年史	昭39	〃	中央大学百年史編集ニュース第十五号	平2
〃	千葉大学三十年史	昭55	〃	中央大学史資料集第七集	平2
〃	千葉大学改革の歩み	平8	〃	中央大学史紀要第三号	平3
〃	千葉大学改革関係資料集	平8	〃	中央大学百年史編集ニュース第十六号	平3
〃	千葉大学五十年史	平11	〃	中央大学百年史編集ニュース第十七号	平3
〃	千葉大学五十年史(CD-ROM)	平11	〃	中央大学史資料集第八集	平3
千葉経済大学	千葉経済学園60年史一写真でつづる学園のあゆみ一	平7	〃	中央大学史資料集第九集	平3
千葉工業大学	千葉工業大学二十五年史	昭42	〃	中央大学史紀要第四号	平4
〃	千葉工業大学30年のあゆみ	昭47	〃	中央大学史資料集第十一集	平4
〃	千葉工業大学50年史	平4	〃	中央大学史資料集第十四集	平8
千葉商科大学	創立50周年記念誌	昭52			
〃	創立70周年記念誌	平9			

寄贈大学	書誌名	発行年	寄贈大学	書誌名	発行年
中央大学	中央大学百年史編集ニュース 第二十五号	平8	東京大学	東京大学史紀要第3号	昭55
中央学院大学	発展への序章 中央学院大学十 年史	昭51	"	東京大学史紀要第4号	昭58
"	中央学院八十年史	昭57	"	東京大学百年史 通史一	昭59
"	現代経済・社会の歴史と論理	昭61	"	東京大学百年史 資料一	昭59
"	新たなる創造に向けて	昭61	"	東京大学百年史 通史二	昭60
中京大学	学校法人梅村学園創立60周年	昭58	"	東京大学百年史 資料二	昭60
"	中京大学30年の歩み	昭59	"	東京大学百年史 通史三	昭61
"	梅村学園七十年史	平5	"	東京大学百年史 資料三	昭61
"	知のフロンティア	平6	"	東京大学百年史 部局史一	昭61
中京女子大学	創立90周年記念誌	平7	"	東京大学史紀要第5号	昭61
中部大学	三浦学園の三十年	昭44	"	東京大学百年史 部局史二	昭62
"	三浦学園の四十年	昭54	"	東京大学百年史 部局史三	昭62
"	三浦学園五十年史	平元	"	東京大学百年史 部局史四	昭62
筑波大学	筑波大学その十年	昭58	"	東京大学史紀要第6号	昭62
"	筑波大学—新たなる挑戦	平5	"	東京大学史紀要第7号	平元
津田塾大学	津田塾六十年史	昭35	"	東京大学史紀要第8号	平2
"	津田梅子文章	昭55	"	東京大学史紀要第9号	平3
"	津田塾大学 津田梅子と塾の90 年	平2	"	東京大学史紀要第10号	平4
"	「婦女新聞」に見られる関係記 事	平2	"	東京大学史紀要第11号	平5
"	未知への勇氣	平12	"	東京大学史紀要第14号	平8
"	津田梅子を支えた人びと	平12	"	東京大学史紀要第15号	平9
都留文科大学	都留文科大学記念誌	平元	"	東京大学大学院教育学研究科・ 教育学部 創立50周年記念誌	平11
鶴見大学	鶴見大学の歩み	昭54	"	1969-1999 研究・教育年報30年 小史	平11
"	目で見る総持学園70年のあゆみ	平6	東京医科大学	東京医科大学五十年のあゆみ	昭41
帝塚山大学	帝塚山学園五十年史	平3	"	東京医科大学五十年略史	昭41
帝塚山学院大 学	創立十五周年記念誌	昭57	"	創立五十周年記念館竣工記念	昭41
電気通信大学	電気通信大学六十年史	昭55	"	東京医科大学五十年史	昭46
天理大学	天理大学五十年誌	昭50	"	東京医科大学要覧	昭56
東亜大学	東亜大学十年	昭60	"	東京医科大学七十年史	平元
東海大学	前進する東海大学	昭42	"	東京医科大学八十年史	平8
"	東海大学建学史	昭57	東京医科歯科 大学	東京医科歯科大学創立五十年記 念誌	昭53
"	図録 東海大学50年	平4	"	お茶の水会医科同窓会四十周年 記念写真集	昭62
東京大学	東京帝国大学五十年史・上	昭7	東京音楽大学	東京音楽大学65年史	昭47
"	東京帝国大学五十年史・下	昭7	"	東京音楽大学80年史	昭62
"	東京大学史紀要第1号	昭53	"	東京音楽大学最近10年の歩み (年譜 90年略史)	平10
"	東京大学史紀要第2号	昭54	東京外国語大 学	東京外国語大学史 —独立百周 年(建学百二十六年)記念—	平11

寄贈大学	書誌名	発行年	寄贈大学	書誌名	発行年
東京学芸大学	新世紀をひらく教育研究 海外女子教育センター創立20周年記念誌	平10	東京歯科大学	東京歯科大学百年史	平3
東京家政学院大学	東京家政学院五十年史	昭50	東京慈恵会医科大学	東京慈恵会医科大学八十五年史	昭40
東京家政大学	創立八十五年のあゆみ	昭41	〃	東京慈恵会医科大学百年史	昭55
〃	渡辺学園九十年史	昭46	〃	東京慈恵会医科大学進学課程三十年誌	平2
〃	渡辺学園百年史	昭56	東京商船大学	東京商船大学九十年史	昭41
〃	女子教育の先駆者渡辺辰五郎と今日の教育	平6	〃	東京商船大学百年史	昭51
〃	狭山校舎・文学部10周年-創設・発展・未来への歩み-	平8	東京女子大学	東京女子大学五十年誌	昭43
東京教育大学	東京教育大学百年史	昭53	〃	東西寮六十年	昭58
〃	東京教育大学概要	昭53	〃	メサイア三十年	昭60
東京基督教大学	東京キリスト教学園のあゆみ	平元	〃	旅人われら-東京女子大学の卒業生たち-	平10
東京経済大学	東京経済大学六十年の歩み	昭35	〃	東京女子大物語	平10
〃	東京経済学報 創立70周年記念1970	昭45	〃	東京女子大学の80年	平10
〃	東京経済大学報 創立80周年記念1980	昭55	東京女子医科大学	東京女子医科大学小史	昭43
〃	東京経済大学八十年史	昭56	〃	東京女子医科大学八十年史	昭55
東京芸術大学	東京芸術大学所蔵名品展-創立九十周年記念-	昭52	東京女子体育大学	藤村学園八十年のあゆみ	昭58
〃	芸術新潮(東京芸大日本史)	昭62	東京神学大学	東京神学大学二十年史	昭39
東京工科大学	片柳学園50年の歩み	平10	〃	東神大紛争記録	昭49
東京工業大学	東京工業大学六十年史	昭15	東京水産大学	創立百年1888~1988	昭63
〃	東京工業大学要覧 創立百年記念特集号	昭56	〃	東京水産大学百年史	平元
〃	東京工業大学百年史 通史	昭60	東京造形大学	東京造形大学の10年	昭52
〃	東京工業大学百年史 部局史	昭60	東京電機大学	東京電機大学六十年史	昭44
〃	Tokyo Institute of Technology	平6	〃	東京電機大学七十五年史	昭58
東京工芸大学	創立五十年を顧みて	昭48	〃	総合研究所創立10周年記念	平3
〃	東京工芸大学六十年史	昭58	〃	東京電機大学90年史	平10
東京国際大学	国際商科大学20年史 the18,002	昭60	〃	函録 東京電機大学90年	平11
〃	たった一人の寺子屋から 自叙伝 金子泰蔵の世界	昭60	東京都立大学	十周年記念論文集	昭35
東京歯科大学	東京歯科大学創立七十周年記念誌	昭36	〃	十周年記念工学部理学部研究要覧	昭35
〃	東京歯科大学同窓会創立七十周年記念誌	昭41	〃	東京都立大学三十年史	昭56
〃	東京歯科大学大学院創立二十周年記念誌	昭54	東京都立科学技術大学	十年のあゆみ-さらなる発展を期して-	平9
〃	東京歯科大学大学院創立三十周年記念誌	平元	〃	十年のあゆみ-さらなる発展を期して-資料編	平9
			東京農業大学	東京農業大学七十周年史	昭36
			〃	東京農業大学八十周年略史	昭47
			〃	東京農業大学九十周年略史	昭56
			〃	目で見る東京農大百年	平3
			〃	東京農業大学百年史	平5

寄贈大学	書誌名	発行年	寄贈大学	書誌名	発行年
東京農業大学	東京農業大学創立100周年記念行事写真集	平5	東北学院大学	東北学院大学七十年史	昭34
〃	東京農業大学百年史 資料編	平6	〃	東北学院の100年	昭61
東京農工大学	東京農工大学百年の歩み	昭56	〃	ウィリアム・ホーイ伝	昭61
〃	東京農工大学50年史資料	平11	〃	東北学院大学論集	昭61
東京薬科大学	東薬史抄	昭33	〃	東北学院百年史	平元
〃	東京薬科大学九十年	昭45	〃	東北学院百年史 資料編	平2
〃	東京薬科大学百年—九十年以降—	昭55	〃	東北学院百年史 各論篇	平3
〃	東京薬科大学医療薬学10年の歩み	昭62	東北工業大学	学校法人東北工業大学二十五年史	昭60
東京理科大学	八十年略史	昭36	東北女子大学	五十の年輪	昭48
〃	東京理科大学25周年記念誌	昭49	〃	今村敏先生追悼録	昭53
〃	東京理科大学100年略史	昭56	〃	柴田学園六十年史	昭58
〃	東京理科大学百年史	昭56	〃	ここに人ありき 柴田やす伝	昭61
同志社大学	同志社創立八拾周年記念誌	昭30	〃	創立七十周年記念誌 思い出をつづる	平5
〃	同志社大学九十年小史	昭40	東北生活文化大学	三島学園創立六十年史	昭38
〃	同志社百年史 通史編一	昭54	〃	学園の最近10年を語る—女子大学設立10周年記念—	昭43
〃	同志社百年史 通史編二	昭54	〃	三島学園80年史	昭58
〃	同志社百年史 資料編一	昭54	東北福祉大学	目でみる25年のあゆみ	昭58
〃	同志社百年史 資料編二	昭54	〃	創立25周年記念論文集	昭59
〃	新島襄—近代日本の先覚者	平5	東北薬科大学	東北薬科大学25周年誌	昭39
〃	新島襄—その時代と生涯	平5	〃	三十年のあゆみ	昭44
同志社女子大学	同志社女子大学125年	平12	〃	東北薬科大学四十五年史附属癌研究所二十五年史	昭59
東邦大学	東邦大学三十年史	昭30	〃	東北薬科大学五十年史	平元
〃	東邦大学四十年史	昭40	東洋大学	東洋大学八十年史	昭42
〃	写真でつづる 東邦大学五十年	昭50	〃	東洋大学工学部創立二十周年記念誌	昭56
〃	東邦大学五十年史	昭53	〃	東洋大学史紀要1	昭58
〃	東邦大学六十年史	昭60	〃	東洋大学史紀要2	昭59
〃	東邦大学七十年史	平7	〃	東洋大学史紀要3	昭60
同朋大学	学園のあゆみ	昭40	〃	東洋大学史紀要4	昭61
〃	同朋大学のあゆみ	昭46	〃	東洋大学史紀要5	昭62
〃	同朋大学七五年史	平8	〃	井上円了の教育理念—新しい建学の精神を求めて—	昭62
東邦音楽大学	三室戸学園50年の歩み	平元	〃	東洋大学創立100周年記念出版 井上円了選集全三巻	昭62
東北大学	東北大学農学部三十五年の歩み	昭57	〃	図録 東洋大学100年	昭62
〃	大学教育開放センター10年の歩み 昭和48年度~57年度	昭59	〃	創立100周年記念論文集	昭62
〃	大学教育開放センター10周年記念論集	昭59	〃	井上円了と西洋思想	昭63
〃	東北大学 教育学部50年の歩み 1949~1999	平11	〃	東洋大学百年史 資料編I・上	昭63

寄贈大学	書誌名	発行年	寄贈大学	書誌名	発行年
東洋大学	東洋大学1987 創立100周年記念行事記録	昭63	獨協大学	獨協百年 第一号	昭54
"	井上円了の学理思想	平元	"	獨協百年 第二号	昭54
"	東洋大学創立100周年記念講演集	平元	"	獨協百年 第三号	昭55
"	東洋大学百年史 資料編 I・下	平元	"	獨協百年 第四号	昭55
"	井上円了選集第四~五卷	平2	"	獨協百年 第五号	昭56
"	井上円了選集第六~七卷	平2	"	目でみる獨協百年	昭58
"	井上円了選集八~九卷	平3	"	創立二十周年記念論文集	昭59
"	井上円了選集一〇卷	平3	"	獨協大学創立二十年史	昭59
"	井上円了選集一一卷	平4	"	数字で見る30年のあゆみ	平7
"	井上円了センター年報	平5	獨協医科大学	創立十周年記念誌	昭58
"	東洋大学人名録 役員・教職員戦前編	平8	"	獨協医科大学創立二十五周年記念誌	平11
"	井上円了選集十二卷~一三卷	平9	鳥取大学	創立廿周年記念誌	昭43
"	井上円了選集一四卷	平10	"	創立五十周年記念誌	昭45
"	井上円了選集一五卷	平10	"	工学部十年の歩み	昭50
"	井上円了選集 第一六卷~一八卷	平11	"	鳥取大学工学部二十年史	昭60
東洋英和女学院大学	東洋英和女学院百年史	昭59	富山医科薬科大学	富山医科薬科大学開学十周年記念誌	昭61
常磐大学	常磐大学十年史	平6	"	富山医科薬科大学薬学部百年史	平4
徳島大学	徳島大学薬学部五十年史	昭48	"	富山医科薬科大学開学二十周年記念誌	平7
"	徳島大学工学部五十年史	昭48	豊田工業大学	あゆみ	昭59
"	教学百年	昭49	"	『新聞にみる豊田工大の歩み』別冊豊田工大だより	昭62
"	徳島大学工業短期大学部三〇年史	昭59	"	学校法人トヨタ学園 豊田工業大学10年史	平5
"	徳島大学薬学部創立七十周年記念誌	平5	豊橋技術科学大学	豊橋技術科学大学十年史	昭61
"	徳島大学医学部五十年史	平5	"	豊橋技術科学大学二十年史	平8
"	徳島大学大学開放実践センター10周年記念誌 DECADE 1986~95	平8	長岡技術科学大学	技学の実践と創造 長岡技術科学大学10年史	昭61
徳島文理大学	村崎学園九十年史	昭60	"	長岡技術科学大学開学20周年記念誌	平8
徳山大学	徳山大学十年史	昭56	長崎大学	長崎大学三十五年史	昭59
常葉学園大学	常葉 学園の歴史	昭62	"	長崎大学薬学部百年史	平2
"	とこは物語ーより高きをめざすー	平10	"	熱研50年の歩み (長崎大学熱帯医学研究所創立50周年記念)	平4
"	『常葉学園大学20年史』	平12	"	長崎大学医療技術短期大学部10周年記念誌	平7
図書館情報大学	図書館情報大学 五年のあゆみ	昭59	"	長崎大学工学部三十年史	平8
"	図書館情報大学10周年10th Anniversary	平元	"	長崎大学五十年史	平11
獨協大学	創立十周年記念	昭48	"	長崎大学歯学部創立20周年記念誌	平12
			長崎県立大学	10年の歩み	昭51

寄贈大学	書誌名	発行年	寄贈大学	書誌名	発行年
長崎県立大学	20年の歩み	昭62	名古屋市立大学	越原春子伝もえのぼる	平 8
長崎総合科学 大学	長崎総合科学大学五十年史	平 4	"	名古屋市立大学20年のあゆみ	昭45
長野大学	長野大学三十年誌	平 9	"	名古屋市立大学30年の歩み	昭55
中村学園大学	中村学園二十年誌	昭49	奈良大学	奈良大学二十五年史	平 5
"	中村学園三十年誌	昭59	奈良教育大学	奈良教育大学写真年表—奈良 県・近現代教育史年表—	昭63
名古屋大学	名古屋大学工学部25年の歩み	昭39	"	奈良教育大学史—百年の歩み—	平 2
"	名古屋大学農学部30年史	昭56	奈良県立医科 大学	奈良県立医科大学五十年史	平 7
"	名古屋大学計算機センター 10 年史	昭56	奈良産業大学	奈良産業大学開学記念論文集 産業と経済	昭60
"	プラズマ研究所25年史	昭61	"	奈良産業大学十年史	平 6
"	名古屋大学総合保健体育科学セ ンター創立十周年記念誌「健康 への道」	昭62	奈良女子大学	奈良女子大学六十年史	昭45
"	稿本 名古屋大学医学部百拾五 年史	昭63	"	奈良女子大学八十年史	平元
"	名古屋大学教育学部四十年の歩 み	平元	鳴門教育大学	新しい教育大学の創設（開学 5 周年記念誌）	昭61
"	名古屋大学五十年史部局史一・ 二	平元	"	鳴門教育大学十年史	平 3
"	写真集 名古屋大学の歴史 1871~1991	平 3	南山大学	南山大学の歩みと展望	昭52
"	名古屋大学五十年史 通史一	平 7	"	南山学園五十年の歩み	昭57
"	名古屋大学五十年史 通史二	平 7	"	南山大学五十年史 写真集	平11
"	名古屋大学大型計算機センター 25年史資料編	平 8	新潟大学	新潟大学二十五年史 総編	昭49
名古屋外国語 大学	学校法人 中西学園50年史	平 8	"	新潟大学二十五年史 部局論	昭55
名古屋学院大 学	名古屋学院大学二十年史	昭58	"	新潟大学医学部七十五年史	平 6
"	名古屋学院大学三十年史	平 6	新潟薬科大学	新潟薬科大学創立十周年記念誌	昭62
名古屋経済大 学	名古屋経済大学開学10周年記念 論集	平 2	"	新潟薬科大学創立二十周年記念 誌	平 9
"	名古屋経済大学法学部開設記念 論集	平 4	西九州大学	創立20年史	昭63
名古屋芸術大 学	名古屋芸術大学25年史	平 6	"	永原学園創立五十周年記念誌	平 8
名古屋工業大 学	名古屋工業大学八十年史	昭62	西日本工業大 学	西日本工業大学10年のあゆみ	昭53
名古屋商科大 学	栗本学園五〇年史	昭60	"	西日本工業大学20年史	昭62
"	名古屋商科大学・光陵短期大学 日進キャンパス創造の軌跡	昭62	"	西日本工業大学30年史	平 9
名古屋女子大 学	学園七十年史 春嵐	昭60	二松学舎大学	二松学舎九十年史	昭42
"	越原春子日誌 美濃少女	平 2	"	二松学舎百年史	昭52
			"	二松学舎百十年史	昭62
			"	資料に見る二松學舎百二十年史	平 9
			日本大学	日本大学七十年略史	昭34
			"	日本大学創立七十年記念論文集 第一巻 人文科学編	昭35
			"	日本大学創立七十年記念論文集 第二巻 社会科学編	昭35

寄贈大学	書誌名	発行年	寄贈大学	書誌名	発行年
日本大学	日本大学創立七十年記念論文集 第三巻 自然科学編	昭35	日本医科大学	便覧 日本医科大学	昭43
〃	日本大学創立七十年記念論文集 第四巻 自然科学編	昭35	〃	日本医科大学八十周年記念誌	昭58
〃	山田顯義傳	昭38	日本工業大学	日本工業大学20年の歩み	昭62
〃	日本大学興隆秘史	昭49	〃	東工学園80年	昭62
〃	日本大学八十年記念館資料目録	昭50	〃	東工学園八十年史	昭63
〃	日本大学の沿革（創立92年略年 表・現況）	昭56	〃	ひとの世紀へ 学校法人日本工 業大学創立90周年記念誌	平9
〃	日本大学の沿革（創立93年略年 表・現況）	昭57	〃	実学の達人 = 中尾哲二郎先輩 の教え	平10
〃	日本大学の沿革（創立94年略年 表・現況）	昭58	日本歯科大学	日歯大新聞にみる日本歯科大学 の戦後20年	昭41
〃	シリーズ学祖・山田顯義研究第 二集	昭61	〃	日本歯科大学60年誌	昭46
〃	日本大学の沿革（創立98年略年 表・現況）	昭62	〃	中原實学長告辞集	昭51
〃	シリーズ学祖・山田顯義研究第 三集	昭63	日本社会事業 大学	30年のあゆみ	昭51
〃	日本大学百年	平元	〃	日本社会事業大学四十年史	昭61
〃	日本大学100年史年表	平元	〃	社会福祉教育と平田富太郎先生	平7
〃	日本大学創立百周年記念論文集	平元	〃	日本社会事業大学五十年史	平8
〃	シリーズ学祖・山田顯義研究第 四集	平2	日本獣医畜産 大学	日本獣医畜産大学創立八十周年 記念誌	昭36
〃	日本大学の沿革（創立101年略 年表・現況）	平2	〃	日本獣医畜産大学百年史	昭56
〃	日本大学人口研究所10年のあゆ み	平2	〃	日本獣医畜産大学のあゆみ	平3
〃	1991, NIHON UNIVERSITY-日本大学	平3	日本女子大学	日本女子大学校四十年史	昭17
〃	日本大学の沿革（創立102年略 年表・現況）	平3	〃	日本女子大学学園史 二	昭43
〃	1992, NIHON UNIVERSITY-日本大学	平4	〃	成瀬仁蔵著作集 第一巻	昭49
〃	シリーズ学祖・山田顯義研究第 五集	平4	〃	成瀬仁蔵著作集 第二巻	昭51
〃	日本大学創立100周年記念事 業・行事記録	平5	〃	成瀬仁蔵著作集 第三巻	昭56
〃	学祖山田顯義漢詩百選	平5	〃	函説 日本女子大学の八十年	昭56
〃	剣と法典 小ナポレオン山田顯 義	平6	〃	日本女子大学社会福祉学科五十 年史	昭56
〃	シリーズ学祖・山田顯義研究第 六集	平7	〃	日本女子大学学園の教育	昭64
〃	金子堅太郎著作集 第三集	平9	〃	年表・日本女子大学の90年	平3
〃	松岡康毅日記	平10	〃	通信教育の50年	平11
〃	シリーズ学祖・山田顯義研究 第七集〈追補〉	平13	日本女子体育 大学	二階堂学園発展史	昭44
			〃	二階堂学園六十年誌	昭56
			日本赤十字看 護大学	日本赤十字看護大学15周年記念 誌	平12
			日本体育大学	学校法人日本体育会日本体育大 学八十年史	昭48
			〃	学校法人日本体育会百年史	平3
			日本文理大学	創立二十周年のあゆみ	昭62

寄贈大学	書誌名	発行年	寄贈大学	書誌名	発行年
日本ルーテル 神学大学	盲学生と共に学んで 1983～1987年の記録	昭63	兵庫教育大学	兵庫教育大学二十年史	平10
ノートルダム 清心女子大学	ノートルダム清心女子大学二十 年史	昭44	"	写真で見る兵庫教育大学20年	平10
"	ノートルダム清心女子大学 創 立20周年記念アルバム	昭44	弘前大学	弘前大学二十年史	昭48
"	麦、地におちて	昭44	"	弘前大学医療技術短期大学部二 十年史	平7
"	ノートルダム清心女子大学史一 九六九—一九七八	昭53	"	弘前大学五十年史 通史編	平11
"	生活文化研究所年報 第1輯	昭62	"	弘前大学五十年史ビジュアル版 写真で見る弘前大学の50年	平11
"	ノートルダム清心女子大学史一 九七九—一九八九	平元	弘前学院大学	弘前学院九十年史	昭51
"	ノートルダム清心女子大学創立 40周年記念アルバム	平元	"	弘前学院百年史	平2
"	ノートルダム清心女子大学五十 年史	平11	広島大学	広島大学二十五年史 抱括校史	昭52
梅花女子大学	梅花学園九十年小史	昭43	"	広島大学二十五年史 部局史	昭52
"	開学二十周年記念論文集	昭60	"	広島大学二十五年史 通史	昭54
"	梅花学園百十年史	昭63	"	大学教育研究センター10年の歩 み	昭57
"	学校法人梅花学園創立120周年 記念誌 Baika Gloria	平9	"	広島大学附属小学校八十年史	昭60
梅光学院大学	ヘンリー・スタウトの生涯	昭61	"	創立八十年史 上巻 (広島大学 附属中・高等学校)	昭60
"	梅光女学院遠望	昭62	"	創立八十年史 下巻 (広島大学 附属中・高等学校)	昭61
函館大学	創立十周年記念函館大学史	昭50	"	記念誌	平元
"	創立二十周年記念函館大学史	昭61	"	広島大学理論物理学研究所史	平2
八戸工業大学	八戸工業大学10年のあゆみ	昭57	"	記念誌 広島大学核融合理論研 究センター	平2
"	学校法人八戸工業大学三十年史	昭61	"	広島大学 大学教育研究センタ ー20年の歩み	平4
"	八戸工業大学創立20周年記念誌 「新たな未来への展望」	平4	"	広島大学総合科学部20年史	平6
花園大学	花園大学三十年のあゆみ	昭54	"	広島大学歯学部創立三十周年記 念誌	平7
浜松医科大学	浜松医科大学施設竣工記念誌	昭53	"	創立九十周年記念誌 (広島大学 附属中・高等学校)	平7
"	浜松医科大学開学十周年記念誌	昭60	"	翔べ！フェニックス	平7
"	浜松医科大学開学20周年記念誌	平6	"	広島大学工学部創立75周年記念 誌	平7
阪南大学	阪南大学創立二十五周年記念誌	平2	"	広島大学医学部五〇年史 資料 編	平7
一橋大学	Hitotsubashi in Pictures 1950	昭26	"	広島大学附属小学校 創立90周 年記念資料集	平7
"	一橋大学附属図書館史	昭50	"	広島大学附属三原学園中学校創 立五十周年／学園創立八十五周 年記念誌—自ら伸びよ—	平8
"	一橋大学年譜 I	昭51	"	五十周年記念誌 広島大学付属 福山中・高等学校	平11
"	一橋大学学問史	昭61	広島経済大学	広島経済大学十年誌	昭52
"	一橋大学百二十年史	平7	"	目でみる広島経済大学史 20年 の歩み	昭63
姫路獨協大学	わが街、わが大学	平9			
兵庫医科大学	兵庫医科大学開学25周年記念誌	平9			
兵庫教育大学	5年の歩み	昭58			
"	兵庫教育大学十年史	昭63			

寄贈大学	書誌名	発行年	寄贈大学	書誌名	発行年
広島工業大学	広島工業大学十年史	昭48	福岡女学院大学	福岡女学院百年史	昭62
〃	鶴学園30年史	昭61	〃	福岡女学院105年史	平4
〃	広島工業大学30周年史 雄翔の歩み	平3	福岡女子大学	福岡女子大学五十年史	昭48
広島国際学院大学	五十年の軌跡	昭52	福島大学	福島大学キャンパスの歩み	昭59
〃	20年を顧みて	昭58	福島県立医科大学	創立20周年記念	昭46
〃	広島電機大学20年史	昭62	〃	光の鳥 福島県立医科大学のあゆみ	平9
〃	学校法人 広島電機大学70年史 -新たな歴史の創造-	平9	福山大学	福山大学十年史	昭60
広島修道大学	修道学園史	昭53	〃	福山大学回想十年誌	昭60
〃	広島修道大学二十五年史	昭60	富士大学	富士大学のあゆみ	昭60
広島女学院大学	ゲーンズ先生物語	昭41	藤女子大学	藤女子短期大学30年藤女子大学20年記念誌	昭55
〃	広島女学院 創立85周年(1866~1971)	昭46	佛教大学	佛教大学史	昭47
〃	広島女学院と共に-広瀬ハマコ先生文集-	昭49	〃	躍進する佛教大学	昭57
〃	九拾年の歩み	昭51	〃	佛教大学開学80周年記念誌佛教大学の歩み(1982~1992)	平4
〃	目でみる広島女学院の100年	昭61	文化女子大学	文化女子大学の40年	平元
〃	牛田山の自然	昭63	文教大学	文教大学学園創立六十年史	昭63
〃	広島女学院百年史	平3	〃	文教大学学園70年の歩み	平9
広島文教女子大学	武田学園創立三十五周年記念誌	昭58	文京女子大学	文京学園55年史	昭54
プール学院大学	プール学院大学短期大学部開学50年の歩み	平11	法政大学	法政大学八十年史	昭36
フェリス女学院大学	フェリス女学院100年史	昭45	〃	法政大学の100年<1880-1980>	昭55
〃	フェリス女学院110年小史	昭57	〃	法政大学百年史	昭55
福井大学	福井大学50周年記念 写真と年表	平11	〃	法政大学通信教育部写真集創設50周年記念	平9
福井医科大学	福井医科大学十周年記念誌	平2	放送大学	放送大学十年史	平6
福井工業大学	金井学園三十年史	昭55	北星学園大学	開学20周年記念誌	昭56
〃	金井学園五十年史	平11	〃	北星論集19号開学二十周年記念論文集	昭57
福岡大学	目で見る福岡大学史半世紀の歩み	昭59	〃	北星学園百年史-通史篇-	平2
〃	福岡大学五十年史 上巻	昭62	〃	北星学園百年史-資料篇-	平2
〃	福岡大学五十年史 下巻	昭62	北陸大学	松雲学園十年史	昭60
〃	福岡大学五十年史 別巻	昭62	星薬科大学	星一先生の横顔	昭40
〃	福岡大学五十年史 年表資料集	昭63	〃	星薬科大学創立二十五周年誌	昭41
福岡教育大学	福岡教育大学四十年の歩み	平元	〃	星薬科大学史写真集	昭62
福岡歯科大学	福岡歯科大学十年史	昭57	〃	星薬科大学八十年史	平3
〃	福岡歯科大学二十年誌	平4	北海学園大学	北海学園史	昭38
			〃	北海学園1965	昭40

寄贈大学	書 誌 名	発行年	寄贈大学	書 誌 名	発行年
北海学園大学	北海学園大学三十五年小史	昭61	松山大学	松山商科大学六十年史(資料編)	昭60
〃	現代ビジネスの課題と展望	平 8	〃	松山大学七十年の略史	平 5
北海学園北見大学	北海学園北見大学小史	昭61	〃	松山大学創立70周年～記念の記録～	平 7
〃	北海学園北見大学開学20周年記念	平 8	松山東雲女子大学	松山東雲学園100年のあゆみ	昭61
北海道大学	北海道大学創基八十年史	昭40	〃	松山東雲学園百年史<資料編>	平元
〃	北大百年史 部局史	昭55	〃	松山東雲学園百年史<通史編>	平 6
〃	北大百年史 札幌農学校史料(一)	昭56	三重大学	三重大学工学部創設30周年記念誌	平11
〃	北大百年史 札幌農学校史料(二)	昭56	〃	三重大学五十年史	平11
〃	北大百年史 通説	昭57	南九州大学	南九州大学10年の歩み	昭52
北海道医療大学	三位一体の心 創立十周年記念誌	昭59	〃	南九州大学創立30周年記念誌	平10
〃	北海道医療大学創立二十周年記念誌	平 6	美作女子大学	美作学園七十五年史	平 3
〃	北海道医療大学歯学部創設二十周年記念誌	平10	宮城学院女子大学	宮城学院八十年小誌	昭41
北海道教育大学	北海道教育大学函館分校創立六十年史	昭50	〃	宮城学院最近十年小史	昭52
〃	創立九十周年開学二十七周年記念誌	昭51	〃	天にみ栄えー宮城学院の百年ー	昭62
〃	開学30年ー北海道教育大学ー	昭55	〃	宮城学院創立の歴史を語る(改訂版)	平10
〃	北海道教育大学岩見沢分校要覧(新校舎落成創立60年記念)	昭57	〃	宮城学院創立110周年記念誌『宮城学院最近10年小史1987-1996』	平10
〃	北海道教育大学札幌分校創立100周年新校舎落成記念要覧	昭62	〃	宮城学院資料室年報『信・望・愛』第5号	平11
〃	北海道教育大学釧路分校四十年史 この十年のあゆみ	平元	宮城教育大学	宮城教育大学十年史資料集(上)	昭51
〃	北海道教育大学50年史	平11	〃	宮城教育大学十年史資料集(下)	昭52
北海道工業大学	北海道工業大学開学二十周年記念誌	昭62	〃	宮城教育大学二十年史資料集I	昭62
〃	目で見る70年のあゆみ	平 5	〃	宮城教育大学二十年史資料集II	昭63
〃	北海道尚志学園七十周年史	平 7	〃	宮城教育大学三十年の軌跡	平 7
〃	北海道工業大学開学30周年記念誌	平 9	〃	宮城教育大学三十年史資料集I	平 8
北海道東海大学	北海道東海大学創立10周年記念誌	昭58	〃	宮城教育大学三十年史資料集II	平 8
松本歯科大学	松本歯科大学創立十周年記念誌	昭57	宮崎大学	宮崎大学農学部創立五十周年記念誌	昭51
〃	松本歯科大学創立二十周年記念誌	平 4	〃	創立三十周年記念誌	昭56
松山大学	松山商科大学三十年史	昭28	宮崎医科大学	開学十周年記念誌	昭60
〃	松山商科大学六十年史(写真編)	昭59	〃	20年の歩み	平 6
			武庫川女子大学	風涛偕に和して	昭42

寄贈大学	書誌名	発行年	寄贈大学	書誌名	発行年
武庫川女子大学	武庫川学院創立三十五周年記念誌	昭49	明治大学	明治大学史紀要2	昭57
〃	公江喜市郎先生追悼録	昭57	〃	明治大学史紀要3	昭58
〃	あすへ翔る武庫川学院 創立45周年記念	昭60	〃	明治大学教育制度発達史稿(8)	昭58
〃	半世紀の軌跡	平元	〃	明治大学史紀要4	昭59
〃	武庫川学院五十年誌	平2	〃	明治大学教育制度発達史稿(9)	昭59
〃	21世紀への飛翔—創立55周年記念—	平6	〃	明治大学史紀要5	昭60
武蔵大学	武蔵五十年のあゆみ	昭47	〃	明治大学百年史 第一巻 史料編I	昭61
〃	武蔵大学人文学部 十年のあゆみ	昭55	〃	明治大学史紀要6	昭61
〃	武蔵六十年のあゆみ	昭57	〃	明治大学百年史 第二巻 史料編II	昭63
〃	武蔵七十年史	平5	〃	明治大学史紀要7	昭63
〃	武蔵七十年のあゆみ	平6	〃	明治大学史紀要8	平2
〃	武蔵学園史年報 創刊号	平7	〃	明治大学史紀要9	平3
〃	武蔵学園史年報 第二号	平8	〃	明治大学百年史 第三巻 通史編I	平4
〃	武蔵学園史年報 第三号	平9	〃	明治大学紀要第10号	平4
武蔵工業大学	武蔵工業大学三十年史	昭35	〃	明治大学紀要第11号	平6
〃	武蔵工業大学五十年史	昭55	〃	明治大学百年史 第四巻 通史編II	平6
武蔵野音楽大学	三十年の歩み1929~1959	昭34	〃	明治大学史紀要13	平7
〃	武蔵野音楽学園50年の歩み	昭54	〃	自由への学譜—明治大学を創った三人—	平7
〃	武蔵野音楽学園創立50周年INTERNATIONAL SYMPOSIUM	昭55	〃	明治大学の発祥	平7
〃	武蔵野音楽学園創立60周年記念	平元	〃	歴史編纂事務室報告 第十七集 記念館の歴史と資料	平8
武蔵野女子大学	武蔵野女子学院五十年史	昭49	〃	思索の樹海	平8
〃	武蔵野女子学院年表	昭49	〃	大学史紀要 紫紺の歷程 創刊号	平9
〃	武蔵野女子学院70周年誌	平7	〃	歴史編纂事務室報告 第十八集 明治大学の学則	平9
武蔵野美術大学	武蔵野美術大学六〇年史	平3	〃	歴史編纂事務室報告 第二十集 明治大学の大学史料	平11
室蘭工業大学	開学25年記念誌	昭49	〃	大学史紀要 紫紺の歷程 第3号	平11
〃	室蘭工業大学百年	平2	〃	大学史紀要 紫紺の歷程 第4号	平12
〃	室蘭工業大学地域共同研究開発センター創設10周年記念誌	平10	〃	歴史編纂事務室報告 第二十一集 明治大学と校友 (II)	平12
明海大学	城西歯科大学創立十周年記念誌	昭55	〃	大学史紀要 紫紺の歷程 第5号	平13
〃	一瞬と永遠	平2	〃	歴史編纂事務室報告 第二十二集 明治大学と学生	平13
〃	明海大学創立20周年記念誌	平2	明治学院大学	明治学院八十年史	昭32
明治大学	明治法律学校における法学と法学教育	昭41			
〃	図録 明治大学百年1881—1981	昭55			
〃	明治大学史紀要1	昭56			

寄贈大学	書誌名	発行年	寄贈大学	書誌名	発行年
明治学院大学	明治学院九十年史	昭42	桃山学院大学	桃山学院100年の歩み	昭59
〃	明治学院百年史	昭52	〃	桃山学院百年史	昭62
〃	目で見る明治学院100年	昭52	〃	愛の眼ざし わが胸に 開学30周年記念写真集	平元
〃	社会学部20年の歩み—記念樹とともに—	昭61	安田女子大学	温故知新 安田学園六十周年記念	昭50
〃	明治学院大学法学部二十周年論文集 法と政治の現代的課題	昭62	〃	安田学園七十年史	昭60
〃	明治学院の現況 創立110周年記念誌	昭62	〃	写真で綴る80年の歩み	平7
〃	十年の歩み—一般教育創立十周年記念誌—	昭63	山形大学	山形大学50年誌	平11
〃	心に刻む敗戦50年明治学院の自己検証	平7	山梨大学	山梨大学学芸部沿革史	昭39
〃	社会学部30年の歩み—記念樹とともに—	平8	〃	山梨大学50年のあゆみ	平11
〃	横浜開校10周年記念誌	平8	山梨医科大学	開学十周年記念誌	平元
〃	それからの十年—一般教育部創立二十周年記念誌—	平9	山梨学院大学	山梨学院大学廿年史	昭41
〃	真理と自由を求めて—明治学院120年の歩み—	平9	〃	山梨学院大学三十年史	昭52
明治薬科大学	明薬六十年の歩み	昭37	〃	創立50周年グラフ山梨学院	平8
〃	明薬今昔史	昭53	横浜国立大学	五十年のあゆみ=年表=	昭49
〃	明薬10年の歩み	昭62	〃	横浜国立大学経済学部経営学部五十年史	昭50
〃	初代学長 恩田経介先生を偲ぶ	平5	〃	30年の歩み	昭54
名城大学	名城大学小史	昭51	横浜商科大学	横浜商科大学二十年史稿	昭61
明星大学	明星大学十年史	昭49	横浜市立大学	横浜市立大学60年史	平3
〃	明星ものがたり	昭51	〃	かもめ50 横浜市立大学医学部創立50周年記念誌	平6
〃	創立十周年記念誌 開かれた大学へ	昭52	酪農学園大学	記念史	昭55
〃	明星大学20年史	昭59	〃	酪農学園創立五十周年記念史	昭58
〃	全英国首相J・キャラハン氏ご夫婦を迎えて 明星大学創立20周年記念	昭60	〃	記念誌～今、大地に生きる～	平2
〃	明星大学通信教育部二十年史	昭62	〃	酪農学園創立60周年記念写真集 健土健民	平5
〃	通信教育部三十年史	平9	立教大学	立教大学史学会小史	昭42
〃	葦 同窓会創設30周年記念 第7号	平11	〃	立教学院百年史	昭49
〃	葦 第7号 別冊	平11	〃	立教大学理学部30年史	昭54
桃山学院大学	80th ANNIVERSARY	昭39	〃	立教学院百二十五年史 資料編 第1巻	平8
〃	桃山学院90年史	昭49	〃	立教学院百二十五年史 資料編 第2巻	平10
〃	桃山学院年史紀要創刊号	昭56	〃	立教学院百二十五年史 資料編 第3巻	平11
〃	桃山学院年史紀要第二号	昭56	〃	立教学院百二十五年史 資料編 第4巻 (ウィリアムズ主教書簡集I)	平12
〃	桃山学院年史紀要第三号	昭57	〃	立教学院百二十五年史 資料編 第5巻 (ウィリアムズ主教書簡集II)	平12
〃	桃山学院年史紀要第四号	昭57			

寄贈大学	書 誌 名	発行年	寄贈大学	書 誌 名	発行年
立教大学	立教学院百二十五年史 図録 BRICKS AND IVY	平12	龍谷大学	仏教東漸—祇園精舎から飛鳥まで—	平 3
立正大学	文学部50年の歩み (文学部論叢 別冊)	昭51	〃	龍谷大学三百五十年史 史料編 第四卷	平 4
〃	創造への招待	昭60	〃	龍谷大学三百五十年史 史料編 第五卷	平 8
〃	立正大学の120年	平 4	〃	『龍谷大学三百五十年史』通史 編下巻	平10
〃	立正大学史 資料集第一集	平 7	流通経済大学	流通経済大学三十年史	平10
立命館大学	立命館創立五十年史	昭28	麗澤大学	麗澤大学15年の歩み展記録	昭51
〃	立命館85年史略年表	昭60	〃	日本の近代化と精神的伝統	昭60
〃	立命館85年史資料集 第一集	昭61	〃	麗澤教育 広池学園50年の歩み	昭60
〃	立命館85年史資料集 第二集	昭62	〃	資料・寮生活二十五年麗澤大学	昭60
〃	立命館85年史資料集 第三集	昭63	〃	麗澤大学の30年	昭63
〃	立命館85年史資料集 第四集	昭63	〃	廣池学園五十年史 第一巻	平 4
〃	立命館85年史資料集 第五集	昭63	〃	廣池学園五十年史 第二巻	平 5
〃	立命館85年史資料集 第六集	昭63	和歌山大学	十年の歩み	昭43
〃	立命館85年史資料集 第七集	平 2	〃	100年のあしあと1975	昭50
〃	立命館85年史資料集 第八集	平 2	和歌山県立医 科大学	和歌山県立医科大学四十年の歩 み	昭63
〃	立命館八十五年史資料集 (第一 ~八集)「目次」	平 2	和光大学	和光大学通信 和光大学創立10 周年記念特集号	昭50
〃	立命館百年史資料集第二集	平 5	〃	小さな実験大学	昭50
〃	立命館百年史紀要 第一号	平 5	〃	アダム・スミスとその時代	昭52
〃	立命館百年史紀要 第二号	平 6	〃	和光学園五十年	昭58
〃	立命館 (大学) 出版部出版物目 録	平 6	〃	はばたく1984-1993・和光学園 この10年	平 5
〃	立命館百年史紀要 第三号	平 7	〃	つちかう1933-1983・和光学園 50年のあゆみ	平 5
〃	立命館百年史紀要 第四号	平 8	〃	東西南北	平 8
〃	立命館百年史紀要 別冊	平 8	〃	ケインズ・バーナードとその時 代	平 8
〃	立命館創始130年・学園創立100 周年記念写真集 立命館	平12	早稲田大学	早稲田大学八十年誌	昭37
琉球大学	琉球大学創立20周年記念誌	昭45	〃	早稲田大学百年史 第一巻	昭53
〃	琉球大学四十年	平 2	〃	早稲田大学百年史 第二巻	昭56
〃	琉球大学短期大学部30年の足跡	平 8	〃	都の西北—建学百年—	昭57
龍谷大学	龍谷大学三百年史	昭14	〃	偲 故伊原貞敏名誉教授 追悼 文集	昭61
〃	龍谷大学三百五十年史 史料編 第一巻	昭62	〃	早稲田大学百年史 第三巻	昭62
〃	龍谷大学三百五十年史 史料編 第二巻	平元	〃	早稲田大学百年史 別巻II	平元
〃	龍谷大学三五〇年の歩み	平元	〃	早稲田大学百年史 別巻I	平 2
〃	龍谷大学三五〇年の歩み (ハー ドカバー)	平元	〃	早稲田大学理工学研究所創設五 十周年記念誌	平 3
〃	龍谷大学三百五十年史 史料編 第三巻	平 2	〃	早稲田大学百年史 第四巻	平 4
〃	人間、科学、宗教	平 3			

寄贈大学	書 誌 名	発行年
早稲田大学	早稲田大学商学部九十年史	平 8
〃	早稲田大学小史付・早稲田大学歌集	平 8
〃	早稲田大学百年史 第五卷	平 9
〃	早稲田大学百年史 総索引年表	平 9
和洋女子大学	和洋学園創立七十周年記念誌	昭42
〃	和洋学園八十年史	昭52
〃	和洋学園百周年記念誌	平 9

事務局日誌

平成12年

9月1日(金)

午前11時 常務役員会

午後1時半 第382回理事会

代表者変更—宮城教育大学(8月1日付)新、横須賀 薫(旧、江崎陽一郎)

賛助会員への加入を承認。

(私立)共愛学園前橋国際大学(代表者 津嘉山繪智子)

大学評価・学位授与機構からの大学評価委員会専門委員・評価員の推薦依頼について報告了承。

大学審議会「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について(審議の概要)」に対する意見について報告了承。

「大学評価実務マニュアル」の改訂について了承。

財団法人大学基準協会のマーク設定について提案。

大学評価説明のためのスタッフ派遣について報告了承。

INQAAHE(International Network for Quality Assurance Agencies in Higher Education)の理事立候補及び2003年定期総会開催地立候補の件について提案了承。

高等教育機関基準認定協議会(Council for Higher Education Accreditation—CHEA)主催 Enhancing Usefulness Conference IVについて報告。

協会資料の保存方法並びに担当理事について承認。

担当理事 外間 寛(中央大学)

日本技術者教育認定機構(JABEE)

との連絡会の設置について提案了承。

本協会の歴史に関する講演について提案了承。

9月5日(火)

午後1時半 評価者研修セミナー

於、都市センターホテル

9月8日(木)

午後1時半 評価者研修セミナー

於、大阪ガーデンパレス

9月11日(月)

午後3時 第5回大学通信教育基準検討委員会

9月14日(木)

午後3時 第7回保健学系教育基準検討委員会

9月19日(火)

午前10時半 第2回相互評価委員会

9月20日(水)

午前10時半 第235回基準委員会

9月21日(木)

午前10時 第1回本協会のあり方検討委員会小委員会

9月27日(水)

午前10時 第2回本協会のあり方検討委員会小委員会

10月3日(火)

午後1時半 相互評価委員会社会福祉学系専門評価分科会

10月4日(水)

午後1時 第44回獣医学教育研究委員会小委員会

10月6日(金)

午後1時 相互評価委員会文学系第1専門評価分科会

相互評価委員会水産学系専門評価分科会

10月10日(火)

午後1時 相互評価委員会理学系第2専門評価分科会

10月11日(水)

午前10時 相互評価委員会獣医学系専門評価分科会

午前10時 第3回本協会のあり方検討委員会小委員会

午後1時 相互評価委員会工学系第3専門評価分科会

午後1時 相互評価委員会理工学系専門評価分科会

	会	(東京工業大学)
午後3時	第1回組織・機構、財政検討分科会	// 斎藤信男
10月12日(木)		(慶應義塾大学)
午前10時	判定委員会工学系第2専門審査分科会	// 豊田国昭
午後1時	第8回保健学系教育基準検討委員会	(北海道工業大学)
午後1時	相互評価委員会医学・医療衛生学系専門評価分科会	// 樋口龍雄
		(東北大学)
午後4時	判定委員会国際文化・教養学系専門審査分科会	// 平尾公彦
		(東京大学)
10月13日(金)		// 平岡節郎
午前10時	常務役員会	(名古屋工業大学)
午後1時	第383回理事会	// 山川 宏
	元役員逝去について報告。	(早稲田大学)
	加納六郎元常務理事(元東京医科歯科大学学長)(平成12年9月17日逝去)	// 吉田裕一
	代表者変更一熊本県立大学(9月1日付)新、菅野道廣(旧、手島 孝)、東京医科大学(9月1日付)新、伊東 洋(旧、渋谷 健)	幹 事 奥村次徳
	財団法人大学基準協会寄附行為の一部変更について協議	(東京都立大学)
	工学教育研究委員会の廃止及び担当理事並びに委員の解嘱について承認。	大学通信教育基準検討委員会の審議状況について提案了承。
	委員会の廃止	財団法人大学基準協会のマーク設定について提案了承。
	工学教育研究委員会	平成12年度評価者研修セミナーについて報告。
	担当理事及び委員の解嘱	大学評価説明のためのスタッフ派遣について報告了承。
	担当理事 松尾 稔	大学評価・学位授与機構への大学評価委員会専門委員推薦の結果について報告。
	(名古屋大学)	大学評価・学位授与機構「平成12年度に着手する大学評価の内容・方法等について(案)」について協議。
	委員長 古川勇二	看護学教育及び同研究科関係基準並びに関係資料の再検討とそのための委員会の設置について下記のとおり承認。
	(東京都立大学)	委員会の設置
	委員 岡村弘之	看護学教育研究委員会
	(東京理科大学)	看護学教育研究委員会担当理事
	// 奥田宗幸	磯野可一 (千葉大学)
	(東京理科大学)	役員懇談会開催について提案了承。
	// 川島一彦	国立大学協会第8常置委員会との懇談
	(東京工業大学)	
	// 岸浪建史	
	(北海道大学)	
	// 小林 猛	
	(名古屋大学)	
	// 齋藤彬夫	

	会について提案了承。		門審査分科会
10月16日 (月)		午後1時	相互評価委員会経済学系専門評価分科会
	午後1時 相互評価委員会環境科学系専門評価分科会		
	午後1時 相互評価委員会工学系第2専門評価分科会	午後1時	相互評価委員会薬学系第2専門評価分科会
	午後1時 相互評価委員会看護学系専門評価分科会	10月30日 (月)	
10月17日 (火)		午後1時	判定委員会経済学系第2専門審査分科会
	午前10時半 判定委員会理工学系専門審査分科会	午後1時	相互評価委員会国際学・外国語学系専門評価分科会
10月18日 (水)		10月31日 (火)	
	午前10時 判定委員会教育学系専門審査分科会	午後1時	判定委員会大学審査分科会第1群
	午後1時 相互評価委員会歯学系専門評価分科会	午後1時	判定委員会工学系第1専門審査分科会
10月19日 (木)		午後1時	判定委員会医療科学系専門審査分科会
	午後1時 相互評価委員会文学系第3専門評価分科会	11月1日 (水)	
	午後1時 相互評価委員会人間科学系専門評価分科会	午前10時	相互評価委員会文学系第4専門評価分科会
10月23日 (月)		午後1時	判定委員会大学審査分科会第3群
	午後1時 判定委員会法学系専門審査分科会	午後1時	相互評価委員会商学・経済学系第2専門評価分科会
	午後1時 判定委員会家政学系専門審査分科会	11月2日 (木)	
	午後1時 相互評価委員会商学・経済学系第3専門評価分科会	午後1時	相互評価委員会大学評価分科会第4群
10月24日 (火)		午後1時	相互評価委員会教育学系専門評価分科会
	午後1時 相互評価委員会神学系専門評価分科会	午後1時	相互評価委員会医学系専門評価分科会
	午後1時 相互評価委員会医学系第2専門評価分科会	11月6日 (月)	
10月25日 (水)		午前10時	第45回獣医学教育研究委員会小委員会
	午後1時 判定委員会農学系専門審査分科会	午前10時	判定委員会文学系第2専門審査分科会
	午後1時 相互評価委員会農学系専門評価分科会	午前10時	相互評価委員会薬学系第1専門評価分科会
10月26日 (木)		午後1時	判定委員会政治経済学系専門審査分科会
	午前10時 第4回本協会のあり方検討委員会小委員会	午後1時	相互評価委員会工学系第1専門評価分科会
	午後1時 相互評価委員会音楽学系専門評価分科会	11月7日 (火)	
	午後1時 相互評価委員会文学系第2専門評価分科会	午後1時	判定委員会薬学系専門審査分科会
10月27日 (金)		午後1時	相互評価委員会薬学系専門評価委員会
	午前10時 相互評価委員会生命科学系専門評価分科会	11月8日 (水)	
	午後1時 判定委員会行政社会・都市情報学系専門	午前11時	相互評価委員会大学評価分科会第3群
		午後1時	判定委員会体育学系専門審査分科会
		午後1時	相互評価委員会体育学系専門評価分科

会

午後1時 相互評価委員会国際学系第2専門評価分  
科会

11月9日(木)

午前10時半 常務役員会

午前10時半 第236回基準委員会

午後1時 第384回理事会

代表者変更一亜細亜大学(10月1日  
付)新、鯉淵信一(旧、服部正中)  
看護学教育研究委員会委員長及び委員  
の委嘱について承認。

看護学教育研究委員会

委員長 平山朝子

(岐阜県立看護大学)

委員 石垣和子

(浜松医科大学)

// 中西睦子

(神戸市看護大学)

// 野口美和子

(千葉大学)

// 樋口康子

(日本赤十字看護大学)

// 菱沼典子

(聖路加看護大学)

委員兼幹事 金川克子

(石川県立看護大学)

大学設置・学校法人審議会委員(大学  
設置分科会)候補者の選出について  
承認。

大学設置・学校法人審議会委員

(大学設置分科会)本委員推薦者

(国・公立側)(50音順)

北原保雄 筑波大学

丹保憲仁 北海道大学

(私立側)(50音順)

小出忠孝 愛知学院大学

志村尚子 津田塾大学

大学設置・学校法人審議会委員(大  
学設置分科会)特別委員推薦者

(国・公立側)(50音順)

青山善充 東京大学

赤岩英夫 群馬大学

阿部博之 東北大学

荒川正昭 新潟大学

児玉隆夫 大阪市立大学

杉岡洋一 九州大学

原田康夫 広島大学

松尾 稔 名古屋大学

内藤喜之 東京工業大学

(私立側)(50音順)

今田 寛 関西学院大学

大南正瑛 京都橘女子大学

奥島孝康 早稲田大学

清成忠男 法政大学

栗田 健 明治大学

鈴木康司 中央大学

長田豊臣 立命館大学

八田英二 同志社大学

樋口康子 日本赤十字看護大学

大学評価説明のためのスタッフ派遣に  
ついて報告了承。

職員採用について承認。

平成13年度大学評価セミナー開催予定  
について提案了承。

財団法人大学基準協会のマークについ  
て報告。

大学評価・学位授与機構「平成12年度  
に着手する大学評価の内容・方法等  
について(案)」に対する意見書の  
提出について提案了承。

農学教育に関する基準並びに工学系研  
究科に関する基準の検討のための委  
員会設置について承認。

(1) 委員会設置

農学系教育基準検討委員会

工学系研究科基準検討委員会

(2) 担当理事

農学系教育基準検討委員会担当  
理事

原田康夫(広島大学)

工学系研究科基準検討委員会担  
当理事

	大橋秀雄 (工学院大学)	午後1時	判定委員会大学審査分科会第1群
午後1時	判定委員会経済学系第1専門審査分科会	12月1日(金)	
午後1時	判定委員会芸術学系専門審査分科会	午前10時	第6回本協会のあり方検討委員会小委員会
11月10日(金)		午後12時半	相互評価委員会国際学系第1専門評価分科会
午後1時	判定委員会経営学系専門審査分科会	午後2時	判定委員会経営学系専門審査分科会
午後1時	相互評価委員会商学・経済学系第1専門評価分科会	午後3時	第1回看護学教育研究委員会
午後1時	相互評価委員会経営学系専門評価分科会	12月4日(月)	
11月13日(月)			工藤事務局職員香港学術評審局創立10周年国際会議出席(～6日)
午後1時	判定委員会文学系第1専門審査分科会	12月6日(水)	
午後1時	相互評価委員会法学系第1専門評価分科会	午前10時	実地視察(北里大学)
午後1時	相互評価委員会理学系第1専門評価分科会	午前10時	実地視察(神戸女学院大学)
午後4時	判定委員会教育学系第2専門審査分科会	12月7日(木)	
11月14日(火)		午前10時半	第6回大学通信教育基準検討委員会
午後1時	判定委員会大学審査分科会第4群	12月8日(金)	
午後1時	判定委員会大学審査分科会第6群	午前10時	実地視察(神奈川大学)
11月16日(木)		12月11日(月)	
午前11時	第5回本協会のあり方検討委員会小委員会	午後1時	第40回広報委員会
午後1時	第2回組織・機構、財政検討分科会	12月12日(火)	
午後1時	相互評価委員会法学系第2専門評価分科会	午前10時半	第237回基準委員会
午後3時	第9回保健学系教育基準検討委員会	12月15日(金)	
11月17日(金)		午後1時	第7回本協会のあり方検討委員会小委員会
午後1時	判定委員会大学審査分科会第5群	12月18日(月)	
午後1時	相互評価委員会大学評価分科会第6群	午前10時	実地視察(金沢大学)
11月20日(月)		午前10時	実地視察(昭和大学)
午後1時	判定委員会看護・医学系専門審査分科会	午前10時	実地視察(天理大学)
11月24日(金)		午前10時	実地視察(長崎大学)
午後1時	相互評価委員会大学評価分科会第5群	12月19日(火)	
11月28日(火)		午前10時	実地視察(近畿大学)
午後1時	相互評価委員会大学評価分科会第1群	12月21日(水)	
11月29日(水)		午前10時	実地視察(神戸商科大学)
午後1時	相互評価委員会大学評価分科会第2群	午前10時	実地視察(横浜市立大学)
11月30日(木)		午前10時半	常務役員会
		午後1時	第385回理事会
			理事の辞任について承認。
			理事 菅野卓雄(東洋大学)
			(12月5日付)
			代表者変更について一日本医科大学

(10月1日付)新、浅野伍朗(旧、早川弘一)、姫路工業大学(10月1日付)新、鈴木 胖(旧、白子忠男)、名古屋工業大学(11月1日付)新、柳田博明(旧、岡島達雄)、昭和女子大学(11月8日付)新、福場博保(旧、人見楠郎)、兵庫医科大学(11月23日付)新、東野一彌(旧、新家莊平)、東洋大学(12月6日付)新、神田道子(旧、菅野卓雄)

大学設置・学校法人審議会委員(大学設置分科会)本委員候補者の推薦について承認。

大学設置・学校法人審議会委員(大学設置分科会)本委員推薦者(変更)

(国・公立側)

青山善充(東京大学)

大学設置・学校法人審議会委員(大学設置分科会)特別委員推薦者(変更)

(国・公立側)

北原保雄(筑波大学)

『じゅあ JUA』第26号の発行について了承。

財団法人大学基準協会のマーク使用について提案

大学評価説明のためのスタッフ派遣について報告了承。

日本技術者教育認定機構(JABEE)との懇談会について報告。

午後2時半 第8回本協会のあり方検討委員会小委員会

午後4時半 第3回組織・機構、財政検討分科会

12月22日(金)

午後10時 実地視察(京都橘女子大学)

午後10時 実地視察(東京薬科大学)

午後10時 実地視察(豊田工業大学)

12月26日(火)

午後2時半 第46回獣医学教育研究委員会小委員会

午後3時 第10回保健学系教育基準検討委員会

#### 平成13年

1月9日(火)

午前10時 実地視察(上智大学)

1月10日(水)

午前10時 実地視察(聖路加看護大学)

1月11日(木)

午前10時 実地視察(名古屋市立大学)

1月12日(金)

午後1時 第9回本協会のあり方検討委員会小委員会

1月17日(水)

午前10時半 判定委員会正・副委員長・幹事打合せ会

1月18日(木)

午前10時 判定委員会正・副委員長・幹事打合せ会

午前10時 実地視察(北星学園大学)

1月19日(金)

午後1時 第10回本協会のあり方検討委員会小委員会

午後3時 第4回組織・機構、財政検討分科会

1月22日(月)

午後3時 第13回獣医学教育研究委員会

1月23日(火)

午前10時半 相互評価委員会正・副委員長・幹事打合せ会

1月24日(水)

午前9時半 相互評価委員会正・副委員長・幹事打合せ会

1月29日(月)

午前10時半 第2回判定委員会

午後1時 第2回看護学教育研究委員会

1月30日(火)

午前10時 第2回判定委員会

午後1時 第11回保健学系教育基準検討委員会

1月31日(水)

午前11時 常務役員会

午後1時 第386回理事会  
理事の辞任について

- 理事 西塚泰美 (神戸大学)  
(2月15日付)
- 代表者変更について一大正大学 (12月16日付) 新、松涛誠達 (旧、村中祐生)、関西医科大学 (1月1日付) 新、日置紘士郎 (旧、田代 裕)、東京慈恵会医科大学 (1月1日付) 新、栗原 敏 (旧、岡村哲夫)、神戸大学 (2月16日付) 新、野上智行 (旧、西塚泰美)
- 平成13年度事業計画 (案) について提案。
- 平成13年度取支予算 (案) について承認。
- 農学系教育基準検討委員会委員長及び委員の委嘱について承認。
- 農学系教育基準検討委員会  
委員長 林 良博 (東京大学)  
(1月31日付)
- 大学評価説明のためのスタッフ派遣について報告了承。
- INQAAHE (International Network for Quality Assurance Agencies in Higher Education) の理事立候補見送りについて了承。
- 平成13年度大学評価セミナーについて了承。
- 2月6日 (火)  
午前10時半 第3回相互評価委員会
- 2月7日 (水)  
午前10時 第3回相互評価委員会
- 2月13日 (火)  
午後3時 第238回基準委員会
- 2月14日 (水)  
午後4時 第47回獣医学教育研究委員会小委員会
- 2月15日 (木)  
午後1時 第11回本協会のあり方検討委員会小委員会
- 2月22日 (木)  
午前11時 常務役員会  
午後1時 第387回理事会
- 代表者変更について一松山大学 (1月1日付) 新、青野勝広 (旧、比嘉清松)、金沢学院大学 (1月19日付) 新、宮本匡章 (旧、岡田尚壮)
- 平成13年度事業計画 (修正案) について承認。
- 平成12年度相互評価結果報告について承認。
- 平成12年度加盟判定審査結果報告について承認。
- 大学評価の際の勧告事項等に対する改善報告書の検討結果について報告。
- 「新構想の大学評価に関するアクション・プラン (その1) - 『大学評価の新たな地平を切り拓く』を受けて -」等について提案了承。
- 平成13年度大学評価セミナーについて提案了承。
- 午後3時 第1回本協会のあり方検討委員会・小委員会合同委員会
- 午後5時 第5回組織・機構、財政検討分科会
- 2月27日 (火)  
午後1時 第12回保健学系教育基準検討委員会
- 3月6日 (火)  
午前10時 第85回評議員会 (本会報1頁以下参照)  
午後1時 臨時理事会
- 第85回評議員会における附議事項について承認。
- 加盟判定審査における2大学に対するヒアリング結果について報告了承。
- 3月8日 (木)  
午前10時半 第7回大学通信教育基準検討委員会
- 3月9日 (金)  
午後1時 第239回基準委員会
- 3月14日 (水)  
午後1時 第12回本協会のあり方検討委員会小委員会
- 午後3時 第6回組織・機構、財政検討分科会
- 3月18日 (日)  
大南副会長・工藤事務局職員

INQAAHE 総会出席（～26日）

3月29日（木）  
午後3時 第13回保健学系教育基準検討委員会

3月30日（金）  
午後1時 第3回看護学教育研究委員会

4月12日（木）  
午前10時半 第7回組織・機構、財政検討分科会  
午後1時 第13回本協会のあり方検討委員会小委員会

4月13日（金）  
午前10時 平成13年度大学評価申請に関する説明会

4月20日（金）  
午前11時 常務役員会  
午後1時 第388回理事会  
元理事及び評議員の逝去について報告。  
瀬在良男元理事（前日本大学総長）  
（4月15日逝去）  
武重千冬評議員（昭和大学学長）  
（4月3日逝去）  
理事の辞任について  
理事 宮本美沙子（日本女子大学）  
（3月31日付）  
〃 青山善充（東京大学）  
（4月1日付）  
〃 外間 寛（中央大学）  
（4月21日付）  
〃 石川 啓（関西大学）  
（4月28日付）  
代表者変更について一昭和大学（3月3日付）新、天野長久（旧、武重千冬）、聖心女子大学（3月16日付）新、山縣喜代（旧、中川徹子）、朝日大学（4月1日付）新、長坂信夫（旧、船越正也）、石巻専修大学（4月1日付）新、小林陵二（旧、小倉保己）、大阪国際大学（4月1日付）新、金子敦郎（旧、太田忠一）、神奈川工科大学（4月1日付）新、杉山秋雄（旧、赤池志郎）、神戸海星女子学院大学（4月1日付）新、山

内祥史（旧、吉村美枝子）、四国大学新、福岡 登（4月1日付）（旧、齋藤晴男）椋山女学園大学（4月1日付）新、武藤泰敏（旧、椋山孝金）、成城大学（4月1日付）新、我妻建治（旧、横川 新）、東京音楽大学（4月1日付）新、兎束俊之（旧、三善清達）、東京神学大学（4月1日付）新、山内 眞（旧、松永希久夫）、東京大学（4月1日付）新、小間 篤（旧、青山善充）、実践女子大学（4月1日付）新、飯塚幸子（旧、飯島俊郎）、鳥取大学（4月1日付）新、道上正規（旧、高橋和郎）、同志社女子大学（4月1日付）新、森田潤司（旧、大橋寿美子）、新潟薬科大学（4月1日付）新、多村 憲（旧、池川信夫）、日本女子大学（4月1日付）新、後藤祥子（旧、宮本美沙子）、梅花女子大学（4月1日付）新、中村元保（旧、大黒トシ子）、広島国際学院大学（4月1日付）新、葉佐井博己（旧、紀 隆雄）、文教大学（4月1日付）新、石田恒吉（旧、水島恵一）、星薬科大学（4月1日付）新、永井恒司（旧、南原利夫）、立正大学（4月1日付）新、吉田榮夫（旧、坂詰秀一）、流通経済大学（4月1日付）新、坂下 昇（旧、佐伯弘治）、和光大学（4月1日付）新、三橋修（旧、千野榮一）、中央大学（4月21日付）新、鈴木康司（旧、外間寛）、関西大学（4月28日付）新、永田眞三郎（旧、石川 啓）、北海道大学（5月1日付）新、中村睦男（旧、丹保憲仁）

賛助会員への加入を承認。

（私立）志學館大学（代表者 砂川恵伸

（公立）都留文科大学（代表者 久保

木哲夫)  
 (私立) 人間環境大学 (代表者 竹市明弘)  
 平成12年度処務報告 (案) 及び同事業報告 (案) について承認。  
 平成12年度取支決算報告について承認。  
 平成13年度取支予算 (修正案) について承認。  
 基準委員会報告 (案) について報告了承。  
 「新構想の大学評価に関するアクション・プラン (その1) - 「大学評価の新たな地平を切り拓く (提言)」を受けて - (修正案)」について承認。  
 専務理事の選任、職務、報酬等について承認。  
 事務局体制の充実策について了承。  
 基準委員会委員改選について承認。

(国・公立側) (50音順)

池田輝政 (名古屋大学)  
 岩崎庸男 (筑波大学)  
 江原武一 (京都大学)  
 小間 篤 (東京大学)  
 多賀谷一照 (千葉大学)  
 野澤秀樹 (九州大学)  
 藤田正一 (北海道大学)  
 古屋一仁 (東京工業大学)  
 茂里一紘 (広島大学)  
 和田義郎 (名古屋市立大学)  
 第1次点 坂巻 清 (東北大学)  
 第2次点 若杉隆平 (横浜国立大学)

(私立側) (50音順)

浅野幸一郎 (関西大学)  
 有本 卓 (立命館大学)  
 岡野昌雄 (国際基督教大学)  
 金子征史 (法政大学)  
 讚井浩平 (上智大学)  
 白井克彦 (早稲田大学)  
 瀬在幸安 (日本大学)  
 納谷廣美 (明治大学)

薬師寺泰蔵 (慶應義塾大学)  
 山内惟介 (中央大学)  
 第1次点 紙谷雅子 (学習院大学)  
 第2次点 大槻 真 (津田塾大学)  
 大学通信教育基準検討委員会委員兼幹事の交代について承認。

解囑

澤登寛聡委員兼幹事

(法政大学)

委囑

中野榮夫委員兼幹事

(法政大学)

広報委員会委員の辞任及びその後任について

解囑

瀬岡吉彦委員 (関東学院大学)

委囑

奥村次徳委員 (東京都立大学)

加盟判定審査制度の一部見直しについて提案了承。

財団法人大学基準協会のマークについて報告了承。

大学評価説明のためのスタッフ派遣について報告了承。

財団法人大学基準協会寄附行為の一部変更認可申請について報告。

平成13年度大学評価申請に関する説明会の開催について報告了承。

第5回「大学評価」のプレス発表について報告。

「高等教育質保証機関国際連合 (International Network for Quality Assurance Agencies in Higher Education, INQAAHE)」の第6回定期総会について報告。

事務局長の辞任について報告。

5月14日 (月)

午後1時 第14回保健学系教育基準検討委員会

5月18日 (金)

午前10時 第86回評議員会 (本会報51頁以下参照)

午後1時

臨時理事会

会長及び副会長候補者選考委員会委員

を下記のとおり選出

(国・公立側) (50音順)

赤岩英夫 (群馬大学)

北原保雄 (筑波大学)

児玉隆夫 (大阪市立大学)

(私立側) (50音順)

大南正瑛 (京都橘女子大学)

奥島孝康 (早稲田大学)

小出忠孝 (愛知学院大学)

会長及び副会長を下記のとおり選任。

会 長 大南正瑛

(京都橘女子大学)

副会長

(国・公立側) (50音順)

北原保雄 (筑波大学)

児玉隆夫 (大阪市立大学)

松尾 稔 (名古屋大学)

(私立側) (50音順)

奥島孝康 (早稲田大学)

小出忠孝 (愛知学院大学)

志村尚子 (津田塾大学)

役員 (会長及び副会長) の業務分掌に

ついて下記のとおり承認。

(1) 庶務担当

北原副会長 (筑波大学)

(2) 財務担当

小出副会長 (愛知学院大学)

第86回評議員会における附議事項につ

いて承認。

代表者変更について—会津大学 (4月

1日付) 新、池上徹彦 (旧、野口正

一)、岡山理科大学 (4月1日付)

新、山村泰道 (旧、加計 勉、神戸

女子大学 (4月1日付) 新、森本武

利 (旧、富本佳郎)、長崎総合科学

大学 (4月1日付) 新、山邊時雄

(旧、白砂剛二)、二松学舎大学 (4

月1日付) 新、石川忠久 (旧、清水

義昭)、ノートルダム清心女子大学

(4月1日付) 新、高木孝子 (旧、

雑賀美枝)、関東学院大学 (5月1

日付) 新、大野功一 (旧、内藤幸

穂)、広島大学 (5月21日付) 新、

牟田泰三 (旧、原田康夫)、慶應義

塾大学 (5月28日付) 新、安西祐一

郎 (旧、鳥居泰彦)

賛助会員への加入を承認。

(公立) 金沢美術工芸大学 (代表者

乾 由明)

(公立) 島根県立大学 (代表者 宇

野重昭)

(公立) 福岡女子大学 (代表者 岡

照雄)

(私立) 杉野女子大学 (代表者 中

原好文)

(私立) 大阪明浄大学 (代表者 田

中俊夫)

(私立) 富士常葉大学 (代表者 徳

山 明)

(私立) 福井工業大学 (代表者 三

宅正宣)

(私立) 尚美学園大学 (代表者 赤

松憲樹)

相互評価委員会幹事の辞任及びその

後任について

解囑

手塚和彰 幹事 (千葉大学)

松本芳男 // (日本大学)

大学評価・学位授与機構「平成13年度

及び平成14年度に着手する大学評価

事業実施基本計画 (案)」に対する

意見書の提出について報告。

5月21日 (月)

午前10時 第41回広報委員会

5月31日 (木)

午前11時 「新構想の大学評価に関するアクション・プラン (その1) - 『大学評価

の新たな地平を切り拓く (提言)』

を受けて-」に関する記者発表

6月1日 (金)

- 午前10時半 第3回『大学評価研究』編集委員会  
午後1時 第240回基準委員会
- 6月4日(月)  
午後1時 第4回看護学教育研究委員会
- 6月7日(木)  
午後1時 第4回大学評価セミナー  
於、大阪ガーデンパレス
- 6月8日(金)  
午後1時 第4回大学評価セミナー  
於、福岡ガーデンパレス
- 6月11日(月)  
午後1時 第1回相互評価委員会
- 6月13日(水)  
午後5時 役員懇談会
- 6月14日(木)  
午後1時 第4回大学評価セミナー  
於、グランドヒル市ヶ谷
- 6月15日(金)  
午後1時 第4回大学評価セミナー  
於、福岡ガーデンパレス
- 6月20日(水)  
午後1時 第1回評価組織体制・プロセス等検討分科会  
午後3時 第1回判定委員会
- 6月29日(金)  
午前11時 常務役員会  
午後1時 第389回理事会  
元役員逝去について  
金子曾政元理事(元金沢大学)(平成13年6月1日逝去)  
理事の辞任について  
理事 鳥居泰彦(慶應義塾大学)  
(5月27日付)  
〃 石 弘光(一橋大学)  
(6月29日付)  
代表者変更一高千穂大学(6月1日付)新、藤井 耐(旧、高野邦彦)  
賛助会員への加入を承認。  
(私立)京都光華女子大学(代表者 高木英明)  
(公立)九州歯科大学(代表者 内田 康也)
- (私立)新潟青陵大学(代表者 木下 安子)  
(私立)成安造形大学(代表者 木村 至宏)  
各種委員会担当理事、委員長・副委員長の交替及び委員の解嘱、委嘱について承認。
- (1) 本協会のあり方検討委員会  
1) 委員長の交替  
新 委員長 大南正瑛(京都橘女子大学)  
旧 〃 丹保憲仁(元北海道大学)  
2) 副委員長の委嘱  
新 副委員長 清成忠男(法政大学)  
旧 〃 大南正瑛(京都橘女子大学)  
3) 委員の委嘱及び解嘱  
委嘱 丹保憲仁(元北海道大学)  
解嘱 宮本美沙子(元日本女子大学)
- (2) 本協会のあり方検討委員会小委員会  
1) 委員長の交替  
新 委員長 清成忠男(法政大学)  
旧 〃 大南正瑛(京都橘女子大学)  
2) 委員の委嘱及び解嘱  
委嘱 瀬在幸安(日本大学)  
解嘱 大南正瑛(京都橘女子大学)
- (3) 本協会のあり方検討委員会小委員会組織・機構、財政検討分科会  
1) 主査の交替  
新 主査 清成忠男(法政大学)  
旧 〃 大南正瑛(京都橘女子大学)  
2) 委員の委嘱及び解嘱

- 委嘱 瀬在幸安（日本大学）  
 解嘱 大南正瑛（京都橘女子大学）
- (4) 相互評価委員会
- 1) 委員の委嘱及び解嘱  
 委嘱 光澤滋朗（同志社大学）  
 解嘱 大南正瑛（京都橘女子大学）
- 2) 幹事の委嘱  
 委嘱 遠藤美光（千葉大学）  
 // 丹羽重博（日本大学）
- (5) 『大学評価研究』編集委員会
- 1) 委員の委嘱及び解嘱  
 委嘱 赤岩英夫（群馬大学）  
 // 中村陸男（北海道大学）  
 解嘱 大南正瑛（京都橘女子大学）  
 // 土橋信男（元北星学園大学）
- (6) 基準委員会
- 1) 委員長及び副委員長の委嘱  
 委員長 瀬在幸安（日本大学）  
 （6月1日付）  
 副委員長 小間 篤（東京大学）  
 （6月1日付）
- 2) 幹事の委嘱  
 委嘱 新田義彦（日本大学）
- (7) 工学系研究科基準検討委員会
- 1) 担当理事の交替  
 新 担当理事 黒田壽二（金沢工業大学）  
 旧 // 大橋秀雄（工学院大学）
- (8) 農学系教育基準検討委員会
- 2) 役員改選に伴う担当理事の交替  
 新 担当理事 荒川正昭（新潟大学）  
 旧 // 原田康夫（元広島大学）
- 受入れ資料の収集・保存・廃棄検討の  
 担当責任者について下記のとおり承

- 認。
- 受入れ資料の収集・保存・廃棄検討の  
 担当責任者  
 外間 寛（中央大学）
- 大学基準協会のコンピューターネット  
 ワークシステムの整備に関するワー  
 キンググループの廃止について
- (1) 委員会の廃止  
 大学基準協会のコンピューターネ  
 ットワークシステムの整備に関  
 するワーキンググループ
- (2) 委員の解嘱  
 主査 大南正瑛  
 （京都橘女子大学）  
 委員 小出忠孝（愛知学院大学）  
 // 三宅恭二（大学基準協会）  
 // 工藤 潤（大学基準協会）  
 // 日永龍彦（大学基準協会）
- 平成13年度大学評価（加盟判定審査、  
 相互評価）申請の大学について報告。  
 平成13年度判定委員会大学審査分科会  
 及び専門審査分科会の設置並びに同  
 分科会主査・委員の委嘱について承  
 認。
- 平成13年度相互評価委員会大学評価分  
 科会及び専門評価分科会の設置並び  
 に同分科会主査・委員の委嘱につい  
 て承認。
- 相互評価の周期について承認。  
 平成13年度評価者セミナー開催につい  
 て了承。
- 『じゅあ JUA』第27号及び『会報』  
 第83号の発刊並びに規格等の変更に  
 ついて提案了承。
- 財団法人大学基準協会マークの出願及  
 び認定証マークについて提案了承。  
 大学評価・学位授与機構「大学評価委  
 員会専門委員」候補者の推薦につい  
 て下記のとおり承認。
- 分野別教育評価  
 (1) 法学系

梅本吉彦（専修大学）  
 垣口克彦（阪南大学）  
 分野別研究評価  
 （１）法学系  
 森本 滋（京都大学）  
 三谷太一郎（成蹊大学）  
 分野別教育評価  
 （２）教育学系  
 須藤敏昭（大東文化大学）  
 分野別研究評価  
 （２）教育学系  
 浪本勝年（立正大学）  
 清水禎夫（宮城教育大学）  
 分野別教育評価  
 （３）工学系  
 有本 卓（立命館大学）  
 本間和明（東京電機大学）  
 分野別研究評価  
 （３）工学系  
 石垣博之（姫路工業大学）  
 村上敬宜（九州大学）  
 「新構想の大学評価に関するアクション・プラン（その１）－『大学評価の新たな地平を切り拓く（提言）』を受けて－」に関する記者会見について報告。  
 第４回大学評価セミナーについて報告。

7月11日（水）  
 午前11時 第２回評価組織体制・プロセス等検討分科会

7月25日（水）  
 午前10時半 第３回評価組織体制・プロセス等検討分科会  
 午前10時半 正副会長会議  
 午後１時 第390回理事会  
 事務局長の後任について承認。  
 元役員逝去について報告。  
 代表者変更について－愛知教育大学（7月1日付）新、田原賢一（旧、仲井豊）、大阪府立大学（7月1日付）新、南 努（旧、相賀一郎）

賛助会員への加入を承認。  
 （私立）日本赤十字九州国際看護大学（代表者 小島通代）  
 （公立）福岡県立大学（代表者 保田 井 進）  
 基準委員会委員（国・公立側）の辞任及び後任委員の委嘱について承認。  
 基準委員会委員（国・公立側）  
 解嘱 和田義郎（名古屋市立大学）  
 委嘱 坂巻 清（東北大学）  
 『大学評価研究』第２号の発刊について了承。  
 『会報』及び『じゅあJUAA』の表紙デザイン変更について了承。  
 大学評価・学位授与機構への「大学評価委員会専門委員」候補者推薦について報告。  
 大学評価説明のためのスタッフ派遣について報告了承。  
 諸規程の設定及び改定について承認。

7月30日（月）

午後３時 第241回基準委員会

8月6日（月）

午後１時半 獣医学教育研究委員会正・副委員長・幹事打合せ会

8月21日（火）

午後１時 相互評価委員会正・副委員長・幹事打合せ会

## 最近における刊行物

(会報、J. U. A. A.内外大学関係情報資料、資料はお申込みがあれば実費でお頒けしております—送料別—)

### 会 報

- |      |  |                     |
|------|--|---------------------|
| 第50号 | 特集 大学の基本的理念をめぐって   | (昭58. 12) (実費 280円) |
| 第51号 | 特集 高等教育の多様化と大学   | (昭59. 3) (実費 350円)  |
| 第52号 | 第51・52回評議員会議事録、農学関係学部の獣医学科における専門教育科目(例示)、「著作権法の一部を改正する法律草案」に対する意見、教育学に関する大学院基準及びその解説、「教員の養成及び免許制度の改善」に関する報告、大学基準協会三十五年史通史編細目次(案)、「昭和六一年度以降の高等教育の計画的整備について—中間報告—」について(意見)、等 |                     |
| 第53号 | 特集 大学における語学教育の在り方  | (昭59. 11) (実費 320円) |
| 第54号 | 特集 大学における語学教育の位置づけについて   | (昭60. 3) (実費 310円)  |
| 第55号 | 第53・54回評議員会議事録、大学院設置基準の問題点を検討するに際し留意すべき事項、学制に関する問題点(まとめ)、大学通信教育基準およびその解説(改訂案)、等  | (昭60. 9) (実費 270円)  |
| 第56号 | 特集 青年の進路選択と大学の専攻   | (昭61. 4) (実費 320円)  |
| 第57号 | 第55・56回評議員会議事録、大学における専門教育の改善充実について(まとめ)、獣医学教育に関する基準およびその実施方法、「教員養成の在り方研究委員会」のまとめ、等   | (昭61. 9) (実費 260円)  |
| 第58号 | 特集 大学卒業—その理念と実態  | (昭61. 12) (実費 370円) |
| 第59号 | 第57・58回評議員会議事録、大学自己評価の実施方法に関する検討結果について(報告)—自己評価項目—、等   | (昭62. 9) (実費 250円)  |
| 第60号 | 特集 大学の基準をめぐる諸問題  | (昭63. 4) (実費 350円)  |
| 第61号 | 「高等教育改革」国際会議(北京)報告、第59・60回評議員会議事録、本協会のあり方に関する中間まとめ、「獣医学に関する大学院基準」およびその解説、戦後教育改革と大学の国土計画(上)、等   | (昭63. 9) (実費 370円)  |
| 第62号 | 特集 大学の基準をめぐる諸問題(続)—大学の基準と一般教育・専門教育、戦後教育改革と大学の国土計画(下)   | (昭63. 12) (実費 440円) |
| 第63号 | 第61・62回評議員会議事録、保健体育のあり方研究委員会報告、等   | (平元. 9) (実費 260円)   |
| 第64号 | 特集 単位制度をめぐって   | (平2. 4) (実費 400円)   |

- 第65号 第63・64回評議員会議事録、本協会のあり方に関する第二次中間まとめ、等 (平2. 9)(実費 180円)
- 第66号 特集 欧米以外の国々の大学 (平3. 4)(実費 280円)
- 第67号 第65・66回評議員会議事録等 (平3. 9)(在庫切れ)
- 第68号 特集 後継者養成—将来の大学の展望において (平4. 5)(実費 290円)
- 第69号 第67・68回評議員会議事録 (平4. 9)(在庫切れ)
- 第70号 特集 学位制度をめぐって (平5. 5)(実費 260円)
- 第71号 第69・70回評議員会議事録、本協会のあり方に関する第三次中間まとめ—大学基準協会による当面の「加盟判定審査」と「相互評価」のあり方を中心として—、等 (平5. 9)(実費 260円)
- 第72号 新協会落成記念号 (平6. 4)(実費 350円)  
特集 大学改革の行方と今後の大学基準協会の役割
- 第73号 第71・72回評議員会議事録、『『大学基準』およびその解説』(案)、本協会の「大学評価」における主要自己点検・評価項目(案)、等 (平6. 9)(実費 350円)
- 第74号 「看護学教育に関する基準」、主要点検・評価項目、アメリカ南部地区基準協会 基準認定用マニュアル(翻訳)、臨時評議員会議事録、等 (平7. 4)(実費 350円)
- 第75号 第73・74回評議員会議事録、『大学審議会「大学院部会における審議の概要—大学院の教育研究の質的向上について—(部会から総会への報告)」(平成7年6月29日)』に対する意見、『大学審議会「組織運営部会における審議の概要(その二)—大学運営の円滑化のための具体的方策について—(部会から総会への報告)」(平成7年6月29日)』に対する意見、等 (平7. 10)(実費 350円)
- 第76号 「大学評価」説明会、特集「大学評価」全国説明会記録、第I部 理事・監事による挨拶、第II部 「大学評価」の意義・目的とその実務手続き、資料、『大学審議会・大学教育部会「大学教育部会における審議の概要—高等教育の一層の改善について—」(平成7年9月18日)』に対する意見、『大学審議会・組織運営部会「組織運営部会における審議の概要—大学教員の任期制について—」(平成7年9月18日)』に対する意見、等 (平8. 1)(実費 400円)
- 第77号 第75・76回評議員会議事録、「大学院基準」およびその解説(改革案)、大学審議会・高等教育将来構想部会における「高等教育の将来構想に関するヒアリング」にあたっての意見、等 (平8. 10)(実費 350円)

- 第78号 第77・78回評議員会議事録、獣医学教育に関する基準、看護学研究科分科教育基準、総理府行政改革委員会「高等教育に関する規制緩和の方向性」に対する意見、等 (平9. 9)(実費 350円)
- 第79号 創立50周年記念号、第I部 大学基準協会創立五十周年記念式典・祝宴、第II部 第一回大学評価をふりかえって、大学審議会「大学院部会における審議の概要—通信制の大学院について—」(平成9年9月30日)に対する意見、大学審議会「マルチメディア部会における審議の概要—「遠隔授業」の大学設置基準における取り扱い等について—」(平成9年9月30日)に対する意見、大学審議会「大学教育部会における審議の概要(その2)—高等教育の一層の改善について—」(平成9年9月30日)に対する意見、等 (平10. 3)(実費 400円)
- 第80号 第79・80回評議員会議事録、学術審議会「学術研究における評価の在り方について(中間まとめ)」(平成9年7月25日)に対する意見、大学審議会「21世紀の大学像と今後の改革方策について—競争的環境の中で個性が輝く大学—(中間まとめ)」(平成10年6月30日)に対する意見、等 (平10. 11)(在庫切れ)
- 第81号 第81・82回評議員会議事録、大学審議会「大学院部会における審議の概要—大学院入学者選抜の改善について—(部会から総会への報告)」(平成11年7月8日)に対する意見、等 (平11. 10)(実費 350円)
- 第82号 第83・84回評議員会議事録、大学審議会「大学入試の改善について(中間まとめ)」(平成12年4月28日)に対する意見、大学審議会「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について(審議の概要)」(平成12年6月30日)に対する意見、等 (平12. 10)(実費 350円)

#### J. U. A. A.内外大学関係情報資料

1. 時間の短縮、選択範囲の拡大—高等学校以後の教育— (昭47. 9)(実費 100円)  
—カーネギー高等教育委員会の提出する特別報告および勧告  
上野直蔵訳
2. 大学入学試験制度改革に関する報告 (昭47. 9)(実費 100円)  
昭和47年8月15日 大学入試制度改革研究委員会
3. 現段階における日本の大学問題に関する見解 (昭53. 4)(実費 100円)  
昭和53年3月29日 大学問題研究会議
4. 共通大学入学試験に関する報告 (昭53. 4)(実費 100円)  
昭和53年3月29日 大学入試制度改革研究委員会

5. ニュー・イングランド高等教育機関協会 (昭53. 10) (実費 100円)  
 高等教育機関協会加入校の基準  
 自己評価—その目的と方法—上野直蔵訳
6. 米国における基準協会について (昭54. 12) (実費 200円)  
 —資格認定をめぐる諸問題—金子忠史
7. 一般教育研究委員会中間報告 (昭55. 12) (実費 800円)  
 —一般教育の回顧と展望—  
 昭和55年12月1日 一般教育研究委員会
8. 新制度の入学者を迎える大学 (昭59. 3) (実費 100円)  
 —昭和57年度高校学習指導要領改訂と大学の一般教育—  
 昭和59年3月1日 一般教育研究委員会緊急報告
9. 大学における専門教育の問題点 (昭60. 3) (実費 280円)  
 昭和60年3月19日 専門教育研究委員会中間報告
10. 国際交流の新展開を求めて —現状・課題・提言— (昭61. 2) (実費 700円)  
 昭和60年12月17日 国際交流研究委員会報告
11. 国際化と大学教育の課題 (昭61. 3) (実費 340円)  
 昭和61年1月28日 国際化時代の大学教育研究委員会報告
12. 大学における専門教育の改善充実について (昭61. 11) (実費 400円)  
 昭和61年10月21日 専門教育研究委員会報告
13. 公・私立大学大学院の現状と問題点 (昭63. 2) (実費 560円)  
 昭和63年1月25日 大学院問題研究委員会報告
14. 大学入学者選抜制度に関する問題点 (平元. 8) (実費 130円)  
 平成元年7月18日 大学入試制度改革研究委員会報告
15. 大学院制度をめぐる課題と展望 (平3. 2) (実費 390円)  
 平成3年1月29日 大学院問題研究委員会報告
16. 大学院の諸問題と改革の方向 (平5. 7) (実費 300円)  
 平成5年6月8日 大学院問題研究委員会報告
17. アク্রেディテーションのための実地視察の手法 (平8. 6) (実費 250円)  
 —ニューイングランド地区基準協会『実地視察団マニュアル』から  
 喜多村和之、早田幸政、前田早苗、工藤 潤訳
18. 大学改革を探る (続) (平9. 3) (実費 500円)  
 —大学基準協会「大学改革の実施状況に関する調査」  
 クロス集計と実地調査の結果から  
 大学基準協会事務局編
19. 大学教育の改革と創造 (平11. 6) (実費 350円)  
 平成11年3月18日 大学のあり方検討委員会報告書

## 資料

- 第38号 米国西部地区基準協会アクレディテーション・ハンドブック 飯島宗一訳 (平2. 3)(実費1500円)
- 第40号 大学基準協会基準集 (平3. 12)(実費 680円)
- 第44号 看護学教育基準 (平6. 3)(実費1000円)  
『21世紀の看護学教育—基準の設定に向けて—』等収録  
看護学教育研究委員会報告
- 第49号 看護学研究科分科教育基準 (平9. 8)(実費 800円)  
『看護学の大学院の基準設定に向けて』等収録 看護学教育研究会報告
- 第51号 大学院の自己点検・評価の手引き (平11. 3)(実費 500円)
- 第53号 工学教育に関する基準 (平12. 10)(実費 300円)

## その他

- 大学の自己点検・評価の手引き (平4. 5)(実費 450円)
- 大学設置・評価の研究 (大学基準協会叢書、東信堂刊)(平2. 6)(在庫切れ)
- 大学・カレッジ自己点検ハンドブック (大学基準協会企画、紀伊國屋書店刊)(平4. 5)(定価2140円—税込—)
- アメリカ北中部地区基準協会の大学・カレッジ評価ハンドブック (大学基準協会企画、紀伊國屋書店刊)(平7. 1)(定価2140円—税込—)
- JUAA 選書1 青木宗也編『大学改革と大学評価』(大学基準協会監修、エイデル研究所刊)(平7. 6)(定価4384円—税込—)
- JUAA 選書2 田中征男編『戦後改革と大学基準協会の形成』(大学基準協会監修、エイデル研究所刊)(平7. 12)(定価3262円—税込—)(在庫切れ)
- JUAA 選書3 石井紫郎編『転換期の大学院教育』(大学基準協会監修、エイデル研究所刊)(平8. 2)(定価3873円—税込—)
- JUAA 選書4 青木宗也著『大学論—大学「改革」から「大学」改革へ—』(大学基準協会監修、エイデル研究所刊)(平7. 12)(定価3873円—税込—)
- JUAA 選書5 青木宗也、示村悦二郎編『大学改革を探る—大学改革に関する全国調査の結果から—』(大学基準協会監修、エイデル研究所刊)(平8. 12)(定価4384円—税込—)
- 大学評価マニュアル<改訂版> (平9. 3)(実費1800円)
- JUAA 選書6 <大学基準協会創立50周年記念企画> 木村孟編『大学の質を問う』(大学基準協会監修、エイデル研究所刊)(平9. 7)(定価3150円—税込—)
- JUAA 選書7 <大学基準協会創立50周年記念企画> 大学基準協会事務局高等教育研究部門編『資料にみる大学基準協会五十年の歩み』(大学基準協会監修、エイデル研究所刊)(平9. 7)(定価4515円—税込—)
- 季刊教育法1997年7月臨時増刊号(111号)<大学基準協会創立50周年記念企画>『大学の使命—改革・評価の理念—』(大学基準協会事務局責任編集、エイデル研究所刊)(平9. 7)(定価2000円—

税込一)

- JUAA 選書 8 鳥居泰彦編『学術研究の動向と大学』(大学基準協会監修、エイデル研究所刊)(平11. 3)(定価4515円—税込一)
- JUAA 選書 9 大南正瑛編『いま、大学の臨時的定員を考える』(大学基準協会監修、エイデル研究所刊)(平11. 3)(定価3990円—税込一)
- JUAA 選書10 岩山太次郎、示村悦二郎編『大学院改革を探る』(大学基準協会監修、エイデル研究所刊)(平11. 12)(定価4775円—税込一)
- JUAA 選書11 丹保憲仁編『これからの大学と大学運営』(大学基準協会監修、エイデル研究所刊)(平12. 3)(定価3990円—税込一)

---

財団法人大学基準協会 会報第 83 号 (通巻第 121 号)

平成 13 年 11 月 25 日 印刷  
(非売品)  
平成 13 年 11 月 30 日 発行

〒 162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 2-7-13

編 集 兼 財団法人 大学 基準 協会  
発 行 人 澤 田 進

印 刷 所 〒 101-0021 東京都千代田区外神田 6-3-3  
日本印刷株式会社

発 行 所 〒 162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 2-7-13  
財団法人 大学基準協会  
電 話 (03) (5228) 2 0 2 0  
F A X (03) (5228) 2 3 2 3

---





